

茨城県教育財団文化財調査報告第394集

かみ じゅく  
上宿遺跡

一般国道50号下館バイパス改築  
事業地内埋蔵文化財調査報告書IV

平成27年3月

国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所  
公益財団法人茨城県教育財団

## 序

一般国道50号は、群馬県前橋市を起点として、茨城県水戸市に至る総延長150kmに及ぶ広域的な幹線道路であり、産業・経済活動を支える動脈として極めて重要な路線であります。

近年、筑西市の中心部は慢性的な交通渋滞が発生しております。下館バイパスは、この交通渋滞を解消し、周辺の住環境の向上等を目的として、筑西市玉戸地区から横塚地区にいたる四車線道路として計画されたものです。しかしながら、その事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地である上宿遺跡が所在し、記録保存の措置を講ずる必要があるため、当財団が国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所から埋蔵文化財発掘調査の委託を受け、平成24年12月から平成25年3月までの4か月間にわたり、これを実施しました。

本書は、上宿遺跡の調査成果を収録したもので、学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、筑西市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し、深く感謝申し上げます。

平成27年3月

公益財団法人茨城県教育財团

理事長 鈴木欣一

## 例　　言

- 1 本書は、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所の委託により、公益財団法人茨城県教育財團が平成24年度に発掘調査を実施した。茨城県筑西市飯島字玉戸道東56-5番地ほかに所在する上宿遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。  
調査 平成24年12月1日～平成25年3月31日  
整理 平成26年4月1日～11月30日
- 3 発掘調査は、調査課長櫻村宣行のもと、以下の者が担当した。

首席調査員兼班長	皆川 修
次席調査員	駒澤悦郎
次席調査員	木村光輝 平成25年3月1日～3月31日
調査員（主任）	長洲正博
調査員	宮崎 剛 平成25年1月1日～3月31日
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長後藤一成のもと、次席調査員長洲正博が担当した。
- 5 本書の作成にあたり、低地部土壤の植物珪酸体分析については、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、考察は付章として巻末に掲載した。

## 凡　例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標に準據し、X = + 33,280 m, Y = + 10,720 mの交点を基準点（B 3al）とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A, B, C…、西から東へ 1, 2, 3…とし、「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a, b, c…j、西から東へ 1, 2, 3…0 と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」のように呼称した。なお、本報告範囲の北西に調査が今後おこることが想定されていることから、上記のような地区設定とした。

2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 P - ピット SA - 柱穴列 SB - 掘立柱建物跡 SD - 溝跡 SI - 壁穴建物跡 SK - 土坑

TP - 陥し穴

遺物 DP - 土製品 M - 金属製品 Q - 石器 T - 瓦 TP - 拓本記録土器

土層 K - 扰乱

3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は 400 分の 1、各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

 焼土・施釉  火床面・水田跡

 窯部材・粘土範囲・黒色処理・炭化米  柱痕跡・油煙

●上器 ○土製品 □石器 △金属製品 ■瓦 - - - - 硬化面

4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量を記述した。

5 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は m, cm, g で示した。なお、現存値は ( ) を、推定値は [ ] を付して示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

6 壁穴建物跡の「主軸」は、窓を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N - 10° - E）。

7 今回の報告分で、調査段階での遺構名を変更したもの及び欠番にしたものは以下のとおりである。

変更 SK 3・4・6・11・29・34 → SB 1, SK12 → SB 5, SK27・61・70・117 → SB 2, SK69 → SB 4,

SK80・81・82・112 → SB 8, SK87・88・90・98・99・199 → SB 6, SK100・115・116・253 → SB 9,

SK135・137・143・146・215・216・218 → SB27, SK168・180・188・206・207・233 → SB26,

SK174・184 → SB21, SK228・245 → SB10, SK256・296 → SB30, SK268 → SB16, SK279 → SB24,

SK192・269・270→SA 3, SK205・210→SI 1 の P, SK157→TP 1, SK166→TP 2,  
SK292→TP 3, SX 1→SK295, SB 8→SK297・298, SB30→SK299, SB15→SK301,  
SB14→SK303, SB17→SA 1, SB20→SA 2・SB 7, SK133・134→SA 4,  
SB30→SA 5

欠番 SB28・29, SK19・31・62・104・105・110・111・127・129・130・131・132・138・140・161・164・  
165・235・246・283・284・285・286・287・288・289・290・294

# 目 次

序

例 言

凡 例

目 次

上宿遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	3
第2章 位置と環境	4
第1節 位置と地形	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査の成果	9
第1節 調査の概要	9
第2節 基本層序	9
第3節 遺構と遺物	11
1 繩文時代の遺構と遺物	11
陥し穴	11
2 古墳時代の遺構と遺物	13
(1) 堅穴建物跡	13
(2) 土坑	17
3 奈良時代の遺構と遺物	19
(1) 堅穴建物跡	19
(2) 掘立柱建物跡	25
(3) 土坑	48
(4) 柱穴列	52
4 平安時代の遺構と遺物	53
(1) 堅穴建物跡	53
(2) 掘立柱建物跡	68
(3) 土坑	92
5 その他の遺構と遺物	95
(1) 水田跡	95
(2) 土坑	99
(3) 柱穴の可能性がある土坑	126
(4) 柱穴列	127

(5) 溝跡	131
(6) 造構外出土遺物	134
第4節 まとめ	139
付 章	150
写真図版	PL 1 ~ PL26
抄 錄	

## かみじょく 上宿遺跡の概要

### 遺跡の位置と調査の目的

上宿遺跡は、茨城県西部の筑西市（旧下館市域）に所在し、市域の東部を南流する小貝川の支流である大谷川右岸の標高 30 ~ 33 m の低地及び低位段丘上に立地しています。一般国道 50 号下館バイパス改築事業に伴い、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、茨城県教育財団が平成 24 年度に 4,238m<sup>2</sup>について発掘調査を行いました。



### 調査の内容

縄文時代の陥し穴 3 基、古墳時代の竪穴建物跡 3 棟、土坑 1 基、奈良時代の竪穴建物跡 3 棟、掘立柱建物跡 11 棟、土坑 3 基、柱穴列 1 条、平安時代の竪穴建物跡 5 棟、掘立柱建物跡 13 棟、土坑 3 基、江戸時代以降の水田跡 1 か所、溝跡 3 条、時期不明の土坑 199 基、柱穴の可能性がある土坑 8 基、柱穴列 4 条、



上宿遺跡遠景（東から）



平安時代の竪穴建物跡



奈良・平安時代の掘立柱建物群



出土した窯（円面窯）



出土した墨書土器

溝跡 7 条を確認しました。主な出土遺物は、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、土製品、石器、鉄製品、瓦、陶器、磁器です。

### 調査の結果

調査の結果、縄文時代から近現代までの断続的な人々の生活の痕跡が確認できました。奈良・平安時代の竪穴建物跡などからは、土師器や須恵器に墨で文字が書かれた墨書土器や窯（円面窯）が出土し、文字を扱える人物が存在していたことがわかりました。大半の墨書土器には、「来」や「来方」と書かれており、当遺跡周辺では、「西方」や「女方」など「○方」という地名が現在も残っていることから、「来方」は当地域を指した地名と考えられます。また、当遺跡は奈良時代から平安時代にかけての掘立柱建物群が整然と建ち並んでいることから、陸上交通や河川を利用した物資の流通に関わる倉庫群であった可能性があります。

# 第1章 調査経緯

## 第1節 調査に至る経緯

国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所は、筑西市において一般国道50号下館バイパス改築事業を進めている。

平成15年6月24日、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、一般国道50号下館バイパス改築事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成15年7月15日に現地踏査を、平成23年8月18・19日に試掘調査を実施し、上宿遺跡の所在を確認した。

平成23年10月11日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長あてに、事業地内に上宿遺跡が所在すること及びその取り扱いについて別途協議が必要である旨を回答した。

平成24年1月27日、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに文化財保護法第94条に基づき、土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。平成24年2月8日、茨城県教育委員会教育長は、現状保存が困難であることから記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成24年2月20日、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、一般国道50号下館バイパス事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。平成24年2月29日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長あてに、上宿遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、財團法人茨城県教育財團（現 公益財團法人茨城県教育財團）を紹介した。

公益財團法人茨城県教育財團は、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成24年12月1日から平成25年3月31日まで発掘調査を実施した。

## 第2節 調査経過

上宿遺跡の調査は、平成24年12月1日から平成25年3月31日までの4か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

工程	期間	12月	1月	2月	3月
調査準備 表土削除 構造確認					
遺構調査					
遺物洗浄 記録 写真整理					
収集					

## 第2章 位置と環境

### 第1節 位置と地形

上宿遺跡は、茨城県筑西市飯島字玉戸道東 56-5 番地ほかに所在している。

筑西市は、栃木県との県境である茨城県の西部に位置している。筑西市域の西端を鬼怒川、東部を小貝川が南流し、中央を小貝川の支流である大谷川、五行川が流れている。市域の地形は、洪積台地と沖積低地に分けられる。台地は、鬼怒川低地と小貝川低地に挟まれ、南北に細長い形状をしている。この台地は、下館台地と呼ばれ、大谷川によって東西に二分されている。東側の台地は、北へ延びており、栃木県真岡市付近から宝積寺にわたる宝積寺台地に続いている。西側の台地は、南へ延びており、南端は下妻市街地付近に至る。台地には、河川によって開析された小支谷が樹枝状に入り込み、複雑な地形を形成している。標高は、北部の中館付近で 46 m、南部の野殿付近で 36 m、南端の下妻市下妻駅付近で 25 m と北から南へ低くなっている。

下館台地を構成する地層は、泥質に富み、貝化石等を多く含む海成層が基盤となっている。その上に、灰色の竜ヶ崎砂礫層があり、さらにその上に、灰白色の常緑粘土層が堆積している。最上部には、褐色の関東ローム層が堆積している<sup>1)</sup>。

上宿遺跡は、筑西市の北西部（旧下館市域）に位置している。当遺跡は、下館台地中央部の標高 33 m の低位段丘上から標高 30 m の沖積低地上にかけて立地している。調査前の現況は、宅地及び畠地である。

### 第2節 歴史的環境

上宿遺跡の所在する旧下館市域は、洪積台地と河川の流域に展開する沖積低地が交錯する地域で、『茨城県遺跡地図』<sup>2)</sup>によれば、多くの遺跡が分布している。ここでは、当遺跡周辺の遺跡を中心に、時代を追って概要を述べる。

旧石器時代の遺跡は、八丁台遺跡<sup>3)</sup>や西原遺跡<sup>4)</sup>（12）が確認されている。八丁台遺跡は、五行川右岸の台地縁辺部に立地し、安山岩製の石核 4 点と剥片 1 点が出土している<sup>5)</sup>。西原遺跡は、大谷川右岸の台地縁辺部に立地し、安山岩製の尖頭器が出土している<sup>6)</sup>。両遺跡とも遺構は確認されていないが、当地域において旧石器時代から人々が生活していたことがうかがえる。

縄文時代の遺跡は、河川沿いの台地縁辺部に多くが立地し、清水不動遺跡<sup>7)</sup>（4）、不動坂遺跡<sup>8)</sup>（11）、西原遺跡などが確認されている。西原遺跡は、昭和 61・62 年に旧関町教育委員会により発掘調査が実施され、中期中葉から後期初頭までの堅穴建物跡 59 棟などが確認されている<sup>9)</sup>。また、低地に立地している遺跡の調査も進み、外塚遺跡<sup>10)</sup>（21）、栗島遺跡<sup>11)</sup>（19）などが確認されている。外塚遺跡は、大谷川左岸の低地部に立地しており、昭和 56 年に旧下館市教育委員会により発掘調査が実施された。遺構は、土坑 1 基が確認されたのみであるが、遺物は、中期の加曾利 E Ⅲ式から後期の安行 II 式まで数多く出土している<sup>12)</sup>。栗島遺跡は、大谷川右岸の氾濫原である微高地に立地している。平成 16～17 年に当財團が発掘調査を実施し、前期の堅穴建物跡 1 棟を確認している<sup>13)</sup>。両遺跡は、低地部の微高地に形成された遺跡で、縄文時代における低地部の土地利用が明らかとなつた特筆すべき例である。

弥生時代の遺跡は、清水不動遺跡、飯島遺跡<sup>14)</sup>（15）、栗島遺跡、女方遺跡などが確認されている。女方遺跡は、

鬼怒川左岸の台地上に立地しており、中期の遺跡として全国的に知られている。41基の土坑群からは、人面付壺形土器やモミの跡が付着した土器などが出土しており、再葬墓とみられている。

古墳時代の遺跡は、台地縁辺部から低地部へと広がって分布している。明神北遺跡（7）、野殿深作遺跡（8）、野殿深作東遺跡（9）、不動坂遺跡、西原遺跡、飯島遺跡、笹塚遺跡（16）、栗島遺跡、石原田遺跡（20）などが確認されている。野殿深作遺跡及び野殿深作東遺跡は、大谷川右岸の台地縁辺部に立地している。野殿深作遺跡は、平成5年に当財團で発掘調査を実施しており、5世紀後葉の堅穴建物跡4棟を確認している。第2号堅穴建物跡からは、TK216からTK208の間に位置づけられる須恵器が出土している<sup>8)</sup>。隣接する野殿深作東遺跡では、5世紀中葉の堅穴建物跡19棟が確認され、多くの石製模造品が出土している<sup>9)</sup>。また、当地域には古墳群が実在しており、当遺跡周辺では、玉戸古墳（2）、西方古墳（5）、西方新窓古墳（6）、野殿古墳（10）、笹塚古墳（17）が所在している。旧協和町域の徳持（徳間山）古墳は、小貝川左岸の低地部に立地し、後円部の直径80m、高さ10m、前方部の幅35m、高さ40m、全長140mと推定される新治国造城最大の前方後円墳である。築造年代は、4世紀末から5世紀初頭とされ、その位置と規模から新治国造の墓とみられている。有力者の墓である古墳の数の多さから、当地域は鬼怒川、小貝川流域等の肥沃な低地を背景に著しく発展したものと推測できる。

奈良・平安時代の遺跡は、元村遺跡（3）、清水不動遺跡、不動坂遺跡、北谷遺跡（13）、笹塚遺跡、山崎・觀音堂遺跡（18）、栗島遺跡、石原田遺跡などが所在し、当遺跡から北東約10kmの位置には新治郡街跡や新治廢寺跡がある。当該期の集落跡は、発掘調査例が少なく、その様相について不明な点が多いのが現状である。当遺跡から北へ約2.5kmに位置する栗島遺跡では、流路跡1条、水場造構1か所、曲物埋設構1基、土坑2基、溝跡5条を確認している。200点を超える墨書き土器や木簡5点、多量の木製品などが出土しており、郡衙に関わる遺跡とみられている<sup>10)</sup>。当遺跡は、栗島遺跡と近距離に位置し、出土遺物の時期が近いため、同時期に機能していた集落の可能性がある。律令期の旧下館市域は、新治郡に属しており、新治郡は、さらに12の郷に分けられていた。旧下館市域は、竹嶋郷・博多郷・沼田郷・伊讀郷にあたり、当遺跡周辺は、沼田郷に属していたとみられている。新治郡は平安末期までに、東郡・中郡・西郡・小栗御駄に分かれており、旧下館市域は西郡・小栗御駄が該当する。西郡は、さらに南条・北条に分かれ、南条は赤郡、北条は伊佐郡と称した。また、当時の下館台地には、奈良時代末期から蝦夷征討の兵站基地としての穀物倉と、鬼怒川をへだてて下野地方の賊に備えるための砦があったと推定され、それが上館・中館・下館のおこりであるといわれている<sup>11)</sup>。

平安時代末期の天永2年（1111）には、常陸介として赴任した藤原実宗が伊佐氏を名のり、鎌倉時代には、その子孫である伊佐朝宗が伊佐城を中心に勢力を張った。

南北朝時代には、奥州伊達氏の祖とされる伊佐氏が南朝方に呼応し、中館・伊佐城を拠点として北朝方と激しい戦いを繰り広げたが、興国4年（1343）に伊佐城は陥落している。伊佐氏の滅亡後、文明10年（1478）に結城氏の家臣水谷氏が下館地方を与えられ、下館城主となり、後世の下館の基礎を築いた。

\*文中の（ ）内の番号は、表1及び第1図の該当遺跡番号と同じである。

## 註

1) 茨城県農地部農地計画課『土地分類基本調査 小山・古河』 1986年12月

2) 茨城県教育文化課編『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会 2001年3月

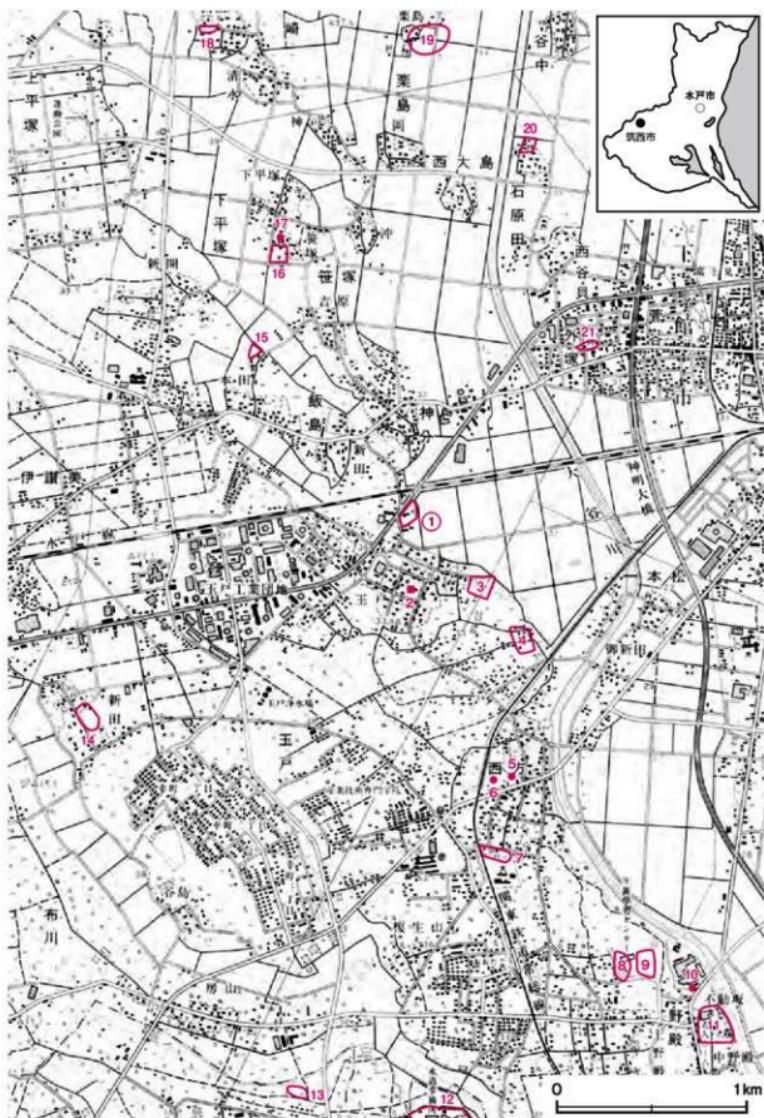
- 3) 川津法伸「一般国道 50 号下館バイパス改築工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書 八丁台遺跡」『茨城県教育財团文化財調査報告』第 138 集 1998 年 6 月
- 4) 西原遺跡発掘調査会『西原遺跡発掘調査報告書』関町教育委員会 1988 年 3 月
- 5) 註 4) 文献に同じ
- 6) 外塚遺跡調査会『外塚遺跡』下館市教育委員会 1985 年 3 月
- 7) 奥沢哲也「栗島遺跡 一般国道 50 号バイパス改築事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」『茨城県教育財团文化財調査報告』第 268 集 2007 年 3 月
- 8) 小鳥敏「茨城県西生畜学センター建設用地内埋蔵文化財調査報告書 野殿深作遺跡」『茨城県教育財团文化財調査報告』第 91 集 1994 年 6 月
- 9) 下館市教育委員会『野殿深作東遺跡』下館市教育委員会 1996 年 3 月
- 10) 註 7) 文献に同じ
- 11) 下館市史編さん委員会『下館市史 上巻』1968 年 9 月

#### 参考文献

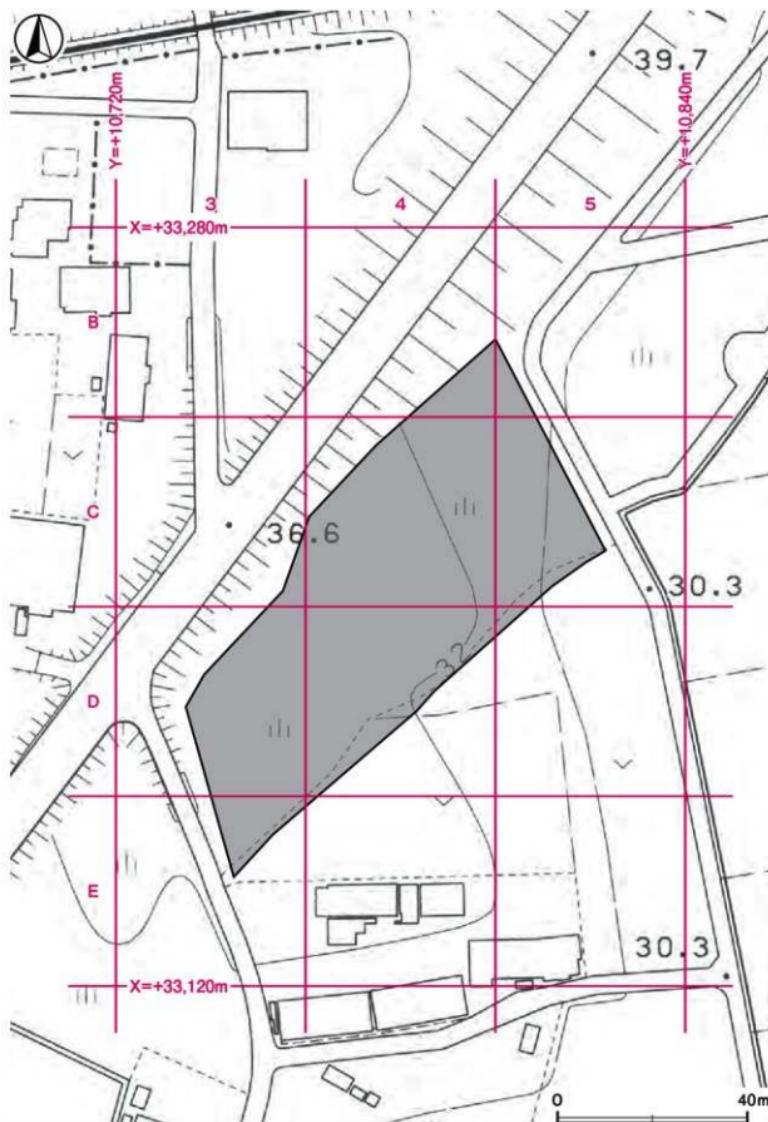
- ・茨城県史編集委員会『茨城県史 原始古代編』茨城県 1985 年 3 月  
 ・郷土出版社『図説 結城・真壁・下館・下妻の歴史』2004 年 2 月

表 1 上宿遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代						
		旧石器	繩文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町			旧石器	繩文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
①	上宿遺跡	○	○	○	○	○	○	12	西原遺跡	○	○	○				
2	玉戸古墳			○				13	北谷遺跡				○			
3	元村遺跡				○			14	玉戸新田遺跡	○						
4	清水不動遺跡	○	○	○				15	飯島遺跡		○	○				
5	西方古墳			○				16	笛塚遺跡		○	○				
6	西方新畑古墳			○				17	笛塚古墳			○				
7	明神北遺跡			○	○			18	山崎・觀音堂遺跡				○			
8	野殿深作遺跡			○		○		19	栗島遺跡	○	○	○	○			
9	野殿深作東遺跡			○				20	石原田遺跡			○	○			
10	野殿古墳			○				21	外塚遺跡	○						
11	不動坂遺跡	○	○	○												



第1図 上宿遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の 1 「下館」）



第2図 上宿遺跡調査区設定図（筑西市都市計画図 2,500 分の 1 から作成）

## 第3章 調査の成果

### 第1節 調査の概要

上宿遺跡は、筑西市の北西部に位置し、大谷川右岸の標高33mの低位段丘上から標高30mの低地にかけて立地している。遺跡は、遺構の確認状況から北西方向に広がっていると考えられる。調査区域は、遺跡の南東部に位置していると想定され、北東から南西に110m、北西から南東に50mの台形状の範囲である。調査面積は4,238m<sup>2</sup>で、調査前の現況は宅地及び畠地である。

調査の結果、縄文時代の階穴3基、古墳時代の堅穴建物跡3棟、土坑1基、奈良時代の堅穴建物跡3棟、掘立柱建物跡11棟、土坑3基、柱穴列1条、平安時代の堅穴建物跡5棟、掘立柱建物跡13棟、土坑3基、江戸時代以降の水田跡1か所、溝跡3条のほか、時期不明の土坑199基、柱穴の可能性がある土坑8基、柱穴列4条、溝跡7条を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ(60×40×20cm)に25箱出土している。主な遺物は、縄文土器(深鉢)、弥生土器(壺)、土師器(壺・高台付壺・高台付皿・盤・高壺・甕・小形甕・瓶)、須恵器(壺・高台付壺・蓋・盤・高盤・鉢・長頭瓶・甕・瓶・円面鏡)、灰釉陶器(長頭瓶)、土製品(土玉・管状土錘・支脚・紡錘車)、石器(鐵・磨石・敲石)、鉄製品(鐵・鎌・釘)、瓦(平瓦)、陶器(碗)、磁器(碗)などである。

### 第2節 基本層序

調査区南西部(E4a1区)にテストピットを設定し、基本土層(第3図)の観察を行った。以下、観察結果から層序を説明する。

第1層は、黒色を呈する耕作土である。ローム粒子を少量含み、粘性・締まりともに普通で、層厚は24~36cmである。

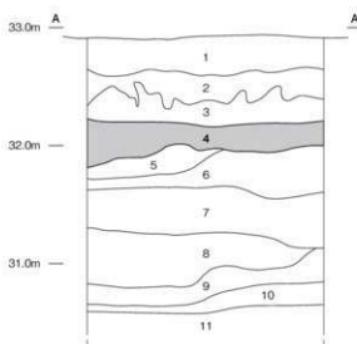
第2層は、褐色を呈するソフトローム層である。  
粘性・締まりともに普通で、層厚は7~32cmである。

第3層は、褐色を呈するハードローム層である。  
黒色粒子を微量含み、粘性は普通で、締まりは強く、層厚は12~35cmである。

第4層は、暗褐色を呈するハードローム層である。  
黒色粒子、赤色粒子を微量含み、粘性は普通で、締まりは強く、層厚は18~40cmである。本層は第2黒色帯に比定できる。

第5層は、褐色を呈するハードローム層である。  
粘性・締まりともに強く、層厚は4~24cmである。

第6層は、明褐色を呈する鹿沼バミス層への漸移層である。粘性・締まりともに強く、層厚は9



第3図 基本土層図

~ 39cmである。

第7層は、橙色を呈する鹿沼バミス層である。粘性は強く、締まりは普通で、層厚は30~47cmである。

第8層は、にぶい橙色を呈する粘土層である。斑状の酸化した鉄分を微量含み、粘性・締まりとともに強く、層厚は4~50cmである。

第9層は、明褐色を呈する粘土層である。帯状の酸化した鉄分を中量含み、粘性・締まりとともに強く、層厚は11~29cmである。

第10層は、にぶい褐色を呈する粘土層である。砂粒を少量含み、粘性は強く、締まりは普通で、層厚は6~21cmである。

第11層は、にぶい褐色を呈する礫層である。砂粒を中量、礫を少量含み、粘性は普通で、締まりは強い。下部が未掘のため、層厚は不明である。

造構は、第2層の上面で確認した。

### 第3節 遺構と遺物

#### 1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、陥し穴3基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

##### 陥し穴

###### 第1号陥し穴（第4図）

位置 調査区西部のD 3 b0 区、標高 33 m ほどの台地平坦部に位置している。

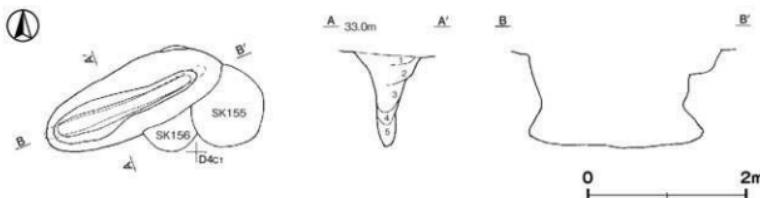
重複関係 第155・156号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東部が第155・156号土坑に掘り込まれているが、長径 2.41 m、短径 0.84 m の楕円形で、長径方向は N - 66° - E である。深さは 121 cm で、底面は幅が 10 ~ 15 cm と狭く、ほぼ平坦である。短径方向の断面形は V 字状である。長径方向の両端は、底面から高さ 50 cm まで内灣し、上部はほぼ直立している。

覆土 5 層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から自然堆積である。

土層解説	
1	褐色 色 ローム粒子中量
2	褐色 色 ローム粒子多量
3	褐色 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
4	暗褐色 色 ローム粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

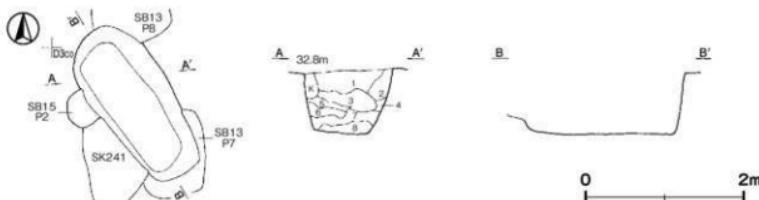
所見 詳細な時期は遺物が出土していないため明確ではないが、規模や形状から陥し穴と考えられる。



第4図 第1号陥し穴実測図

###### 第2号陥し穴（第5図）

位置 調査区西部のD 3 c0 区、標高 33 m ほどの台地平坦部に位置している。



第5図 第2号陥し穴実測図

**重複関係** 第13・15号掘立柱建物、第241号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 南部が第13号掘立柱建物、第241号土坑に掘り込まれているが、北西・南東径2.15m、北東・南西径1.01mの楕円形と推定できる。北西・南東径方向はN=33°～Wである。深さは80cmで、底面は幅が60cmで、平坦である。北東・南西方向の断面形はU字状である。

**覆土** 8層に分層できる。多くの層にロームブロックや鹿沼バミスブロックが含まれ、不規則な堆積状況から埋め戻されている。

#### 土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量	5 にふい黄褐色 ロームブロック少量
2 間色 ロームブロック多量	6 にふい黄褐色 ローム粒子多量
3 帯褐色 ローム粒子中量	7 にふい黄褐色 ロームブロック中量
4 間色 ロームブロック中量	8 にふい黄褐色 鹿沼バミスブロック・ローム粒子中量

**所見** 詳細な時期は遺物が出土していないため明確ではないが、規模や形状から陥し穴と考えられる。

### 第3号陥し穴（第6図）

**位置** 調査区中央部のD 4 a2区、標高33mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第9号堅穴建物、第24号掘立柱建物、第276号土坑に掘り込まれている。

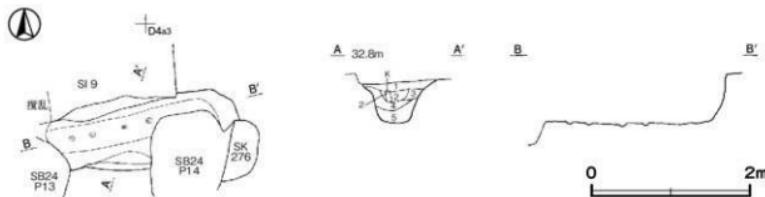
**規模と形状** 東部及び西部が第24号掘立柱建物に掘り込まれているため、東西径は2.44m、南北径は0.96mしか確認できなかった。平面形は楕円形と推定でき、東西径方向はN=81°～Eである。深さは65cmで、底面は幅が35cmと狭く、ほぼ平坦である。底面の中央部から西部にかけて、浅いビット状の溝4か所が等間隔に配置されている。南北径方向の断面形はU字状である。

**覆土** 5層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

#### 土層解説

1 帯褐色 ロームブロック少量	4 間色 ロームブロック多量
2 帯褐色 ロームブロック少量	5 にふい黄褐色 ロームブロック少量
3 褐色 ロームブロック中量	

**所見** 詳細な時期は遺物が出土していないため明確ではないが、規模や形状から陥し穴と考えられる。



第6図 第3号陥し穴実測図

表2 繩文時代陥し穴一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1	D 3 b0	N=66°～E	楕円形	2.41 × 0.84	121	平坦	内側直立	自然		43B→SK155・156
2	D 3 c0	N=33°～W	〔楕円形〕	(2.15) × (1.01)	80	平坦	直立	人為		43B→SB13・15・SK241
3	D 4 a2	N=81°～E	〔楕円形〕	(2.44) × (0.96)	65	平坦	直立	人為		43B→SI 9・SB24・SK276

## 2 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡3棟、土坑1基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

### (1) 竪穴建物跡

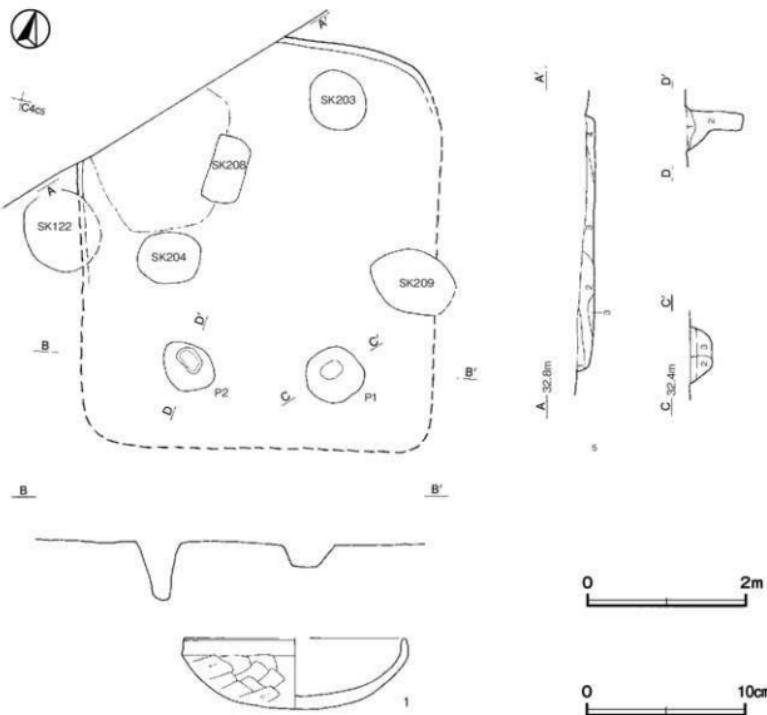
#### 第1号竪穴建物跡（第7図）

**位置** 調査区北部のC4c5区、標高33mほどの台地平坦部に位置している。

**確認状況** 床面がほぼ露出した状態で確認した。本跡の覆土は調査区壇際で確認している。

**重複関係** 第203・204・208・209号土坑に掘り込まれている。第122号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 北西部が調査区域外に延びており、北東部から南西部にかけては擾乱を受けているため、南北軸は5.19m、東西軸は4.60mしか確認できなかった。平面形は長方形と推定でき、南北軸方向はN-11°-Wである。遺存している壁は高さ5~20cmで、ほぼ直立している。



第7図 第1号竪穴建物跡・出土遺物実測図

**床** 平坦で、北西部が踏み固められている。壁溝は認められなかった。

**ピット** 2か所。P 1・P 2は深さ26cm・72cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。覆土はすべて柱抜き取り後のものである。

**ピット土層解説（各柱穴共通）**

1	暗	褐	色	ローム粒子微量
2	暗	褐	色	ローム粒子・炭化粒子微量

3	暗	褐	色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
4	暗	褐	色	ローム粒子少量

**覆土** 4層に分層できる。含有物が粒子主体であることから自然堆積である。

**土層解説**

1	黒	褐	色	ローム粒子・炭化粒子微量
2	黒	褐	色	ローム粒子少量、炭化粒子微量

3	暗	褐	色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量
4	暗	褐	色	ローム粒子少量

**遺物出土状況** 土師器片4点（坏2、甕2）が、北西部の硬化面上にわずかに残った覆土中から出土している。

出土位置や層位は不明である。

**所見** 時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。

第1号竪穴建物跡出土遺物観察表（第7図）

番号	種別	基盤	口径	基高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[138]	45	-	燒土・石英・赤母・褐色粒子	に多い帯	普通	口縁部外・内面積ナダ・体部外面ヘラ削り	覆土中	30% PL13

**第7号竪穴建物跡（第8図）**

**位置** 調査区南部のE 3 b6 区、標高33mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第1号掘立柱建物に掘り込まれている。第30号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 西部が調査区域外に延びており、ほぼ全域が搅乱を受けているため、南北軸は4.35m、東西軸は2.82mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定でき、南北軸方向はN - 17° - Wである。遺存している壁は高さ24cmで、ほぼ直立している。

**床** 平坦である。北部が踏み固められているが、北東部、東部、南部が搅乱を受けているため、詳細な範囲は不明である。壁溝は認められなかった。

**竪** 北壁に付設されている。大部分が搅乱を受けているため、詳細な規模は不明である。確認できた火床部は、床面とほぼ同じ高さで、火床面は火熱を受けて赤変硬化工している。

**竪土層解説**

1	暗	褐	色	燒土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
2	暗	赤	褐色	燒土粒子中量

3	暗	赤	褐色	燒土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量
4	暗	褐	色	ローム粒子少量、炭化粒子微量

**覆土** 4層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から自然堆積である。

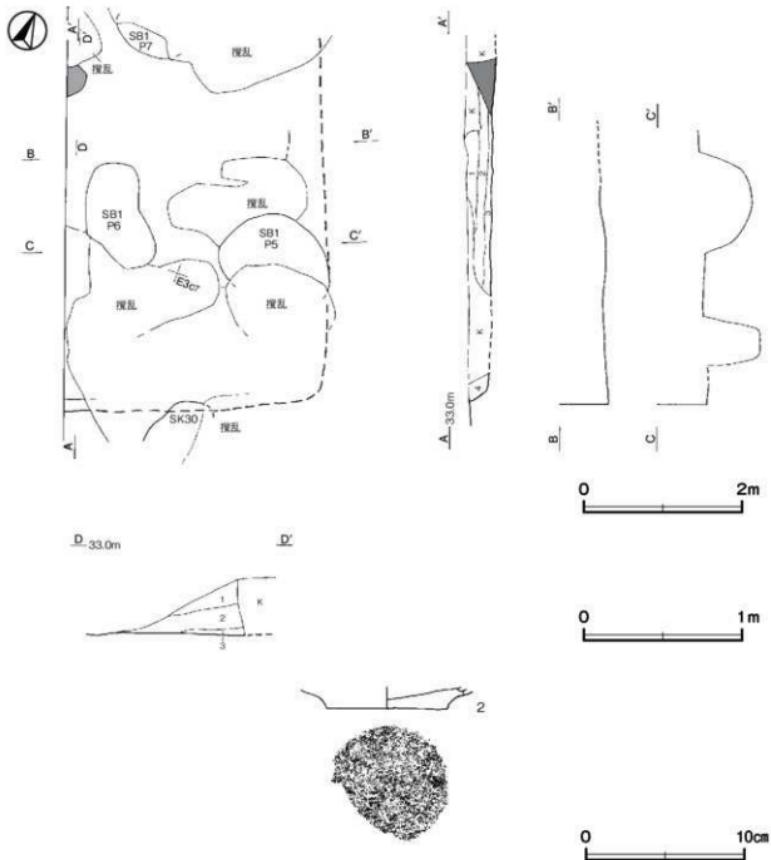
**土層解説**

1	黒	褐	色	炭化粒子微量
2	黒	褐	色	炭化粒子少量、ローム粒子・燒土粒子微量

3	暗	褐	色	ローム粒子少量、炭化物微量
4	暗	褐	色	ローム粒子少量、炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片4点（坏1、甕2、瓶1）のほか、繩文土器片1点（深鉢）が、覆土中から出土している。出土位置や層位は不明である。

**所見** 時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第8図 第7号堅穴建物跡・出土遺物実測図

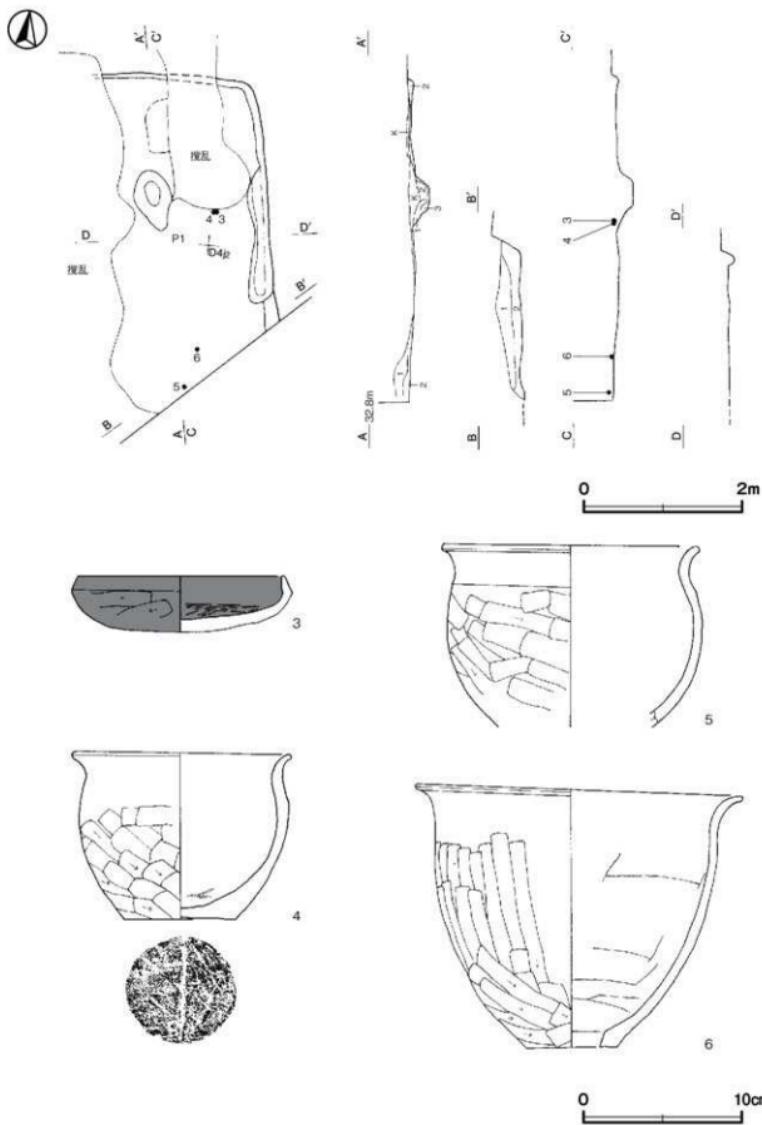
第7号堅穴建物跡出土遺物観察表（第8図）

番号	種 類	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 殊 は か	出土位置	備 考
2	土器部	甕	-	(1.4)	7.6	灰岩・石英・ 長母	に赤い霜	普通	底部ハラ削り	覆土中	10%

第8号堅穴建物跡（第9図）

位置 調査区南部のD411区、標高33mほどの台地平坦部に位置している。

確認状況 床面の一部が露出した状態で確認した。



第9図 第8号堅穴建物跡・出土遺物実測図

**規模と形状** 南部が調査区域外に延びており、北部及び西部は擾乱を受けているため、南北軸は4.28 m、東西軸は2.00 mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定でき、南北軸方向はN-7°-Wである。遺存している壁は高さ8~25cmで、ほぼ直立している。

**床** 平坦である。北部の一部分が踏み固められているが、擾乱を受けているため、詳細な範囲は不明である。東壁下の一部で礎溝が確認できた。

**ピット** P 1は深さ24cmで、位置と規模から主柱穴と考えられる。覆土はすべて柱抜き取り後のものである。

#### ピット土層解説

1 黑褐色 ロームブロック中量	3 暗褐色 ロームブロック中量
2 黒褐色 ロームブロック微量	

**覆土** 2層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から自然堆積である。

#### 土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量	2 暗褐色 ローム粒子少量
--------------------	---------------

**遺物出土状況** 土器片6点(环1、甕2、小形甕2、瓶1)が、南半部の覆土下層から床面にかけて出土している。5は南部の覆土下層から口縁が中央に傾いた状態で出土していることから、廃絶後間もなく流れ込んだものとみられる。3・4は中央部、6は南部の床面からはほぼ完形で正位の状態で出土していることから、廃絶時に遺棄されたものとみられる。

**所見** 時期は、出土土器から7世紀前葉に比定できる。

第8号堅穴建物跡出土遺物観察表(第9図)

番号	種別	形態	口径	標高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか				出土位置	備考
									内面	外側	内面	外側		
3	土器部	环	130	36	-	焼石・石英、赤色粒子	にふい黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外側へラ曇り	床面	80% PL13		
4	土器部	小形甕	134	107	70	長石・石英・赤色粒子	にふい黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外側へラ曇り	床面	80% PL22		
5	土器部	小形甕	158	(11.6)	-	長石・石英、赤色粒子	にふい黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外側へラ曇り	覆土下層	60% PL22		
6	土器部	甕	203	167	56	長石・石英、赤色粒子・細繊	にふい黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外側へラ曇り	床面	90% PL23		

表3 古墳時代堅穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規 模		標高 (cm)	床面	焼構	内 部 施 設			覆土	主な出土遺物	時 期	備 考	
				長軸	短軸				内面	外側	ビット	蓋				
1	C 4x5	N-11°-W	[長方形]	(5.19) × (4.60)	5~20	平頂	-	2	-	-	-	-	自然	土器部	7世紀前葉	58-920-24-28-29-931-1847
7	E 3x6	N-12°-W	[長方形]	(4.35) × (2.82)	24	平頂	-	-	-	-	-	-	自然	土器部	6世紀後葉	58-1-58-30-31-32-33-34
8	D 4x11	N-7°-W	[長方形]	(4.28) × (2.00)	8~25	平頂	一部	1	-	-	-	-	自然	土器部	7世紀前葉	

## (2) 土坑

### 第106号土坑(第10図)

**位置** 調査区北東部のC 4d0区、標高31mほどの台地緩斜面部に位置している。

**重複関係** 第295号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 開口部は長径1.24m、短径1.18mの円形である。深さ30cmまでは漏斗状で、下部は径0.74mの円筒状を呈している。深さは85cmで、底面はほぼ平坦である。

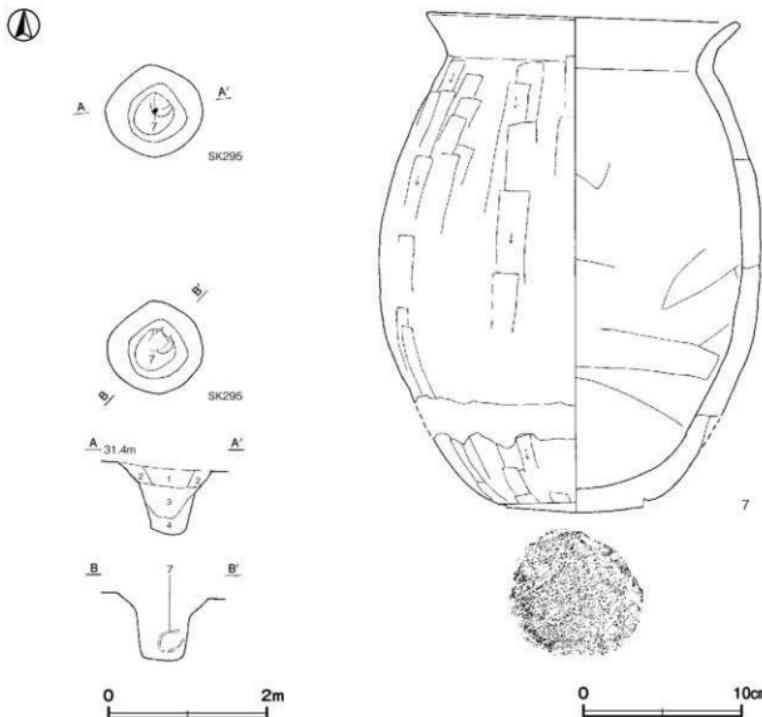
**覆土** 4層に分層できる。ロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況から埋め戻されている。

**土層解説**

- |       |                |       |                  |
|-------|----------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量      | 4 国色  | 粘土粒子中量、炭化粒子微量    |

**遺物出土状況** 土器器片4点(坏2、甕2)のほか、須恵器片21点(坏)が、覆土上層から下層にかけて出土している。7は、ほぼ完形で底面近くの覆土下層から口縁が北東壁に傾いた状態で出土していることから、埋め戻し始めて間もなく廃棄されたものとみられる。また、内部には埋没過程での流入土以外に何も残存していないかった。

**所見** 時期は、出土土器から7世紀前葉から中葉と考えられる。性格は不明である。



第10図 第106号土坑・出土遺物実測図

第106号土坑出土遺物観察表(第10図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	は小	出土位置	備考
7	土器部	甕	19.4	31.7	8.5	灰岩・石英・半色粒子	に赤い斑	普通	目地部外・内面様子アラフタリ内面へアラフタリ体部内面へアラフタリ体部下端に消褪部	底部へアラフタリ	覆土下層	95% PL23

### 3 奈良時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、堅穴建物跡3棟、掘立柱建物跡11棟、土坑3基、柱穴列1条を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

#### (1) 堅穴建物跡

##### 第3号堅穴建物跡（第11・12図）

位置 調査区中央部のD4c6区、標高33mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第229号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.80m、短軸4.61mの方形で、主軸方向はN-14°-Wである。壁は高さ8~16cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、壁際と出入口付近を除く広い範囲が踏み固められている。壁下には堀溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。上部が削平されているため遺存状態は悪い。規模は焚口部から煙道部まで90cmと推定でき、燃焼部幅は64cmである。袖部は、地山を掘り残して基部とし、砂質粘土ブロックを主体とした第4・5層を積み上げて構築されている。火床部は床面を4cmほど掘り込み、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子を含んだ第6層を埋土して構築されている。火床面は火熱を受け赤変しているが、硬化は弱い。遺存している煙道部は壁外に7cm掘り込まれ、火床面から外傾している。

##### 竈土層解説

1	暗	褐	色	粘土ブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量	4	暗	褐	色	粘土ブロック少量、焼土ブロック微量
2	暗	褐	色	焼土ブロック・炭化粒子少量、粘土ブロック微量	5	暗	褐	色	粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗	褐	色	炭化粒子微量	6	暗	褐	色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

ピット 6か所。P1~P4は深さ64~92cmで、規模と配置から主柱穴である。P1~P4では柱抜き取り痕が確認できた。P5は深さ48cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ28cmで、配置から貯蔵穴の可能性も想定されるが、明確でない。

##### ピット土層解説（各柱穴共通）

1	黒	褐	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	4	褐	色	ローム粒子少量
2	黒	褐	色	ロームブロック・炭化粒子微量	5	暗	褐	色
3	暗	褐	色	ローム粒子微量	6	暗	褐	色

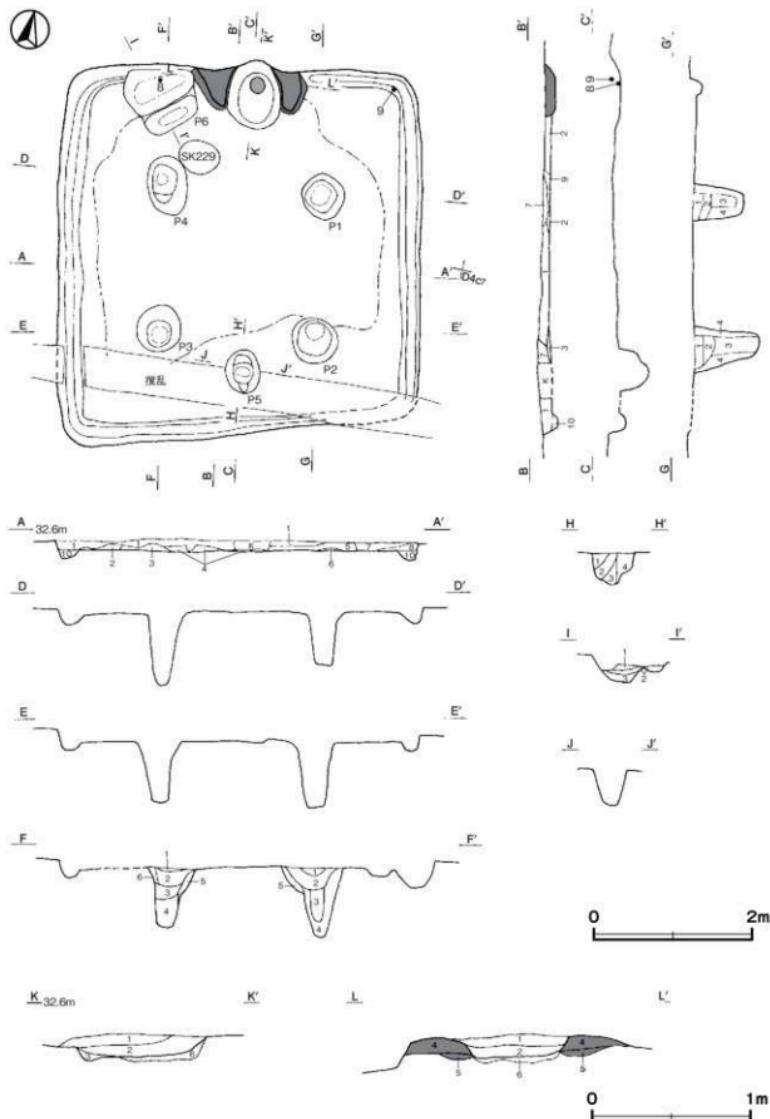
覆土 10層に分層できる。不規則な堆積状況から埋め戻されている。

##### 土層解説

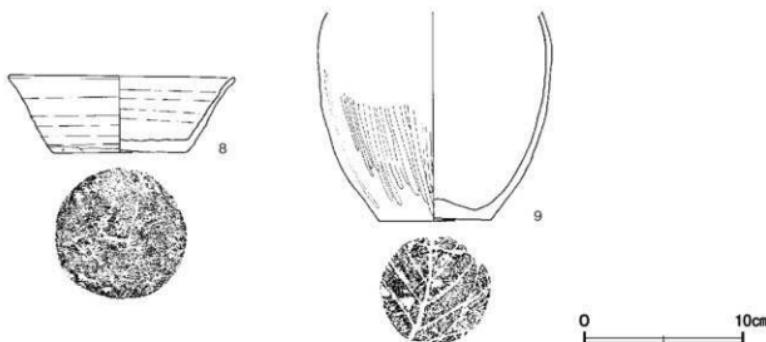
1	黒	褐	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐	色	ローム粒子多量
2	黒	褐	色	ローム粒子微量	7	黒	褐	色
3	褐	色	ロームブロック少量	8	黒	褐	色	炭化粒子微量
4	黒	褐	色	ロームブロック少量	9	褐	色	粘土ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
5	黒	褐	色	ロームブロック・炭化粒子微量	10	黒	褐	色

遺物出土状況 土師器片85点（壺8、甕75、小形甕1、瓶1）、須恵器片54点（壺43、高台付壺3、蓋6、甕2）のほか、繩文土器片2点（深鉢）、弥生土器片10点（甕）、剥片9点が、全城の覆土上層から下層にかけて出土している。8はほぼ完形で、P6の上層から出土していることから、埋め戻す過程で廃棄されたものとみられる。9は煙道の覆土下層から出土した破片が接合していることから、投棄されたものとみられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第11図 第3号堅穴建物跡実測図



第 12 図 第 3 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 12 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
8	須恵器	环	14.0	5.0	8.4	長石・石英・ 赤母・細繩	黄灰	良好	底部下端手持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り	P 6 露土上層 PL13	95%新治面
9	土師器	小形甌	-	(13.2)	7.1	長石・石英・ 赤色粒子・細繩	にぶい相	普通	底部外面ハラ磨き 底部木葉瓶	覆土下層	30%

第 10 号竪穴建物跡（第 13・14 図）

位置 調査区中央部の D 4 a4 区、標高 33 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 291 号土坑を掘り込み、第 2 号竪穴建物、第 19・21・24 号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 ほぼ全城が第 2 号竪穴建物、第 19・21・24 号掘立柱建物のピットによる掘り込みや攪乱を受けているため遺存状態は悪く、南北軸は 6.58 m、東西軸は 6.56 m しか確認できなかった。推定できる規模と形状は、南北軸 7.94 m、東西軸 7.26 m の方形で、主軸方向は N - 17° - W である。遺存している壁は高さ 12 ~ 32 cm で、ほぼ直立している。

床 平坦で、硬化面は認められなかった。遺存している壁下には、壁溝が巡っている。

ピット 6か所。P 1 ~ P 4 は深さ 92 ~ 104 cm で、規模と配置から主柱穴である。P 5 は深さ 24 cm で、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 2 ~ P 5 では柱抜き取り痕が確認できた。P 6 は深さ 23 cm で、南西コーナー部に位置する性格不明である。

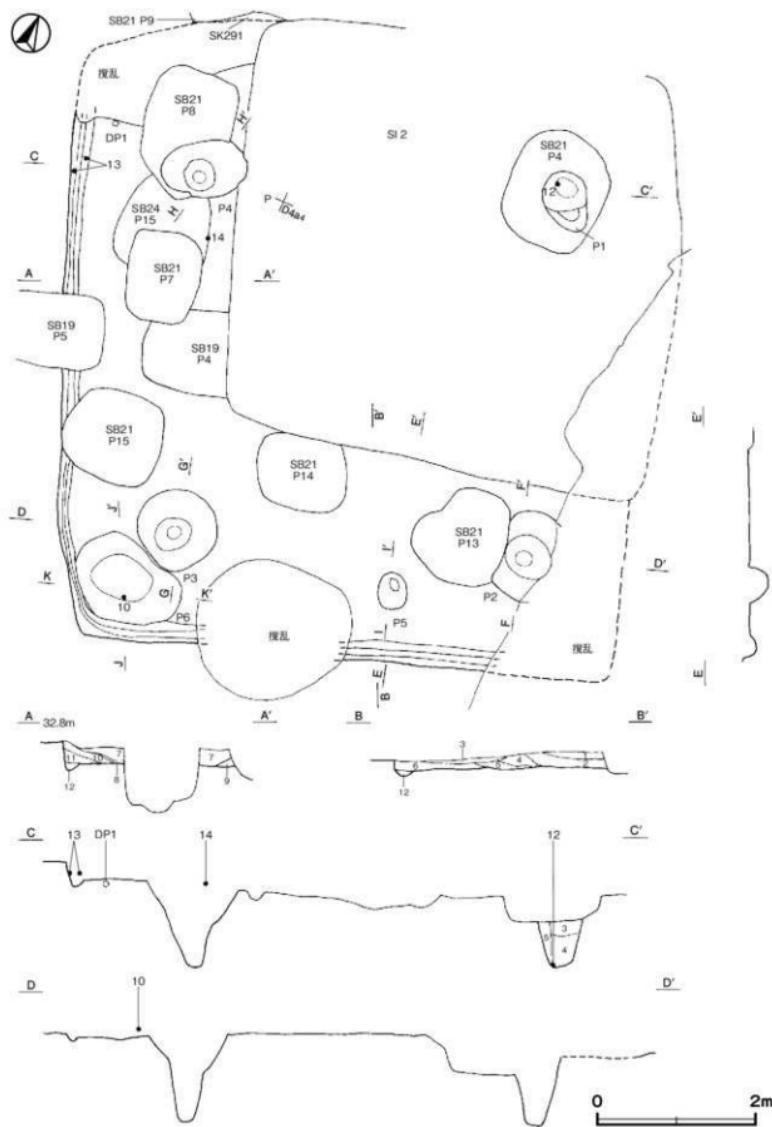
#### ピット土層解説（各柱穴共通）

1 暗褐色	鹿沼バミスプロック・炭化物・ローム粒子・燒土 粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック・鹿沼バミスプロック多量、炭化 物微量
2 暗褐色	鹿沼バミスプロック少量、炭化物・燒土粒子微量	7 暗褐色	炭化物多量、ローム粒子少量、燒土粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	8 黒褐色	ロームブロック・炭化物少量、燒土粒子微量
4 暗褐色	鹿沼バミスプロック少量	9 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
5 黑褐色	鹿沼バミスプロック中量	10 暗褐色	ロームブロック・燒土粒子少量、炭化物微量

覆土 12 層に分層できる。不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

#### 土層解説

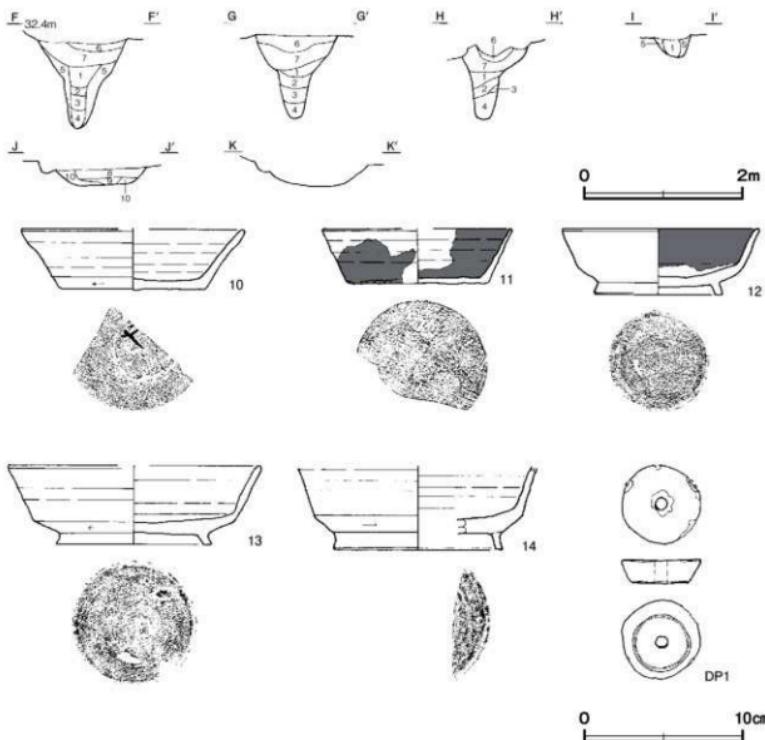
1 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、燒土粒子微量	7 灰褐色	ローム粒子少量、炭化物微量
2 黑褐色	ロームブロック・炭化物少量	8 暗褐色	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	炭化物・ローム粒子少量	9 黑褐色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子少量
4 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック・燒土粒子少量、炭化物微量
5 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	11 暗褐色	炭化物・燒土粒子少量、ロームブロック微量
6 黑褐色	ローム粒子微量	12 暗褐色	燒土粒子・炭化粒子微量



第13図 第10号竪穴建物跡実測図

**遺物出土状況** 土師器片 77 点（坏 20、甕 56、瓶 1）、須恵器片 70 点（坏 42、高台付坏 3、蓋 12、甕 13）、土製品 1 点（鉢鍤車）、不明鉄製品 1 点のほか、繩文土器片 1 点（深鉢）、弥生土器片 10 点（甕）、剥片 2 点が、全城の覆土下層から床面にかけて出土している。12 はほぼ完形で、P 1 の覆土下層から出土していることから、埋め戻す過程で廃棄されたものとみられる。13 は西壁際の覆土下層から出土した破片が接合していることから、破碎後に投棄されたものとみられる。14 は破片で、床面上から出土していることから、廃絶時に投棄されたものとみられる。DP 1 はほぼ完形で、西壁際の床面上から出土していることから、廃絶時に遺棄されたものとみられる。

**所見** 時期は、8世紀後葉の第24号掘立柱建物に掘り込まれていること及び出土土器から、8世紀中葉に比定できる。



第14図 第10号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第10号竪穴建物跡出土遺物観察表（第14図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
10	須恵器	环	[13.8]	3.9	[9.2]	長石・石英・ 珪母	灰黄	良好	体部下端回転へラ削り 底部多方向のへラ削り 底部に垂直な文	覆土下層	25% PL16
11	須恵器	环	[11.8]	3.5	8.6	長石・石英・ 珪母	にほい黄褐	普通	体部下端回転へラ削り 底部多方向のへラ削り 外側内面油煙付着	覆土中	40%
12	須恵器	高台环	12.3	4.2	8.0	長石・石英・ 珪母	灰	良好	底部回転へラ削り 高台貼り付け 内面に油 煙付着	P 1 覆土下層	70%新泊産 PL18
13	須恵器	高台环	[15.8]	5.0	9.8	長石・石英・ 珪母・褐色粒子	灰白	良好	底部回転へラ削り 高台貼り付け	覆土下層	70%新泊産 PL18
14	須恵器	高台环	-	(5.3)	[10.6]	長石・石英・ 珪母	灰	普通	底部下端回転へラ削り 底部回転へラ削り後、 窓形貼り付け	床面	20%

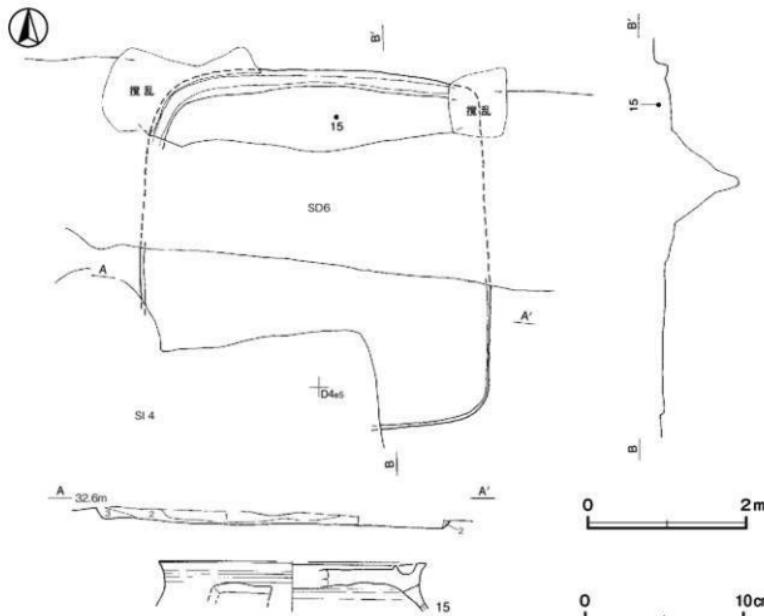
番号	器種	径	厚さ	孔径	重葉	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	粘蹄車	5.0	1.5	0.8	(48.4)	石英	にほい黄褐	側面ヘラナダ 一方からの穿孔	床面	PL25

第11号竪穴建物跡（第15図）

位置 調査区中央部のD 4 d5 区、標高 33 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第300号土坑、第2号柱穴を掘り込み、第4号竪穴建物、第6号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南西部が第4号竪穴建物、東部から西部にかけては第6号溝に掘り込まれているが、南北軸4.50 m、東西軸4.42 m の方形で、南北軸方向はN - 1° - Eである。遺存している壁は高さ4 ~ 18cmで、外傾している。



第15図 第11号竪穴建物跡・出土遺物実測図

**床** 平坦である。大部分が第6号溝によって掘り込まれているため、硬化面は確認できなかった。北壁で壁溝が確認できた。

**覆土** 3層に分層できる。層厚が薄いため詳細は不明であるが、周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子中量、焼土粒子少量  
2 暗 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

3 褐 色 焼土粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片2点(甕)、須恵器片4点(环3、円面鏡1)が、わずかに残る北部と西部の覆土中から出土している。15は破片で、北壁近くの覆土上層から出土していることから、埋没する過程で流れ込んだものとみられる。

**所見** 時期は、遺物が少なく細片のため特定は困難であるが、9世紀前葉の第4号竪穴建物に掘り込まれていていること及び出土土器から、8世紀後葉と考えられる。

第11号竪穴建物跡出土遺物観察表(第15図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
15	須恵器	円面鏡	[168]	(3.2)	—	灰石・石英	灰	良好	圓足円面鏡 腹部に透かし孔	覆土上層	20% PL22

表4 奈良時代竪穴建物跡一覧表

番号	位 置	主軸方向	平面形	規 模		壁 高 (cm) 長軸×短軸(m)	床面	壁溝 (直径×基口径) cm	内 部 施 設			覆土	主な出土遺物	時 期	備 考		
				幅	長				柱穴	壁	天井						
3	D 4c6	N - 14° - W	方形	4.80	×	4.61	8 - 16	平坦	全周	4	1	1	北壁	-	人為	土師器、須恵器	8世紀後葉 本路→SK29
10	D 4af	N - 17° - W	[方形]	(6.58)	×	(6.56)	12 - 32	平坦	一部	4	1	1	-	-	人為	土師器、須恵器、鐵製品	8世紀中葉 SK26 → 本路 → SK2
11	D 4d5	N - 1° - E	方形	4.50	×	4.42	4 - 18	平坦	一部	-	-	-	-	-	自然	土師器、須恵器	8世紀後葉 SK30, SK27 → 本路 → SK1, SK6

#### (2) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡(第16・17図)

**位置** 調査区南西部のE 3a6区、標高33mほどの台地平坦部に位置している。

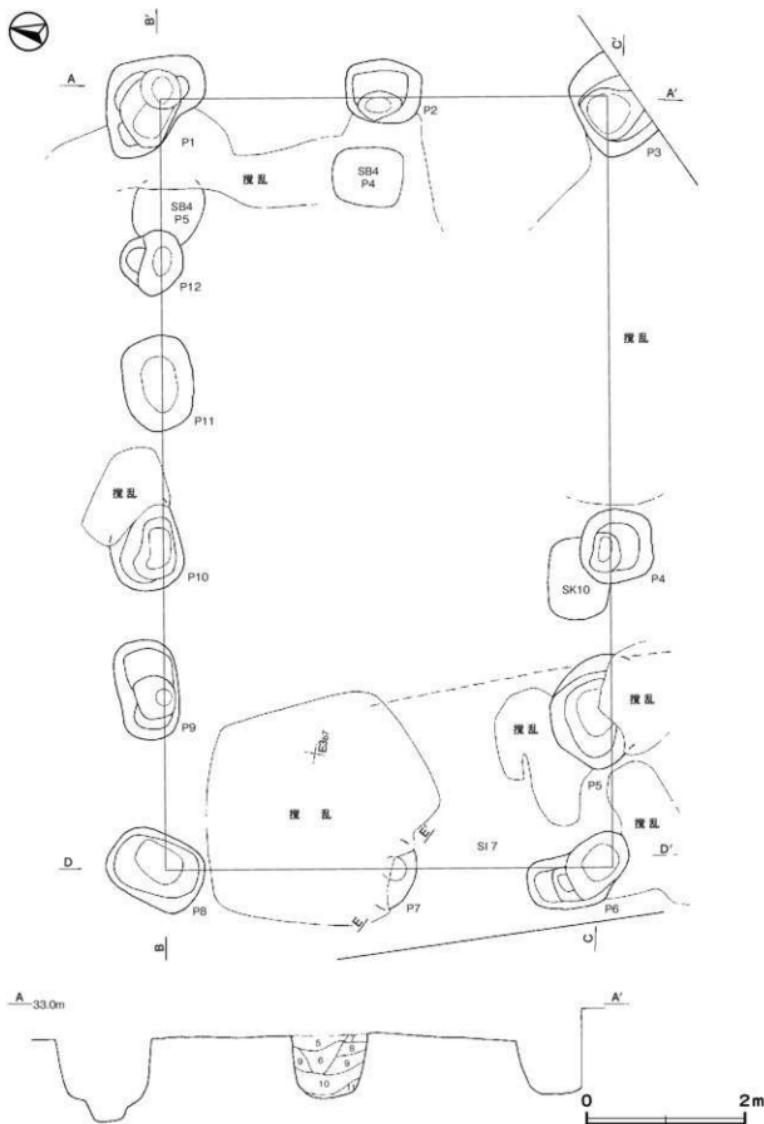
**重複関係** 第7号竪穴建物跡、第4号掘立柱建物跡、第10号土坑を掘り込んでいる。

**規模と構造** 桁行5間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN - 81° - Eの東西棟である。規模は、桁行9.75m、梁行5.70mで、面積は55.58m<sup>2</sup>である。柱間寸法は、桁行が1.95m(65尺)、梁行は2.85m(95尺)で、柱筋はほぼ揃っている。

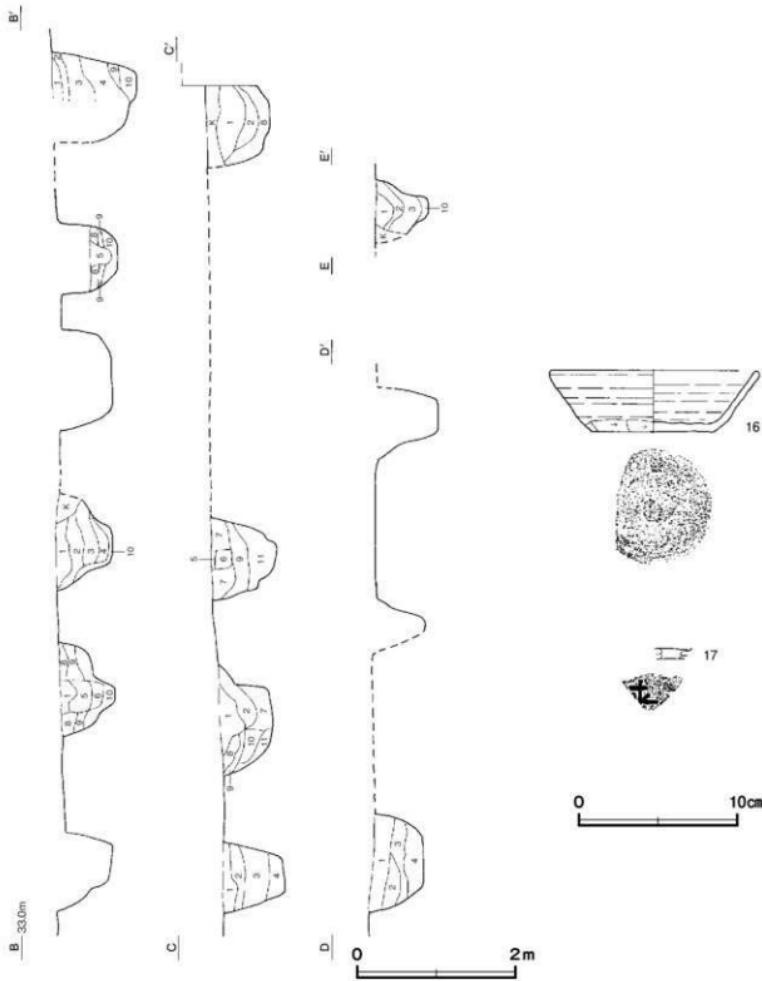
**柱穴** 12か所。平面形は梢円形または隅丸長方形で、長径(軸)81~140cm、短径(軸)33~120cmである。深さは32~106cmで、掘方の壁はやや外傾している。P 3・P 8の長軸は、桁行方向に対して約45度振れている。第1~6層は柱抜き取り後の覆土、第7~11層は埋土である。

#### 柱穴土層解説(各柱穴共通)

- |                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| 1 暗 褐 色 ローム粒子中量   | 7 暗 褐 色 ロームブロック中量  |
| 2 暗 褐 色 ローム粒子少量   | 8 黒 褐 色 ロームブロック少量  |
| 3 暗 褐 色 ロームブロック多量 | 9 褐 色 ロームブロック少量    |
| 4 黑 褐 色 ロームブロック中量 | 10 黒 褐 色 ロームブロック微量 |
| 5 暗 褐 色 ローム粒子多量   | 11 褐 色 ロームブロック中量   |
| 6 暗 褐 色 ロームブロック微量 |                    |



第16図 第1号掘立柱建物跡実測図



第17図 第1号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師器片 33点（壺7、甕26）、須恵器片 36点（壺26、高台付壺1、蓋7、高盤1、甕1）のほか、縄文土器片 1点（深鉢）、弥生土器片 10点（壺）、剥片 1点が、P4・P7・P11・P12を除く柱穴から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。性格は、規模から、大型の「屋」や「屋」への収納物を管理する施設などが想定できる。

第1号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第17図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	施成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
16	須恵器	环	13.0	3.9	7.6	長石・石英	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部ヘラナナフ	P 5 覆土中	70%
17	須恵器	环	-	(0.7)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部に墨書「朱」	P 1 覆土中	5% PL21

第2号掘立柱建物跡（第18・19図）

**位置** 調査区南西部のD 38区、標高33mほどの台地平坦部に位置している。

**確認状況** 南東部の柱穴は搅乱のため、確認できなかった。

**重複関係** 第28・76・95・273号土坑を掘り込み、第4号掘立柱建物に掘り込まれている。

**規模と構造** 桁行5間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN - 76° - Eの東西棟である。規模は、桁行9.80m、梁行6.00mで、面積は58.80m<sup>2</sup>である。柱間寸法は、桁行が1.95m(6.5尺)、梁行は3.00m(10尺)で、柱筋はほぼ揃っている。

**柱穴** 10か所。平面形は楕円形または隅丸長方形で、長径(軸)97~134cm、短径(軸)69~98cmである。深さは64~99cmで、掘方の壁はほぼ直立している。第1~8層は柱抜き取り後の覆土、第9~19層は埋土である。

#### 柱穴土層解説（各柱穴共通）

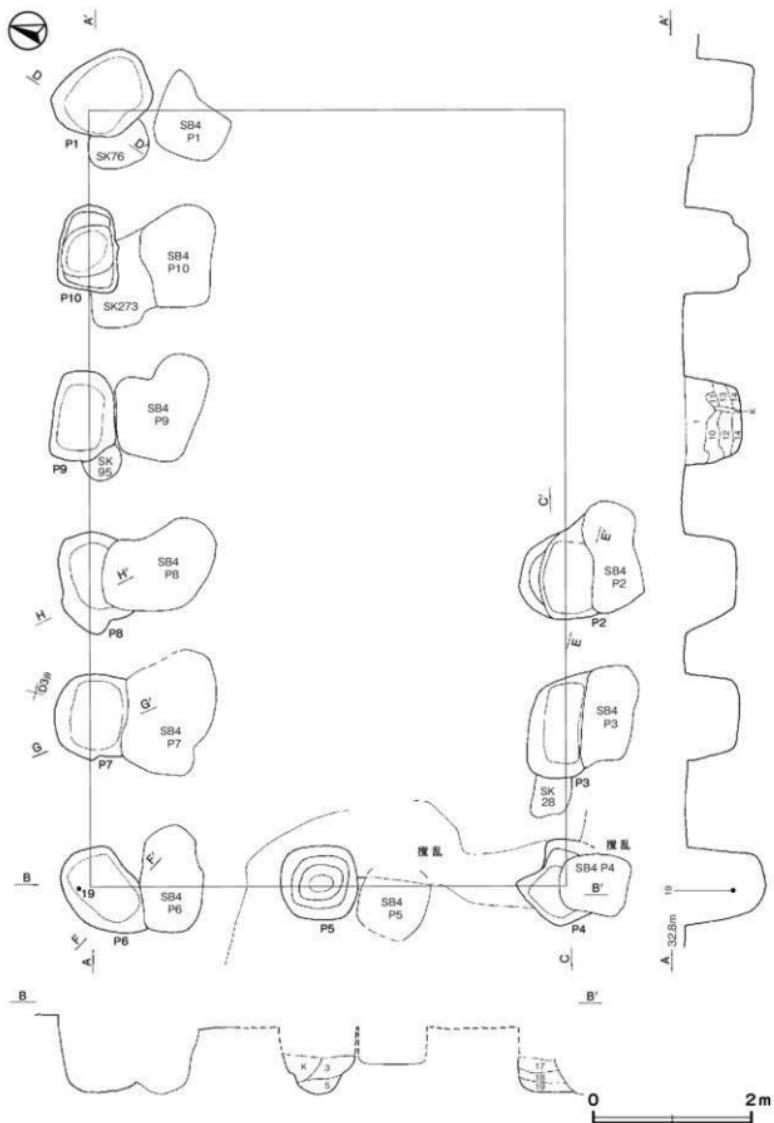
1	褐	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	11	黒	褐	色	ローム粒子・炭化粒子微量	
2	暗	褐	色	ロームブロック微量	12	黒	褐	色	ロームブロック少量
3	褐	暗	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	13	黒	褐	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4	褐	色	ローム粒子中量	14	黒	褐	色	ロームブロック・炭化粒子微量	
5	褐	色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	15	暗	褐	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	
6	黒	褐	色	炭化粒子少量、ロームブロック微量	16	暗	褐	色	ロームブロック・炭化粒子少量
7	暗	褐	色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	17	褐	色	ロームブロック・炭化粒子少量	
8	褐	色	ロームブロック少量	18	褐	色	色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	
9	褐	色	ロームブロック中量	19	黒	褐	色	ロームブロック少量	
10	暗	褐	色	炭化粒子少量、ロームブロック微量					

**遺物出土状況** 土師器片33点(坏12, 壺21), 須恵器片18点(坏5, 盖2, 壺1)のほか、繩文土器片7点(深鉢), 弥生土器片21点(壺), 刺片2点がP 1・P 4・P 6~P 10から出土している。19は破片で、P 6の埋土から出土しているため、造営時に一緒に埋められたものとみられる。なお、19には第4号掘立柱建物のP 6の覆土中、第8号掘立柱建物跡のP 10の埋土から出土した破片が接合している。

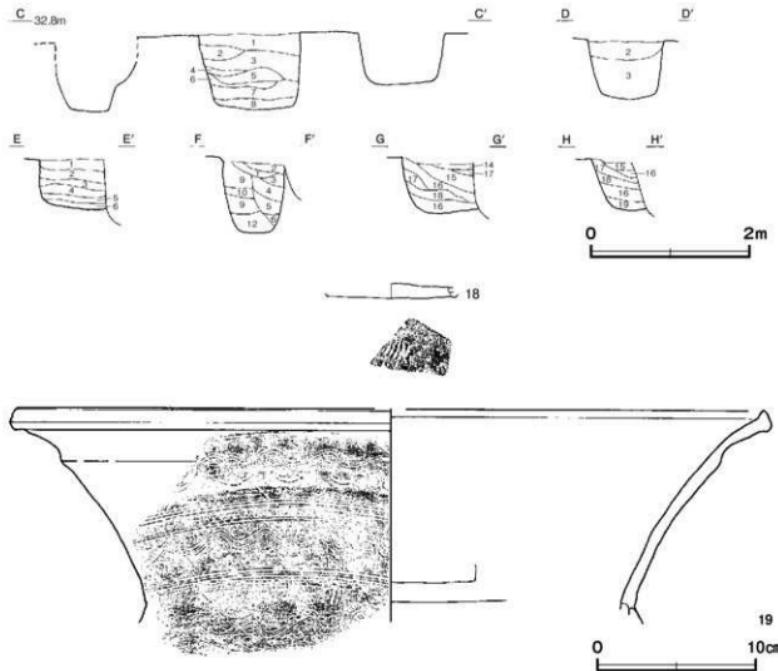
**所見** 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。本跡は第4号掘立柱建物に掘り込まれており、規模と構造がほぼ同じであることから、本跡から第4号掘立柱建物へ建て替えが行われたと推測できる。性格は、規模から、大型の「屋」や「屋」への収納物を管理する施設などが想定できる。

第2号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第19図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	施成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
18	須恵器	环	-	(0.9)	(8.1)	長石・石英	灰白	普通	底部に希切り痕	P 10 覆土中	5%
19	須恵器	壺	[47.3]	(13.5)	-	長石・石英・雲母	灰黄	良好	口縁部4本の横断状工具による波状文 横段の波状文で区画し、波状文を施す 内面ヘラナナフ	P 6 覆土中 S 6 覆土中 S 8 P 6 覆土中	5% PL22



第18図 第2号掘立柱建物跡実測図



第19図 第2号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

#### 第4号掘立柱建物跡（第20・21図）

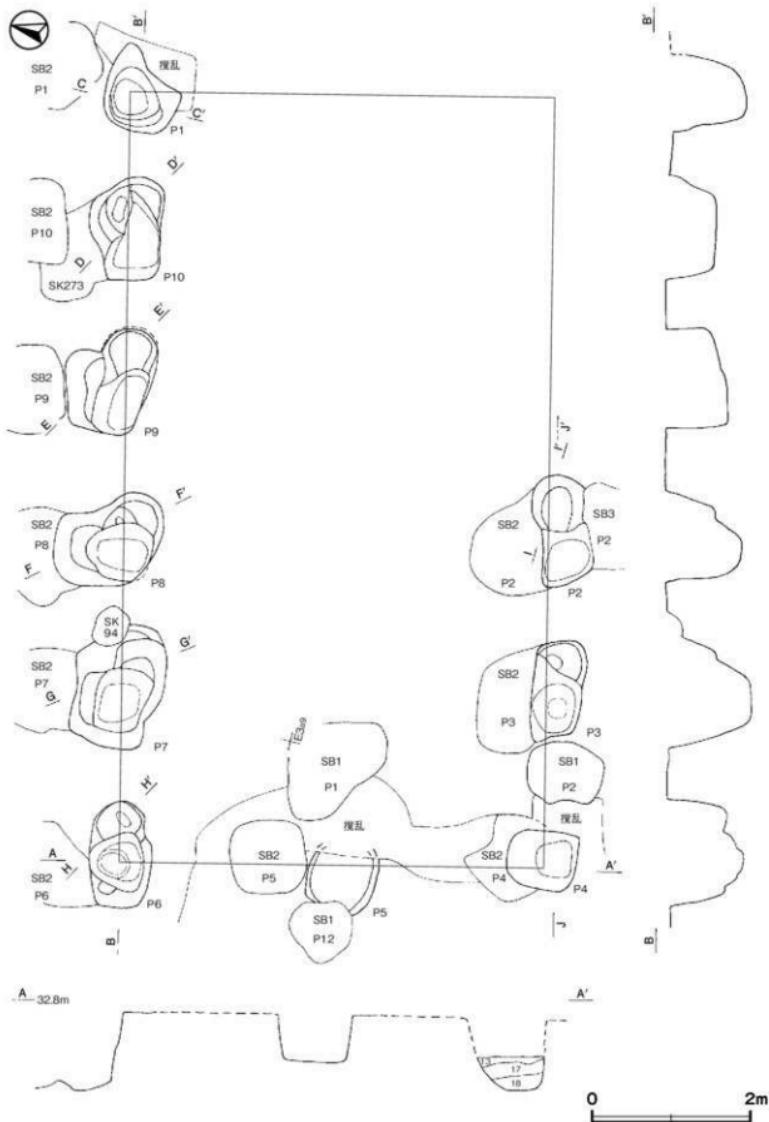
**位置** 調査区南西部のD3J8区、標高33mほどの台地平坦部に位置している。

**確認状況** 南東部の柱穴は擾乱のため、確認できなかった。

**重複関係** 第2号掘立柱建物跡、第273号土坑を振り込み、第1・3号掘立柱建物、第94号土坑に掘り込まれている。

**規模と構造** 桁行5間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-77°-Eの東西棟である。規模は、桁行9.80m、梁行5.40mで、面積は5292m<sup>2</sup>である。柱間寸法は、桁行が1.95m(6.5尺)、梁行は2.70m(9尺)で、筋はほぼ描っている。P2・P3・P6～P9の東側に小規模ピットを確認した。北平と南平の間に床束は確認できなかつたが、これらのピットは添東の一部であると考えられる。

**柱穴** 10か所。平面形は梢円形または隅丸長方形で、長径(軸)75～159cm、短径(軸)63～118cmである。深さは45～90cmで、掘方の壁はほぼ直立している。第1～10層は柱抜き取り後の覆土、第11～19層は埋土である。P2・P3・P6～P9で、添東とみられる痕跡を確認した。



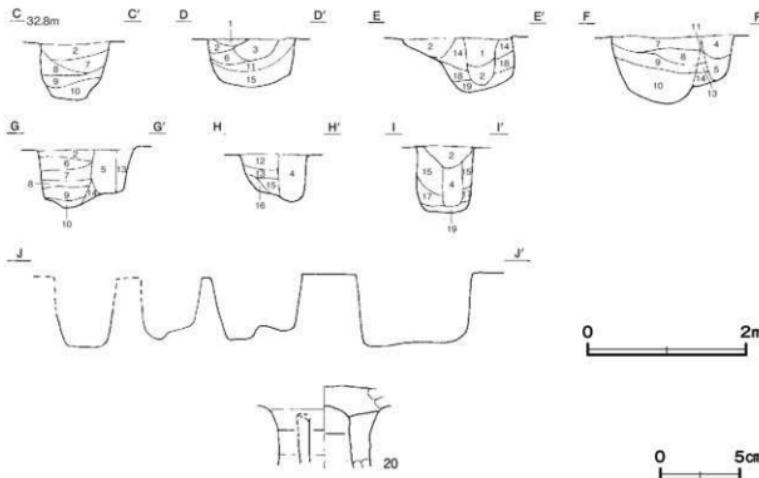
第20図 第4号掘立柱建物跡実測図

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	11 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック多量	12 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	13 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	14 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	15 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
6 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	16 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
7 暗褐色	ロームブロック中量	17 黒褐色	ローム粒子中量
8 暗褐色	ロームブロック少量	18 黒褐色	ロームブロック中量
9 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	19 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
10 関	ロームブロック少量		

**遺物出土状況** 土師器片 19 点(坏 6, 壺 13), 須恵器片 8 点(坏 6, 高盤 1, 壺 1)のほか, 繩文土器片 8 点(深鉢), 弥生土器片 3 点(壺), 刺片 1 点が P 6 ~ P 10 から出土している。P 6 の覆土中から出土した破片が、第 2 号掘立柱建物跡から出土した破片と接合している。

**所見** 時期は、遺物が細片のため特定は困難であるが、重複関係から 8 世紀後葉と考えられる。第 2 号掘立柱建物跡を掘り込み、規模と構造がほぼ同じであることから、第 2 号掘立柱建物跡から本跡へ建て替えが行われたと推測できる。性格は、規模から、大型の「屋」や「屋」への収納物を管理する施設などが想定できる。



第 21 図 第 4 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

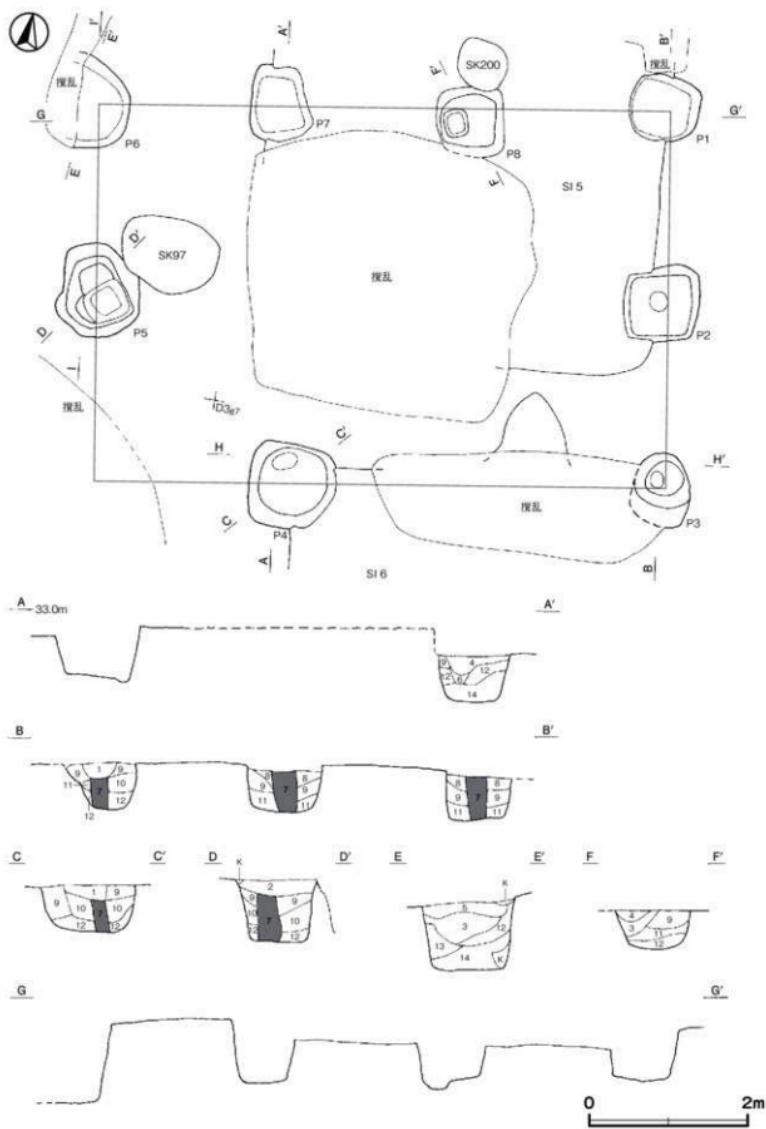
第 4 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 21 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
20	須恵器	高盤	-	(5.2)	-	瓦石・石英・ 繩文	黄白	良好	脚部に透かし孔	P 6 覆土	10%

第 6 号掘立柱建物跡（第 22・23 図）

**位置** 調査区西部の D 36 区、標高 33 m ほどの台地平坦部に位置している。

**確認状況** 南部・南西部の柱穴は搅乱のため、確認できなかった。



第22図 第6号掘立柱建物跡実測図

**重複関係** 第5・6号堅穴建物、第97・200号土坑に掘り込まれている。

**規模と構造** 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-81°-Eの東西棟である。規模は、桁行7.20m、梁行4.80mで、面積は34.56m<sup>2</sup>である。柱間寸法は、桁行、梁行ともに2.40m(8尺)で、柱筋のはば揃っている。

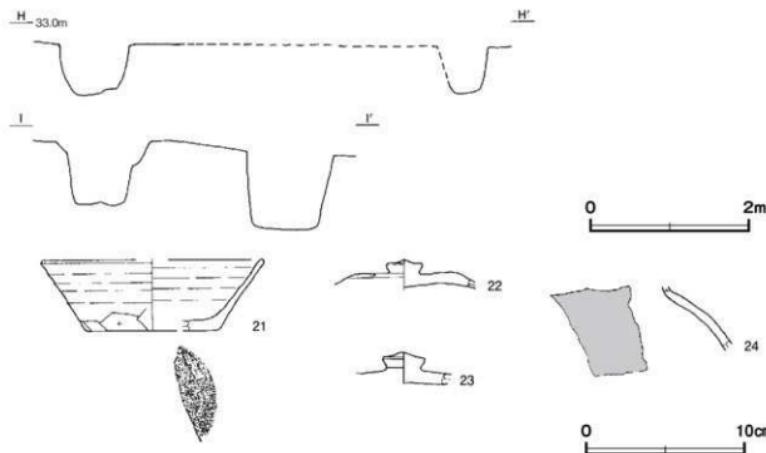
**柱穴** 8か所。平面形は梢円形または隅丸長方形で、長径(軸)88~123cm、短径(軸)65~114cmである。深さは53~100cmで、掘方の壁はほぼ直立している。第1~6層は柱抜き取り後の覆土、第7層は柱痕跡、第8~14層は埋土である。

#### 柱穴土層解説(各柱穴共通)

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	8	にぶい黄褐色	ロームブロック中量
2	暗褐色	ロームブロック多量、焼土粒子、炭化粒子少量	9	暗褐色	ロームブロック多量、焼土粒子少量
3	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	10	暗褐色	ロームブロック中量
4	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子、炭化粒子微量	11	暗褐色	ローム粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック多量、炭化粒子少量	12	暗褐色	ロームブロック多量、焼土粒子微量
6	黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量	13	暗褐色	ロームブロック多量
7	暗褐色	ローム粒子中量	14	にぶい黄褐色	ローム粒子多量、焼土粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片165点(坏35、甕130)、須恵器片177点(坏125、高台付坏6、蓋28、瓶類1、甕17)のほか、繩文土器片4点(深鉢)、弥生土器片8点(蓋)が、各柱穴から出土している。

**所見** 時期は、9世紀中葉の第5号堅穴建物に掘り込まれていること及び出土土器から、8世紀後葉と考えられる。性格は、構造から「屋」としての機能が想定できる。



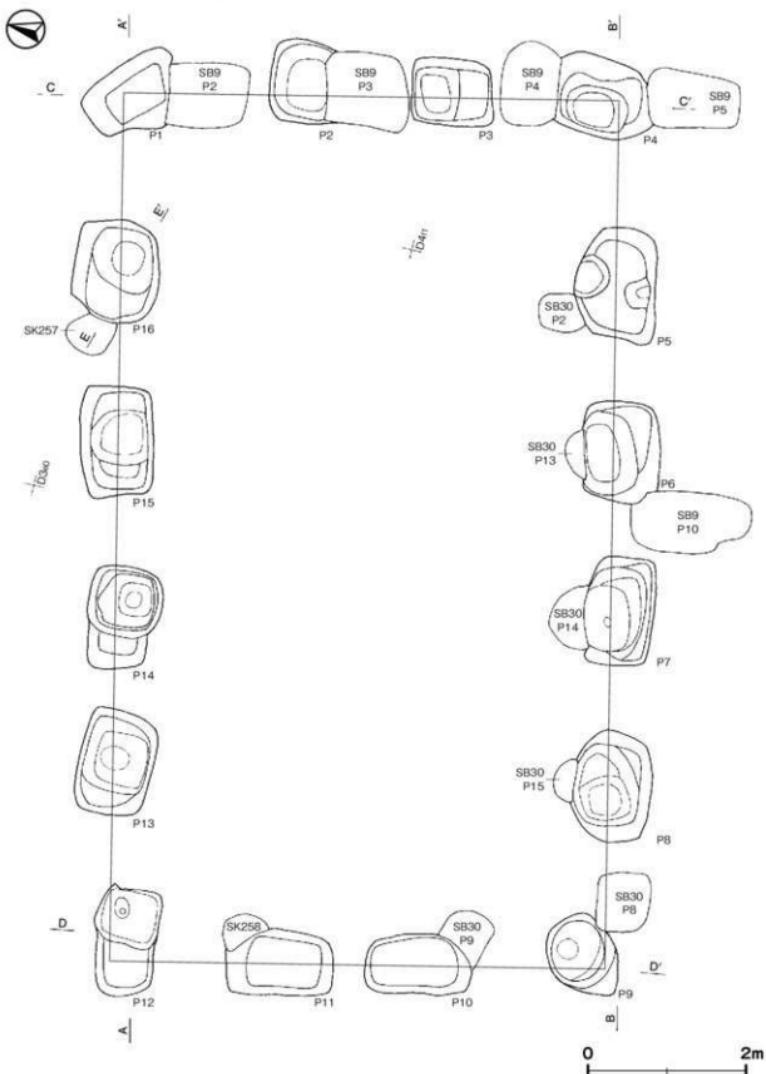
第23図 第6号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第6号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第23図)

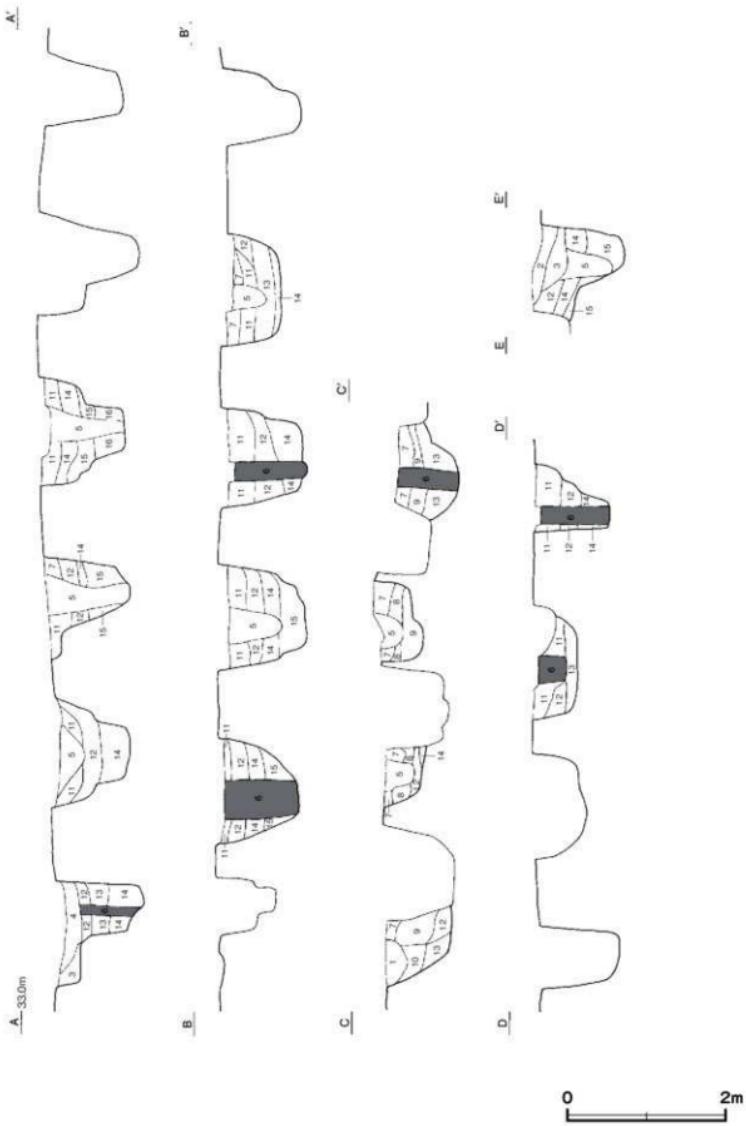
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
21	須恵器	坏	[139]	4.5	[8.2]	長石・石英・雲母	灰白	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方削り	P 2 墓土	20%
22	須恵器	蓋	-	(1.9)	-	長石・石英・韌繩	灰	良好	天井部削輪ヘラ削り	P 3 墓土中	10%
23	須恵器	蓋	-	(1.9)	-	長石・石英・雲母	灰白	良好	つまみ部のみ残存	P 4 墓土中	10%
24	須恵器	瓶類	-	(4.1)	-	長石・石英	灰オリーブ	良好	解部のみ残存	P 7 墓土中	5%施設土

### 第8号掘立柱建物跡（第24～26図）

**位置** 調査区西部のD 3e8 区、標高 33 m ほどの台地平坦部に位置している。



第24図 第8号掘立柱建物跡実測図(1)



第25図 第8号掘立柱建物跡実測図(2)

**重複関係** 第9・30号掘立柱建物、第257・258号土坑に掘り込まれている。

**規模と構造** 桁行5間、梁行3間の側柱建物跡で、桁行方向がN-78°-Eの東西棟である。規模は、桁行10.95m、梁行6.30mで、面積は68.99m<sup>2</sup>である。柱間寸法は、桁行が2.19m(7.3尺)、梁行は2.10m(7尺)で、柱筋はほぼ揃っている。

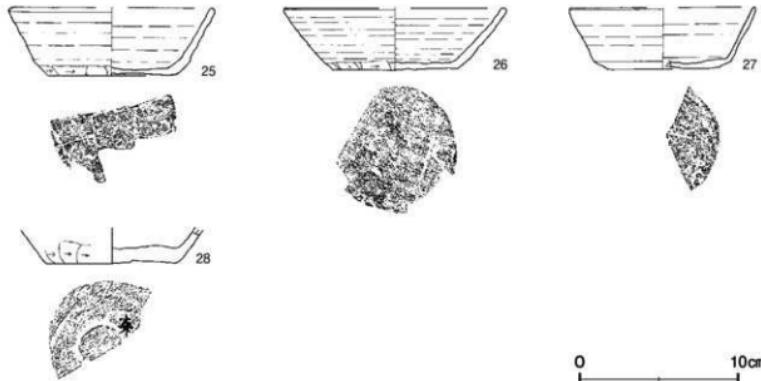
**柱穴** 16か所。平面形は橢円形または隅丸長方形で、長径(軸)100~140cm、短径(軸)75~106cmである。深さは50~120cmで、掘方の壁はやや外傾している。第1~5層は柱抜き取り後の覆土、第6層は柱痕跡、第7~16層は埋土である。

#### 柱穴土層解説(各柱穴共通)

1 黒褐色	色	炭化粒子少量	燒土粒子微量	9 褐色	色	ロームブロック少量
2 暗褐色	色	ローム粒子中量	炭化粒子少量	10 褐色	色	ロームブロック少量
3 暗褐色	色	ロームブロック中量	炭化粒子少量	燒土粒子微量		炭化粒子微量
4 褐色	色	ロームブロック少量	炭化粒子少量	11 暗褐色	色	ロームブロック、炭化粒子少量
5 暗褐色	色	ロームブロック少量	炭化粒子微量	12 暗褐色	色	ロームブロック微量
6 黒褐色	色	ロームブロック微量	燒土粒子微量	13 暗褐色	色	ロームブロック中量
7 黒褐色	色	炭化粒子少量	ロームブロック微量	14 褐色	色	ロームブロック中量
8 黒褐色	色	ロームブロック微量	炭化粒子微量	15 暗褐色	色	ロームブロック多量
				16 暗褐色	色	炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片314点(环60、甕254)、須恵器片265点(环206、高台付环3、蓋31、盤1、高盤3、甕21)、鉄滓1点(11.6g)のほか、繩文土器片1点(深鉢)、弥生土器片26点(甕)、古墳時代の土師器片1点(高坏)がP1~P14から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。性格は、規模から、大型の「屋」や「屋」への収納物を管理する施設などが想定できる。



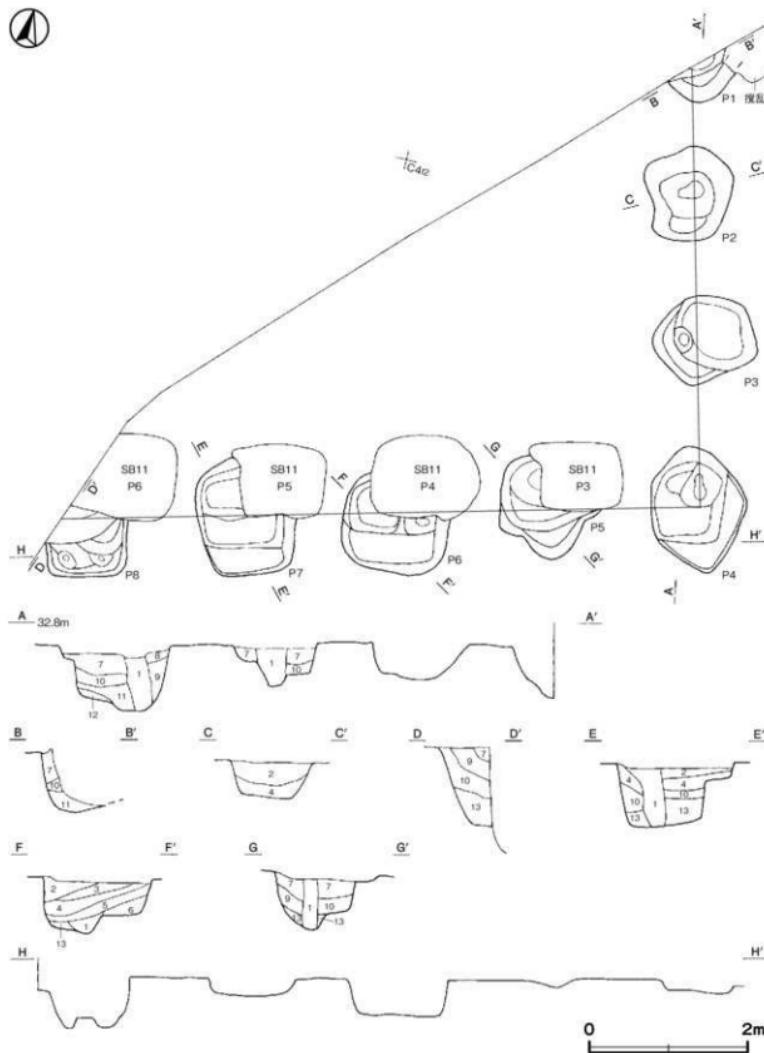
第26図 第8号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第8号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第26図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	ほか	出土位置	備考
25	須恵器	环	[128]	43	80	長石・石英・ 玉髄	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	底部一方向のヘラ削り	P 10柱根跡	40%新治面 PL4
26	須恵器	环	[138]	39	78	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	底部多方向のヘラ削り	P 10埋土	40% PL14
27	須恵器	环	[117]	39	[70]	長石・石英・ にふい黄滑	普通	底部ヘラナダ	底部にヘラ記号「+」	P 2覆土中	30% PL17	
28	須恵器	环	-	(22)	[82]	長石・石英・ 玉髄、細繊	灰白	良好	体部下端手持ちヘラ削り	底部ヘラ削り、墨書き	P 5埋土	10% PL21

第12号掘立柱建物跡（第27・28図）

位置 調査区北部のC4e2区、標高33mほどの台地平坦部に位置している。



第27図 第12号掘立柱建物跡実測図

**重複関係** 第11号掘立柱建物に掘り込まれている。

**規模と構造** 北西部が調査区域外に延びており、桁行4間以上、梁行3間以上の側柱建物跡と推定できる。桁行方向がN-75°-Eの東西棟である。確認できた規模は、桁行7.80m、梁行5.85mである。柱間寸法は、桁行、梁行ともに1.95m(6.5尺)で、柱筋はほぼ揃っている。

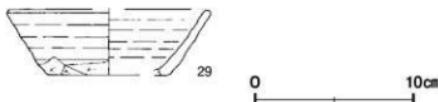
**柱穴** 8か所。平面形は梢円形で、長径86~162cm、短径52~121cmである。深さは47~100cmで、掘方の壁はやや外傾している。第1~6層は柱抜き取り後の覆土、第7~13層は埋土である。

**柱穴土層解説(各柱穴共通)**

1 黑	褐	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	8 褐	色	ローム粒子少量
2 暗	褐	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	9 褐	色	ロームブロック少量
3 黑	褐	色	ロームブロック少量	10 黒	褐	ローム粒子・炭化粒子微量
4 黑	褐	色	ロームブロック、炭化粒子少量	11 黒	褐	炭化粒子少量、ローム粒子微量
5 黑	褐	色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	12 褐	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
6 黑	褐	色	ロームブロック微量	13 暗	褐	ロームブロック少量、炭化粒子微量
7 暗	褐	色	ローム粒子少量、炭化粒子微量			

**遺物出土状況** 土器片11点(环1、壺10)、須恵器片20点(环10、蓋8、高盤1、壺1)、鉄滓1点(1233g)のほか、繩文土器片1点(深鉢)、弥生土器片2点(蓋)がP2~P8から出土している。

**所見** 時期は、遺物が細片のため特定は困難であるが、9世紀前葉の第11号掘立柱建物に掘り込まれていることから、8世紀後葉と考えられる。本跡と第11号掘立柱建物は規模と構造がほぼ同じであるため、本跡から第11号掘立柱建物へ建て替えが行われたと推測できる。性格は、構造から「屋」としての機能が想定できる。



第28図 第12号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第12号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第28図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
29	須恵器	环	[126]	41	[78]	長石・石英	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	P2 覆土中	10%

**第16号掘立柱建物跡(第29図)**

**位置** 調査区西部のD3b8区、標高33mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第3号柱穴列、第172・267号土坑を掘り込み、第15号掘立柱建物、第301号土坑に掘り込まれている。第231号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と構造** 北西部が調査区域外に延びており、桁行2間以上、梁行1間以上の側柱建物跡と推定できる。桁行方向はN-76°-Eの東西棟である。確認できた規模は、桁行3.35m、梁行1.95mである。柱間寸法は、桁行がP2からP3まで2.40m(8尺)、P3からP4まで1.95m(6.5尺)、梁行は1.95m(6.5尺)で、柱筋はほぼ揃っている。

**柱穴** 4か所。平面形は円形または梢円形で、長径 65 ~ 112cm、短径 65 ~ 105cm である。深さは 45 ~ 66cm である。

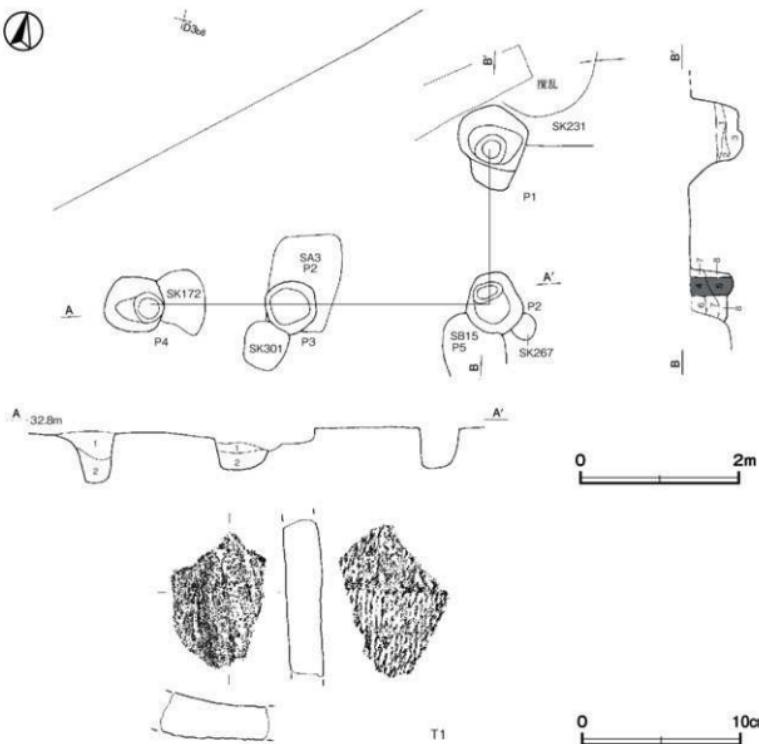
**柱穴土層解説 (各柱穴共通)**

1	暗	褐色	ロームブロック中量
2	褐	色	ロームブロック少量
3	暗	褐色	ロームブロック少量
4	黒	褐色	ローム粒子少量

5	黒	褐色	ローム粒子微量
6	暗	褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
7	暗	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
8	黒	褐色	ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片 32 点 (坏 16, 壺 16), 須恵器片 42 点 (坏 33, 高台付坏 1, 盖 4, 盘 1, 壺 3), 平瓦 1 点 (164.6 g) が P1 ~ P3 から出土している。

**所見** 時期は、第 24 号掘立柱建物と桁行方向が同じことから、同時期の 8 世紀後葉と考えられる。性格は、構造から「屋」としての機能が想定できる。



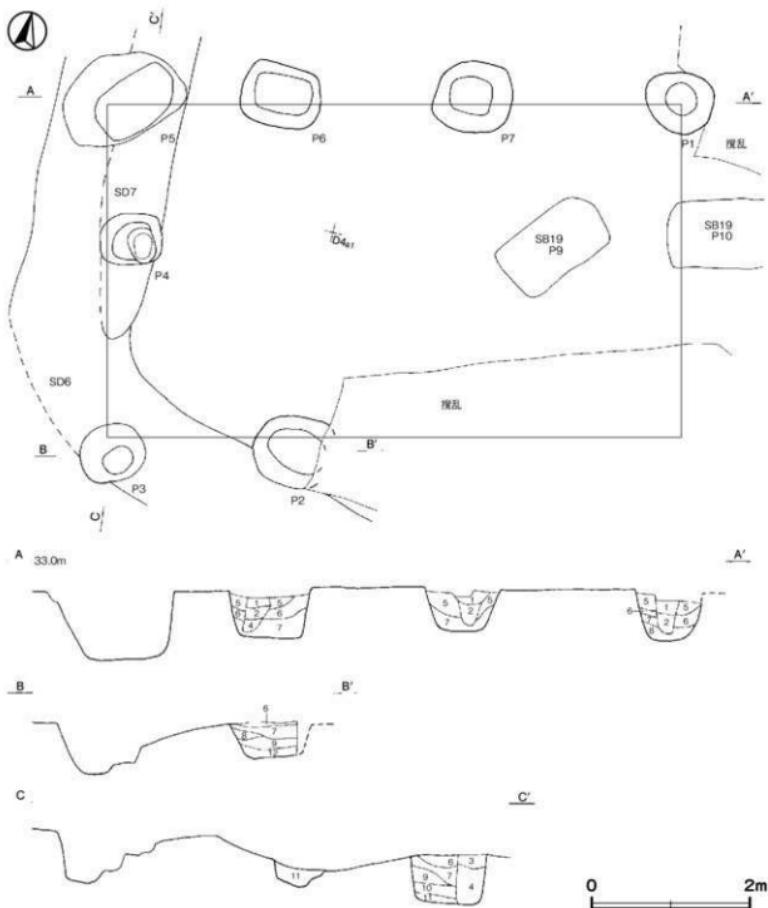
第 29 図 第 16 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第16号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第29図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
T 1	平瓦	(10.0)	(7.1)	2.6	(164.6)	粘石・石英	灰黄	凹面赤目痕	P 2 壁土	PL26

第18号掘立柱建物跡（第30図）

位置 調査区中央部のC 3 jo 区、標高33 mほどの台地平坦部に位置している。



第30図 第18号掘立柱建物跡実測図

**確認状況** 南東部の柱穴は、搅乱のため確認できなかった。

**重複関係** 第19号掘立柱建物、第6・7号溝に掘り込まれている。

**規模と構造** 東部は第19号掘立柱建物に掘り込まれ、南東部は搅乱を受けているが、桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-76°-Eの東西棟である。規模は、桁行7.20m、梁行4.20mで、面積は30.24m<sup>2</sup>である。柱間寸法は、桁行が2.40m(8尺)、梁行は2.10m(7尺)で、柱筋はほぼ揃っている。

**柱穴** 7か所。平面形は梢円形で、長径78~159cm、短径62~113cmである。深さは42~85cmで、掘方の壁は外傾している。第1~4層は柱抜き取り後の覆土、第5~12層は埋土である。

#### 柱穴土層解説（各柱穴共通）

1	暗	褐色	ロームブロック少量	7	暗	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
2	暗	褐色	ロームブロック中量	8	褐	色	ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック中量
3	褐	色	ロームブロック中量	9	暗	褐色	ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック少量
4	褐	色	ロームブロック多量	10	黑	褐色	ロームブロック微量
5	暗	褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量	11	暗	褐色	ロームブロック多量
6	褐	色	ロームブロック少量	12	暗	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片2点(杯1、甕1)、須恵器片1点(甕)、洞片1点のほか、弥生土器片3点(甕)がP1・P2から出土している。遺物は細片のため、図示できない。

**所見** 時期は、遺物が細片のため特定は困難であるが、第2号掘立柱建物と桁行方向が同じため、同時期の8世紀中葉と考えられる。性格は、構造から「屋」としての機能が想定できる。

#### 第23号掘立柱建物跡（第31図）

**位置** 調査区北部のC45区、標高33mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第237号土坑を掘り込み、第227号土坑に掘り込まれている。

**規模と構造** 桁行2間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-77°-Eの東西棟である。規模は、桁行3.90m、梁行3.30mで、面積は12.87m<sup>2</sup>である。柱間寸法は、桁行が1.95m(6.5尺)、梁行は1.65m(5.5尺)で、柱筋はほぼ揃っている。

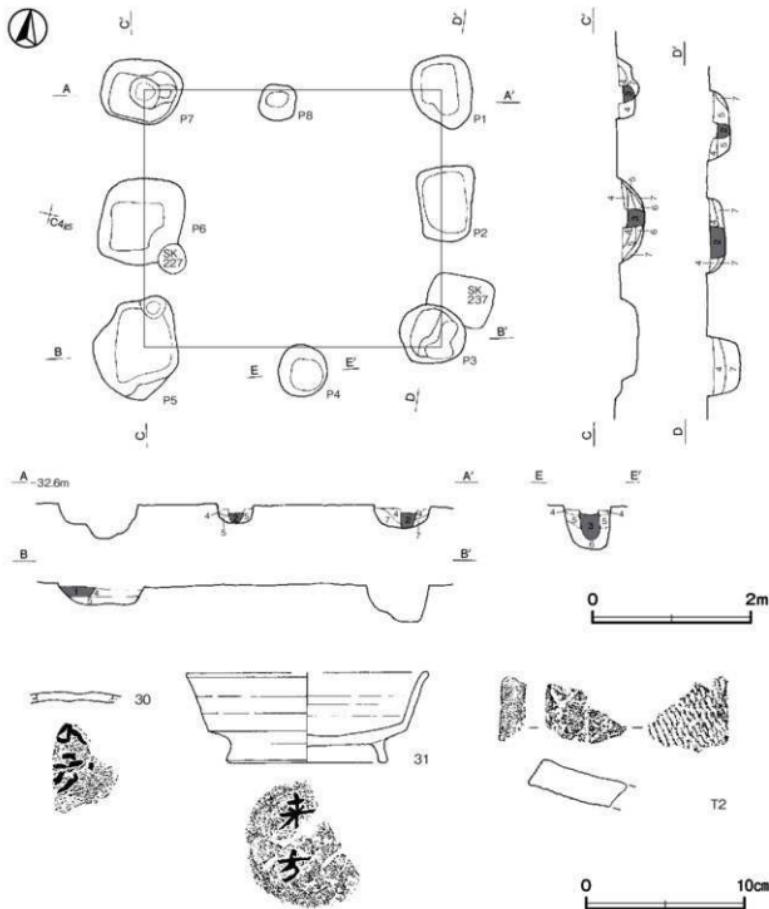
**柱穴** 8か所。平面形は円形または梢円形で、長径46~132cm、短径45~104cmである。深さは22~58cmで、掘方の壁はやや外傾している。第1~3層は柱痕跡、第4~7層は埋土である。

#### 柱穴土層解説（各柱穴共通）

1	暗	褐色	炭化粒子少量、ローム粒子微量	5	暗	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2	黒	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	6	褐	色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
3	暗	褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	7	褐	色	ロームブロック・炭化粒子微量
4	暗	褐色	ローム粒子微量				

**遺物出土状況** 土師器片13点(杯6、甕7)、須恵器片27点(杯21、高台付杯1、蓋1、盤1、甕3)、平瓦1点(725g)のほか、弥生土器片5点(甕)、洞片2点がP1~P7から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から、8世紀後葉と考えられる。性格は、2×2間の規模から、「倉庫」としての機能が想定できる。



第31図 第23号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第23号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第31図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
30	須恵器	环	-	(0.7)	-	長石・石英・ 珪母	灰白	普通	底部に墨書き「參」方	P 4 覆土中	10% PL21
31	須恵器	高台付环	[15.2]	5.7	[100]	長石・石英・ 珪母	灰黄	普通	底部回転へラ削り後、高台貼り有け 底部に墨書き「參」方	P 3 覆土中	30% PL20

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
T 2	平瓦	(50)	(6.2)	1.8	(7.25)	長石・石英	灰黄	凹面布目模、横滑模、凸面綱目印き	P 3 覆土中	

#### 第 24 号掘立柱建物跡（第 32 図）

**位置** 調査区中央部の D 4 a2 区、標高 33 m ほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第 10 号竪穴建物跡、第 3 号陥し穴、第 225・276・291 号土坑を掘り込み、第 2・9 号竪穴建物、第 19・21 号掘立柱建物、第 278 号土坑に掘り込まれている。

**規模と構造** 桁行 6 間、梁行 3 間の側柱建物跡で、桁行方向が N - 76° - E の東西棟である。規模は、桁行 13.50 m、梁行 6.30 m で、面積は 85.05m<sup>2</sup> である。柱間寸法は、桁行が 2.25 m (7.5 尺)、梁行は 2.10 m (7 尺) で、柱筋はほぼ揃っている。

**柱穴** 18 か所。平面形は楕円形または隅丸長方形で、長径（軸）86 ~ 196cm、短径（軸）26 ~ 157cm である。深さは 36 ~ 102cm で、掘方の壁はほぼ直立している。第 1 ~ 7 層は柱抜き取り後の覆土、第 8 ~ 15 層は埋土である。

#### 柱穴土層解説（各柱穴共通）

1	褐	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	9	黒	褐	色	ロームブロック・鹿沼バミスブロック微量	
2	褐	色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	10	暗	褐	色	ロームブロック中量	
3	黒	褐	色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	11	暗	褐	色	ロームブロック多量、炭化粒子微量
4	黒	褐	色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	12	暗	褐	色	鹿沼バミスブロック多量、ロームブロック中量
5	黒	褐	色	ロームブロック微量	13	暗	褐	色	ロームブロック多量
6	黒	褐	色	ロームブロック多量	14	褐	色	ロームブロック中量	
7	暗	褐	色	ロームブロック多量、焼土粒子微量	15	暗	褐	色	ロームブロック・鹿沼バミスブロック微量
8	黒	褐	色	ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック微量					

**遺物出土状況** 土師器片 114 点（壺 27、甕 87）、須恵器片 56 点（壺 38、高台付坏 1、蓋 7、甕 10）のほか、繩文土器片 2 点（深鉢）、弥生土器片 20 点（壺）が P 1・P 4・P 6 ~ P 10・P 14 ~ P 18 から出土している。

**所見** 時期は、遺物が細片のため特定は困難であるが、重複関係と出土土器から 8 世紀後葉と考えられる。8 世紀中葉の第 10 号竪穴建物跡を掘り込み、9 世紀前葉の第 19 号掘立柱建物に掘り込まれているため、短期間で廃絶されたと推測できる。性格は、規模から、大型の「屋」や「屋」への収納物を管理する施設などが想定できる。

#### 第 24 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 32 図）

番号	種 別	器種	胎 土	色 調	文 様 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
TP 1	須恵器	甕	長石・石英	暗灰黄	圓筒状工具による流状文：自然釉	P 16 壱土	PL24

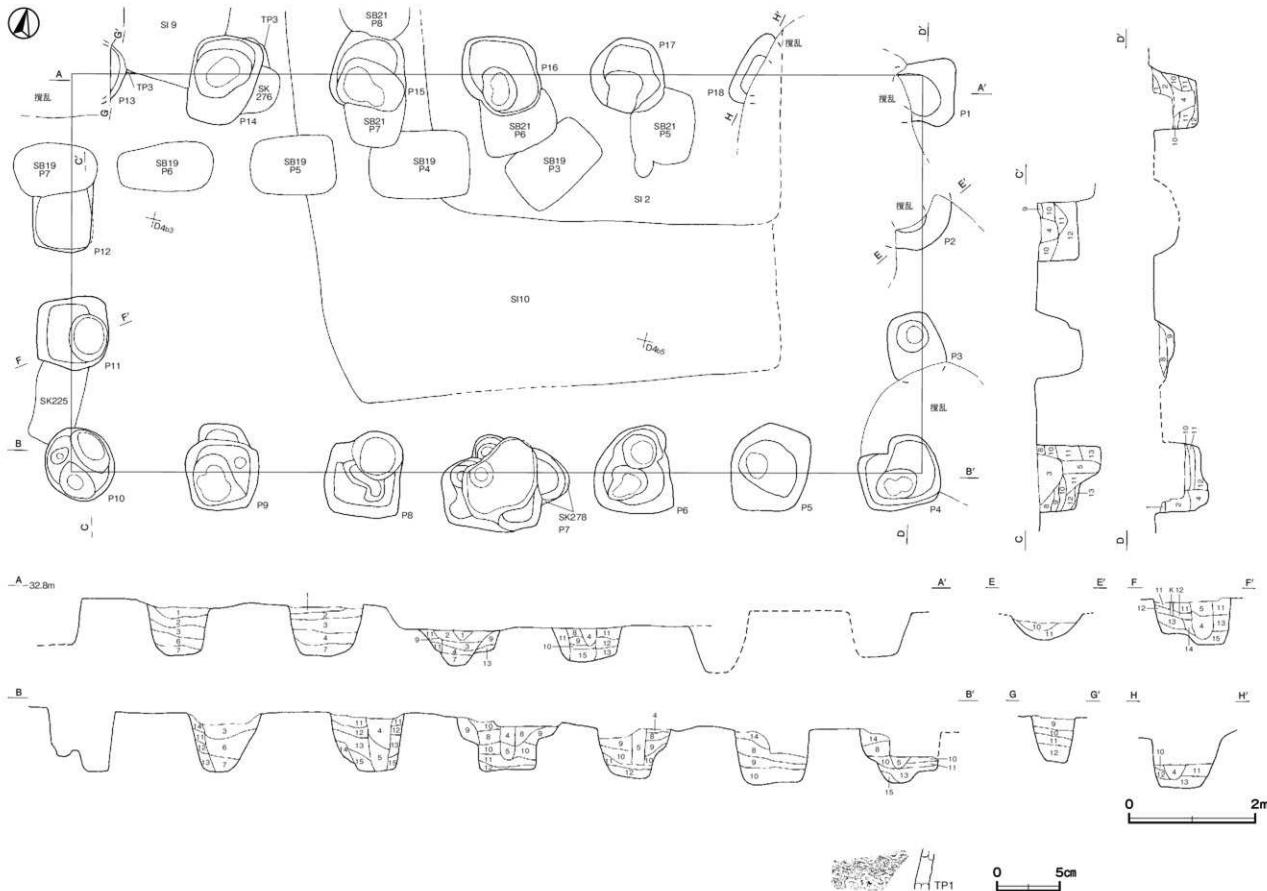
#### 第 26 号掘立柱建物跡（第 33・34 図）

**位置** 調査区中央部の C 4 b5 区、標高 32 m ほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第 10 号掘立柱建物に掘り込まれている。

**規模と構造** 桁行 3 間、梁行 3 間の縦柱建物跡で、桁行方向が N - 76° - E の東西棟である。規模は、桁行 5.85 m、梁行 4.50 m で、面積は 26.33m<sup>2</sup> である。柱間寸法は、桁行が 1.95 m (6.5 尺)、梁行は 1.50 m (5 尺) で、柱筋はほぼ揃っている。

**柱穴** 15 か所。平面形は楕円形または隅丸長方形で、長径（軸）78 ~ 128cm、短径（軸）45 ~ 85cm である。深さは 30 ~ 70cm で、掘方の壁はやや外傾している。第 1・2 層は柱抜き取り後の覆土、第 3~7 層は埋土である。



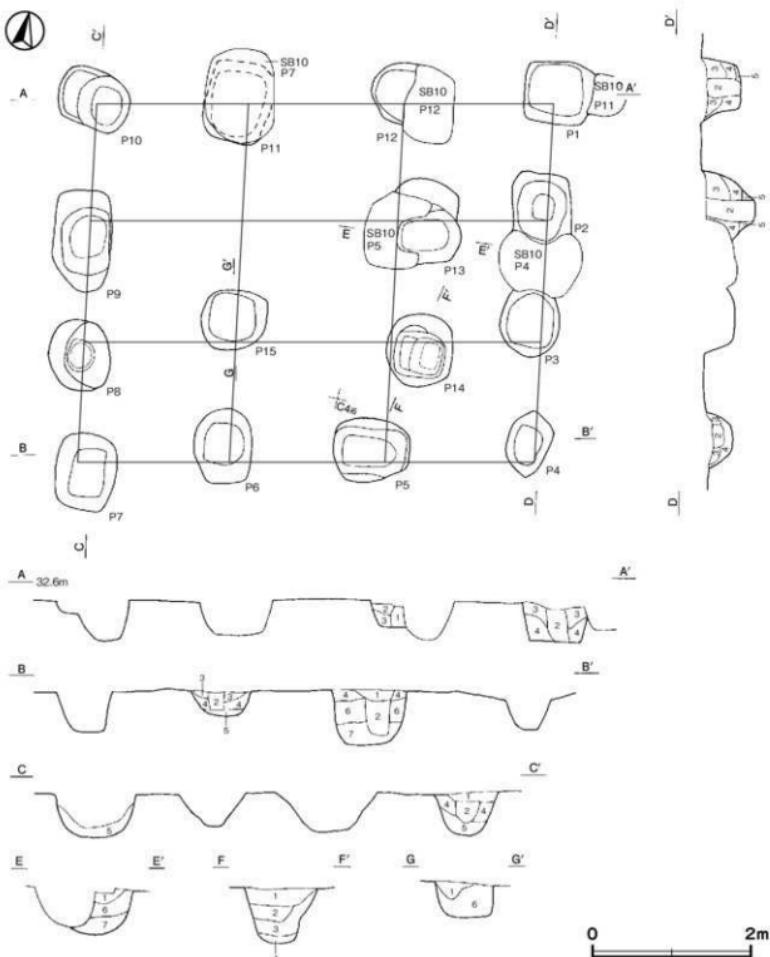
第32図 第24号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 暗褐色	炭化粒子少量	6 黒褐色	ロームブロック中量
3 暗褐色	ロームブロック、炭化粒子少量	7 暗褐色	ロームブロック少量
4 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量		

遺物出土状況 土師器片 33 点（甕）、須恵器片 21 点（壺 13、蓋 3、甕 4、高盤 1）のほか、弥生土器片 2 点（甕）

が P2・P5～P7・P9・P10・P12～P15 から出土している。



第 33 図 第 26 号掘立柱建物跡実測図

**所見** 時期は、8世紀後葉の第4・8号掘立柱建物と平行方向がほぼ同じことから、同時期の8世紀後葉と考えられる。性格は、規模と構造から倉庫としての機能が想定できる。



第34図 第26号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第26号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第34図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎	土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
32	須恵器	高盤	-	(9.5)	-	長石・細繩	灰	良好	輪部自然釉	P 2 覆土中	30%	

表5 奈良時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	平行方向	柱間寸法		柱穴			主な出土遺物	時期	備考	
			幅(基面)	幅(壁面)	柱間(m)	構造	直径	平面形	深さ(cm)		
1	E 3.66	N - 81° - E	5 × 2	9.75 × 5.70	55.58	1.95	2.85	圓柱	12	胎形・直底形	32 - 106 土器器、須恵器 8世紀後葉 SK10 → 本跡
2	D 3.8	N - 76° - E	5 × 2	9.80 × 6.00	58.00	1.95	3.00	圓柱	10	胎形・直底形	64 - 99 土器器、須恵器 8世紀後葉 SK28 → 76 - 96 Z3 → 本跡 - SB 4
4	D 3.8	N - 77° - E	5 × 2	9.80 × 5.40	52.92	1.95	2.70	圓柱	10	胎形・直底形	45 - 90 土器器、須恵器 8世紀後葉 SD 2 → SK27 → 本跡 SK27 → 53 - 93 木跡 - SD 5 - 6.
6	D 3.6	N - 81° - E	3 × 2	7.20 × 4.80	34.56	2.40	2.40	圓柱	8	胎形・直底形	53 - 100 土器器、須恵器 8世紀後葉 SK97 → 200
8	D 3.6	N - 78° - E	5 × 3	10.95 × 6.30	68.99	2.19	2.10	圓柱	16	胎形・直底形	50 - 120 土器器、須恵器 8世紀後葉 SK29 → 30 → SK257 → 258
12	C 4.e2	N - 75° - E (4) × (3)	(7.80) × (5.85)	-	1.95	1.95	圓柱	8	格円形	47 - 100 土器器、須恵器 8世紀後葉 SK11	
16	D 3.68	N - 76° - E (2) × (1)	(3.35) × (1.95)	-	2.40	1.95	圓柱	4	円形・椎円形	45 - 66 土器器、須恵器 8世紀後葉 SD 1 → 33 - 34	
18	C 3.30	N - 77° - E	3 × 2	7.20 × 4.20	30.24	2.40	2.10	圓柱	7	椎円形	42 - 85 土器器、須恵器 8世紀後葉 SD 2 → 33 - 34
23	C 4.65	N - 77° - E	2 × 2	3.90 × 3.30	12.87	1.95	1.65	圓柱	8	円形・椎円形	22 - 58 土器器、須恵器 8世紀後葉 SD 2 → 33 - 34
24	D 4.a2	N - 76° - E	6 × 3	13.50 × 6.30	85.05	2.25	2.10	圓柱	18	胎形・直底形	36 - 102 土器器、須恵器 8世紀後葉 SK227 → 本跡
26	C 4.15	N - 76° - E	3 × 3	5.85 × 4.50	26.33	1.95	1.50	圓柱	15	胎形・直底形	30 - 70 土器器、須恵器 8世紀後葉 木跡 - SB10

### (3) 土坑

#### 第14号土坑（第35図）

**位置** 調査区西部のD 3.5区、標高33mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第26号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸134m、短軸114mの隅丸長方形で、長軸方向はN - 71° - Eである。深さは86cmで、底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

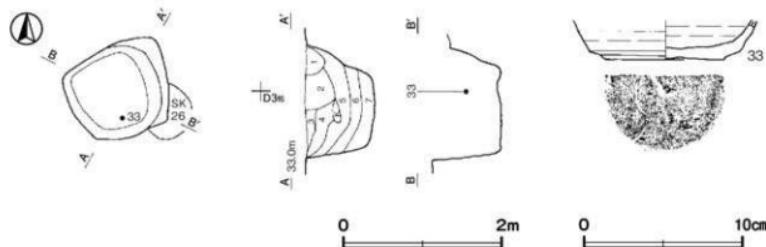
**覆土** 7層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

1	黒	褐	色	ローム粒子・焼土粒子微量	5	暗	褐	色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
2	暗	褐	色	ロームブロック多量	6	暗	褐	色	ロームブロック中量
3	暗	褐	色	ロームブロック少量	7	暗	褐	色	ロームブロック中量、灰化粒子微量
4	暗	褐	色	ロームブロック少量、焼土粒子・灰化粒子微量					

**遺物出土状況** 土師器片 56 点（壺 3、甕 53）、須恵器片 18 点（壺 16、高台付壺 1、甕 1）のほか、弥生土器片 2 点（甕）が、覆土中層から下層にかけて出土している。遺物はすべて破片で、覆土中層から下層にかけて出土していることから、埋め戻す過程で廃棄されたものとみられる。

**所見** 時期は、出土土器から 8 世紀後葉と考えられる。性格は不明である。



第 35 図 第 14 号土坑・出土遺物実測図

第 14 号土坑出土遺物観察表（第 35 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
33	須恵器	壺	-	(2.5)	7.5	長石・石英・ 韌理	黄灰	普通	底部ヘラナダ	覆土中層	20%

第 21 号土坑（第 36 図）

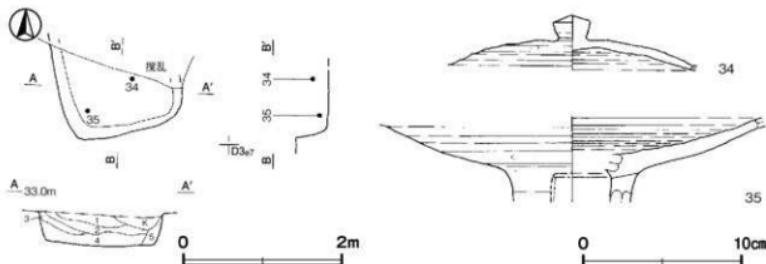
**位置** 調査区西部の D 3 d6 区、標高 33 m ほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 北部が擾乱を受けているため、東西軸は 1.53 m で、南北軸は 1.26 m しか確認できなかった。平面形は隅丸方形または隅丸長方形と推定でき、東西軸方向は N - 77° - E である。深さは 41cm で、底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

**覆土** 5 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	4	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック多量	5	にぶい黄褐色	ロームブロック中量
3	暗褐色	ローム粒子微量			



第 36 図 第 21 号土坑・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師器片 23 点（坏 2, 壺 21), 須恵器片 38 点（坏 22, 高台付坏 3, 盖 8, 高盤 1, 壺 4) が、南西部から中央部までの覆土中層から下層にかけて出土している。遺物はすべて破片で、覆土中層から下層にかけて出土していることから、埋土に含まれていたものとみられる。

**所見** 時期は、出土土器から 8 世紀後葉に比定できる。性格は不明である。

第 21 号土坑出土遺物観察表（第 36 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
34	須恵器	蓋	-	(3.4)	-	長石・石英・ 砂隕	黄灰	普通	天井部斜軸へ割り	覆土中層	20%
35	須恵器	高盤	-	(5.3)	-	長石・石英・ 砂隕	黄灰	普通	整部下端回転へ割り 脚部に透かし孔	覆土下層	10%

第 231 号土坑（第 37・38 図）

**位置** 調査区西部の D 3 a9 区、標高 33 m ほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第 230 号土坑に掘り込まれている。第 16 号掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 東部が第 230 号土坑に掘り込まれ、西部は搅乱を受けているため、北西・南東軸は 1.04 m で、北東・

南西軸は 4.00 m しか確認できなかった。平面形は長方形と推定でき、北東・南西軸方向は N - 73° - E である。

深さは 23cm で、底面はほぼ平坦である。底面の中央にはピット状の窪みが確認でき、壁は外傾している。

**ピット** P 1 は径 0.32 m の円形で、深さ 20cm である。性格は不明である。

#### ピット土層解説

1 暗褐色 色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 にい青褐色 ロームブロック多量

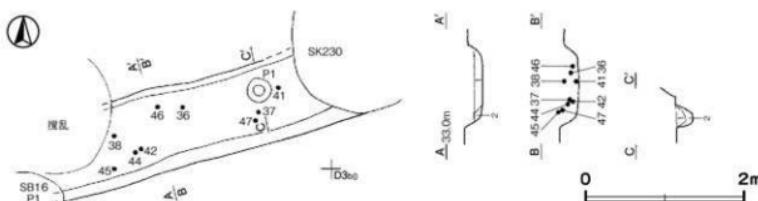
**覆土** 2 層に分層できる。覆土の大部分を占める第 1 層に焼土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

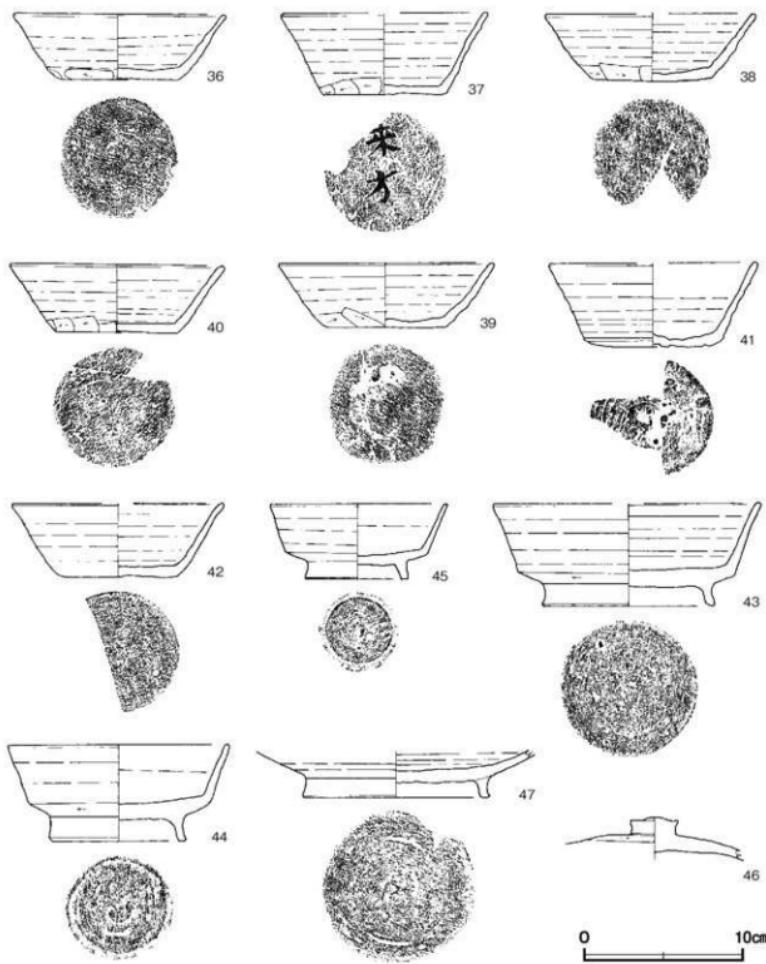
1 暗褐色 色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 2 黄褐色 ローム粒子少量

**遺物出土状況** 土師器片 33 点（坏 2, 壺 31), 須恵器片 42 点（坏 34, 高台付坏 3, 盖 2, 盤 1, 短頸壺 1, 壺 1) が、全域の覆土上層から底面にかけて出土している。遺物は比較的の遺存状態が良く、全域から出土しているため、まとめて廃棄されたものとみられる。

**所見** 時期は、出土土器から 8 世紀後葉に比定できる。出土した遺物は、完形ではなく破損しているものが大半である。性格は不明である。



第 37 図 第 231 号土坑実測図



第38図 第231号土坑出土遺物実測図

第231号土坑出土遺物観察表（第38図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	施成	手法の特徴	出土位置	備考
36	須恵器	环	134	4.3	7.7	長石・石英・ 細理	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	覆土中層	80% PL15
37	須恵器	环	[130]	5.1	7.8	長石・石英・ 細理	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部ヘラナデ　底部 に墨書「米方」	覆土中層	60% PL15
38	須恵器	环	[132]	4.4	7.5	長石・石英・ 泥母・細理	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	覆土上層	60%須治産 PL15

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
39	須恵器	环	13.5	4.1	7.5	長石・石英・ 骨粉	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部ヘラ削り	覆土中 PL14	70%新苗床 PL14
40	須恵器	环	13.2	4.3	7.6	長石・石英・ 骨粉	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方削り	覆土中 PL14	70%新苗床 PL14
41	須恵器	环	[129]	5.4	7.7	長石・石英・ 白色針状物質	灰	普通	底部へナダ	底面	40%木葉下底
42	須恵器	环	[132]	4.7	7.6	長石・石英	暗灰黄	普通	底部へナダ	覆土下層	40%
43	須恵器	高台环	[167]	6.5	10.8	長石・石英	灰	普通	体部下端回転へナダ削り 底部刮軸へナダ削り後、 高台貼り付け	覆土中 PL19	50% PL19
44	須恵器	高台环	13.7	6.2	8.3	長石・石英・ 細織	灰	良好	体部下端回転へナダ削り 底部刮軸へナダ削り後、 高台貼り付け	覆土上層 PL18	80% PL18
45	須恵器	高台环	11.0	4.8	6.4	長石・石英・ 細織	灰黄褐	良好	底部刮軸へナダ削り後、 高台貼り付け	覆土上層 PL19	80% PL19
46	須恵器	蓋	-	(2.7)	-	灰色粒子・細織	灰	良好	天井部刮軸へナダ削り	覆土下層	30%
47	須恵器	盤	-	(2.9)	11.6	長石・石英・ 細織	灰	良好	底部刮軸へナダ削り後、 高台貼り付け	覆土上層	30%

表6 奈良時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長軸×短軸(m)	深さ(cm)					
14	D 3d5	N - 71° - E	圓丸長方形	1.34 × 1.14	86	平坦	直立	人為	土師器、須恵器	SK26 → 本跡
21	D 3d6	N - 77° - E	[圓丸長方形] [圓丸長方形]	1.53 × (1.26)	41	平坦	直立	人為	土師器、須恵器	
231	D 3a9	N - 73° - E	[長方形]	(4.00) × 1.04	23	平坦	外傾	人為	土師器、須恵器	本跡 → SK26 SK26と重複不明

#### (4) 柱穴列

##### 第4号柱穴列 (第39図)

位置 調査区北部のC 4丘区、標高33mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第11号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造 東西方向4.20mの間に配列された柱穴3か所を確認した。軸方向はN - 76° - Eである。柱間寸法は2.10m(7尺)で、柱筋はほぼ揃っている。

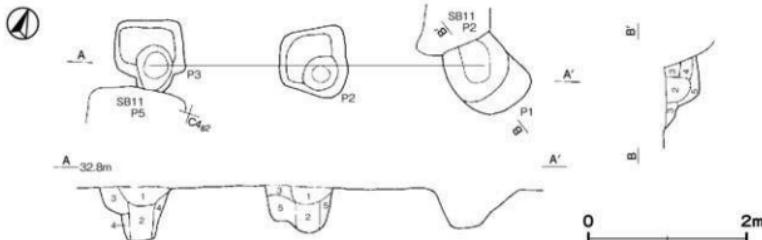
柱穴 3か所。平面形は楕円形で、長径88~102cm、短径82~88cmである。深さは44~69cmで、掘方の壁はやや外傾している。第1・2層は柱抜き取り後の覆土、第3~5層は埋土である。

##### 柱穴土層解説 (各柱穴共通)

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黑褐色 ロームブロック微量
- 3 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

- 4 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片27点(环10、壺17)、須恵器片4点(环3、蓋1)のほか、弥生土器片3点(壺)が、各柱穴から出土している。遺物は細片のため、図示できない。



第39図 第4号柱穴列実測図

**所見** 時期は、遺物が細片のため特定は困難であるが、隣接する8世紀後葉の第12号掘立柱建物とは近すぎるため、同時期に存在することは難しく、第18号掘立柱建物跡と平行方向が同じため、8世紀中葉と考えられる。性格は、第11号掘立柱建物のピットに掘り込まれているが、北方向へ渠行が延びていたと推測でき、隣接する掘立柱建物跡と同様に「屋」として機能していた側柱建物跡の一部の可能性がある。

#### 4 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、堅穴建物跡5棟、掘立柱建物跡13棟、土坑3基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

##### (1) 堅穴建物跡

###### 第2号堅穴建物跡（第40・41図）

**位置** 調査区中央部のC44区、標高33mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第10号堅穴建物跡、第19・21・24号掘立柱建物跡、第291号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 南東部は搅乱を受けているが、長軸5.68m、短軸5.38mの方形で、主軸方向はN=17°Wである。壁は高さ23~35cmで、ほぼ直立している。

**床** 平坦で、中央部の広い範囲が踏み固められている。北壁を除く壁下には壁溝が巡っている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで132cmで、燃焼部幅は74cmである。袖部は、地山を掘り残して基部とし、砂質粘土ブロックを主体とした第11・12層を積み上げて構築されている。火床部は床面を18cmほど掘り込み、焼土ブロック・ロームブロック・炭化粒子を含んだ第13~19層を埋土して構築されている。火床面は火熱を受け赤変しているが、硬化は弱い。煙道部は壁外に86cm掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。竈内の火床面上からは、須恵器蓋1点(58)、土製品支脚1点(DP2)が出土している。58は破片で、表面が火熱を受け赤変しているため、竈使用時のまま遺棄されたものとみられる。DP2は表面が火熱を受け赤変し、脆く崩れやすくなっているため、竈内で長期間使用されていたものとみられる。

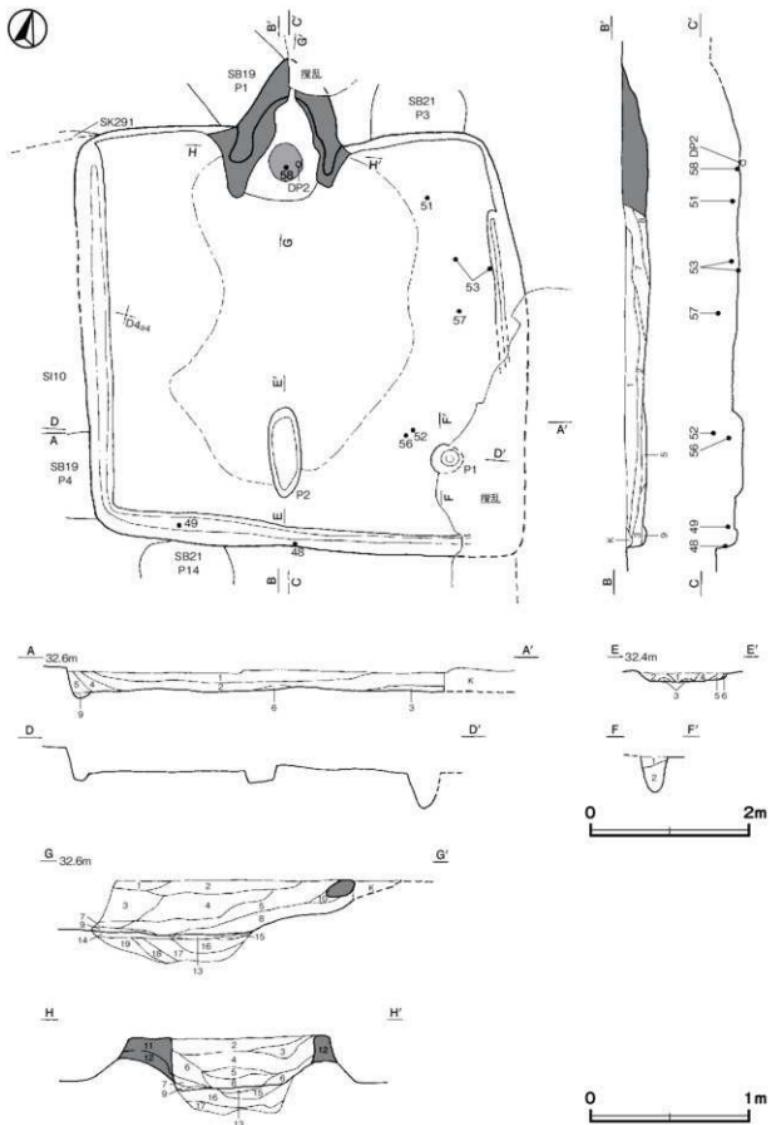
##### 竈土層解説

1	暗	褐	色	粘土粒子多量、ローム粒子微量	10	灰	褐	色	焼土ブロック中量
2	暗	褐	色	焼土粒子多量、炭化粒子少量、ローム粒子・粘土粒子微量	11	灰	褐	色	焼土ブロック多量、粘土ブロック少量
3	暗	褐	色	焼土ブロック中量、ローム粒子微量	12	灰	褐	色	粘土ブロック中量、焼土ブロック少量
4	暗	褐	色	焼土ブロック・ローム粒子中量	13	暗	赤	褐色	焼土ブロック多量、炭化粒子中量
5	暗	赤	褐色	焼土粒子多量、粘土粒子中量	14	暗	褐	色	焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
6	暗	赤	褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量	15	暗	褐	色	ロームブロック微量
7	暗	褐	色	焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量	16	暗	褐	色	焼土ブロック・ローム粒子微量
8	黒	褐	色	粘土粒子中量、焼土粒子少量	17	褐	褐	色	ロームブロック微量
9	暗	褐	色	粘土粒子少量、焼土粒子微量	18	暗	褐	色	焼土ブロック少量、ローム粒子微量
					19	褐	褐	色	焼土ブロック・粘土粒子中量、ローム粒子少量

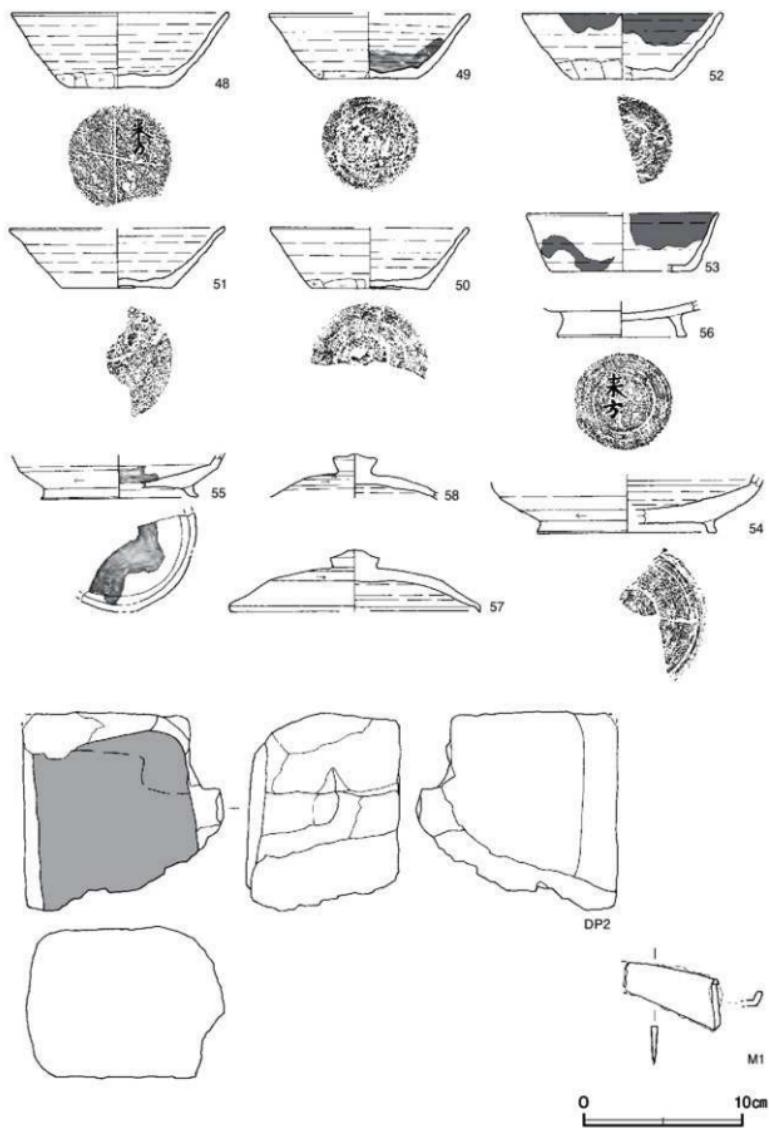
**ピット** 2か所。P1は深さ44cmで、配置から主柱穴と考えられる。P2は深さ18cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

##### ピット土層解説(各柱穴共通)

1	黒	褐	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	4	褐	褐	色	ローム粒子少量
2	黒	褐	色	ロームブロック・炭化粒子微量	5	暗	褐	色	ローム粒子微量
3	暗	褐	色	ローム粒子少量	6	暗	褐	色	ローム粒子・炭化粒子微量



第40図 第2号堅穴建物跡実測図



第41図 第2号竪穴建物跡出土遺物実測図

**覆土** 9層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から自然堆積である。

**土層解説**

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	6	黒褐色	焼土粒子少量、ローム粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量	7	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子、炭化粒子少量
3	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量	8	暗褐色	焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
4	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子、炭化粒子微量	9	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
5	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量			

**遺物出土状況** 土師器片 582 点（坏 61、甕 521）、須恵器片 427 点（坏 249、高台付坏 15、蓋 44、盤 1、鉢 2、短頭壺 1、甕 114、瓶 1）、土製品 1 点（支脚）、鐵製品 6 点（釘 5、鎌 1）のほか、縄文土器片 40 点（深鉢）、剝片 11 点が、全城の覆土上層から床面にかけて出土している。遺物は破片が多く、大部分が埋没する過程で投棄されたか流れ込んだものとみられる。48・49 はほぼ完形であるが、南壁際の覆土中層から出土しているため、流れ込んだものとみられる。

**所見** 時期は、出土土器から 9 世紀中葉に比定できる。

第 2 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 41 図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	筋土	色調	焼成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備考
48	須恵器	坏	[136]	4.8	6.3	長石・石英・雲母・赤色粒子・繊維	にぶい黄褐色	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方へのへら削り 底部にヘラ削り [+・] 塗敷「朱色」	覆土中層	80%新治産 PL15
49	須恵器	坏	[125]	4.2	6.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐灰色	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部ヘラナダ	体部 覆土中層	70%新治産 PL13
50	須恵器	坏	[125]	3.9	7.4	長石・石英	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部多方向のへら削り	覆土中	40% PL13
51	須恵器	坏	[134]	3.8	7.0	長石・石英	灰黄	普通	底部へラナダ	覆土下層	30%新治産
52	須恵器	坏	[126]	4.2	(6.4)	長石・石英	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 体部外・内面に油焼付	覆土上層	30%
53	須恵器	坏	[120]	3.7	(8.8)	長石・石英・ 岩母	灰白	良好	底面一方向のへら削り 体部外・内面に油焼付	床面・覆土下層	10%新治産
54	須恵器	高台付坏	-	(3.7)	[112]	長石・石英	灰黄	普通	体部下端削除へら削り 底部削除へら削り後、 底部へら削り付け	覆土中	30%新治産
55	須恵器	高台付坏	-	(2.8)	[9.7]	長石・石英	灰黄	普通	体部下端削除へら削り 底部削除へら削り後、 底部へら削り付け	覆土中	30%新治産
56	須恵器	高台付坏	-	(2.3)	[8.2]	長石・石英	灰黄	普通	底面削除へら削り後、底面貼り付け 底部に墨 底面削除へら削り後、底面貼り付け 底部に墨 「朱色」	覆土中	10% PL21
57	須恵器	蓋	[158]	3.9	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	天井部削除へら削り	覆土上層	40%新治産 PL19
58	須恵器	蓋	-	(2.8)	-	長石・石英	にぶい褐色	不良	天井部削除へら削り	覆土床面	50%新治産

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	筋土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 2	支脚	126	128	9.8	6740.5	長石・石英	にぶい橙	表面火熱を受け、赤変	龜穴床面	PL25

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	鍼	(6.1)	4.3	0.4	(21.9)	鉄	先端部欠損 断面三角形	覆土中	PL26

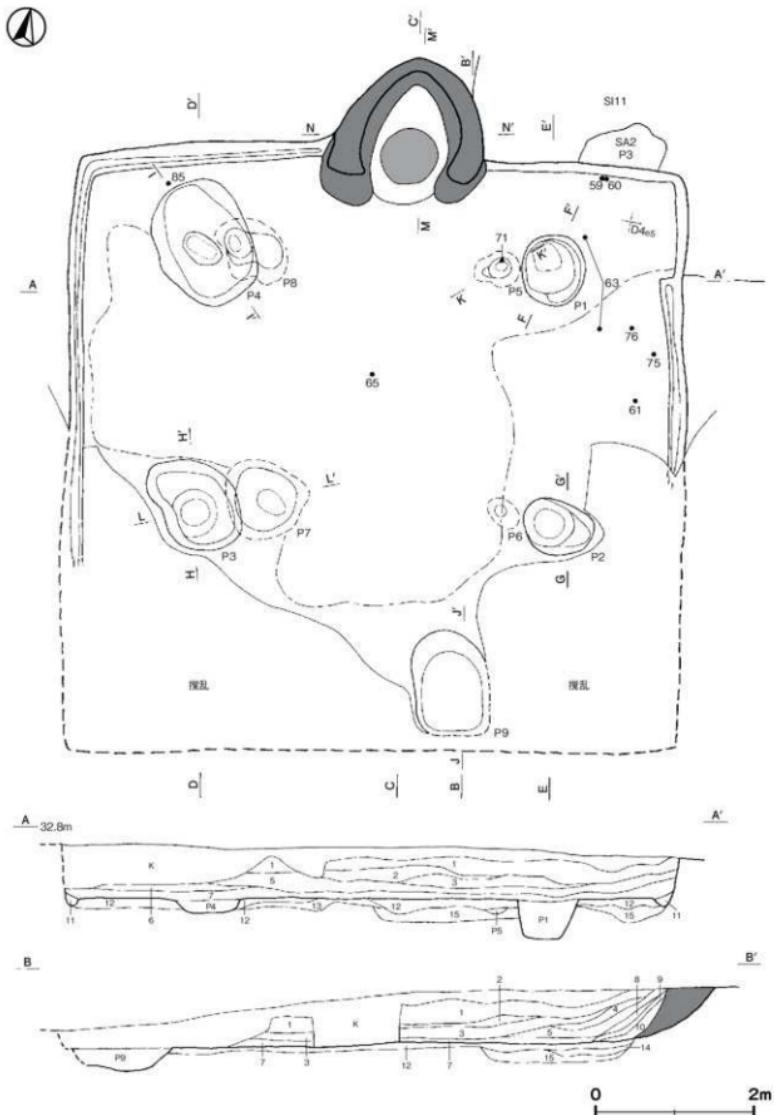
第 4 号竪穴建物跡（第 42 ~ 45 図）

**位置** 調査区南部の D 4 e4 区、標高 33 m ほどの台地平坦部に位置している。

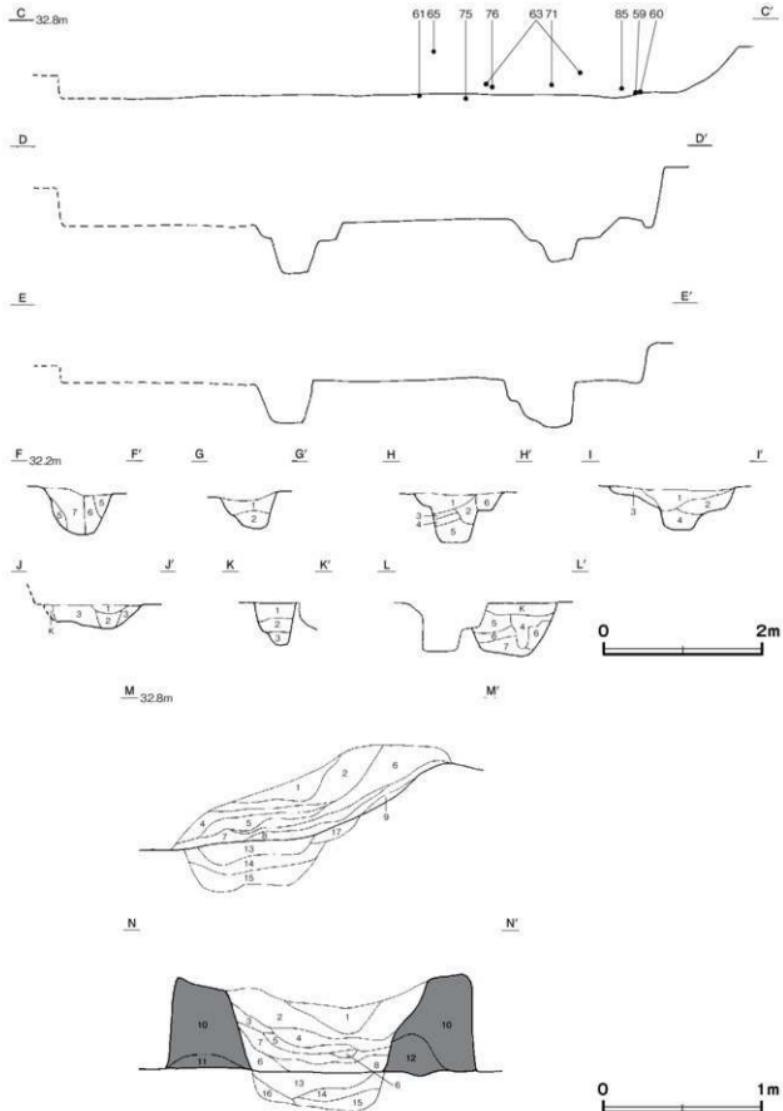
**重複関係** 第 11 号竪穴建物跡、第 2 号柱穴列を掘り込んでいる。

**規模と形状** 南部が搅乱を受けているため、東西軸は 7.85 m で、南北軸は 7.28 m しか確認できなかった。平面形は方形で、主軸方向は N - 10° - W である。壁は高さ 21 ~ 67 cm で、ほぼ直立している。

**床** 平坦な貼床で、中央部の広い範囲が踏み固められている。遺存している壁下には懸溝が巡っている。



第42図 第4号竪穴建物跡実測図(1)



第43図 第4号堅穴建物跡実測図(2)

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 184cmで、燃焼部幅は 94cmである。袖部は、床面と同じ高さに砂質粘土ブロックを主体とした第 10～12 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 25cmほど掘り込み、鹿沼バミスブロック・焼土粒子・炭化粒子を含んだ第 13～17 層を埋土して構築されている。火床面は火熱を受け赤変硬化している。燃焼部から煙道部にかけては壁外に 110cm掘り込まれ、火床面から外傾している。第 2 層は、天井部の崩落土層である。

#### 竈土層解説

1	暗	褐	色	粘土ブロック・炭化物少量、ロームブロック微量	9	褐	色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量
2	灰	褐	色	粘土ブロック多量、ロームブロック・焼土ブロック微量	10	褐	色	粘土ブロック多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
3	褐	褐	色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	11	暗	褐	色
4	暗	褐	色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	12	褐	色	粘土ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5	灰	褐	色	粘土ブロック多量、焼土ブロック少量、ローム粒子微量	13	暗	赤褐色	焼土粒子多量、炭化粒子微量
6	に赤い赤褐色	褐	色	焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子微量	14	黑	褐	色
7	に赤い赤褐色	褐	色	焼土ブロック・粘土ブロック中量、炭化物少量、ロームブロック微量	15	暗	褐	色
8	に赤い赤褐色	褐	色	ロームブロック多量、炭化粒子微量	16	暗	褐	色
					17	暗	褐	色

**ピット** 9か所。P 1～P 8 は深さ 56～69cmで、配置から主柱穴と考えられる。P 9 は深さ 49cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。覆土はすべて柱抜き取り後のものである。P 5～P 8 は貼床の下から確認され、P 1～P 4 の内側に位置していることから、拡張のため柱の建て替えが行われている。

#### ピット土層解説 (各柱穴共通)

1	黒	褐	色	ロームブロック・焼土粒子中量、炭化粒子微量	5	黒	褐	色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量
2	暗	褐	色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6	暗	褐	色	ロームブロック・焼土粒子少量
3	褐	褐	色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	7	暗	褐	色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物微量
4	暗	褐	色	ロームブロック微量、焼土ブロック・炭化粒子微量					

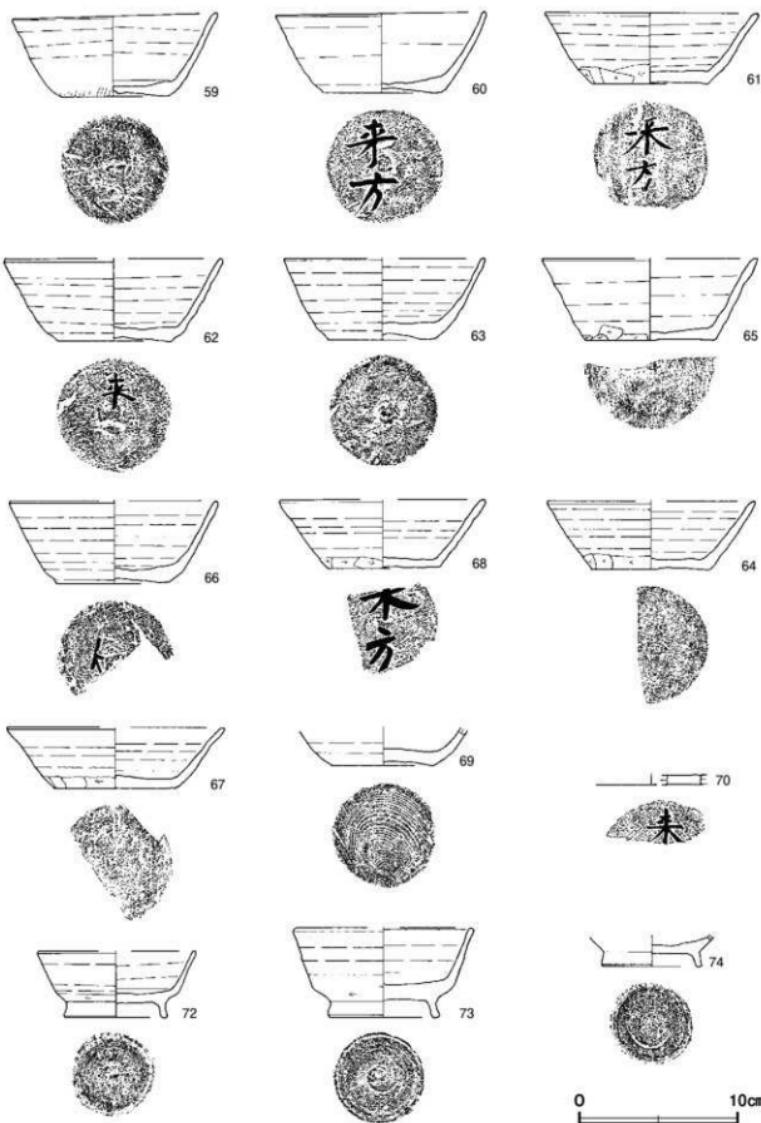
**覆土** 11 層に分層できる。各層にブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第 12～15 層は、貼床の構築土である。

#### 土層解説

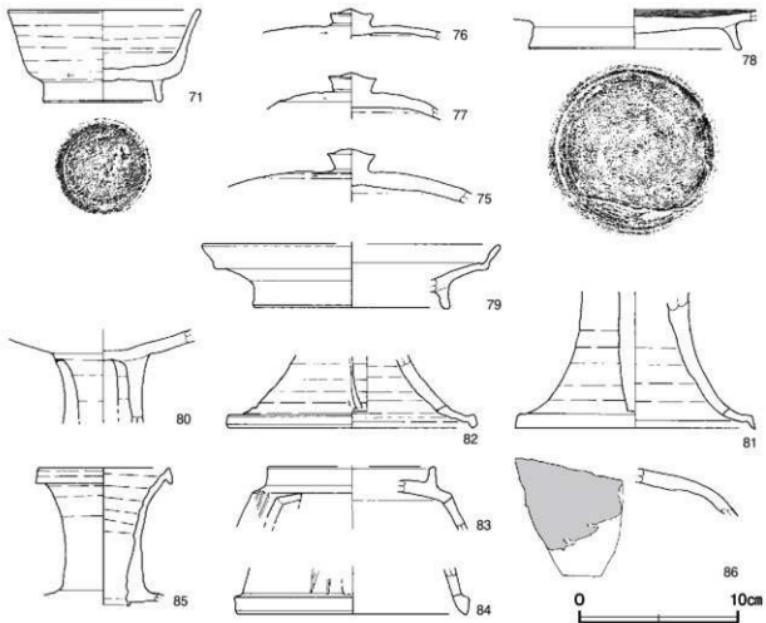
1	暗	褐	色	ロームブロック・焼土粒子中量、炭化物少量	8	に赤い赤褐色	色	ロームブロック微量
2	暗	褐	色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量	9	暗	褐	色
3	暗	褐	色	焼土ブロック・炭化物中量、ロームブロック少量、粘土ブロック微量	10	に赤い赤褐色	色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
4	暗	褐	色	焼土ブロック中量、粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	11	暗	褐	色
5	暗	褐	色	ロームブロック・焼土ブロック少量、粘土ブロック微量	12	黒	褐	色
6	暗	褐	色	ロームブロック多量、焼土ブロック少量、炭化物微量	13	褐	色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
7	黒	褐	色	炭化物中量、焼土ブロック・粘土ブロック少量	14	黒	褐	色
					15	褐	色	ロームブロック・炭化粒子少量

**遺物出土状況** 土器器片 635 点 (坏 50, 盘 1, 壺 575, 瓶 9), 須恵器片 670 点 (坏 469, 高台付坏 29, 盖 100, 盘 20, 高盤 3, 鉢 6, 内面鏡 2, 長頸瓶 2, 壺 38, 瓶 1), 灰釉陶器 1 点 (瓶類), 土製品 5 点 (管状土錐 4, 支脚 1) のほか、弥生土器片 8 点 (壺) が、全域の覆土上層から床面にかけて出土している。59・60 はほぼ完形で、北東壁際の床面から横位で、61 は東壁際の床面から正位で出土していることから、置かれたままの位置を保っているものとみられる。

**所見** 時期は、出土土器から 9 世紀前葉に比定できる。主柱穴の組み合わせが、P 1～P 4 と P 5～P 8 の二通り確認できたため、本跡は建て替えが行われたとみられる。柱は外側へ移設されており、竪穴部の拡張も行われている。



第44図 第4号堅穴建物跡出土遺物実測図(1)



第45図 第4号堅穴建物跡出土遺物実測図(2)

第4号堅穴建物跡出土遺物観察表（第44・45図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
59	須恵器	环	128	53	67	長石・石英・白色 針状物質・繊維	灰	良好	底部下端に「良書」、底部多方向の手持ちヘラ削り 底部ヘラ記号「一」	床面	95%本塗下層 PL17
60	須恵器	环	131	51	74	長石・石英・白色 針状物質・繊維	灰	良好	底部ヘラナダ、底部ヘラ記号「二」、墨書き「來」	床面	90%本塗下層 PL17
61	須恵器	环	134	45	73	長石・石英・	灰黄	普通	底部下端手持ちヘラ削り、底部一方向のヘラ削り 底部ヘラ記号「來」	床面	90%新治層 PL15
62	須恵器	环	[135]	53	72	長石・石英・白い針 状物質・黑色粒子	灰	普通	底部ヘラナダ、底部ヘラ記号「一小墨書き「來」」	覆土中	50%本塗下層 PL18
63	須恵器	环	[126]	52	69	長石・石英・白色 針状物質・繊維	灰	普通	底部ヘラナダ、底部ヘラ記号「二」	覆土中層・下層	40% PL17
64	須恵器	环	[130]	43	74	長石・石英・	灰白	普通	底部下端手持ちヘラ削り、底部ヘラ削り	覆土中	40% PL14
65	須恵器	环	[135]	52	82	長石・石英・ 墨書き・繊維	灰白	良好	底部下端手持ちヘラ削り、底部ヘラ削り	覆土上層	40% PL14
66	須恵器	环	[130]	52	72	長石・石英・ 墨書き	灰オーブ	普通	底部ヘラナダ、底部ヘラ記号「二」、小墨書き「口」	覆土中	40% PL17
67	須恵器	环	[126]	38	76	長石・石英・ 墨書き・繊維	明灰黄	普通	底部下端手持ちヘラ削り、底部一方向のヘラ削り	覆土中	40%
68	須恵器	环	[129]	53	[70]	長石・石英・ 黑色粒子	灰	良好	底部下端手持ちヘラ削り、底部ヘラ削り、底部 墨書き「來」	覆土中	20% PL16
69	須恵器	环	-	(24)	63	長石・石英・	灰黄	普通	底部回転糸切り	覆土中	20%
70	須恵器	环	-	(06)	-	長石・石英・ 黑色粒子	灰	良好	底部墨書き「來」	覆土中	5% PL21
71	須恵器	高台付环	11.9	58	[72]	長石・石英・	灰	普通	底部下端回転ヘラ削り、底部ヘラ削り後、高台 貼り付け	覆土下層	80% PL18
72	須恵器	高台付环	[99]	42	64	長石・石英・白色 針状物質・繊維	灰	普通	底部下端回転ヘラ削り、底部回転ヘラ削り後、 高台貼り付け	覆土中	70%本塗下層 PL18
73	須恵器	高台付环	[112]	57	67	長石・石英・	灰黄	普通	底部下端回転ヘラ削り、底部回転ヘラ削り後、 高台貼り付け	覆土中	50%
74	須恵器	高台付环	-	(20)	62	長石・石英・ 墨書き	黄灰	普通	底部ヘラ記号「十」	覆土中	10% PL20

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
75	須恵器	蓋	-	(3.4)	-	長石・石英・ 繊維・黒色粒子	灰白	良好	天井部回転ヘラ削り	床面	20%
76	須恵器	蓋	-	(1.8)	-	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	10%
77	須恵器	蓋	-	(2.9)	-	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	10%
78	土器	盤	-	(2.5)	[13.1]	長石・石英・ 赤色粒子	棕	普通	須恵器底部の複数。内面ヘラ削き 底部回転ヘ ラ削り後、窓台貼り付け	覆土中	30%
79	須恵器	盤	[18.6]	4.1	[12.2]	長石・石英・ 赤色粒子	灰	良好	底部欠損	覆土中	20%
80	須恵器	高盤	-	(5.7)	-	長石・石英・ 赤色粒子	灰	良好	脚部に透かし孔	覆土中	10%
81	須恵器	高盤	-	(8.6)	[15.2]	長石・石英・ 赤色粒子	灰	良好	脚部に透かし孔	覆土中	10%
82	須恵器	高盤	-	(4.6)	[15.5]	長石・石英	灰	普通	脚部に透かし孔	覆土中	5%
83	須恵器	円面鏡	[10.5]	(4.0)	-	長石・石英	灰	良好	脚部に縦位3条の沈線・透かし孔	覆土中	5%
84	須恵器	円面鏡	-	(2.9)	[14.5]	長石・石英	灰	普通	脚部に縦位3条の沈線・透かし孔	覆土中	5%
85	須恵器	長頭瓶	8.2	(8.7)	-	長石・石英・ 赤色粒子・繊維	灰白	良好	頭部外・内面に自然釉	覆土下層	10%
86	灰陶容器	瓶型	-	(3.0)	-	長石・石英・ 粘土	灰白	良好	解部 外面に釉	覆土中	5%箇所差

## 第5号竪穴建物跡（第46・47図）

**位置** 調査区分南西部のD 3c7区、標高33mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第6号掘立柱建物跡、第194・198・266号土坑を掘り込み、第200号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 北東部、北西部、南西部が搅乱を受けているが、長軸6.18m、短軸5.14mの長方形で、主軸方向はN-2°-Wである。壁は高さ16~18cmで、ほぼ直立している。遺存している西壁と平行する溝1条を約1.00m中央寄りに確認した。

**床** 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。遺存している壁下には壁溝が巡っている。

**竪** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで150cmで、燃焼部幅は76cmである。袖部は、地山を掘り残して基部とし、砂質粘土ブロックを主体とした第10層を積み上げて構築されている。火床部は床面を27cmほど掘り込み、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を含んだ第11層を埋土して構築されている。火床面は火熱を受け赤変しているが、硬化は弱い。燃焼部から煙道部にかけては壁外に58cm掘り込まれ、火床面から外傾している。87・88は破片で焚口部、89は破片で火床面近くの覆土下層から出土していることから廃絶時または廃絶後間もない時に投棄されたものとみられる。

### 竪土層解説

1	にい赤褐色	焼土ブロック中量、炭化物少量、ロームブロック・ 粘土ブロック微量	7	同	色	ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土ブロッ ク・炭化粒子微量
2	にい赤褐色	焼土ブロック少量、粘土ブロック・炭化物・ロー ム粒子微量	8	にい赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子・粘土 粒子微量	
3	にい赤褐色	焼土ブロック中量、炭化物少量、ロームブロック 微量	9	赤	褐色	焼土ブロック多量、炭化物・ローム粒子・粘土粒 子微量
4	にい赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	10	灰	褐色	粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5	にい赤褐色	焼土ブロック・ロームブロック少量、粘土ブロッ ク・炭化物微量	11	灰	褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
6	にい赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量、ロームブロック少 量				

**ピット** 3か所。P 1~P 3は深さ10~24cmで、配置から主柱穴と考えられる。覆土はすべて柱抜き取り後のものである。

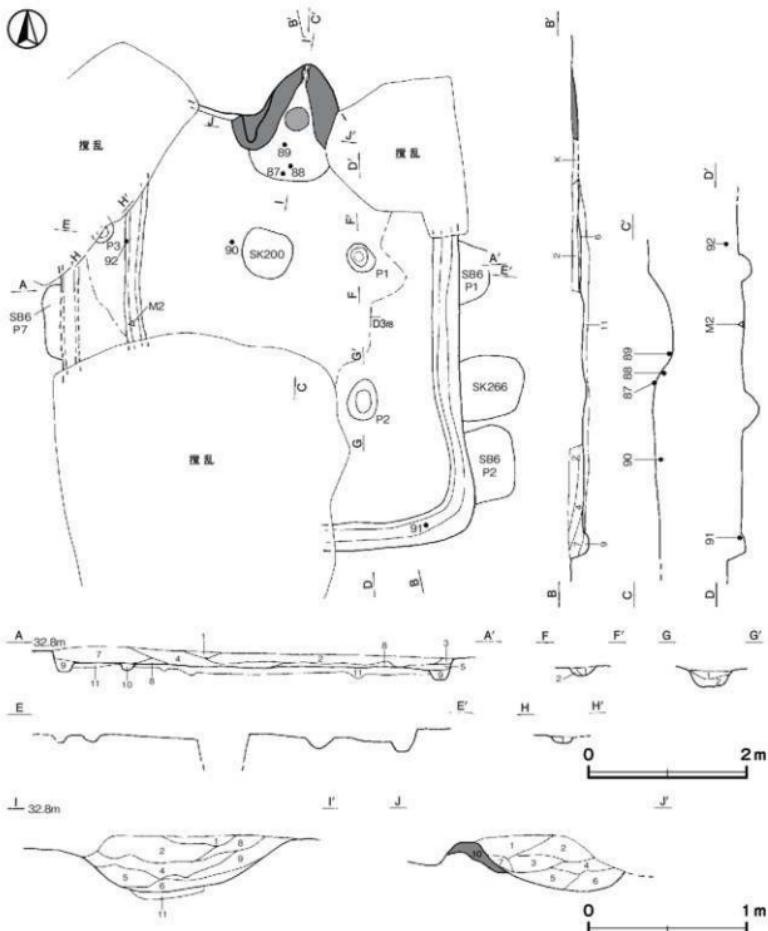
### ピット土層解説（各柱穴共通）

1	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	2	暗褐色	ロームブロック少量
---	-----	------------------	---	-----	-----------

**覆土** 10層に分層できる。多くの層にロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。第11層は、貼床の構築土層である。

**土層解説**

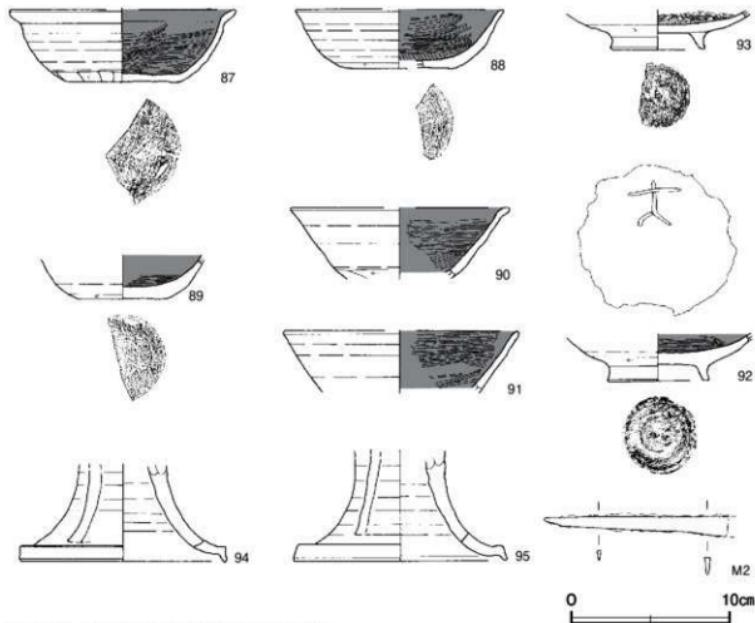
1	暗	褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量	7	暗	褐色	焼土ブロック少量・ロームブロック微量
2	暗	褐色	焼土ブロック少量・ロームブロック・炭化物微量	8	暗	褐色	ロームブロック・炭化物少量・焼土粒子微量
3	暗	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	9	暗	褐色	ロームブロック少量
4	暗	褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	10	暗	褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
5	暗	褐色	ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量	11	褐	褐色	ロームブロック多量
6	褐	褐色	ロームブロック中量・焼土粒子・炭化粒子微量				



第46図 第5号竖穴建物跡実測図

**遺物出土状況** 土師器片 801 点（环 101, 高台付环 5, 壺 695）, 須恵器片 486 点（环 337, 高台付环 13, 壺 58, 盆 6, 高盤 7, 壺 64, 瓶 1）, 鉄製品 3 点（刀子 1, 不明 2）が、全城の覆土上層から床面にかけて出土している。90 は破片で床面から出土しており、廃絶時に投棄されたか、一緒に埋め戻されたものとみられる。

**所見** 時期は、出土土器から 9 世紀中葉に比定できる。西壁より 1 m ほど内側に溝が確認されたことから、住居を西側へ拡張した可能性がある。



第 47 図 第 5 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 5 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 47 図）

番号	形	別種	口径	器高	底径	胎	土	色	調	焼成	手	法	特	徴	は	か	出土位置	備	考
87	土師器	环	[14.2]	4.5	[7.2]	長石・石英・ 赤母	にぶい・糊	普通	体部下端手持ちへラ削り 内面へラ削き 底部 回頭部の削り	普通	壺	壺口部	40%	PL13					
88	土師器	环	[13.0]	3.7	[6.6]	長石・石英・ 赤母	にぶい・糊	普通	体部下端手持ちへラ削り 内面へラ削き 底部回 頭部の削り	普通	壺	壺口部	20%						
89	土師器	环	-	(2.7)	5.4	長石・石英・ 赤母	にぶい・糊	普通	体部下端回転へラ削り 内面へラ削き 底部へ ラ削り	普通	壺	火床面	20%						
90	土師器	环	[13.8]	[4.5]	-	長石・石英・ 赤母・茶色粒子	にぶい・糊	普通	体部下端手持ちへラ削り 内面へラ削き	普通	壺	床面	10%						
91	土師器	环	[14.8]	(4.4)	-	赤色粒子・ 赤色鉱物	にぶい・糊	普通	内面へラ削き	普通	壺	壺裏土上層	10%						
92	土師器	高台付环	-	(2.9)	6.4	長石・石英・ 赤母・茶色粒子	にぶい・糊	普通	体部下端回転へラ削り 内面へラ削き 内面底部 へラ削り記号 □ 底部へラ削り後 高台貼り付け	普通	壺	壺裏土上層	40%	PL20					
93	土師器	高台付环	-	(2.5)	5.8	長石・石英・ 赤母・茶色粒子	糊	普通	体部下端回転へラ削り 内面へラ削き 底部削 りへラ削り後 高台貼り付け	普通	壺	壺裏土中	40%						
94	須恵器	高盤	-	(6.1)	[13.0]	長石・石英・ 糊	灰	灰	良好	脚部に透かし孔	糊	壺裏土中	10%						
95	須恵器	高盤	-	(6.9)	[13.4]	長石・石英・ 糊	灰	良好	脚部に透かし孔	糊	壺裏土中	10%							

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 2	刀子	(11.7)	(1.3)	(0.5)	(9.1)	鉄	基部欠損 斜面三角形	壺裏土下層	PL26

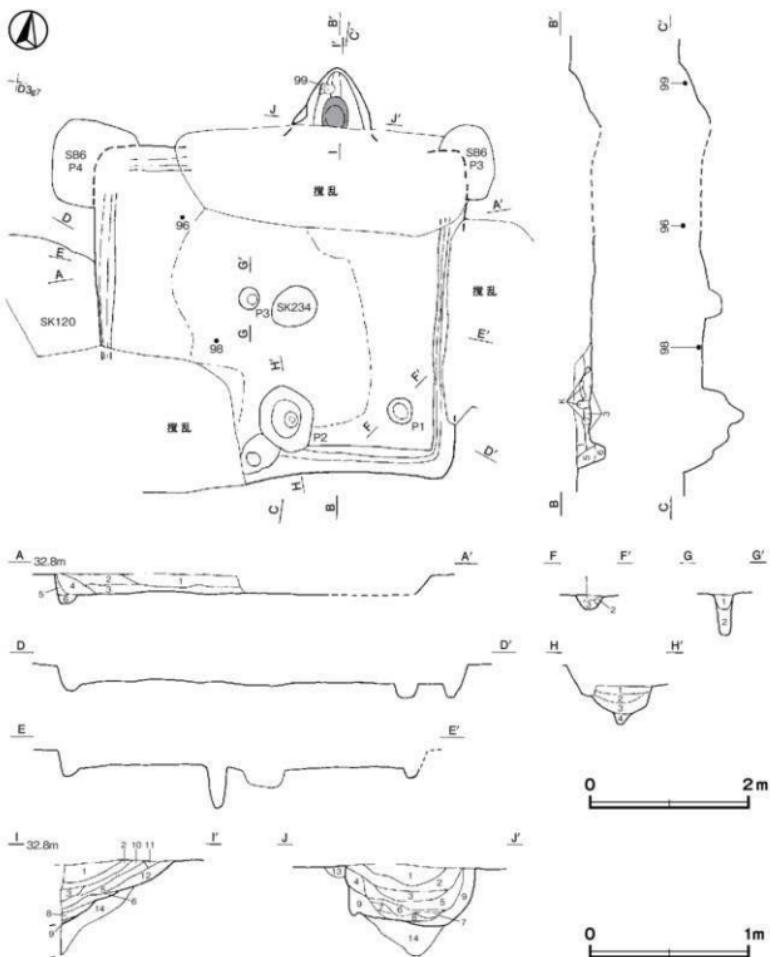
### 第6号竪穴建物跡（第48・49図）

**位置** 調査区西部のD 3 g7 区、標高 33 m ほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第6号掘立柱建物跡、第120号土坑を掘り込み、第234号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 北・東・南西部は擾乱を受けているが、長軸 52.0 m、短軸 4.30 m の長方形で、主軸方向は N - 7° - W である。壁は高さ 25 cm で、ほぼ直立している。

**床** 平坦で、中央部が踏み固められている。遺存している壁下には壁溝が巡っている。



第48図 第6号竪穴建物跡実測図

北壁やや東寄りに付設されている。規模は焚口部が搅乱を受けているため、詳細は不明であるが、残存部は煙道部まで59cmで、燃焼部幅は52cmである。火床部は床面を21cmほど掘り込み、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子を含んだ第14層を埋土して構築されている。火床面は火熱を受け赤変硬化している。第5層は、天井部の崩落土層である。

#### 竪土層解説

1 暗褐色	粘土粒子多量、ローム粒子微量	8 黒褐色	粘土粒子中量、焼土粒子少量
2 暗褐色	焼土粒子多量、炭化粒子中量、ローム粒子微量	9 暗褐色	粘土粒子少量、焼土粒子微量
3 暗褐色	地土ブロック中量	10 底褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック少量
4 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子中量	11 暗赤褐色	焼土ブロック多量、炭化粒子中量
5 暗赤褐色	焼土粒子多量、粘土粒子中量	12 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
6 暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量	13 底褐色	焼土ブロック多量
7 暗褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量	14 底褐色	焼土ブロック中量

**ピット** 3か所。P 1は深さ18cmで、配置から主柱穴と考えられる。P 2は深さ50cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 3は深さ50cmで、ほぼ中央部に位置しているが、性格不明である。覆土はすべて柱抜き取り後のものである。

#### ピット土層解説(各柱穴共通)

1 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	3 暗褐色	ロームブロック微量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	4 暗褐色	ロームブロック多量

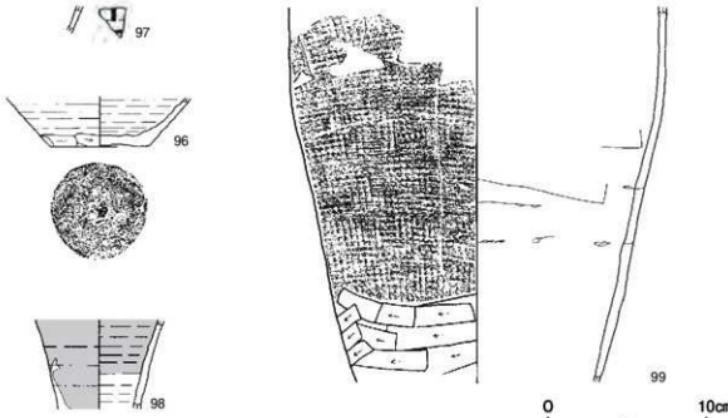
**覆土** 6層に分層できる。第2・3層に焼土ブロックが含まれ、それ以外はブロック状の堆積をしていることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	4 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片317点(坏48、高台付坏2、高台付皿1、壺266)、須恵器片238点(坏161、高台付坏12、蓋25、盤2、壺38)、灰釉陶器1点(長頭瓶)のほか、弥生土器9点(壺)が、全城の覆土上層から下層にかけて出土している。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第49図 第6号竪穴建物跡出土遺物実測図

第6号竪穴建物跡出土遺物観察表（第49図）

番号	種別	器種	口径	脚高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
96	須恵器	环	-	(31)	62	長石・石英・ 長母	にふい青白	普通	底部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	覆土上層	60%新泊産
97	須恵器	环	-	(18)	-	長石・石英	暗灰黄	普通	墨書き「口」	覆土中	5% PL21
98	灰釉陶器	長頭瓶	-	(56)	-	長石・石英	灰オリーブ	良好	腹部外・内面に柱 体部外表面格子状の叩き　内面ヘラナメ　底部下端 ヘラ削り　輪積み底	覆土下層	5% 旗投産
99	須恵器	甕	-	(237)	-	長石・石英・ 長母	にふい青	普通		施土下層	30% PL23

第9号竪穴建物跡（第50図）

位置 調査区中央部のC 4 j2 区、標高 33 m ほどの台地平坦部に位置している。

確認状況 規模が小さく、竪も確認できなかったが、床面とみられる硬化面を確認したため、竪穴建物跡と判断した。

重複関係 第19・24号掘立柱建物跡、第3号階下穴、第248号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 ほぼ全城が第19・24号掘立柱建物のピットによる掘り込みや擾乱を受けているため、遺存状態は悪く、南北軸は 3.50 m、東西軸は 3.12 m しか確認できなかった。平面形は長方形で、主軸方向は N - 5° - W である。遺存している壁は高さ 4 ~ 15 cm で、外傾している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。縫溝は認められなかった。

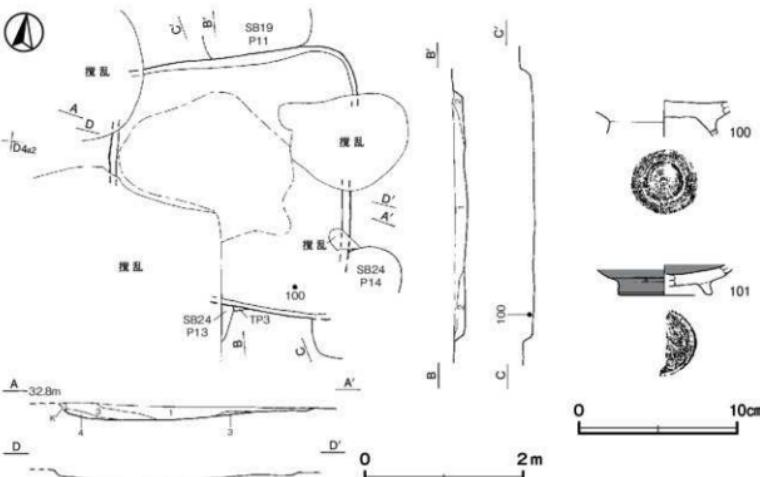
覆土 4 層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

#### 土層解説

1 黒褐色 烧土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量  
2 暗褐色 ローム粒子少量

3 極暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量  
4 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片 31 点（坏 12、高台付坏 3、甕 16）、須恵器片 10 点（坏 9、甕 1）のほか、弥生土器片 1 点（甕）が、全域の覆土上層から下層にかけて出土している。



第50図 第9号竪穴建物跡・出土遺物実測図

**所見** 時期は、重複関係と出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第9号竪穴建物跡出土遺物観察表（第50図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
100	土師器	高台付环	—	(2.2)	—	長石・石英・ 黄鐵	にぶい黃碧	普通	底部斜面へラ削り後、高台貼り付け	覆土中刷	20%
101	土師器	高台付环	—	(1.8)	(5.8)	長石・石英・ 黄鐵	にぶい黃碧	普通	底部下端斜面へラ削り後、底部高台貼り付け後、 八字彫き	覆土中	10%

表7 平安時代竪穴建物跡一覧表

番号	位 置	主軸方向	平面形	幅 高 長軸×短軸 (m)	標 高 (cm)	床面	壁溝	内 部 施 設			覆土	主な出土物	時 期	備 考
								柱穴	出入口	ビット	重	蓄藏穴		
2	C 44	N - 17° - W	方形	5.68 × 5.38	23 - 35	平開	一部	1	1	—	北壁	—	自然	S10, S13, 21, 24, SK29 + 4孔 上部斜面、鉄製品
4	D 4+4	N - 10° - W	方形	7.85 × (7.28)	21 - 67	平開	一部	4	1	—	北壁	—	人為	上部斜面、瓦器類、 木筒、骨器類、製品 9世紀前葉
5	D 3+7	N - 2° - W	長方形	6.18 × 5.14	16 - 18	平開	一部	3	—	—	北壁	—	人為	灰褐色壁、頂部器、 木筒、鐵製品 9世紀中葉
6	D 3+7	N - 7° - W	長方形	5.20 × 4.30	25	平開	一部	1	1	北壁	—	人為	土師器、頂部器、 火桶陶器 9世紀中葉	
9	C 4+2	N - 5° - W	長方形	(3.50) × (3.12)	4 - 15	平開	—	—	—	—	—	自然	S8, SK120 + 4孔 → SK24 S10+24, TP 3, 108, 140 + 4孔	

## (2) 掘立柱建物跡

第3号掘立柱建物跡（第51図）

**位置** 調査区南西部のE 3 a9 区、標高33 m ほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第4号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

**規模と構造** 南部・東部が調査区域外に延びており、桁行1間以上、梁行1間以上の側柱建物跡と推定できる。桁行方向はN - 77° - E の東西棟と考えられる。確認できた規模は、桁行、梁行ともに270 mである。柱間寸法は、桁行、梁行ともに270 m (9尺) である。

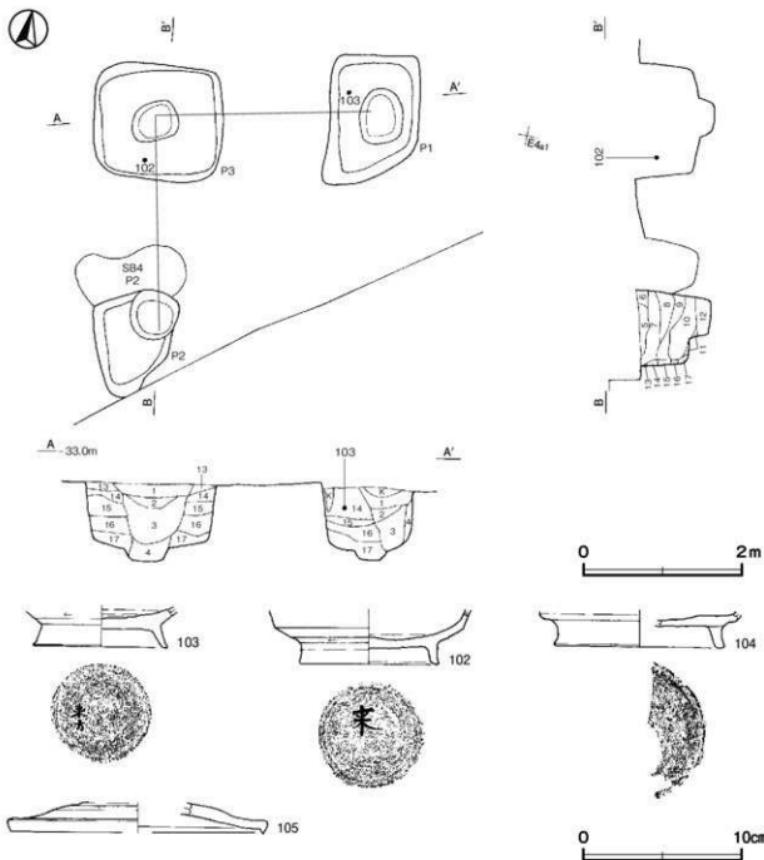
**柱穴** 3か所。平面形は長方形で、長軸165 ~ 173 cm、短軸104 ~ 146 cmである。深さは92 ~ 99 cmで、掘方の壁はほぼ直立している。第1 ~ 12層は柱抜き取り後の覆土、第13 ~ 17層は埋土である。

### 柱穴土層解説（各柱穴共通）

1	暗 褐 色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	10	暗 褐 色	ロームブロック中量
2	暗 褐 色	ローム粒子多量、炭化粒子微量	11	黒 褐 色	ローム粒子中量
3	暗 褐 色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	12	暗 褐 色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
4	暗 褐 色	ローム粒子少量	13	暗 褐 色	ロームブロック少量
5	暗 褐 色	ロームブロック少量、燒土粒子微量	14	暗 褐 色	ロームブロック、炭化粒子少量
6	暗 褐 色	ロームブロック微量	15	黒 褐 色	ロームブロック多量
7	暗 褐 色	ロームブロック、燒土粒子微量	16	褐 色	ロームブロック中量
8	黑 褐 色	ロームブロック微量	17	暗 褐 色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
9	暗 褐 色	炭化粒子中量、ロームブロック少量			

**遺物出土状況** 土師器片22点（環9、甕13）、須恵器片23点（環18、高台付环3、蓋1、盤1）のはか、繩文土器片3点（深鉢）、弥生土器片14点（壺）、剥片4点が、各柱穴から出土している。

**所見** 時期は、8世紀後葉の第4号掘立柱建物跡を掘り込んでいること及び出土土器から、9世紀前葉と考えられる。性格は、「屋」としての機能が想定できる。



第51図 第3号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第3号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第51図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
102	須恵器	高台付环	-	(3.5)	8.6	長石・石英、 白色鉱物質	暗灰黄	普通	事前下端削りヘラ削り 底部回転ヘラ削り後、高 台部斜面削り付け	P 3 稲土	60%本體下部 PL20
103	須恵器	高台付环	-	(2.6)	8.8	長石・石英	灰	普通	事前下端削りヘラ削り 底部斜面削り付け	P 1 稲土	40% PL21
104	須恵器	高台付环	-	(2.3)	[106]	長石・石英	灰黄褐	普通	底部斜面削り付け	P 1 覆土中	30%
105	須恵器	蓋	[160]	[1.9]	-	長石・石英、 細纖	灰	良好	天井部回転ヘラ削り	P 1 覆土中	10%

### 第5号掘立柱建物跡（第52図）

**位置** 調査区南東部のE3c7区、標高33mほどの台地平坦部に位置している。

**確認状況** 北部の柱穴は搅乱のため、確認できなかった。

**重複関係** 第33号土坑を掘り込んでいる。第8・9号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と構造** 南部・東部が調査区域外に延びており、北部は搅乱を受けているが、桁行3間以上、梁行2間以上の側柱建物跡と推定できる。桁行方向はN-75°-Eの東西棟と考えられる。確認できた規模は、桁行5.85m、梁行3.90mである。柱間寸法は、桁行、梁行ともに1.95m(6.5尺)である。

**柱穴** 3か所。平面形は楕円形で、長径98~151cm、短径58~87cmである。深さは83~92cmで、掘方の壁はやや外傾している。第1~6層は柱抜き取り後の覆土、第7層は柱痕跡、第8~10層は埋土である。

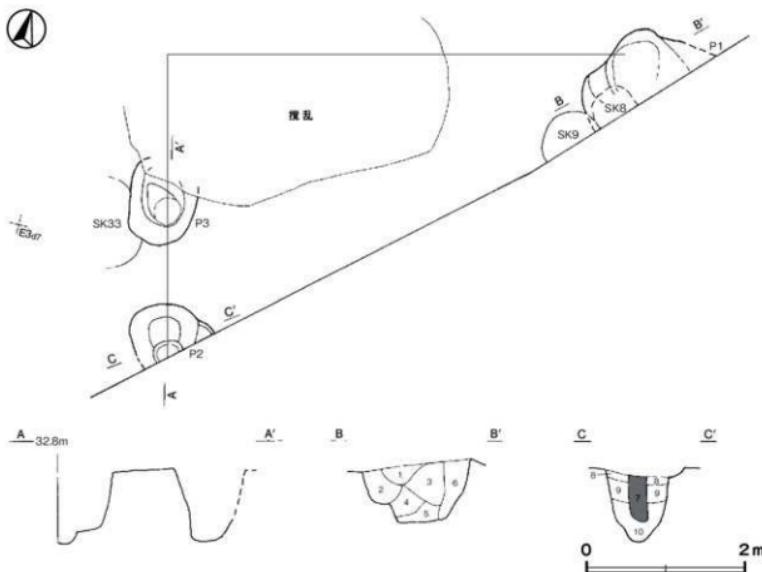
#### 柱穴土層解説（各柱穴共通）

1	暗褐色	ローム粒子、炭化粒子少量	6	褐色	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	7	暗褐色	色	ロームブロック、炭化粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	8	暗褐色	色	ロームブロック少量
4	黒褐色	ロームブロック少量	9	暗褐色	色	ロームブロック中量
5	褐色	ロームブロック少量	10	暗褐色	色	ロームブロック多量

**遺物出土状況** 土師器片10点(环2, 壺8)のほか、弥生土器片4点(壺)が、P1・P2から出土している。

遺物は細片のため、図示できない。

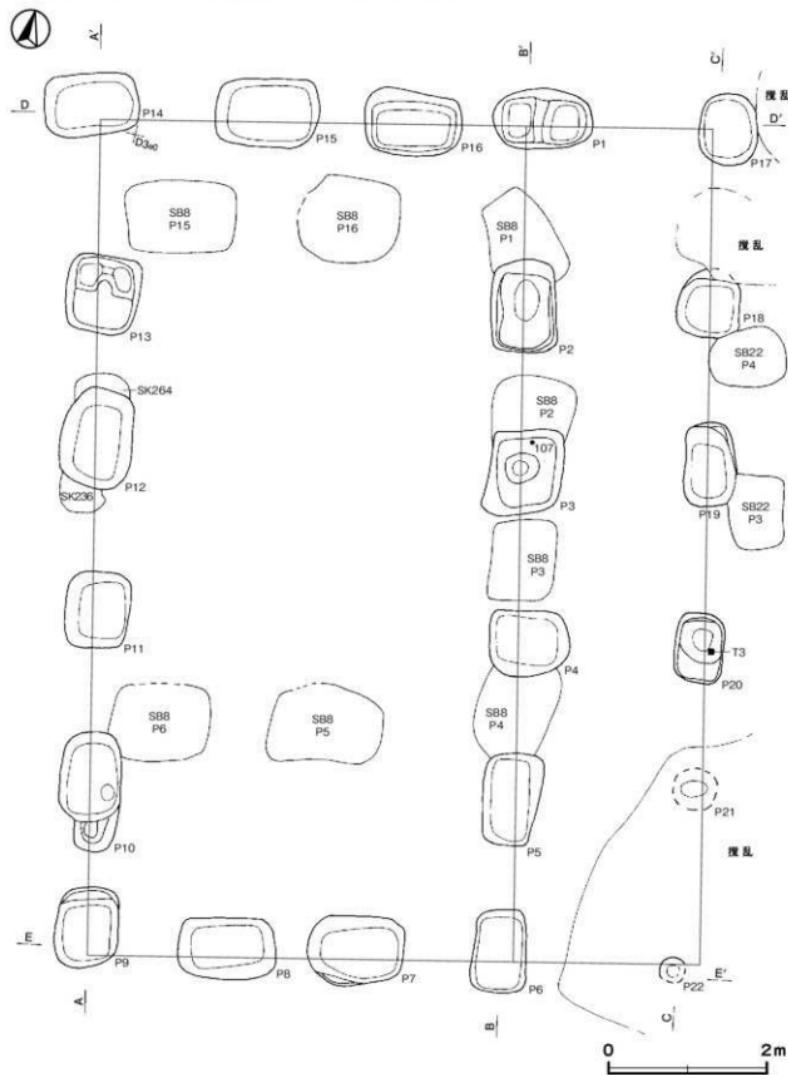
**所見** 時期は、遺物が細片のため特定は困難であるが、第14・27号掘立柱建物と桁行方向が同じことから、同時期の9世紀前葉と考えられる。性格は「屋」としての機能が想定できる。



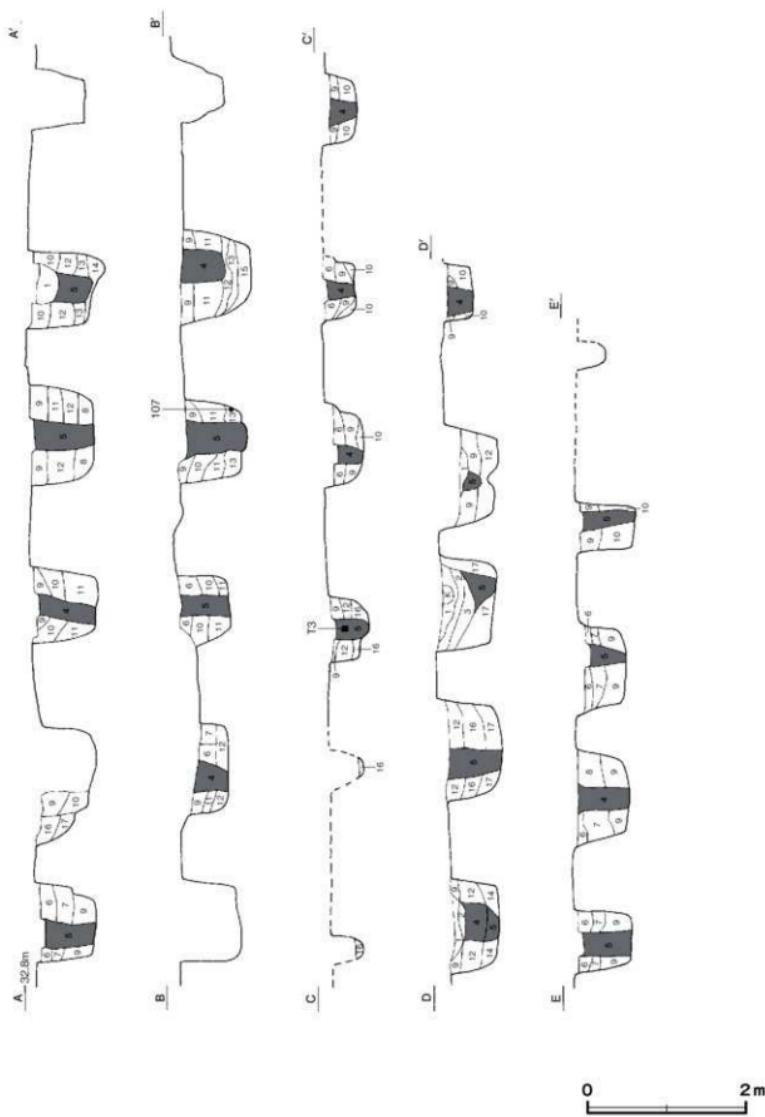
第52図 第5号掘立柱建物跡実測図

第9号掘立柱建物跡（第53～55図）

位置 調査区西部のD3d9区、標高33mほどの台地平坦部に位置している。



第53図 第9号掘立柱建物跡実測図(1)



第54図 第9号掘立柱建物跡実測図(2)

**重複関係** 第8号掘立柱建物跡、第236・264号土坑を掘り込み、第22号掘立柱建物に掘り込まれている。

**規模と構造** 桁行5間、梁行3間の身舎に東庇が付く側柱建物跡で、桁行方向がN-13°-Wの南北棟である。規模は、身舎が桁行10.50m、梁行5.40mで、面積は56.70m<sup>2</sup>である。庇の出は2.40mで、庇も含めると梁行は7.80mで、面積は81.90m<sup>2</sup>である。身舎の柱間寸法は、桁行が2.10m(7尺)、梁行は1.80m(6尺)で、柱筋はほぼ揃っている。庇の柱間寸法は、2.10m(7尺)で、柱筋はほぼ揃っている。

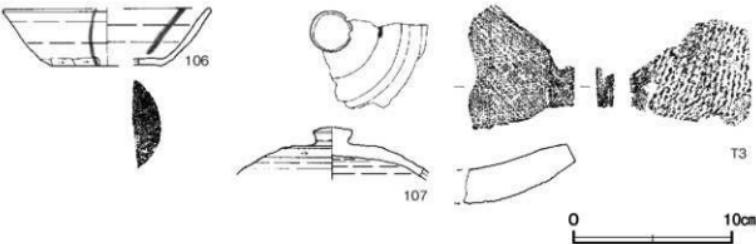
**柱穴** 22か所。身舎柱穴の平面形は楕円形または隅丸長方形で、長径(軸)98~132cm、短径(軸)70~95cmである。深さは45~102cmで、掘方の壁はほぼ直立している。庇柱穴の平面形は楕円形で、長径35~107cm、短径34~75cmである。深さは37~53cmで、掘方の断面形はU字状である。第1~3層は柱抜き取り後の覆土、第4~5層は柱痕跡、第6~17層は埋土である。

**柱穴土層解説(各柱穴共通)**

1	褐	色	ローム粒子微量	10	暗	褐	色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	
2	暗	褐	色	ローム粒子多量	11	黒	褐	色	ロームブロック少量
3	暗	褐	色	炭化粒子少量	12	褐	褐	色	ロームブロック少量
4	黒	褐	色	ローム粒子微量	13	黒	褐	色	ロームブロック、炭化粒子少量
5	暗	褐	色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	14	褐	色	ロームブロック中量	
6	黒	褐	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	15	黒	褐	色	ロームブロック、炭化粒子微量
7	黒	褐	色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	16	暗	褐	色	ローム粒子少量
8	黒	褐	色	炭化粒子微量	17	暗	褐	色	ローム粒子中量
9	暗	褐	色	ロームブロック微量					

**遺物出土状況** 土師器片189点(坪44、壺145)、須恵器片195点(坪156、蓋16、盤2、甕21)、平瓦1点(1529g)のほか、繩文土器片4点(深鉢)、弥生土器片12点(壺)が、P1~P20から出土している。

**所見** 時期は、8世紀後葉の第8号掘立柱建物跡を掘り込んでいること及び出土土器から、9世紀前葉と考えられる。性格は、庇が付く大型の掘立柱建物で、他の掘立柱建物跡と様相が異なることから、「屋」への収納物を管理する施設などが想定できる。



第55図 第9号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第9号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第55図)

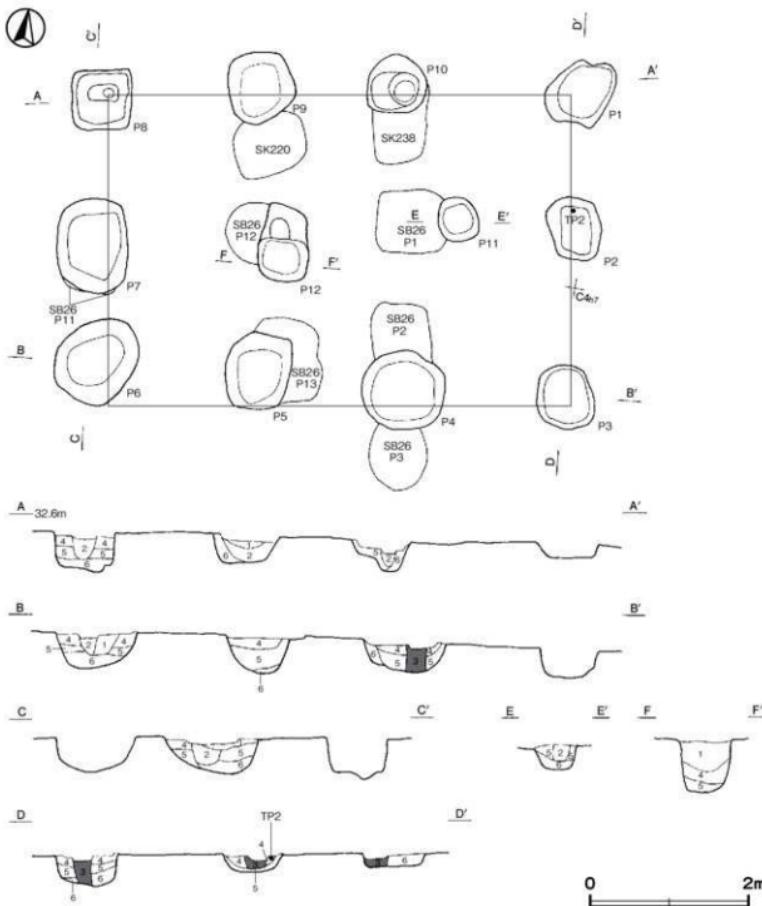
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手 法 の 特徴	は か	出土位置	備考
106	須恵器	坪	[130]	36	[7.0]	長石・石英・ 繩目	灰	普通	体部下端手持ちへラ削り・火摩	P 4 壁土	5%	
107	須恵器	蓋	-	(32)	-	長石・石英	灰	普通	天井部回輪へラ削り・墨書き「-」	P 3 壁土	5%	PL21
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調		特徴		出土位置	備考
T 3	平瓦	(87)	(7.0)	23	(1529)	長石・石英	灰黄	凹面布目痕	凸面彫目印き		P 20 柱根跡	PL26

第 10 号掘立柱建物跡（第 56・57 図）

位置 調査区中央部の C 4 g5 区、標高 33 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 26 号掘立柱建物跡、第 220・238 号土坑を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行 3 間、梁行 2 間の側柱建物跡で、桁行方向は N - 79° - E の東西棟である。規模は、桁行 5.85 m、梁行 3.90 m で、面積は 22.82 m<sup>2</sup> である。柱間寸法は、桁行、梁行ともに 1.95 m (6.5 尺) で、柱筋は、P 5・P 6 がやや内側に入るが、それ以外はほぼ揃っている。P 11・P 12 は、床を支えるための床束とみられる。



第 56 図 第 10 号掘立柱建物跡実測図

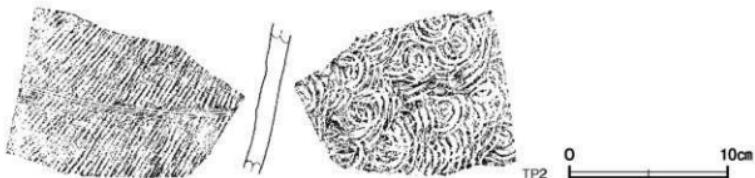
**柱穴** 12か所。平面形は円形または梢円形で、長径 76 ~ 123cm、短径 64 ~ 106cm である。深さは 20 ~ 53cm<sup>c</sup>、掘方の壁は外傾している。第 1・2 層は柱抜き取り後の覆土、第 3 層は柱痕跡、第 4~6 層は埋土である。

**柱穴土層解説 (各柱穴共通)**

1 黒褐 色 ローム粒子少量	4 黒褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 暗褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	5 暗褐 色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
3 黒褐 色 炭化粒子微量	6 褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片 16 点 (坏 8, 壺 8), 須恵器片 20 点 (坏 13, 盖 4, 盘 2, 壺 1) のほか、繩文土器片 2 点 (深鉢), 弥生土器片 2 点 (壺) が、P 4・P 5 を除く各柱穴から出土している。TP 2 は、P 2 の埋土から出土していることから、造営時に混入したものとみられる。

**所見** 時期は、8 世紀後葉の第 26 号掘立柱建物跡を掘り込んでいること及び、細片のため図示できないが、内面黒色処理を施した土師器坏の破片が出土していることから、9 世紀前葉と考えられる。TP 2 が埋土から出土していることから、造営時期は 8 世紀代とみられる。性格は、規模と構造から倉庫としての機能が想定できる。



第 57 図 第 10 号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第 10 号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第 57 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴	出土位置	備考
TP 2	須恵器	壺	長石・石英・細繩	灰黄褐色	体部外面斜位の平行叩き 内面當て具痕	P 2 墓土	PL24

**第 11 号掘立柱建物跡 (第 58 図)**

**位置** 調査区北部の C 4 区域、標高 33 m ほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第 12 号掘立柱建物跡、第 4 号柱穴跡を掘り込んでいる。

**規模と構造** 北西部が調査区域外に延びており、桁行 3 間以上、梁行 2 間以上の側柱建物跡と推定できる。桁行方向は N - 75° - E の東西棟である。確認できた規模は、桁行 5.85 m、梁行 3.60 m である。柱間寸法は、桁行が 1.95 m (6.5 尺)、梁行は 1.80 m (6 尺) で、柱筋はほぼ揃っている。

**柱穴** 6 か所。平面形は隅丸長方形で、長軸 109 ~ 139cm、短軸 84 ~ 109cm である。深さは 74 ~ 98cm<sup>c</sup>、掘方の壁はほぼ直立している。第 1 層は柱痕跡、第 2 ~ 8 層は埋土である。

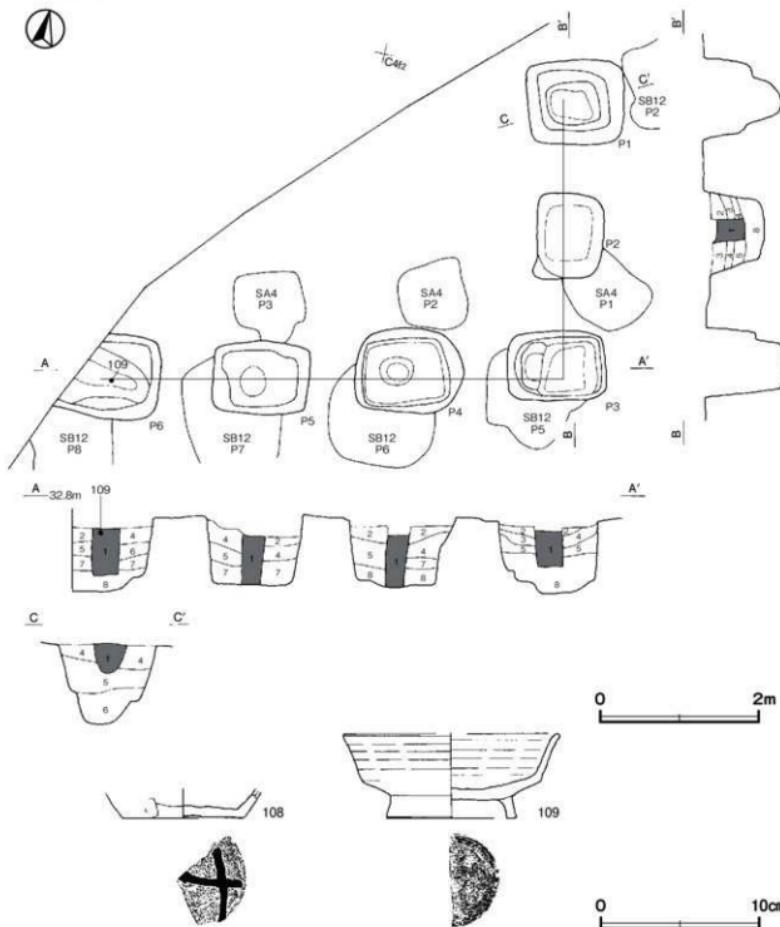
**柱穴土層解説 (各柱穴共通)**

1 黒褐 色 炭化粒子微量	5 黒褐 色 ロームブロック少量
2 暗褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量	6 褐色 ロームブロック微量
3 黒褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量	7 暗褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 黒褐 色 ロームブロック中量	8 黒褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片 39 点 (坏 13, 壺 26), 須恵器片 50 点 (坏 31, 高台付坏 3, 盖 9, 盘 1, 壺 6) のほか、弥生土器片 4 点 (壺)、剥片 1 点が、P 2 ~ P 6 から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から 9 世紀前葉に比定できる。本跡と第 12 号掘立柱建物跡は規模と構造がほぼ同じ

であるため、第12号掘立柱建物跡から本建物へ建て替えられたと推測できる。性格は、構造から「屋」としての機能が想定できる。



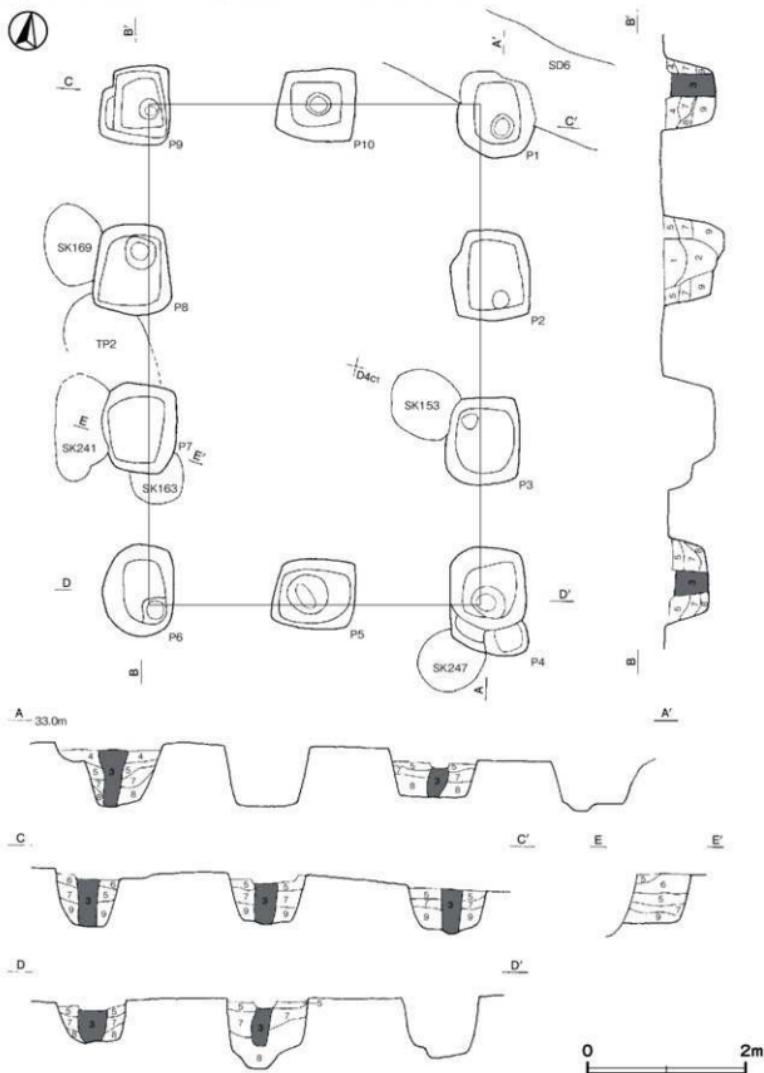
第58図 第11号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第11号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第58図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
108	須恵器	环	-	(1.9)	[7.6]	長石・石英	灰オリーブ	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部に墨書「口」	P 4 棚土中	10% PL21
109	須恵器	高台付环	[13.6]	5.4	8.3	長石・石英	にぶい赤褐	普通	底部削転ヘラ削り後、高台貼り付け	P 6 桁根跡	45% PL18

第13号掘立柱建物跡（第59図）

位置 調査区中央部のD3b0区、標高33mほどの台地平坦部に位置している。



第59図 第13号掘立柱建物跡実測図

**重複関係** 第2号竪穴、第163・169・247号土坑を掘り込み、第153・241号土坑、第6号溝に掘り込まれている。

**規模と構造** 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-12°-Wの南北棟である。規模は、桁行6.30m、梁行4.20mで、面積は26.46m<sup>2</sup>である。柱間寸法は、桁行、梁行ともに2.10m(7尺)で、柱筋はほぼ揃っている。

**柱穴** 10か所。平面形は楕円形または隅丸長方形で、長径(軸)96~136cm、短径(軸)89~100cmである。深さは50~120cmで、掘方の壁はやや外傾している。第1・2層は柱抜き取り後の覆土、第3層は柱痕跡、第4~9層は埋土である。

#### 柱穴土層解説(各柱穴共通)

1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 喙褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
2 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	7 喙褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量	8 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 喙褐色 ロームブロック微量	9 喙褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
5 喙褐色 ロームブロック中量	

**遺物出土状況** 土師器片33点(坏5、甕28)、須恵器片43点(坏32、蓋6、盤1、甕3、瓶1)のほか、弥生土器片1点(甕)が、各柱穴から出土している。遺物は細片のため、図示できない。

**所見** 時期は、遺物が細片のため特定は困難であるが、第9号掘立柱建物と桁行方向が同じで、本跡の東平と第9号掘立柱建物の東庇が揃っているため、同時期の9世紀前葉と考えられる。性格は、構造から「屋」としての機能が想定できる。

#### 第14号掘立柱建物跡(第60・61図)

**位置** 調査区西部のD-3a9区、標高33mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第3号柱穴列と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と構造** 北西部が調査区域外に延びており、桁行4間以上、梁行1間以上の側柱建物跡と推定できる。桁行方向はN-75°-Eの東西棟である。確認できた規模は、桁行8.40m、梁行3.60mである。柱間寸法は、桁行が2.10m(7尺)、梁行は3.60m(12尺)で、柱筋は東妻のP1がやや外側に出ているが、南平は揃っている。

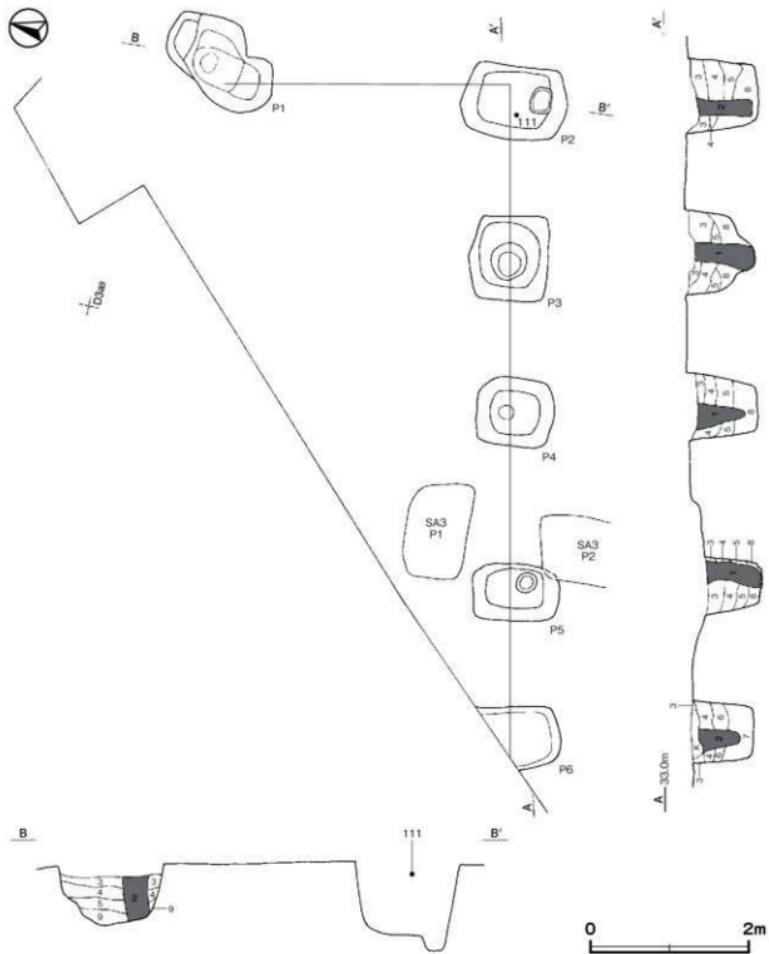
**柱穴** 6か所。平面形は楕円形または隅丸長方形で、長径(軸)91~133cm、短径(軸)73~100cmである。深さは72~109cmで、掘方の壁はほぼ直立している。第1・2層は柱痕跡、第3~9層は埋土である。

#### 柱穴土層解説(各柱穴共通)

1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量	5 喙褐色 鹿沼バミスブロック多量、ロームブロック中量
2 喙褐色 ローム粒子・焼土粒子微量	6 黒褐色 ロームブロック微量
3 喙褐色 ローム粒子微量	7 喙褐色 ロームブロック少量
4 喙褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量、焼土粒子微量	8 喙褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック中量
	9 黒褐色 ロームブロック中量

**遺物出土状況** 土師器片37点(坏16、甕21)、須恵器片47点(坏36、高台付坏2、蓋4、甕4、瓶1)のほか、弥生土器片1点(甕)が、各柱穴から出土している。

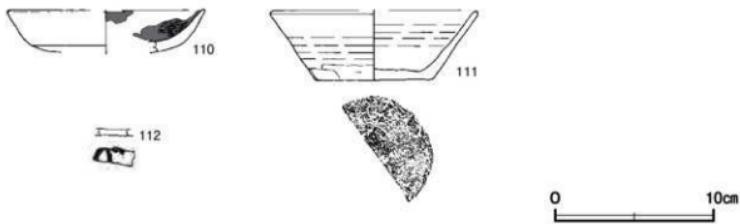
**所見** 時期は、出土土器から9世紀前葉に比定できる。東妻のP1が配置的にやや外れているが、柱穴の形状や深さが類似していることから、同じ掘立柱建物を形成していたものと考えられる。性格は、構造から「屋」としての機能が想定できる。



第 60 図 第 14 号掘立柱建物跡実測図

第 14 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 61 図）

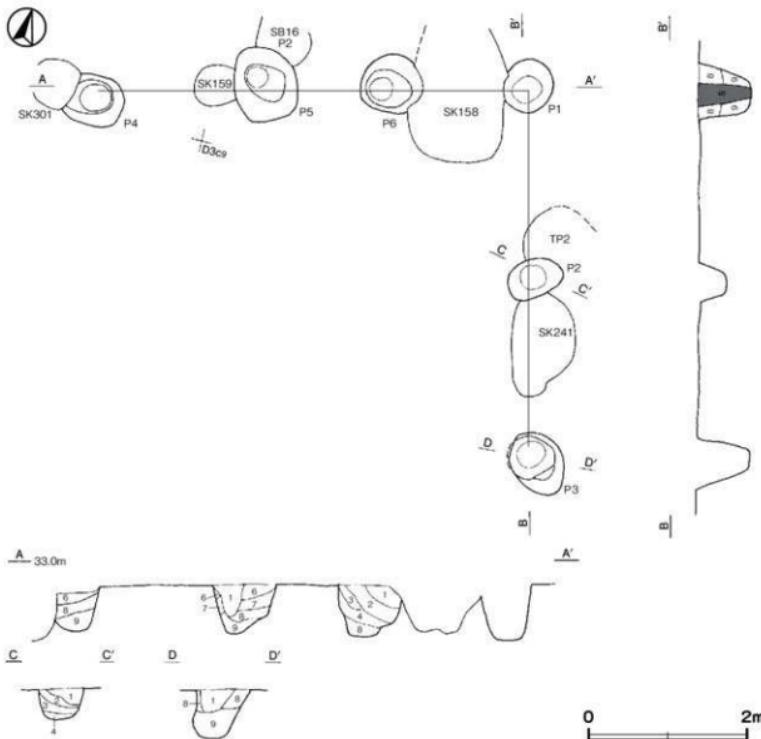
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	施成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
110	土器部	环	[12.4]	(2.7)	—	長石・石英	にごい黄褐	普通	体面内面へラ削き 内面に油焼付着	P 2 墓土	10%
111	須恵器	环	[12.9]	4.4	(7.4)	長石・石英、 繊維	灰褐	良好	体面下端手持ちへラ削り 底部一方のへラ削り	P 2 桁根跡	30% PL14
112	須恵器	环	—	(0.4)	—	長石・石英	黄灰	良好	底部に墨書き「□」	P 1 墓土	5% PL21



第61図 第14号掘立柱建物跡出土物実測図

第15号掘立柱建物跡（第62・63図）

位置 調査区西部のD3b8区、標高33mほどの台地平坦部に位置している。



第62図 第15号掘立柱建物跡実測図

**重複関係** 第16号掘立柱建物跡、第2号陥し穴、第159・241号土坑を掘り込み、第158・301号土坑に掘り込まれている。

**規模と構造** 南西部が搅乱を受けているため、桁行3間以上、梁行2間以上の側柱建物跡と推定できる。桁行方向はN-76°-Eの東西棟である。確認できた規模は、桁行5.40m、梁行4.50mである。柱間寸法は、桁行が1.80m(6尺)、梁行は2.25m(7.5尺)で、柱筋はほぼ揃っている。

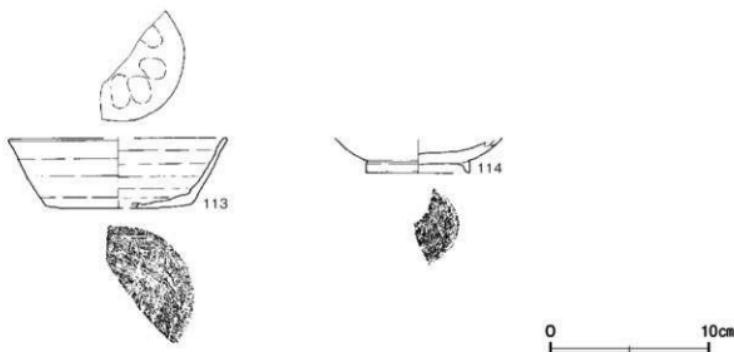
**柱穴** 6か所。平面形は楕円形で、長径66~97cm、短径48~82cmである。深さは33~65cmで、掘方の壁はやや外傾している。第1~4層は柱抜き取り後の覆土、第5層は柱痕跡、第6~9層は埋土である。

**柱穴土層解説(各柱穴共通)**

1 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック中量	7 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
3 暗褐色	ローム粒子微量	8 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック多量	9 暗褐色	ローム粒子少量
5 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量		

**遺物出土状況** 土師器片39点(环11、高台付椀1、甕27)、須恵器片26点(环22、蓋4)のほか、弥生土器片4点(壺)が、各柱穴から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。性格は、構造から「屋」としての機能が想定できる。



第63図 第15号掘立柱建物跡出土遺物実測図

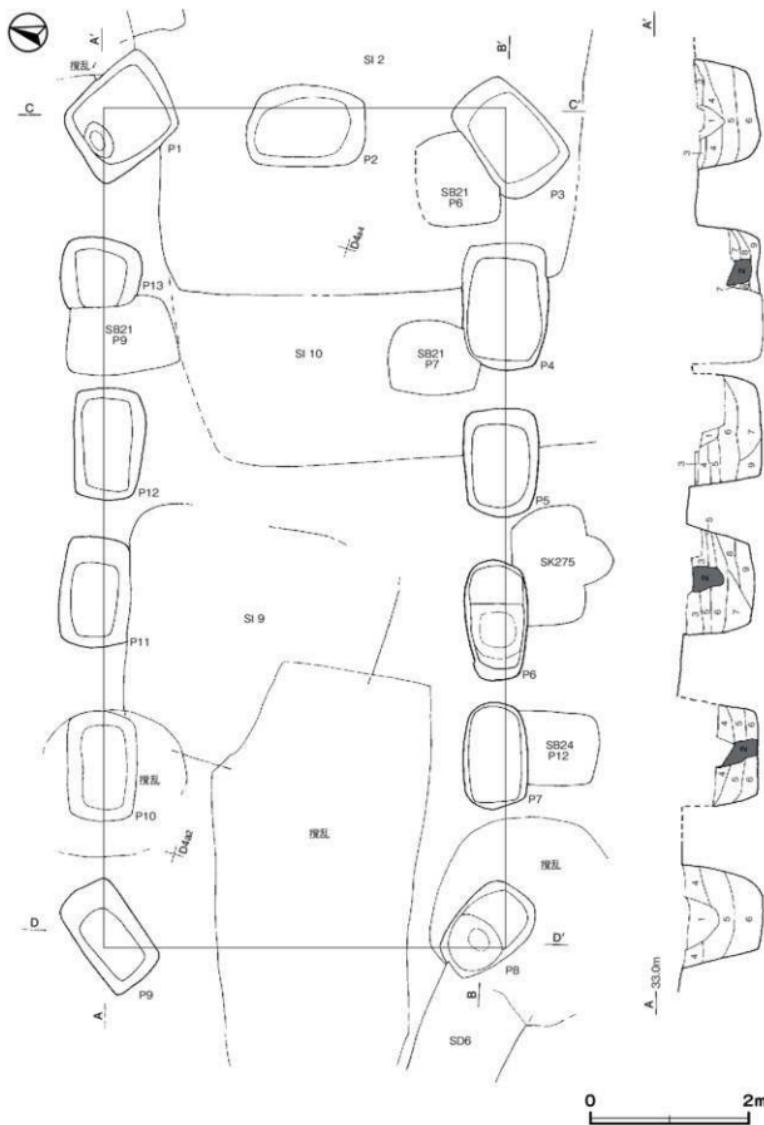
第15号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第63図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	はか	出土位置	備考
113	須恵器	环	[13.6]	4.4	[9.3]	長石・石英・ 雲母	暗灰黄	普通	内面底部に指圧圧痕	成都多方向のヘラ削り	P 4 覆土中	30%
114	土師器	高台付椀	-	(2.2)	(6.4)	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	底部削転ヘラ削り後、 高台貼り付け		P 4 覆土中	5%

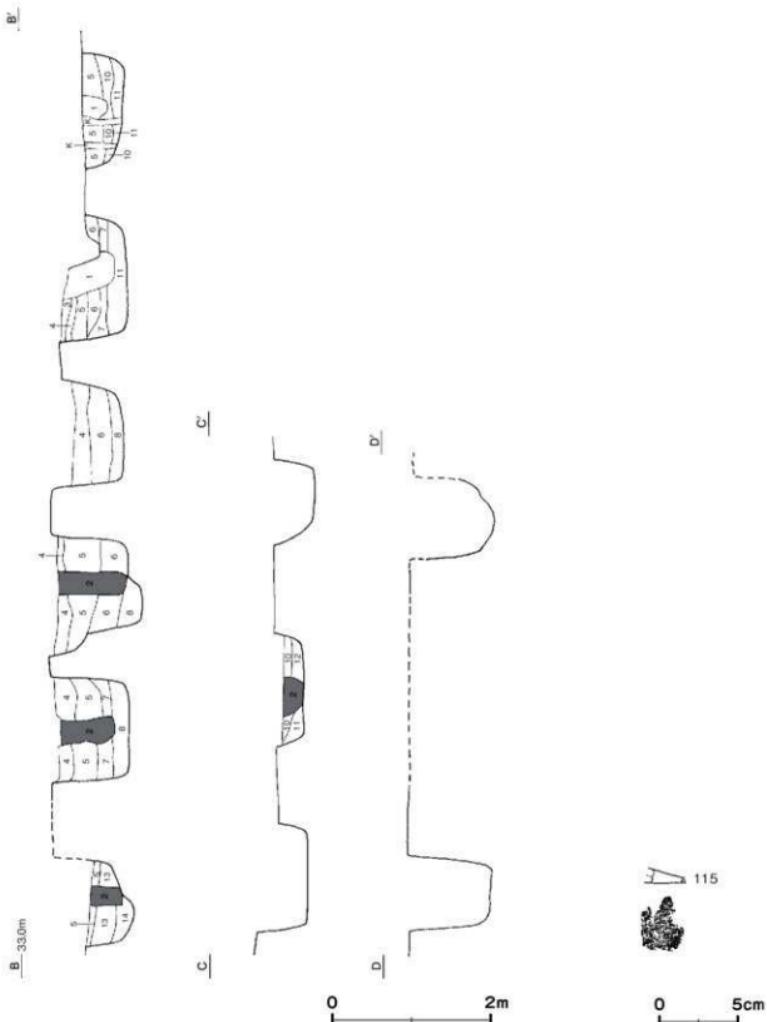
**第19号掘立柱建物跡(第64・65図)**

**位置** 調査区中央部のC411区、標高33mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第10号竪穴建物跡、第18・24号掘立柱建物跡、第275号土坑を掘り込み、第2・9号竪穴建物、第21号掘立柱建物、第6号溝に掘り込まれている。



第64図 第19号掘立柱建物跡実測図



第 65 図 第 19 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

**規模と構造** 柱行 5 間、梁行 2 間の側柱建物跡で、柱行方向が N - 74° - E の東西棟である。規模は、柱行 10.50 m、梁行 5.10 m で、面積は 53.55 m<sup>2</sup> である。柱間寸法は、柱行が 2.10 m (7 尺)、梁行は 2.55 m (8.5 尺) で、柱筋はほぼ揃っている。

**柱穴** 13か所。平面形は梢円形または隅丸長方形で、長径（軸）101～160cm、短径（軸）78～117cmである。深さは36～103cmで、掘方の壁はほぼ直立している。P 1・P 3・P 8・P 9の長軸は、桁行方向に対して約45度振れています。第1層は柱抜き取り後の覆土、第2層は柱痕跡、第3～14層は埋土である。

**柱穴土層解説（各柱穴共通）**

1 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	8 黒褐色	ローム粒子多量
2 黒褐色	ローム粒子少量	9 黒褐色	ロームブロック多量、焼土粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック微量	10 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子中量
4 黒褐色	ロームブロック中量、鹿沼バニスブロック少量、焼土粒子微量	11 黒褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック微量
5 黒褐色	ロームブロック中量	12 黒褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック少量
6 黒褐色	ロームブロック多量	13 黑褐色	ロームブロック多量
7 黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	14 黑褐色	鹿沼バニスブロック多量、ロームブロック中量

**遺物出土状況** 土師器片42点（坏11、壺31）、須恵器片21点（坏14、高台付坏1、蓋1、高盤1、壺4）、不明鉄製品1点のほか、繩文土器片2点（深鉢）、弥生土器片8点（壺）が、P 1～P 5・P 7から出土している。

**所見** 時期は、出土土器及び本跡の南平と第13号掘立柱建物の北妻が描っていることから、同時期の9世紀前葉と考えられる。性格は、規模から、大型の「屋」や「屋」への収納物を管理する施設などが想定できる。

第19号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第65図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
115	土師器	坏	-	(0.9)	-	長石・石英	淡黄	普通	底部赤切り痕	質土中	5%

**第21号掘立柱建物跡（第66～68図）**

**位置** 調査区中央部のC 4 h3 区、標高33mはどの台地平坦部に位置している。

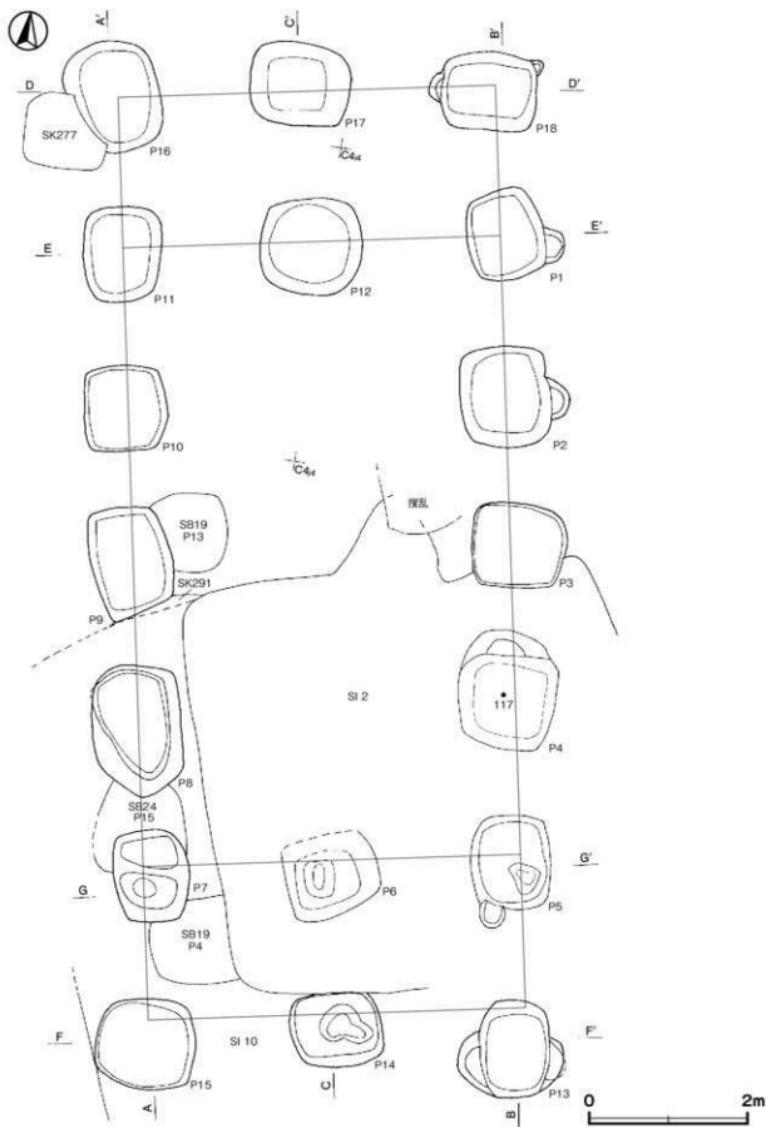
**重複関係** 第10号堅穴建物跡、第19・24号掘立柱建物跡、第291号土坑を掘り込み、第2号堅穴建物、第277号土坑に掘り込まれている。

**規模と構造** 術行4間、梁行2間の身舎に北・南庇が付く側柱建物跡で、術行方向がN-11°-Wの南北棟である。規模は、身舎が術行780m、梁行480mで、面積は37.44m<sup>2</sup>である。庇の出は、195m(6.5尺)で、庇も含めると術行は11.70mで、面積は56.16m<sup>2</sup>である。身舎と庇の柱間寸法は、術行が195m(6.5尺)、梁行は240m(8尺)で、柱筋はほぼ描っている。P 6・P 12は、柱穴の規模や深さから棟持柱の柱穴とみられる。

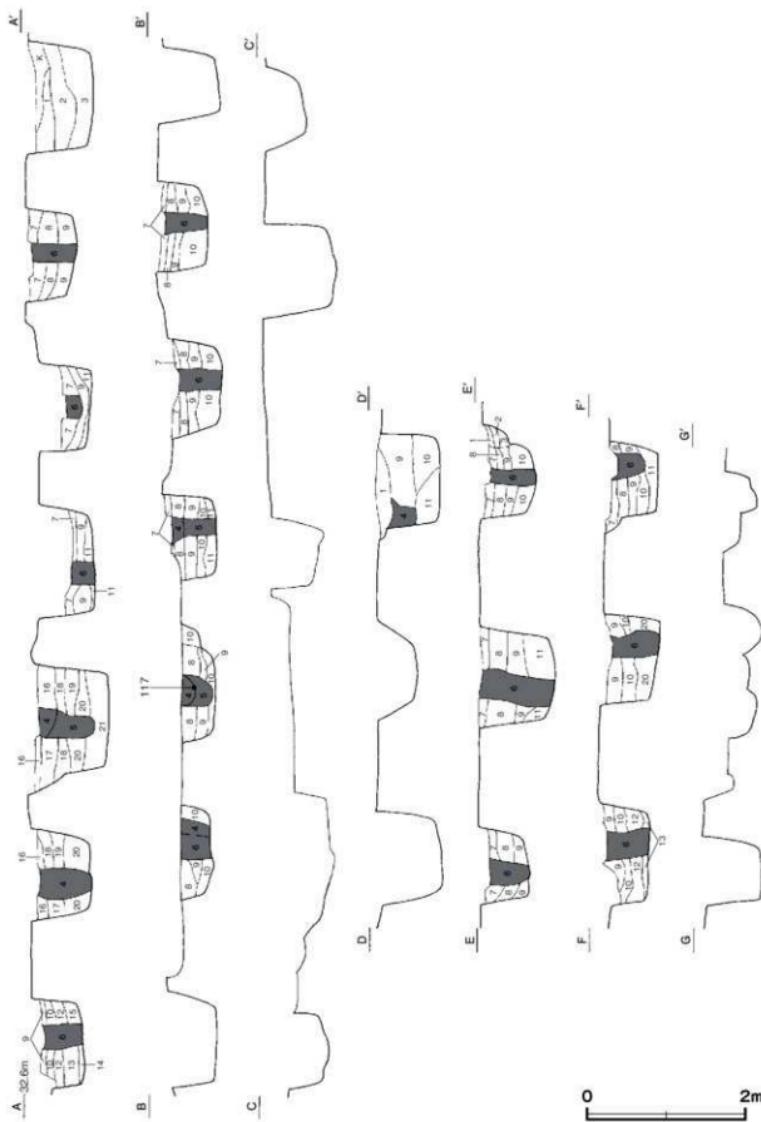
**柱穴** 18か所。身舎柱穴の平面形は梢円形または隅丸長方形で、長径（軸）92～166cm、短径（軸）85～127cmである。深さは35～99cmで、掘方の壁はほぼ直立している。庇柱穴の平面形は梢円形または隅丸長方形で、長径（軸）115～143cm、短径（軸）97～123cmである。深さは51～80cmで、掘方の断面形は逆台形またはU字状である。第1～3層は柱抜き取り後の覆土、第4～6層は柱痕跡、第7～21層は埋土である。

**柱穴土層解説（各柱穴共通）**

1 黒褐色	ロームブロック少量	12 黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック中量	13 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック多量	14 黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック微量
4 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	15 黒褐色	ローム粒子中量
5 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	16 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量、炭化粒子微量
6 黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	17 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
7 黒褐色	ロームブロック中量、鹿沼バニスブロック少量	18 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8 黒褐色	ロームブロック多量、鹿沼バニスブロック微量	19 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
9 黒褐色	ロームブロック多量	20 黒褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック少量
10 黒褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量	21 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
11 黑褐色	鹿沼バニスブロック多量		



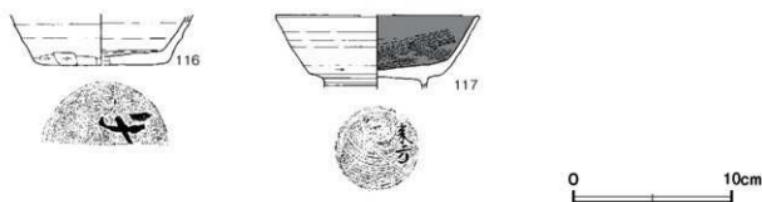
第 66 図 第 21 号掘立柱建物跡実測図(1)



第67図 第21号掘立柱建物跡実測図(2)

**遺物出土状況** 土師器片 108 点（环 18, 高台付环 1, 壺 89), 須恵器片 88 点（环 49, 高台付环 4, 盖 9, 壺 26) のほか、縄文土器片 8 点（深鉢）、弥生土器片 11 点（壺）、剥片 1 点が、P 2・P 4～P 8・P12～P16・P18 から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から 9 世紀前葉に比定できる。性格は、底が付く大型の掘立柱建物で、他の掘立柱建物跡と様相が異なることから、「屋」への収納物を管理する施設などが想定できる。



第 68 図 第 21 号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第 21 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 68 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	被成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
116	須恵器	环	-	(3.2)	[8.4]	長石・石英	灰	良好	底部下端子持ちヘラ削り 底部一方のヘラ削 底部内面に黒墨「丁」	P 5 邊土	10% PL16
117	土師器	高台付环	[12.7]	(4.6)	-	長石・石英、 雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	底部下端削りヘラ削り 底部内面ヘタ削き 底部削除 切り後 高台貼り付け 並部に墨書「朱方」「ヘラ記号」+	P 4 杆痕	70% PL20

第 22 号掘立柱建物跡（第 69 図）

**位置** 調査区南部の D 4 e2 区、標高 33 m ほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第 9 号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

**規模と構造** 南部は擾乱を受けているが、桁行 4 間以上、梁行 2 間以上の側柱建物跡と推定できる。桁行方向は N - 71° - E の東西棟である。確認できた規模は、桁行 7.20 m、梁行 3.60 m である。柱間寸法は、桁行・梁行ともに 180 m (6 尺) で、柱筋はほぼ描っている。

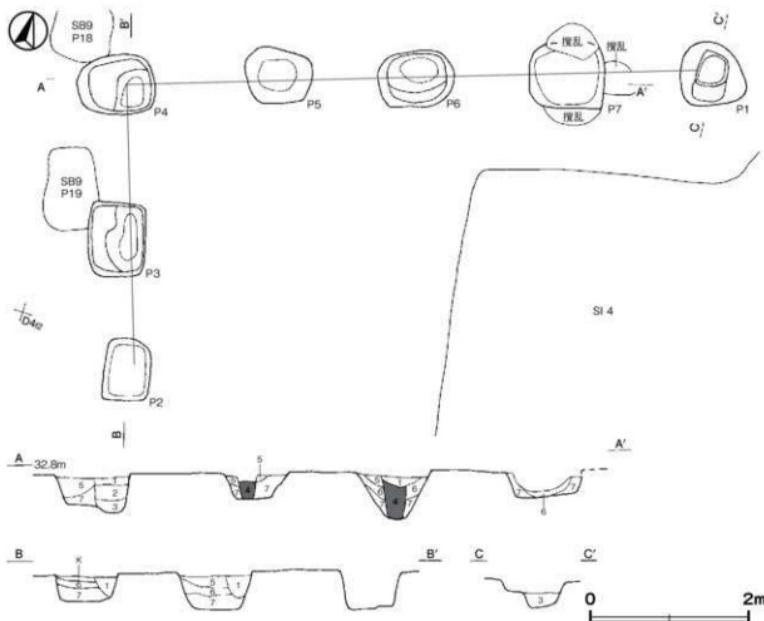
**柱穴** 7 か所。平面形は楕円形または隅丸長方形で、長径（軸）77 ~ 97 cm、短径（軸）57 ~ 80 cm である。深さは 31 ~ 62 cm で、掘方の壁はやや外傾している。第 1 ~ 3 層は柱抜き取り後の覆土、第 4 層は柱痕跡、第 5 ~ 7 層は埋土である。

#### 柱穴土層解説（各柱穴共通）

1 黒 級 色 ロームブロック少量	5 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
2 黒 級 色 ロームブロック・炭化粒子少量	6 暗 褐 色 ロームブロック少量
3 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量	7 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
4 黒 級 色 ローム粒子少量・炭化粒子微量	

**遺物出土状況** 土師器片 13 点（环 8, 壺 5), 須恵器片 14 点（环 8, 高台付环 1, 盖 2, 盘 1, 壺 2) のほか、弥生土器片 3 点（壺）が、P 2 を除く柱穴から出土している。遺物は細片のため、図示できない。

**所見** 時期は、9 世紀前葉の第 9 号掘立柱建物跡を掘り込んでいることから、9 世紀中葉と考えられる。性格は、構造から「屋」としての機能が想定できる。



第69図 第22号掘立柱建物跡実測図

#### 第27号掘立柱建物跡（第70図）

位置 調査区北部のC 4 e3 区、標高33 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第139・142号土坑を掘り込んでいる。

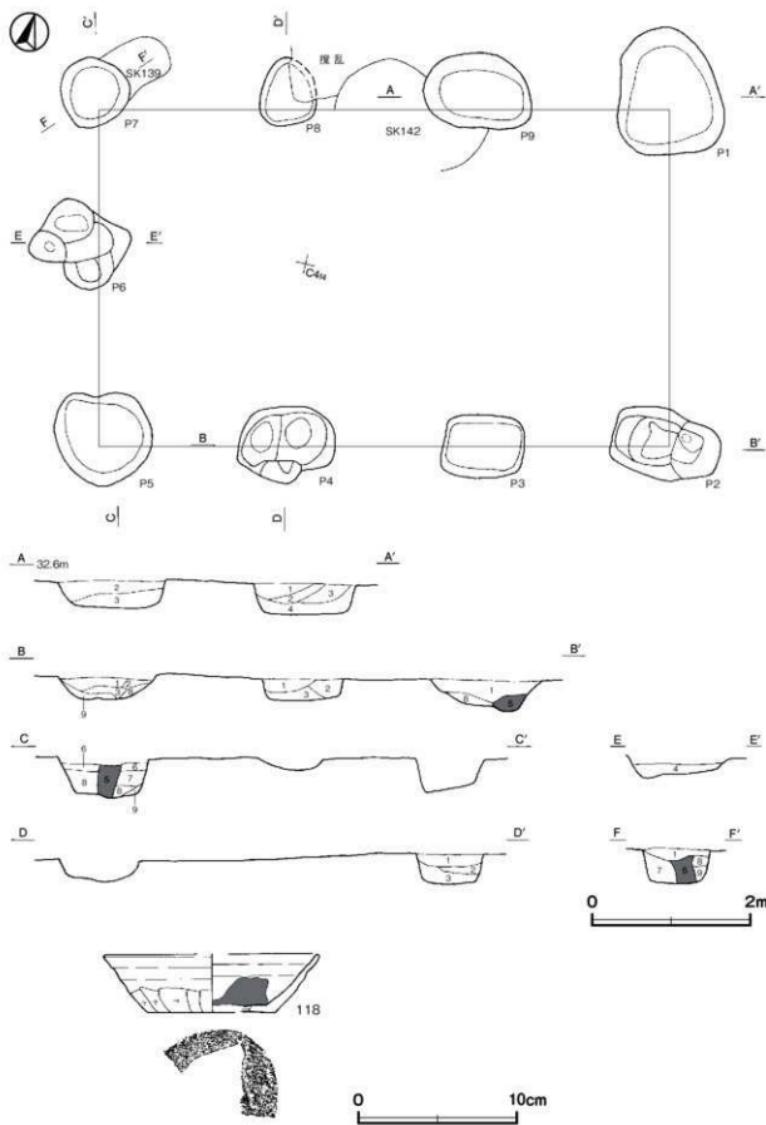
規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN - 75° - Eの東西棟である。規模は、桁行7.20 m、梁行4.20 mで、面積は30.24m<sup>2</sup>である。柱間寸法は、桁行が2.40 m(8尺)、梁行は2.10 m(7尺)で、柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 9か所。平面形は楕円形または隅丸長方形で、長径(軸)88 ~ 164cm、短径(軸)78 ~ 125cmである。

深さは28 ~ 76cmで、掘方の壁はやや外傾している。第1 ~ 4層は柱抜き取り後の覆土、第5層は柱痕跡、第6 ~ 9層は埋土である。

#### 柱穴土層解説（各柱穴共通）

1	褐	色	ロームブロック・焼土粒子微量	6	暗	褐	色	ロームブロック中量
2	褐	色	炭化粒子微量	7	暗	褐	色	ロームブロック少量
3	黒	褐	ロームブロック少量、炭化粒子微量	8	黒	褐	色	ロームブロック少量
4	褐	色	ロームブロック多量	9	暗	褐	色	ロームブロック多量
5	黒	褐	ローム粒子少量					



第70図 第27号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師器片 17 点（环 5、甕 12）、須恵器片 25 点（环 16、高台付环 2、蓋 2、甕 4、瓶 1）のほか、弥生土器片 7 点（蓋 1）が、P 2 ~ P 4・P 7 ~ P 9 から出土している。

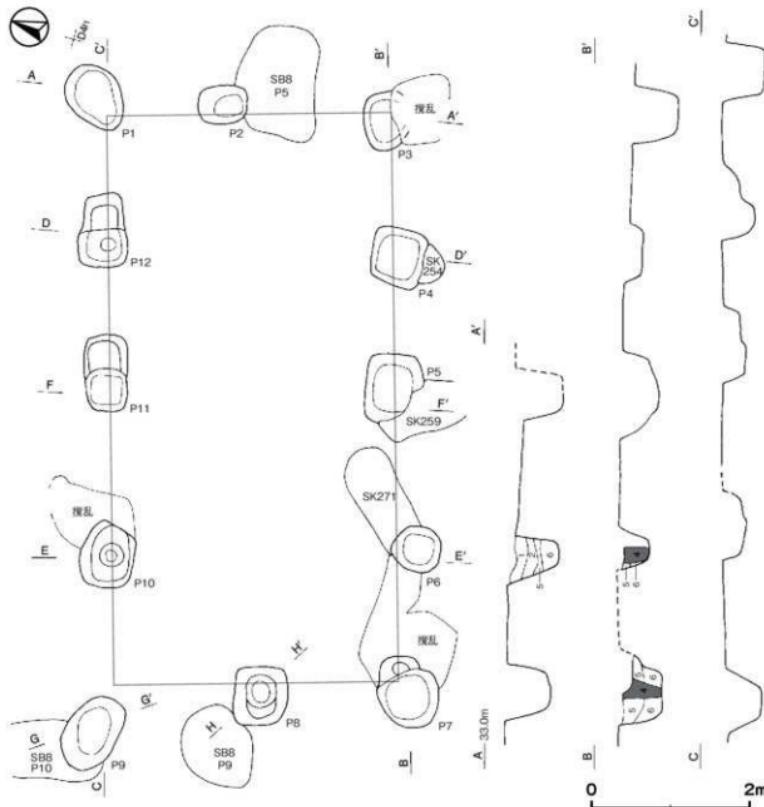
**所見** 時期は、第 10 号掘立柱建物と桁行方向がほぼ同じことから、同時期の 9 世紀前葉と考えられる。性格は、構造から「屋」としての機能が想定できる。

第 27 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 70 図）

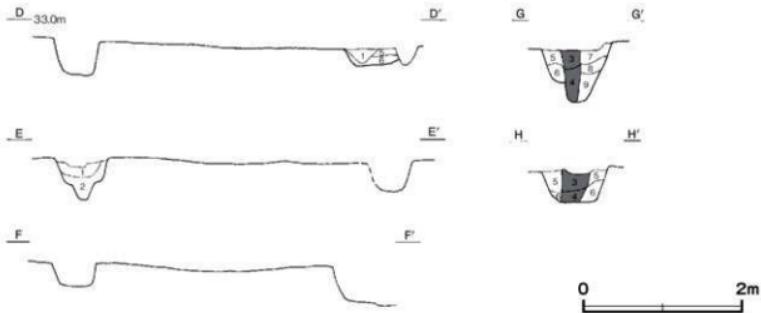
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
118	須恵器	环	[13.4]	3.7	[8.0]	灰石・石英・黄玉・細織	灰白	良好	本施下端子持ちへら削り 内面に油煙付着 破部へラ削り	P 7 覆土中	40%

第 30 号掘立柱建物跡（第 71・72 図）

**位置** 調査区西部の D 388 区、標高 33 m ほどの台地平坦部に位置している。



第 71 図 第 30 号掘立柱建物跡実測図(1)



第72図 第30号掘立柱建物跡実測図(2)

**重複関係** 第8号掘立柱建物跡、第271号土坑を掘り込み、第254・259号土坑に掘り込まれている。

**規模と構造** 桁行4間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-74°-Eの東西棟である。規模は、桁行7.20m、梁行3.60mで、面積は25.92m<sup>2</sup>である。柱間寸法は、桁行、梁行ともに1.80m(6尺)で、柱筋は、P9が外側に出るが、それ以外はほぼ揃っている。

**柱穴** 12か所。平面形は円形または梢円形で、長径62~100cm、短径40~88cmである。深さは18~72cmで、掘方の壁はやや外傾している。第1・2層は柱抜き取り後の覆土、第3・4層は柱痕跡、第5~9層は埋土である。

#### 柱穴土層解説(各柱穴共通)

1	褐	色	ローム粒子中量、焼土粒子微量	6	暗	褐	色	ローム粒子少量、焼土粒子、炭化粒子微量
2	褐	色	ローム粒子少量	7	黒	褐	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3	黒	褐	ローム粒子、炭化粒子少量	8	黒	褐	色	ロームブロック少量
4	暗	褐	色	ローム粒子少量	9	黒	褐	色
5	暗	褐	色	ロームブロック、炭化粒子少量				ローム粒子微量

**遺物出土状況** 土器器片32点(环6、甕26)、須恵器片48点(环42、高台付环2、甕4)のほか、弥生土器片2点(甕)が、各柱穴から出土している。遺物は細片のため、図示できない。

**所見** 時期は、第14号掘立柱建物跡と桁行方向がほぼ同じであることから、同時期の9世紀中葉と考えられる。性格は、規模と構造から「屋」としての機能が想定できる。

表8 平安時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁(肩)	規 格 桁×梁(m)	面 積 (m <sup>2</sup> )	柱間寸法		柱 穴			主な出土遺物	時 期	備 考	
						柱間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数	平 面 形	深さ(cm)			
3	E 3a9	N-77°-E	(1)×(1)	(2.20)×(2.70)	-	2.70	2.70	側柱	3	長方形	92~99	土器器、須恵器	9世紀前半	SB 4→本跡
5	E 3e7	N-75°-E	(3)×(2)	(5.85)×(3.90)	-	1.95	1.95	側柱	3	楕円形	83~92	土器器	9世紀前半	SB33→本跡、井戸附近
9	D 3a9	N-13°-W	5×3	10.50×5.40	56.70	2.30	1.80	側柱	16	椭円-圓柱形	45~102	土器器、須恵器、平底	9世紀前半	SB 8、SK26→本跡、H22
10	C 4g5	N-79°-E	3×2	5.85×3.90	22.82	1.95	1.95	側柱	12	円形-椭円形	20~53	土器器、須恵器	9世紀前半	SB36、SK220→本跡
11	C 4f2	N-75°-E	(3)×(2)	(5.85)×(3.60)	-	1.95	1.80	側柱	6	楕丸底方形	74~98	土器器、須恵器	9世紀前半	SB125A 4→本跡
13	D 3b6	N-12°-W	3×2	6.30×4.20	26.46	2.10	2.10	側柱	10	椭円-圓柱形	50~120	土器器、須恵器	9世紀前半	TS 2、SK30→本跡、S 6
14	D 3a9	N-75°-E	(4)×(1)	(8.40)×(3.60)	-	2.10	3.60	側柱	6	椭円-圓柱形	72~109	土器器、須恵器	9世紀前半	SA 3と新田不詳

番号	位置	柱行方向	柱間数 列×渠(間)	規 模 柱 × 壁(m) (m)	面 積 (m <sup>2</sup> )	柱間寸法		柱 穴			主な出土遺物	時 期	備 考	
						列間(m)	渠間(m)	構造	柱穴形	深さ(cm)				
15	D 3b8	N - 76° - E	(3) × (2)	(5.40) × (4.50)	-	1.80	2.25	圓柱	6	梢円形	33 - 65	土器器、須恵器	9世紀中葉	SK172・SK183・ 211・588・SK185・ 313・503・313・505・ 4・52・9・SK186
19	C 4j1	N - 74° - E	5 × 2	10.50 × 5.10	53.55	2.10	2.55	圓柱	13	梢円・直底形	36 - 105	土器器、須恵器、 鉢類	9世紀前葉	SK189・313・505・ 4・52・9・SK186
21	C 4h3	N - 11° - W	4 × 2	7.80 × 4.80	37.44	1.95	2.40	圓柱	12	梢円・直底形	35 - 99	土器器、須恵器	9世紀前葉	SK189・313・505・ 4・52・9・SK186
22	D 4e2	N - 71° - E	(4) × (2)	(7.20) × (3.60)	-	1.80	1.80	圓柱	7	梢円・直底形	31 - 62	土器器、須恵器	9世紀中葉	SK189 - 本跡
27	C 4e3	N - 75° - E	3 × 2	7.20 × 4.20	30.24	2.10	2.10	圓柱	9	梢円・直底形	28 - 76	土器器、須恵器	9世紀前葉	SK189・313・505・ 4・52・9・SK186
30	D 3b8	N - 74° - E	4 × 2	7.20 × 3.60	25.92	1.80	1.80	圓柱	12	円形・梢円形	18 - 72	土器器、須恵器	9世紀中葉	SK189・269

### (3) 土坑

#### 第89号土坑（第73図）

位置 調査区南西部のD 3 g8区、標高33 mほどの台地平坦部に位置している。

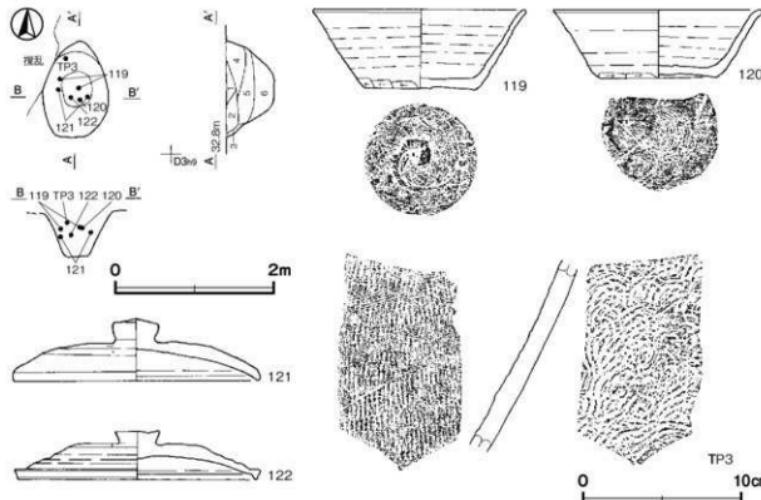
規模と形状 北西部が搅乱を受けているが、長径12.2 m、短径0.84 mの梢円形である。長径方向はN - 8° - Eで、深さは56cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾している。

覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 0cm ローム粒子微量
- 2 暗褐色 0cm ローム粒子、焼土粒子、炭化粒子微量
- 3 黄褐色 0cm ロームブロック中量

- 4 暗褐色 0cm 焼土ブロック中量、ローム粒子微量
- 5 暗褐色 0cm 焼土ブロック少量、ローム粒子微量
- 6 暗褐色 0cm ロームブロック少量



第73図 第89号土坑・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師器片 32 点（环 5, 壺 27）、須恵器片 52 点（环 33, 高台付环 3, 盖 8, 高盤 2, 瓶類 1, 壺 5）のほか、弥生土器片 1 点（壺）が、中央部の覆土中層からまとまって出土している。119～122 は、覆土中層からまとまって出土していることから、埋め戻す過程で一括投棄されたものとみられる。

**所見** 時期は、出土土器から 9 世紀前葉に比定できる。出土した遺物は、8 世紀後葉から 9 世紀前葉にかけての様相で、完形ではなく破損しているものが大半である。性格は不明である。

第 89 号土坑出土遺物観察表（第 73 図）

番号	種別	器種	口径	深度	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
119	須恵器	环	13.2	5.2	7.1	長石・石英・ 細理	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	覆土中層	95% PL14
120	須恵器	环	13.0	4.4	7.5	長石・石英・ 細理	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転系切り後	覆土中層	60% PL14
121	須恵器	蓋	15.4	3.9	-	長石・石英・ 細理	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中層	80% 壁内窓 PL19
122	須恵器	蓋	[15.0]	3.0	-	長石	灰	良好	天井部回転ヘラ削り	覆土中層	40%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP.3	須恵器	壺	長石・石英	暗灰黄	体部外縫継の平行叩き　内面当て具痕	覆土上層	PL24

第 260 号土坑（第 74 図）

**位置** 調査区南西部の D3e9 区、標高 33 m ほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第 298 号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 径 1.49 m の円形で、深さは 20 cm である。底面はほぼ平坦で、壁は外傾している。

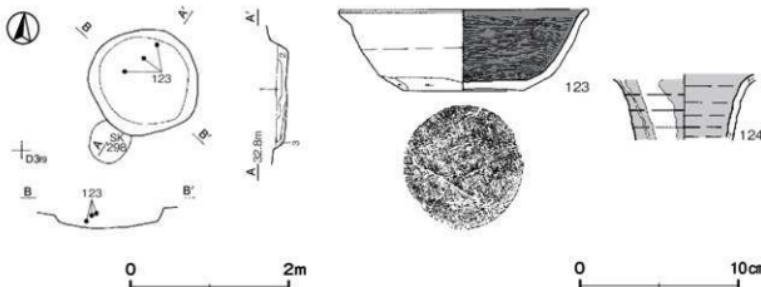
**覆土** 3 層に分層できる。ロームや焼土、粘土のブロックが含まれていることから埋め戻されている。

#### 土層解説

- 1 白 色 粘土ブロック中量　焼土ブロック・炭化粒子少量　3 黒 桂色 ロームブロック少量  
2 黒 桂色 ロームブロック・燒土粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片 65 点（环 11, 高台付环 1, 壺 53）、須恵器片 38 点（环 26, 高台付环 1, 盖 2, 壺 9）、灰釉陶器 1 点（瓶頸）のほか、弥生土器片 2 点（壺）が、北部の覆土中層から上層にかけて出土している。123 は破片が接合したもので、覆土中層から上層にかけて出土していることから、埋め戻す過程で投棄されたものとみられる。

**所見** 時期は、出土土器から 9 世紀中葉に比定できる。性格は不明である。



第 74 図 第 260 号土坑・出土遺物実測図

第260号土坑出土遺物観察表（第74図）

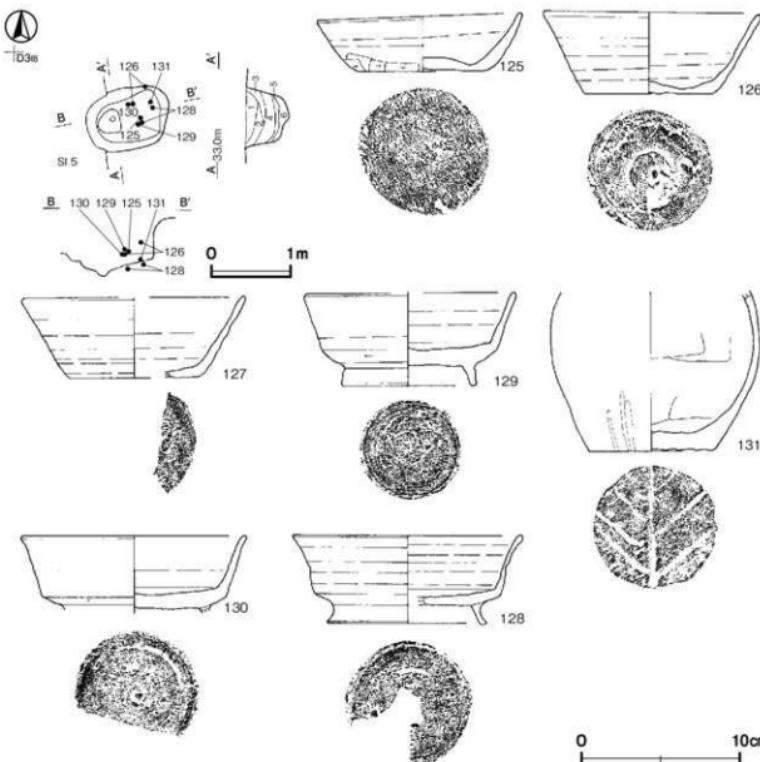
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
123	土器部	环	15.5	5.2	7.6	長石・石英・ 珪母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通 二方向のへら削り	体部下端手持ちへら削り 内面へら削き 底部 裏土中～上層	100% PL.13	
124	灰陶壺	瓶型	-	(4.3)	-	長石・石英	オリーブ黄	良好	頭部 体部外・内面に難	裏土中	5%

第266号土坑（第75図）

位置 調査区南西部のD318区、標高33mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第5号竖穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 西部が第5号竖穴建物に掘り込まれているが、長径1.09m、短径0.78mの楕円形と推定できる。長径方向はN-66°-Eで、深さは55cmである。底面は凸凹で、壁はほぼ直立している。



第75図 第266号土坑・出土遺物実測図

**覆土** 6層に分層できる。多くの層にロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

#### 土層解説

1	暗	褐	色	ローム粒子中量、焼土粒子微量	4	黒	褐	色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
2	暗	褐	色	焼土ブロック・ローム粒子微量	5	暗	褐	色	ロームブロック微量
3	暗	褐	色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	6	暗	褐	色	ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片 45 点（坏 2, 壺 42, 小形壺 1）、須恵器片 40 点（坏 31, 高台付坏 6, 壺 3）のほか、剥片 1 点が、東半部の覆土下層から底面にかけて出土している。遺物は、まとまって出土していることから、埋め戻す過程で廃棄されたものとみられる。

**所見** 時期は、出土土器から 9 世紀前葉に比定できる。出土した遺物は、8 世紀後葉から 9 世紀前葉にかけての様相で、完形ではなく破損しているものが大半である。性格は不明である。

第 266 号土坑出土遺物観察表（第 75 図）

番号	種別	器種	口径	鉢高	底径	胎 土	色 調	施成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
125	須恵器	坏	12.7	3.7	8.1	長石・細繩	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り	覆土下層	95% PL15
126	須恵器	坏	13.5	5.2	8.1	長石・石英・白色 粘土質・細繩	灰黄	良好	底面ナデ	覆土下層	80%木素下層 PL14
127	須恵器	坏	[14.0]	5.2	[8.0]	長石・石英・白色 粘土質・細繩	灰	普通	底部ヘラナデ	覆土中	20%
128	須恵器	高台付坏	14.4	5.6	9.8	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	底面	80% PL18
129	須恵器	高台付坏	[13.0]	5.9	8.2	長石・石英・ 細繩	灰	良好	体部下端削りヘラ削り 底部回転ヘラ削り後、 高台貼り付け	覆土下層	70%灰・内層 PL19
130	須恵器	高台付坏	14.0	(4.9)	-	長石・石英・ 細繩	黄灰	良好	体部下端削りヘラ削り 底部回転ヘラ削り後、 高台貼り付け	覆土下層	50%灰・内層
131	土器部	小形壺	-	(10.1)	7.8	長石・石英・ 粘土・赤色粒子	に赤い 芯	普通	体部下端ヘラ削き 内面ヘラナデ 底部木素痕	底面	30%

表9 平安時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	側 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長軸×短軸 (m)	深さ (cm)					
89	D 3.g8	N - 8° - E	【円形】	1.22 × 0.84	56	平坦	外傾	人為	土器器、須恵器	
260	D 3.e9	-	円形	1.49 × 1.49	20	平坦	外傾	人為	土器器、須恵器、灰釉陶器	SK298 → 本跡
266	D 3.88	N - 66° - E	【楕円形】	(1.09) × 0.78	55	凹凸	直立	人為	土器器、須恵器	本跡 → SI 5

#### 5 その他の遺構と遺物

今回の調査で、江戸時代から近現代まで利用されていたと考えられる水田跡 1か所とそれに伴う溝跡 3 条を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

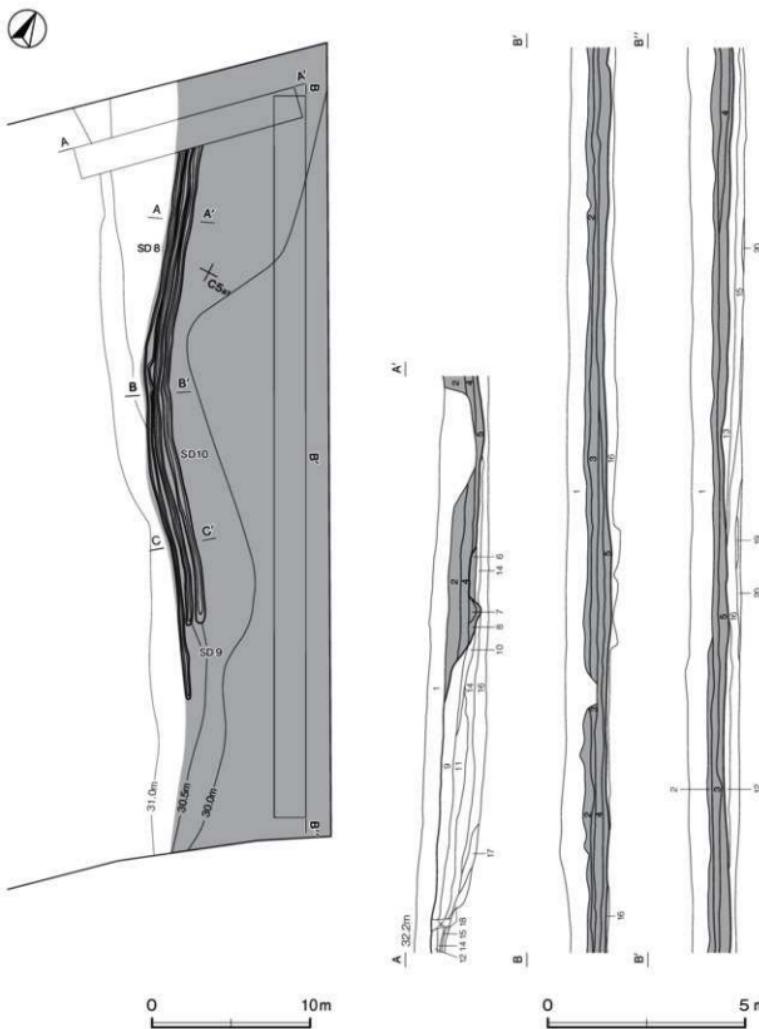
##### (1) 水田跡

###### 第 1 号水田跡（第 76 図）

**位置** 調査区北東部の B 4 h9 ~ C 5 h6 区、標高 30 ~ 31 m の低地部に位置している。

**確認状況** 調査区域外の東側低地には、現在も水田が広がっており、稲作が行われていることから、調査区東部の北端及び東端にトレンチを設定して、水田跡の所在を確認するとともに、土層断面の観察を行った。

**規模と形状** 北・東・南部が調査区域外に延びておらず、確認できた範囲は、北西・南東方向に長さ 52.90 m、北東・南西方向に幅 11.50 m で、面積は 608.35m<sup>2</sup> である。水田面（第 5 層上面）の標高は、西端部が 30.5 m、東端部



第76図 第1号水田跡、第8・9・10号溝跡実測図

は 30.3 m、南東端部が 30.2 m で、南東に向かってやや傾斜している。

**堆積状況** 20 層の堆積層がみられる。黒褐色土が主体で、酸化鉄を含んでいる層もある。第 1 層は現代の耕作土である。第 5 層は水田耕作土、第 6 層は水田畦畔の盛土、第 7・8 層は用水路に堆積した層と考えられる。

第 14 ~ 20 層からは、土師器や須恵器類が出土したため、平安時代以前の層とすることができる。

#### 土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・白色粒子微量	11 黒 褐 色 ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量
2 黒 褐 色 ローム粒子・燒土粒子・白色粒子微量	12 褐 灰 色 白色粒子中量、ローム粒子微量
3 黑 褐 色 酸化鉄少量、ローム粒子・燒土粒子微量	13 黑 褐 色 白色粒子・酸化鉄少量、ローム粒子微量
4 黑 褐 色 ローム粒子・燒土粒子微量	14 黑 褐 色 ローム粒子微量
5 黑 褐 色 酸化鉄少量、ローム粒子・白色粒子微量	15 黑 褐 色 白色粒子中量、酸化鉄少量、ローム粒子微量
6 黑 褐 色 ローム粒子・酸化鉄少量	16 黑 褐 色 酸化鉄中量、ローム粒子微量
7 黑 褐 色 ローム粒子・酸化鉄微量	17 黑 褐 色 酸化鉄少量
8 黑 褐 色 ローム粒子少量	18 黑 褐 色 酸化鉄微量
9 黑 褐 色 燃土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・白色粒子 微量	19 黑 褐 色 ローム粒子・酸化鉄微量
10 黑 褐 色 酸化鉄少量、ローム粒子微量	20 黑 色 ローム粒子微量

**遺物出土状況** 本跡に伴う遺物は出土していない。

**所見** 土層断面の観察からは、稲作の放棄後の用水路や畦畔、水田面（第 5 層上面）と考えられる痕跡を確認することができた。水田耕作土の第 5 層は、土壤の植物珪酸体分析が未実施のため、稲作を行っていたことは確実視できない。しかし、第 2・4・6 層は、土壤分析によるイネ属の植物珪酸体の含量がかなり多いことから、江戸時代から近現代（戦前）までにおいて稲作が行われていた可能性が高い。戦後、稲作を止めて水田としての耕作を放棄したまま現在に至ったものと考えられる。

#### ・取配水方法

水田への取水は、北部の調査区域外から第 8・9・10 号溝跡を流れ、水田に配水されたと考えられる。水口については確認できなかった。

#### 第 8 号溝跡（第 76・77 図）

**位置** 調査区東部の B 419 ~ C 5 g3 区、標高 30 ~ 31 m の低地部に位置している。

**確認状況** 調査区域外の東側低地に現在の用水路が本跡と平行して流れている。第 9・10 号溝跡と近接し、平行して同じ方向へ延びている。

**規模と形状** 北端部が調査区域外へ延びているため、長さは 35.01 m ほどしか確認できなかった。C 5 g3 区から北西方向（N - 36° - W）へ直線的に延び、C 5 c1 区で北方向（N - 19° - W）へ若干屈曲し、B 419 区まで直線的に延びている。規模は、上幅 0.20 ~ 0.62 m 下幅 0.06 ~ 0.44 m で、確認面からの深さは 10 ~ 20 cm である。底面の標高は、北端部、南端部、中央部の C 5 c1 区とも 30.5 m で、同じ高さである。断面形は U 字状である。

**覆土** 2 層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

#### 第 8 号溝跡土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子少量	2 黑 褐 色 ローム粒子微量
-----------------	-----------------

**所見** 第 1 号水田跡の上層断面から判断し、第 1 号水田跡に伴う用水路と考えられる。用水路とした場合、さらに南方向へ延びていたと推測できるが、現況で確認できたのは、ここまでである。規模や形状が類似していることから、第 9・10 号溝跡も同様の用水路と考えられるが、重複箇所はなく、新旧関係は不明である。

### 第9号溝跡（第76・77図）

**位置** 調査区東部のB 49～C 5e3区、標高30～31mの低地部に位置している。

**確認状況** 調査区域外の東側低地に現在の用水路が本跡と平行して流れている。第8・10号溝跡と近接し、平行して同じ方向へ延びている。

**規模と形状** 北端部が調査区域外へ延びているため、長さは30.52mほどしか確認できなかった。C 5e3区から北西方向（N - 36° - W）へ直線的に延び、C 5e1区で北方向（N - 19° - W）へ若干屈曲し、B 49区まで直線的に延びている。規模は、上幅0.19～0.48m下幅0.04～0.21mで、確認面からの深さは17～26cmである。底面の標高は、北端部が30.4m、中央部のC 5e1区は30.6m、南端部が30.5mで、北と南に向かって若干傾斜をしている。断面形はU字状である。

**覆土** 2層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

#### 第9号溝跡土層解説

1 黒褐色 ローム粘子微量

2 暗褐色 ロームブロック微量

**所見** 第1号水田跡の土層断面から判断し、第1号水田跡に伴う用水路と考えられる。用水路とした場合、さらに南方向へ延びていたと推測できるが、現況で確認できたのは、ここまでである。規模や形状が類似していることから、第8・10号溝跡も同様の用水路と考えられるが、重複箇所ではなく、新旧関係は不明である。

### 第10号溝跡（第76・77図）

**位置** 調査区東部のB 49～C 5e3区、標高30～31mの低地部に位置している。

**確認状況** 調査区域外の東側低地に現在の用水路が本跡と平行して流れている。第8・9号溝跡と近接し、平行して同じ方向へ延びている。

**規模と形状** 北端部が調査区域外へ延びているため、長さは30.55mほどしか確認できなかった。C 5e3区から北西方向（N - 36° - W）へ直線的に延び、C 5e1区で北方向（N - 19° - W）へ若干屈曲し、B 49区まで直線的に延びている。規模は、上幅0.34～0.60m下幅0.08～0.38mで、確認面からの深さは28～36cmである。底面の標高は、北端部が30.2m、中央部のC 5e1区は30.6m、南端部が30.4mで、北と南に向かって若干傾斜をしている。断面形はU字状である。

**覆土** 4層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

#### 第10号溝跡土層解説

1 暗褐色 ローム粘子微量

3 黒褐色 ロームブロック微量

2 黒褐色 ローム粘子微量

4 黒褐色 ローム粘子少量

**所見** 第1号水田跡の土層断面から判断し、第1号水田跡に伴う用水路と考えられる。用水路とした場合、さらに南方向へ延びていたと推測できるが、現況で確認できたのは、ここまでである。規模や形状が類似していることから、第8・9号溝跡も同様の用水路と考えられるが、重複箇所ではなく、新旧関係は不明である。



第77図 第8・9・10号溝跡実測図

表10 水田跡に伴う溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	風 横			断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)					
8	B 419-C 5e3	N-19°-W N-36°-W	直線状	(35.01)	0.20~ 0.62~	0.06~ 0.44~	10~20	U字状	外傾	自然	
9	B 419-C 5e3	N-19°-W N-36°-W	直線状	(30.52)	0.19~ 0.48~	0.04~ 0.21~	17~26	U字状	外傾	自然	
10	B 419-C 5e3	N-19°-W N-36°-W	直線状	(30.35)	0.34~ 0.60~	0.08~ 0.38~	28~36	U字状	外傾	自然	

今回の調査で、時期や性格が明らかでない土坑199基、柱穴の可能性がある土坑8基、柱穴列4条、溝跡7条を確認した。これらのうち特徴的な遺構については文章で記述し、それ以外の遺構については実測図、土層解説及び一覧表を掲載する。

## (2) 土坑

### 第230号土坑（第78図）

**位置** 調査区西部のD 3 a0区、標高33mほどの台地平坦部に位置している。

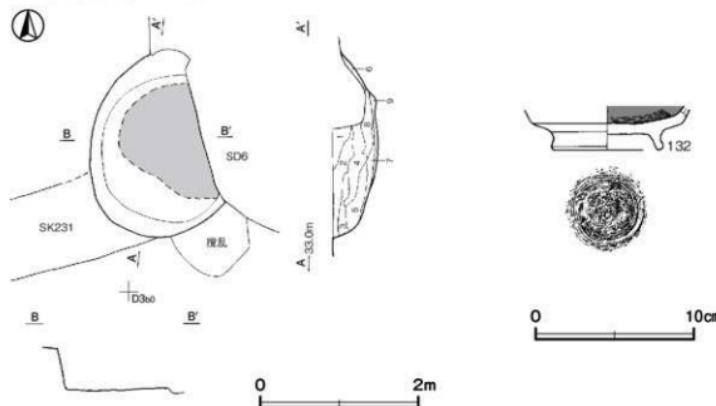
**重複関係** 第231号土坑を掘り込み、第6号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 東部が第6号溝に掘り込まれているため、南北径は2.40mで、東西径は1.55mしか確認できなかった。平面形は梢円形と推定できる。長径方向はN-5°-Eで、深さは52cmである。底面はほぼ平坦で、火熱を受け、赤変硬化している。壁面は外傾している。

**覆土** 9層に分層できる。多くの層にロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量	6 暗赤褐色	焼土ブロック多量
2 黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	7 暗褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック少量
3 黒褐色	ロームブロック中量、燒土粒子少量	8 灰褐色	ローム粒子少量
4 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	9 赤褐色	焼土ブロック少量
5 暗褐色	焼土ブロック微量		



第78図 第230号土坑・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師器片9点（高台付坏1, 壺8）。須恵器片15点（坏14, 高台付坏1）が覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀中葉には埋め戻されたと考えられるが、ほとんどの遺物が細片のため、詳細は不明である。第248号土坑と形状や底面が赤変硬化している点で類似しているため、同時期か近い時期に存在した可能性がある。性格は、底面が火熱を受け、赤変硬化しているため、何らかの焼成あるいは焼却施設としての機能が想定できる。

第230号土坑出土遺物観察表（第78図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
132	土師器	高台付坏	-	(2.80)	6.6	瓦石・石英・ 黄母・褐色粒子	赤褐色	普通 目付	内面へラ磨き 底部回転へラ削り後、高台盛り	覆土中	40%

第248号土坑（第79図）

**位置** 調査区中央部のC4J2区、標高33mはどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第9号堅穴建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 南西部が搅乱を受けているが、長径225m、短径221mの円形で、深さは77cmである。底面はほぼ平坦で、火熱を受け、赤変硬化している。壁は直立している。

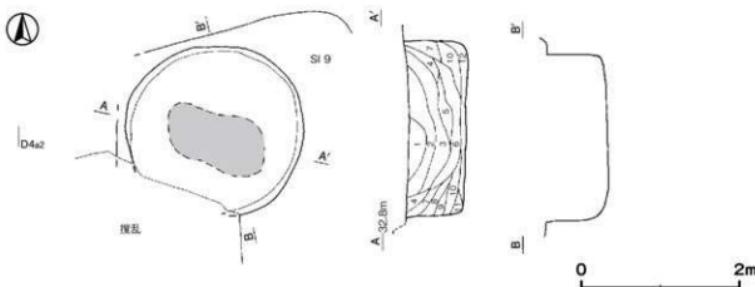
**覆土** 12層に分層できる。多くの層にロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

1	黒	褐	色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量	7	褐	色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	
2	黒	褐	色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8	褐	色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	
3	暗	褐	色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量	9	褐	色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	
4	暗	褐	色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	10	にじみ褐色	色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物微量	
5	暗	褐	色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	11	黒	褐	色	焼土ブロック・炭化物中量、ロームブロック微量
6	暗	褐	色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	12	灰	褐	色	焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量

**遺物出土状況** 弥生土器片3点（壺）が覆土中から出土している。

**所見** 時期は、重複関係から9世紀中葉以前と考えられるが、遺物が少ないと認められる。第230号土坑と形状や底面が赤変硬化している点で類似しているため、同時期か近い時期に存在した可能性がある。性格は、底面が火熱を受け、赤変硬化しているため、何らかの焼成あるいは焼却施設としての機能が想定できる。



第79図 第248号土坑実測図

### 第291号土坑（第80図）

**位置** 調査区分中央部のC43区、標高32mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第2・10号竪穴建物、第21・24号掘立柱建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 南部が第21・24号掘立柱建物に掘り込まれているが、長径254m、短径240mの円形と推定でき、深さは70cmである。底面は凹凸があり、壁は直立している。

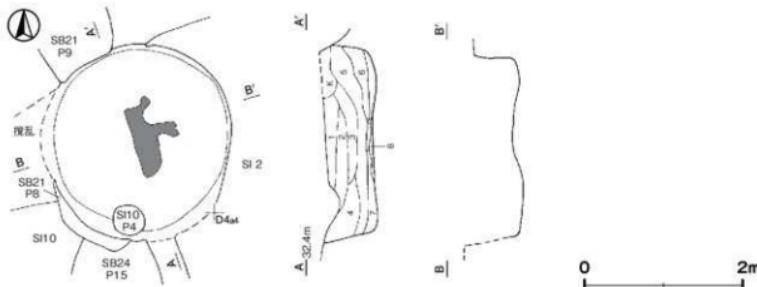
**覆土** 8層に分層できる。多くの層にロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第8層には、炭化米を含んでいる。

#### 土層解説

1	暗	褐	色	ロームブロック多量、炭化粒子中量、焼土ブロック少量	5	褐	色	ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子少量	
2	暗	褐	色	焼土ブロック多量、ロームブロック、炭化粒子中量	6	暗	褐	色	焼土ブロック中量、ロームブロック少量
3	暗	褐	色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	7	暗	褐	色	焼土ブロック多量、炭化物・ローム粒子中量
4	暗	褐	色	ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子微量	8	褐	色	炭化物多量、ロームブロック・焼土ブロック中量	

**遺物出土状況** 土器類10点（壺6、甕4）、須恵器8点（壺7、蓋1）、炭化米（620g）のほか、縄文土器1点（深鉢）、弥生土器1点（壺）が、覆土中から出土している。炭化米は、底面の中央部からまとまって出土している。遺物は細片のため、図示できない。

**所見** 時期は、重複関係から奈良時代と考えられるが、遺物が少ないため不明である。第230・248号土坑と形状は類似しているが、底面には火熱を受けておらず、炭化米が遺存していた点に相違がある。性格は不明である。



第80図 第291号土坑実測図

#### 第1号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量

#### 第2号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

#### 第5号土坑土層解説

1 暗 褐 色 鹿沼バミスブロック中量、粘土ブロック少量、ロームブロック微量

2 暗 褐 色 鹿沼バミスブロック・粘土ブロック少量、ローム粒子微量

#### 第7号土坑土層解説

1 褐 色 ロームブロック中量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量

#### 第10号土坑土層解説

1 褐 色 ロームブロック中量

2 褐 色 ロームブロック中量、炭化物微量

3 暗 褐 色 ロームブロック少量

4 褐 色 ロームブロック多量

#### 第15号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量

#### 第 16 号土坑土層解説

- 1 墓 褐 色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 3 墓 褐 色 ロームブロック少量
- 4 墓 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 6 墓 褐 色 ロームブロック中量
- 7 にぬ・青褐色 ロームブロック中量

#### 第 17 号土坑土層解説

- 1 墓 褐 色 ロームブロック少量
- 2 墓 褐 色 ロームブロック微量
- 3 墓 褐 色 ロームブロック中量
- 4 褐 色 ロームブロック中量

#### 第 22 号土坑土層解説

- 1 墓 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 墓 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 墓 褐 色 ロームブロック微量

#### 第 24 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 墓 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 炭化粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子微量
- 4 泰 褐 色 烧土粒子多量、炭化粒子微量
- 5 黑 褐 色 烧土ブロック・炭化物少量
- 6 墓 褐 色 烧土粒子多量、炭化物少量、ロームブロック微量

#### 第 25 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 褐 色 ロームブロック少量

#### 第 26 号土坑土層解説

- 1 墓 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 にぬ・青褐色 ロームブロック少量

#### 第 28 号土坑土層解説

- 1 墓 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 墓 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量
- 4 墓 褐 色 ロームブロック少量
- 5 褐 色 ロームブロック中量

#### 第 30 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量
- 2 墓 褐 色 ロームブロック微量
- 3 褐 色 ロームブロック多量
- 4 墓 褐 色 ロームブロック少量
- 5 褐 色 ロームブロック中量

#### 第 32 号土坑土層解説

- 1 墓 褐 色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 3 墓 褐 色 ローム粒子中量

#### 第 33 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量
- 2 墓 黑 褐 色 ロームブロック微量
- 3 墓 褐 色 ロームブロック中量

#### 第 35 号土坑土層解説

- 1 墓 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量
- 2 墓 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 3 にぬ・青褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 墓 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 墓 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

#### 第 36 号土坑土層解説

- 1 墓 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 にぬ・青褐色 ロームブロック中量
- 3 墓 褐 色 烧土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 4 にぬ・青褐色 ロームブロック少量

#### 第 37 号土坑土層解説

- 1 墓 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 墓 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 墓 褐 色 ロームブロック少量
- 4 墓 褐 色 ロームブロック中量

#### 第 38 号土坑土層解説

- 1 墓 褐 色 烧土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 墓 褐 色 烧土ブロック少量、ローム粒子微量
- 3 にぬ・青褐色 ロームブロック中量

#### 第 39 号土坑土層解説

- 1 墓 褐 色 烧土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 墓 褐 色 烧土ブロック少量、ローム粒子微量
- 3 墓 褐 色 烧土粒子少量、ローム粒子微量

#### 第 40 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 墓 褐 色 ロームブロック少量
- 3 にぬ・青褐色 ロームブロック中量
- 4 墓 褐 色 ロームブロック少量

#### 第 41 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック微量
- 2 墓 褐 色 ロームブロック少量
- 3 墓 褐 色 ロームブロック多量
- 4 墓 褐 色 ロームブロック中量

#### 第 42 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック微量
- 2 墓 褐 色 ロームブロック少量
- 3 墓 褐 色 ロームブロック少量
- 4 墓 褐 色 ロームブロック中量

#### 第 43 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック中量
- 2 墓 褐 褐 色 ロームブロック少量
- 3 黑 褐 色 ロームブロック少量
- 4 黑 褐 色 ロームブロック少量

#### 第 44 号土坑土層解説

- 1 墓 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 墓 褐 色 ロームブロック少量

- #### 第 45 号土坑土層解説
- 1 黑 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
  - 2 墓 褐 色 ローム粒子微量
  - 3 明 褐 色 ローム粒子多量

#### 第 46 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 墓 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 墓 褐 色 ロームブロック中量

#### 第 47 号土坑土層解説

- 1 墓 褐 色 ロームブロック微量
- 2 墓 褐 色 ロームブロック少量
- 3 黑 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 黑 褐 色 ロームブロック少量

#### 第 48 号土坑土層解説

- 1 墓 褐 色 ロームブロック微量
- 2 黑 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 墓 褐 色 ローム粒子少量

#### 第49号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量

#### 第50号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黑褐色 ロームブロック少量

#### 第51号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

#### 第52号土坑土層解説

- 1 明褐色 ローム粒子少量・炭化粒子微量
- 2 にみ黄褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

#### 第53号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量・ロームブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

#### 第54号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

#### 第55号土坑土層解説

- 1 にみ褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 炭化粒子微量

#### 第56号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量

#### 第57号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 炭化粒子微量

#### 第58号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量

#### 第59号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

#### 第60号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

#### 第65号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

#### 第66号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

#### 第67号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

#### 第68号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 褐色 ロームブロック多量

#### 第71号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

#### 第72号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

#### 第73号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量・焼土粒子微量

#### 第74号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

#### 第75号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量・炭化粒子微量

#### 第76号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量・炭化粒子微量
- 2 にみ黄褐色 ロームブロック中量・炭化粒子微量

#### 第77号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量・炭化粒子微量

#### 第78号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量・炭化粒子微量
- 4 にみ黄褐色 ロームブロック多量

#### 第79号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック多量

#### 第83号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

#### 第84号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量・焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

#### 第85号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量・炭化粒子微量
- 2 にみ黄褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

#### 第86号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

#### 第 91 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量  
2 にぬ褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量

#### 第 92 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック微量  
3 暗褐色 ロームブロック少量  
4 にぬ褐色 ロームブロック中量

#### 第 93 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック中量  
3 にぬ褐色 ロームブロック中量  
4 暗褐色 ロームブロック少量

#### 第 94 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量  
2 暗褐色 ロームブロック多量  
3 暗褐色 ロームブロック少量  
4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

#### 第 95 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量  
2 黑褐色 ロームブロック中量

#### 第 96 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量  
2 暗褐色 ロームブロック微量  
3 黑褐色 ローム粒子微量

#### 第 97 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
2 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量  
3 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量  
4 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量  
5 褐色 ロームブロック中量  
6 褐色 ロームブロック多量

#### 第 101 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量  
2 褐色 ローム粒子中量

#### 第 102 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

#### 第 103 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック少量

#### 第 107 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子微量

#### 第 108 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量  
2 褐色 ローム粒子中量

#### 第 113 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量  
3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

#### 第 114 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック微量  
3 暗褐色 ロームブロック少量  
4 褐色 ロームブロック少量

#### 第 118 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック中量  
3 暗褐色 ロームブロック少量  
4 褐色 ロームブロック中量

#### 第 119 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量  
2 黑褐色 ローム粒子微量  
3 暗褐色 ロームブロック少量

#### 第 120 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量  
2 暗褐色 ロームブロック中量  
3 暗褐色 ロームブロック少量  
4 暗褐色 ロームブロック微量

#### 第 121 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
2 暗褐色 炭化粒子微量

#### 第 122 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量  
2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

#### 第 124 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック微量  
2 黑褐色 ローム粒子微量  
3 暗褐色 ロームブロック中量  
4 褐色 ローム粒子中量

#### 第 125 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
2 明褐色 ロームブロック多量

#### 第 126 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量  
2 褐色 ローム粒子微量  
3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

#### 第 128 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量

#### 第 136 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量  
2 褐色 ローム粒子微量

#### 第 139 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量  
2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

#### 第 141 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子少量  
2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

#### 第 142 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子・炭化粒子微量  
2 褐色 ロームブロック微量

#### 第 144 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
2 暗褐色 ローム粒子少量  
3 暗褐色 ロームブロック微量  
4 暗褐色 ロームブロック少量

#### 第 145 号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

#### 第 147 号土坑土層解説

1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック、炭化粒子微量  
3 暗褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量  
4 褐色 炭化粒子微量

#### 第 148 号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量  
2 褐色 ローム粒子中量

#### 第 149 号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック微量  
3 明褐色 ロームブロック少量

#### 第 150 号土坑土層解説

1 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、燒土ブロック微量  
2 明黃褐色 ローム粒子中量

#### 第 151 号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック、炭化粒子・粘土粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量  
3 暗褐色 ロームブロック少量  
4 褐色 ロームブロック微量  
5 褐色 ロームブロック少量

#### 第 152 号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック、燒土粒子・炭化粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量  
3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

#### 第 153 号土坑土層解説

1 赤褐色 燃土ブロック中量、ロームブロック・炭化物微量  
2 黒褐色 ロームブロック・燃土ブロック・炭化物微量  
3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量  
4 暗褐色 ロームブロック少量、燃土ブロック・炭化粒子微量

#### 第 154 号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量  
2 褐色 ロームブロック中量  
3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

#### 第 155 号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・燃土粒子・炭化粒子少量  
2 暗褐色 ロームブロック少量、燒土ブロック微量

#### 第 156 号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック微量

#### 第 158 号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量、燒土ブロック・炭化粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック中量、燒土ブロック・炭化粒子微量  
3 褐色 ロームブロック中量  
4 暗褐色 ロームブロック少量

#### 第 159 号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック微量  
2 暗褐色 燃土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量

#### 第 160 号土坑土層解説

1 黑褐色 ローム粒子微量  
2 褐色 ローム粒子中量

#### 第 162 号土坑土層解説

1 黑褐色 ローム粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック多量

#### 第 163 号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック微量  
2 にごり褐色 ロームブロック少量  
3 黑褐色 ローム粒子・燒土粒子微量

#### 第 167 号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・燒土ブロック・炭化粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック・燒土粒子微量  
3 暗褐色 ロームブロック微量

#### 第 169 号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量  
2 暗褐色 ローム粒子微量  
3 暗褐色 ロームブロック中量、燒土粒子微量  
4 暗褐色 ロームブロック微量、燒土粒子微量  
5 暗褐色 ロームブロック少量  
6 暗褐色 ロームブロック中量  
7 暗褐色 ローム粒子・燒土粒子微量  
8 暗褐色 ロームブロック微量

#### 第 170 号土坑土層解説

1 黑褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量  
2 褐色 ローム粒子微量

#### 第 171 号土坑土層解説

1 褐色 ロームブロック微量  
2 黑褐色 ローム粒子・炭化粒子微量  
3 褐色 ローム粒子少量  
4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
5 褐色 ローム粒子中量

#### 第 172 号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物・燒土粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量  
3 黑褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量  
4 暗褐色 ロームブロック中量  
5 にごり褐色 ロームブロック微量

#### 第 173 号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック微量

#### 第 175 号土坑土層解説

1 黑褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック少量  
3 褐色 ロームブロック多量

#### 第 176 号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・炭化物・燒土粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック微量

#### 第 177 号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・燒土ブロック・炭化粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック微量  
3 暗褐色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量  
4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

#### 第 178 号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量  
2 褐色 炭化粒子微量

#### 第 179 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 3 噴 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 5 噴 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

#### 第 181 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 噴 褐 色 ロームブロック微量
- 3 噴 褐 色 ロームブロック少量

#### 第 182 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

#### 第 183 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量
- 2 噴 褐 色 ロームブロック微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 4 噴 褐 色 ロームブロック中量
- 5 褐 色 ロームブロック多量

#### 第 185 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 噴 褐 色 ロームブロック少量

#### 第 186 号土坑土層解説

- 1 噴 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック中量

#### 第 187 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 2 噴 褐 色 ロームブロック微量

#### 第 189 号土坑土層解説

- 1 噴 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黑 褐 色 ロームブロック少量

#### 第 190 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 噴 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 黑 褐 色 ロームブロック微量

#### 第 191 号土坑土層解説

- 1 噴 褐 色 ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 噴 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 噴 褐 色 ロームブロック少量

#### 第 193 号土坑土層解説

- 1 噴 褐 色 ローム粒子微量
- 2 噴 褐 色 ロームブロック多量

#### 第 194 号土坑土層解説

- 1 噴 褐 色 燃土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 噴 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 3 噴 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量
- 4 にぬ・噴褐色 ロームブロック少量
- 5 噴 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

#### 第 195 号土坑土層解説

- 1 噴 褐 色 ローム粒子少量
- 2 噴 褐 色 ローム粒子中量

#### 第 196 号土坑土層解説

- 1 噴 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 噴 褐 色 ロームブロック微量

#### 第 197 号土坑土層解説

- 1 噴 褐 色 ロームブロック少量
- 2 にぬ・噴褐色 ロームブロック中量

#### 第 198 号土坑土層解説

- 1 噴 褐 色 燃土粒子少量、ロームブロック微量
- 2 噴 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 3 噴 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 4 にぬ・噴褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

#### 第 200 号土坑土層解説

- 1 噴 褐 色 燃土ブロック多量、ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 噴 褐 色 炭化粒子少量、燒土ブロック・ローム粒子微量
- 3 噴 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 4 噴 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 5 噴 褐 色 ロームブロック少量

#### 第 201 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 黑 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

#### 第 202 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ローム粒子微量

#### 第 203 号土坑土層解説

- 1 褐 色 燃土ブロック・ローム粒子微量

#### 第 204 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック微量
- 2 噴 褐 色 ロームブロック微量

#### 第 206 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

#### 第 209 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック少量、炭化物微量

#### 第 211 号土坑土層解説

- 1 噴 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 周 色 ロームブロック微量

#### 第 212 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック少量
- 2 噴 褐 色 ローム粒子微量
- 3 噴 褐 色 ローム粒子少量

#### 第 213 号土坑土層解説

- 1 噴 褐 色 ロームブロック中量
- 2 黑 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量

#### 第 214 号土坑土層解説

- 1 噴 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黑 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 にぬ・噴褐色 ローム粒子中量

#### 第 217 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黑 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 周 色 ローム粒子中量
- 4 噴 褐 色 ローム粒子少量
- 5 噴 褐 色 炭化粒子少量

#### 第 219 号 土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 炭化粒子少量。ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック微量

#### 第 220 号 土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化粒子少量。ローム粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ローム粒子少量。炭化粒子微量
- 4 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量

#### 第 221 号 土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量。燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

#### 第 222 号 土坑土層解説

- 1 にぬけ褐色 燒土ブロック中量。炭化物少量・ロームブロック微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

#### 第 223 号 土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量。燒土粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック中量

#### 第 225 号 土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック多量。燒土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック多量。燒土粒子少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック多量

#### 第 226 号 土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 明 褐 色 ロームブロック中量

#### 第 227 号 土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量

#### 第 229 号 土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 炭化粒子少量。ローム粒子・燒土粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量。燒土粒子・炭化粒子微量
- 3 黑 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量

#### 第 232 号 土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック中量。炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 炭化粒子微量

#### 第 234 号 土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 粘土ブロック少量。ローム粒子・燒土粒子微量
- 2 暗 褐 色 粘土ブロック中量。ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 4 にぬけ褐色 ロームブロック多量

#### 第 236 号 土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量

#### 第 237 号 土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 炭化粒子少量。ロームブロック微量

#### 第 238 号 土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化粒子少量

#### 第 239 号 土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量

#### 第 240 号 土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化粒子少量。ロームブロック微量
- 2 褐 色 ローム粒子少量。燒土粒子微量
- 3 褐 色 ローム粒子少量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 5 暗 褐 色 ローム粒子少量。炭化粒子微量

#### 第 241 号 土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量。燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子・燒土粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック多量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック少量

#### 第 242 号 土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量

#### 第 243 号 土坑土層解説

- 1 橙暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量。炭化粒子微量

#### 第 244 号 土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量。炭化物・燒土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量。炭化物微量

#### 第 247 号 土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量

#### 第 249 号 土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量。炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量
- 3 明 褐 色 ローム粒子少量。炭化粒子微量

#### 第 250 号 土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

#### 第 254 号 土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 炭化粒子少量。ローム粒子微量

#### 第 255 号 土坑土層解説

- 1 にぬけ褐色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・燒土粒子少量

#### 第 257 号 土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 黑 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子微量

#### 第 258 号 土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量

#### 第 259 号 土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ローム粒子少量。燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 黑 褐 色 炭化粒子微量
- 3 黑 褐 色 ロームブロック微量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子少量。炭化粒子微量

#### 第 262 号 土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化粒子少量。ロームブロック微量
- 2 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 明 褐 色 ローム粒子中量。炭化粒子微量

#### 第 263 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 3 暗 紫 褐 色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック微量

#### 第 264 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子微量

#### 第 265 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

#### 第 267 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量

#### 第 271 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 4 褐 色 ローム粒子微量

#### 第 272 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量、燒土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック多量
- 4 にぬ・調理色 ロームブロック多量
- 5 にぬ・調理色 ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック中量

#### 第 273 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黑 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 暗 紫 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

#### 第 274 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック多量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック多量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 5 褐 色 ロームブロック多量

#### 第 275 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック多量
- 2 黑 褐 色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量

#### 第 276 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 2 黑 褐 色 ロームブロック多量、燒土粒子微量
- 3 黑 褐 色 ロームブロック中量、燒土粒子微量
- 4 黑 褐 色 ロームブロック多量

#### 第 277 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック多量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック微量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック微量
- 6 暗 褐 色 ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック微量
- 7 褐 色 ロームブロック多量

#### 第 278 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック多量
- 2 黑 褐 色 ロームブロック中量、燒土粒子微量
- 3 黑 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

#### 第 280 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量

#### 第 281 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 黑 褐 色 ロームブロック微量
- 3 黑 褐 色 粘土ブロック少量、ロームブロック微量
- 4 黑 褐 色 ロームブロック少量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック微量

#### 第 282 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 炭化粒子微量
- 2 黑 褐 色 ローム粒子微量
- 3 黑 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

#### 第 293 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック微量

#### 第 295 号土坑土層解説

- 1 にぬ・調理色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 3 褐 色 烧土粒子少量、ローム粒子微量
- 4 にぬ・調理色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 5 黑 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 6 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 7 褐 色 炭化粒子微量
- 8 黑 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量

#### 第 298 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック微量

#### 第 299 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黑 褐 色 ローム粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量

#### 第 300 号土坑土層解説

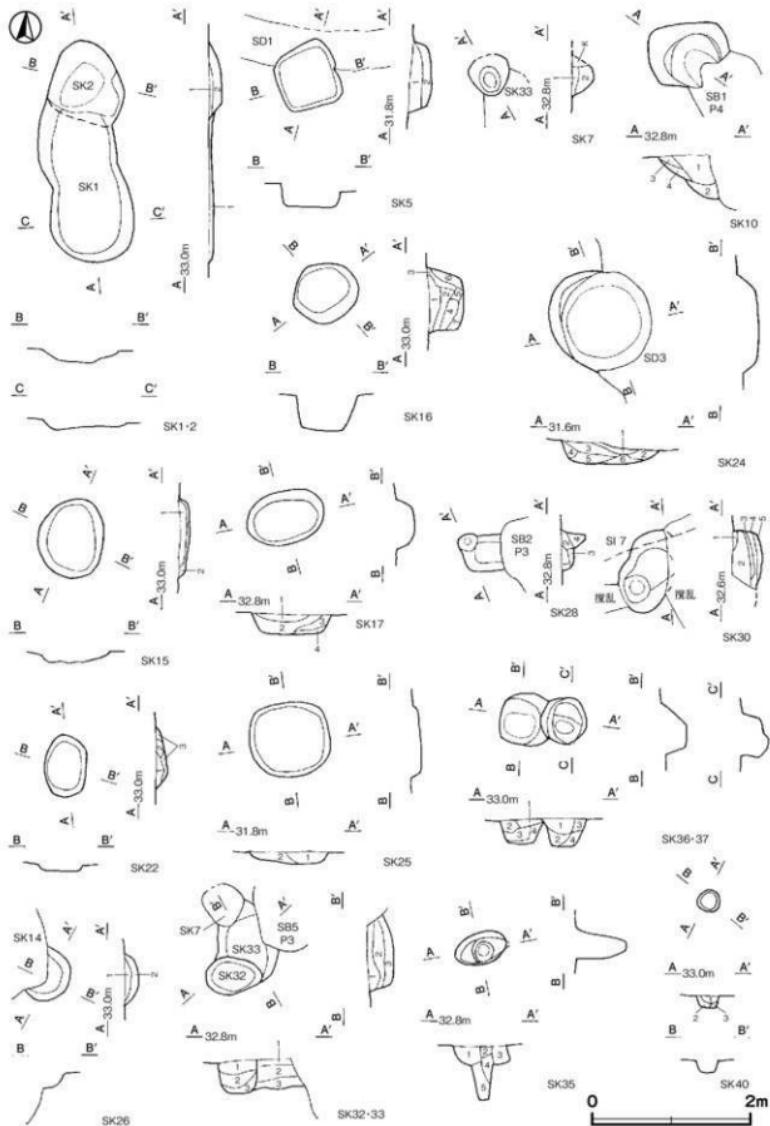
- 1 暗 紅 褐 色 烧土ブロック少量、ローム粒子微量
- 2 褐 褐 色 粘土ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子少量

#### 第 301 号土坑土層解説

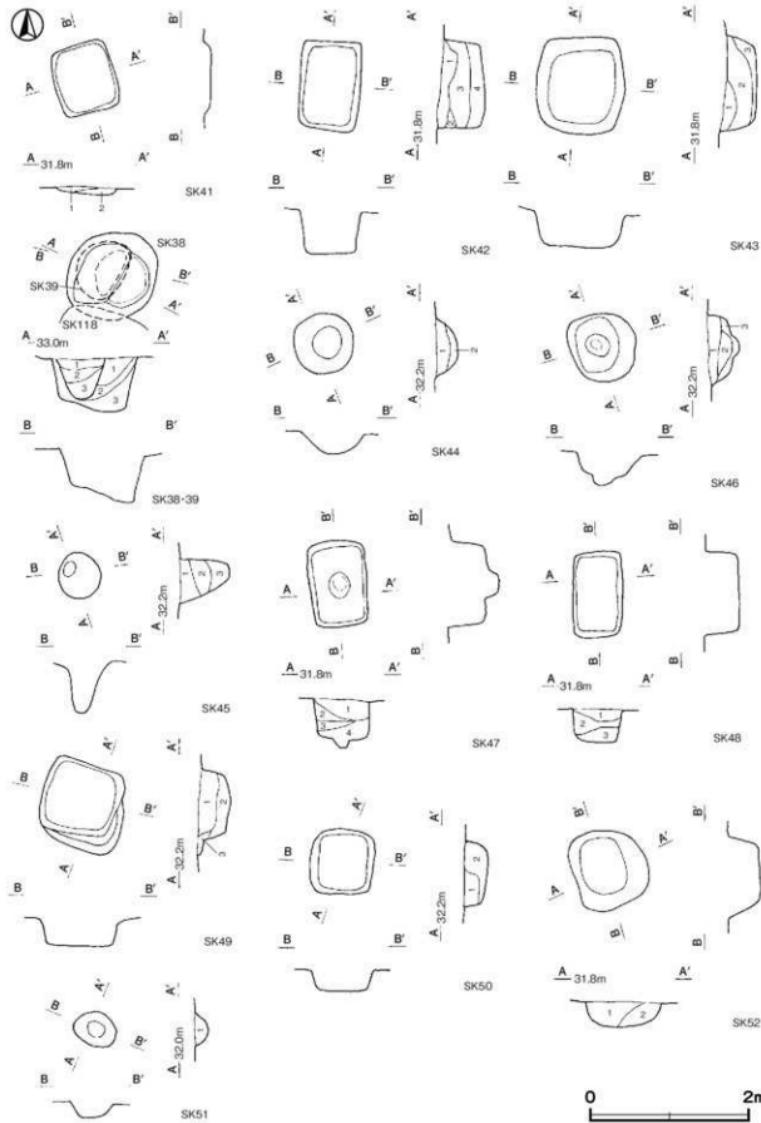
- 1 黑 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子少量
- 2 黑 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子微量

#### 第 302 号土坑土層解説

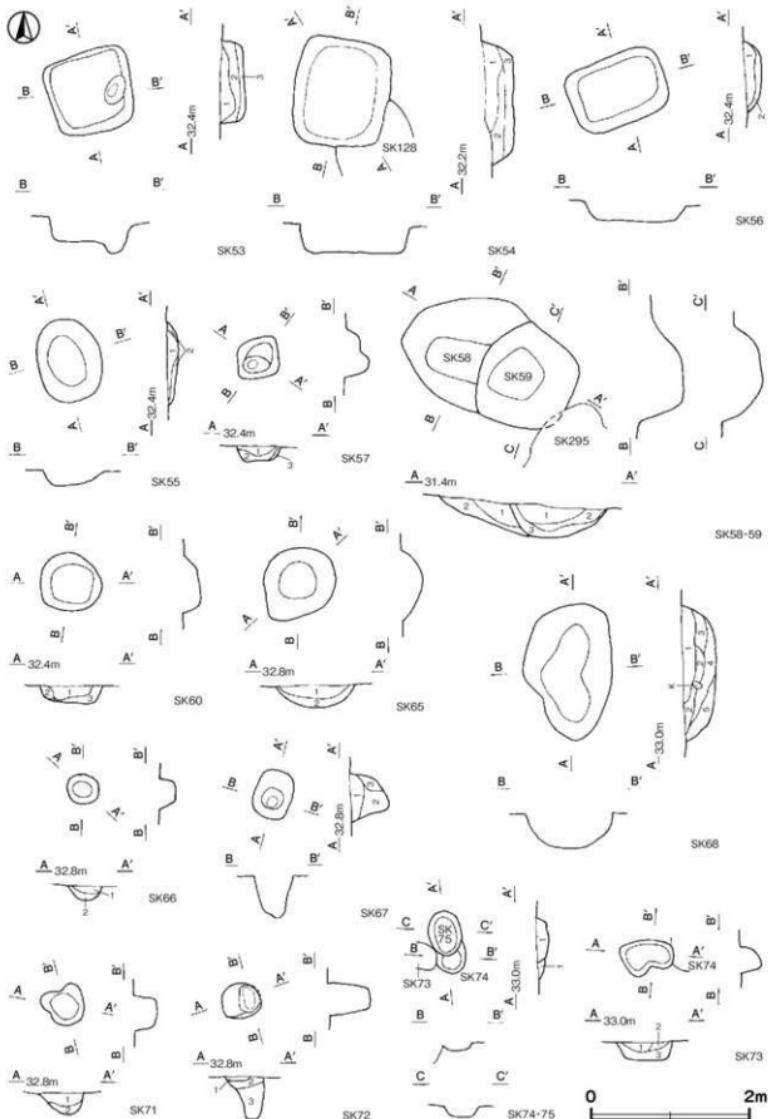
- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック微量
- 5 黑 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 6 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 7 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 8 黑 褐 色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量、燒土粒子微量



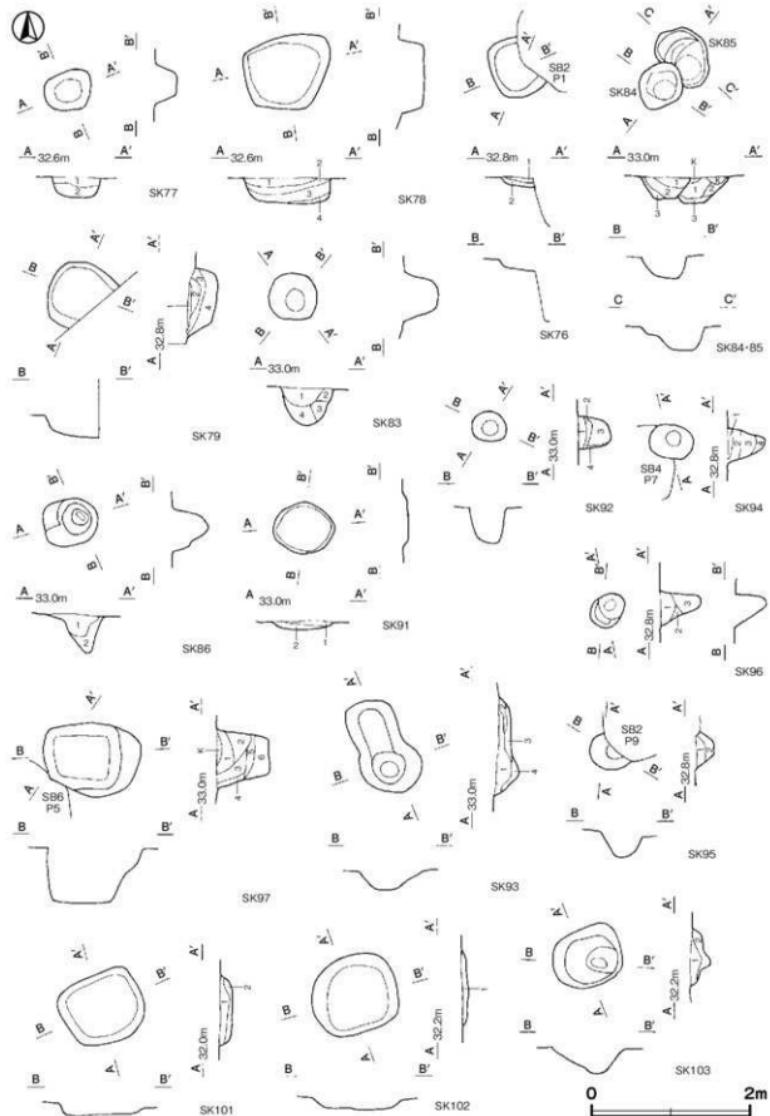
第 81 図 その他の土坑実測図(1)



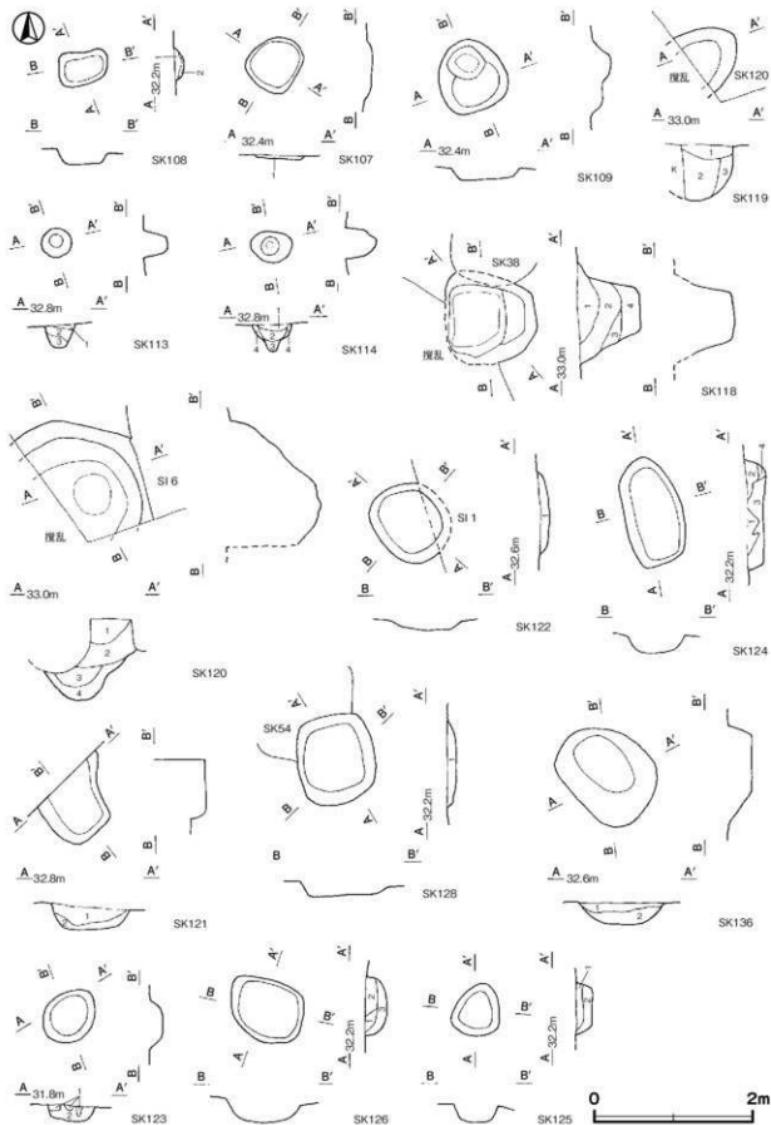
第82図 その他の土坑実測図(2)



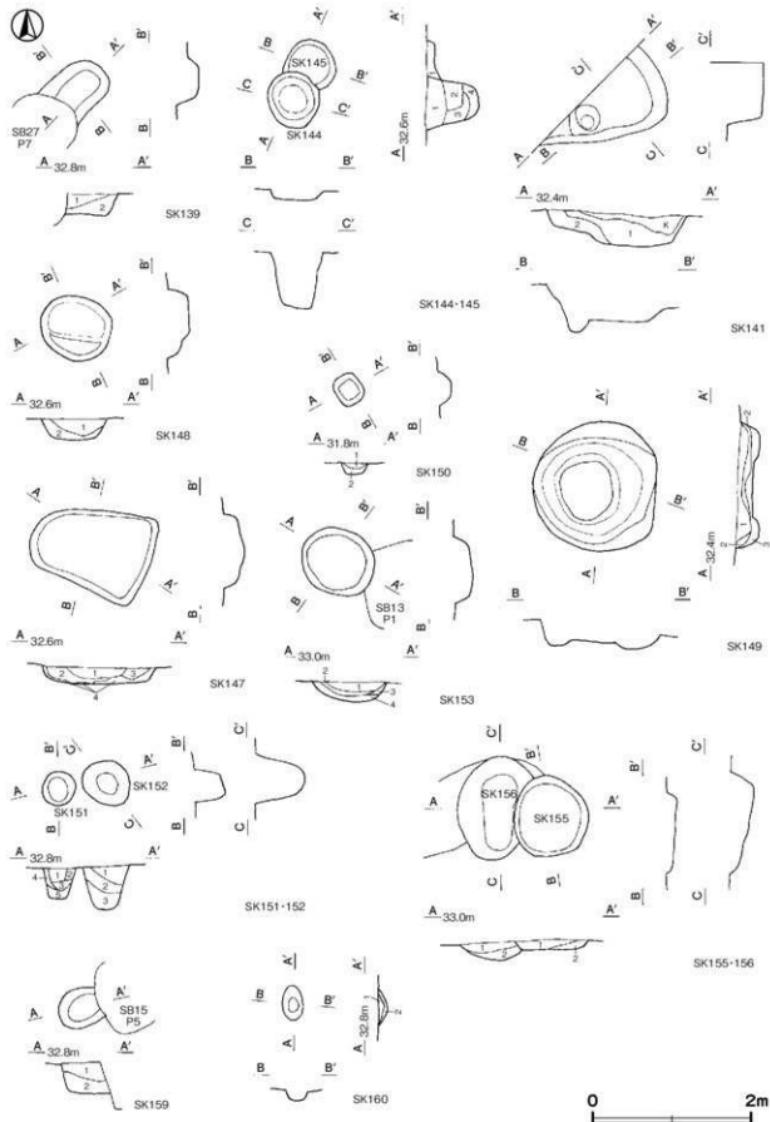
第 83 図 その他の土坑実測図(3)



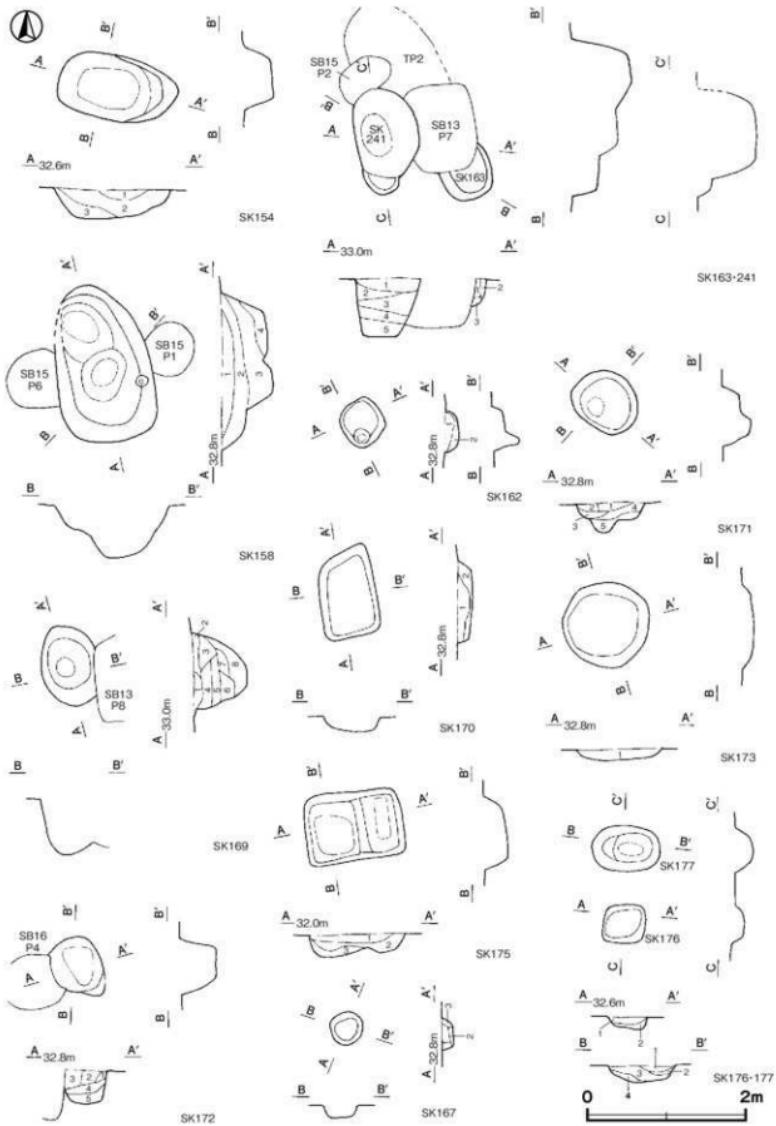
第84図 その他の土坑実測図(4)



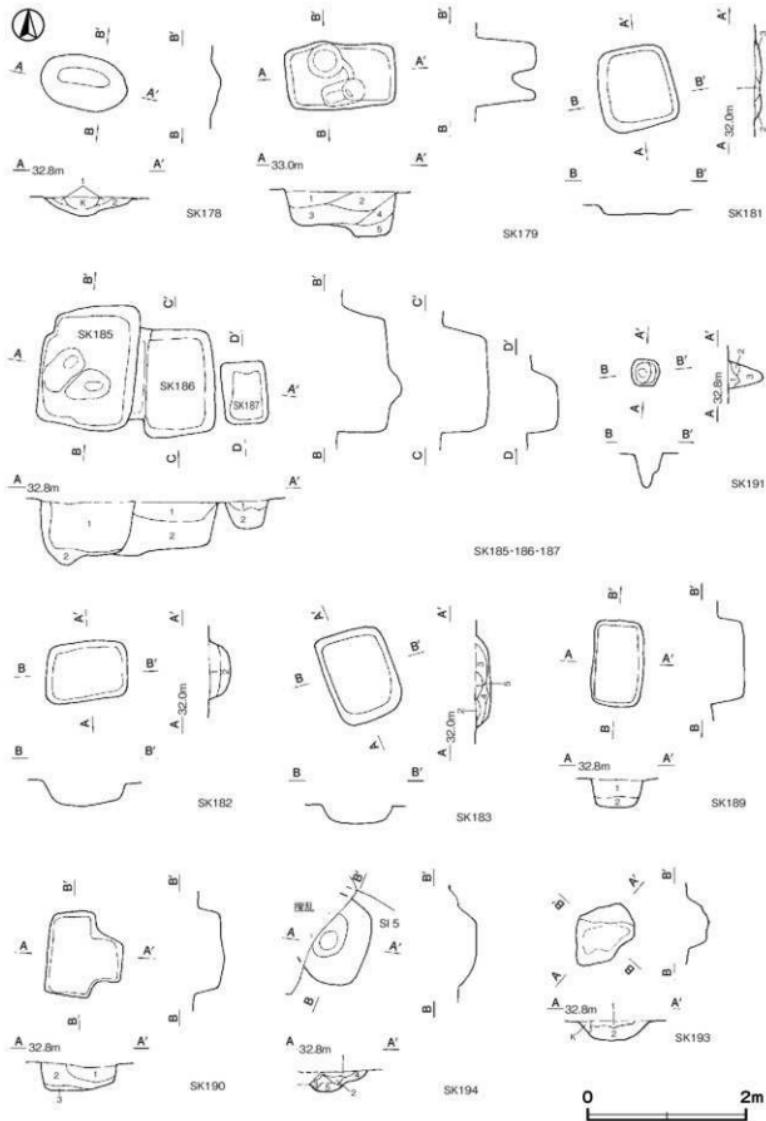
第 85 図 その他の土坑実測図(5)



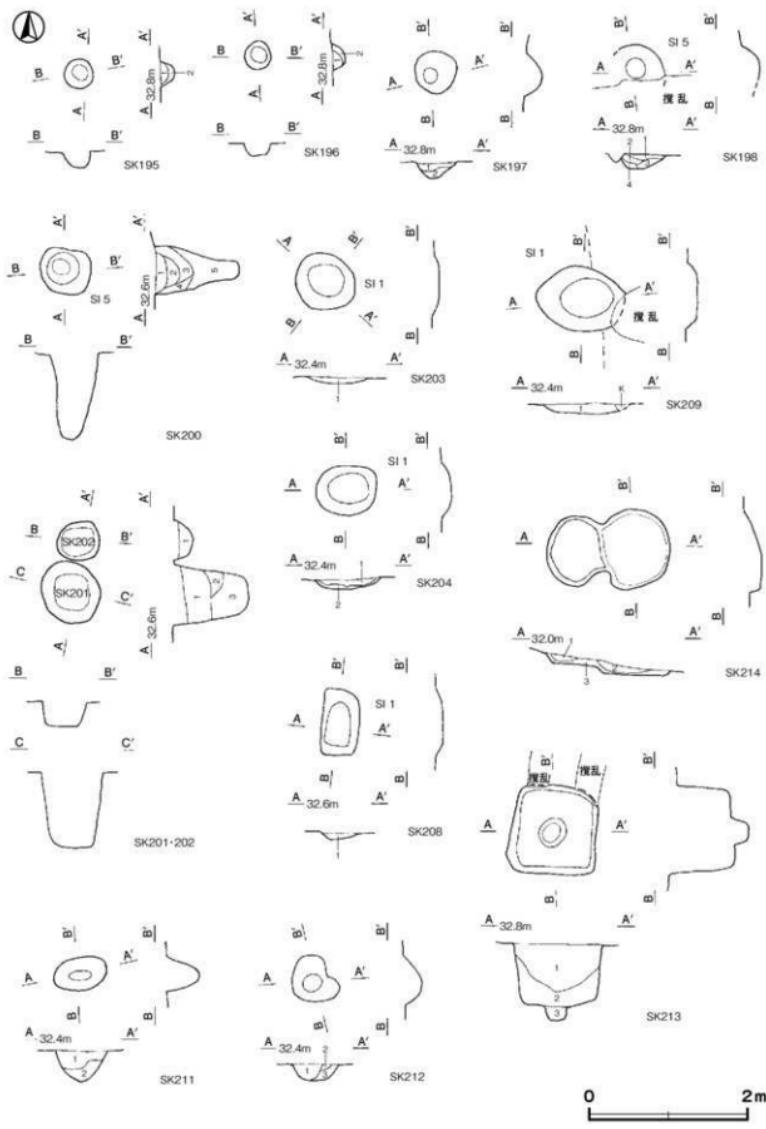
第86図 その他の土坑実測図(6)



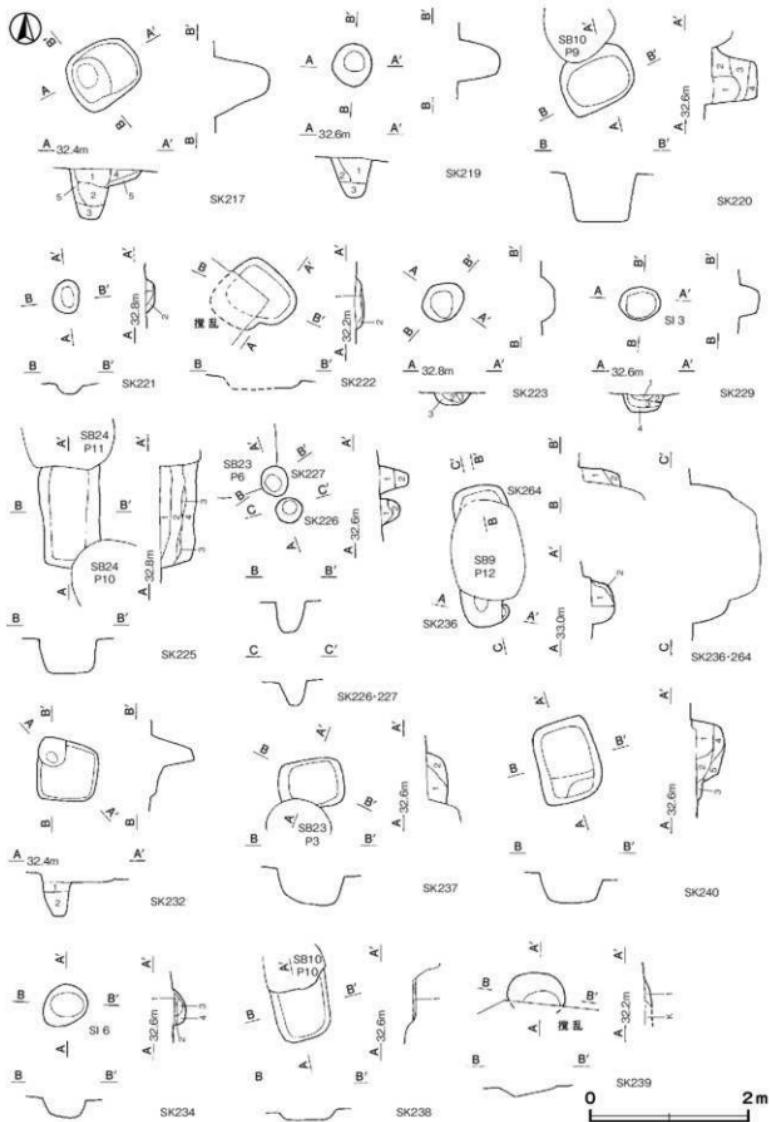
第87図 その他の土坑実測図(7)



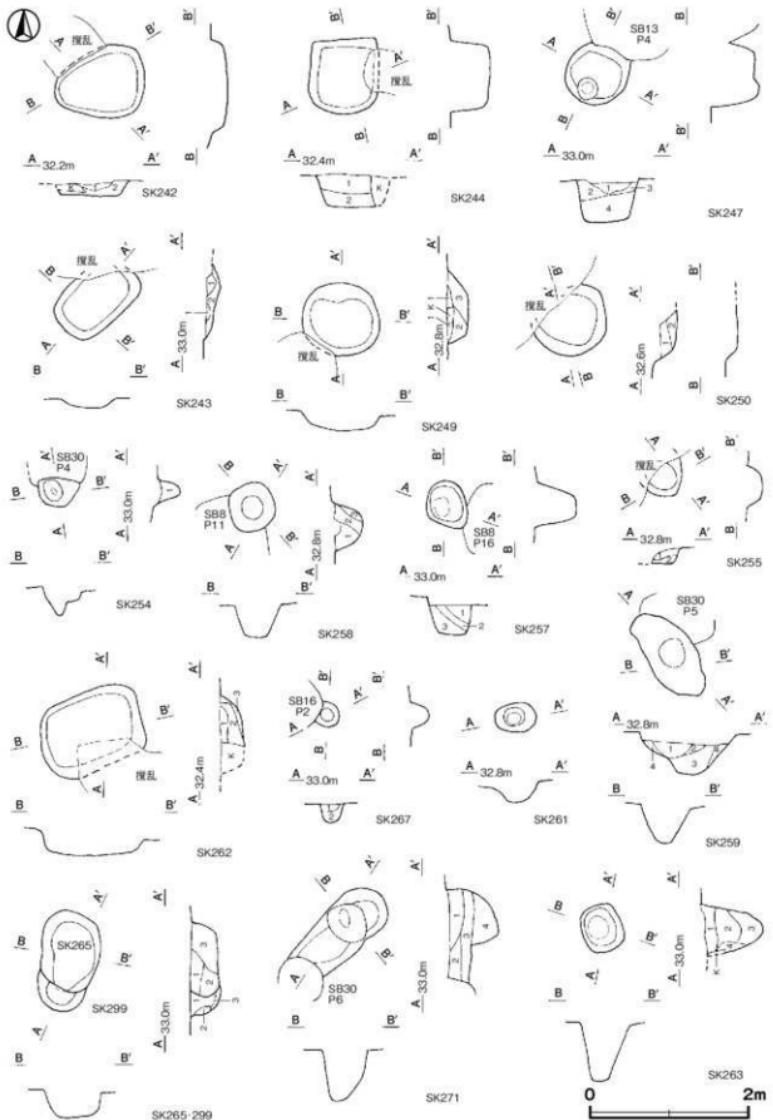
第88図 その他の土坑実測図(8)



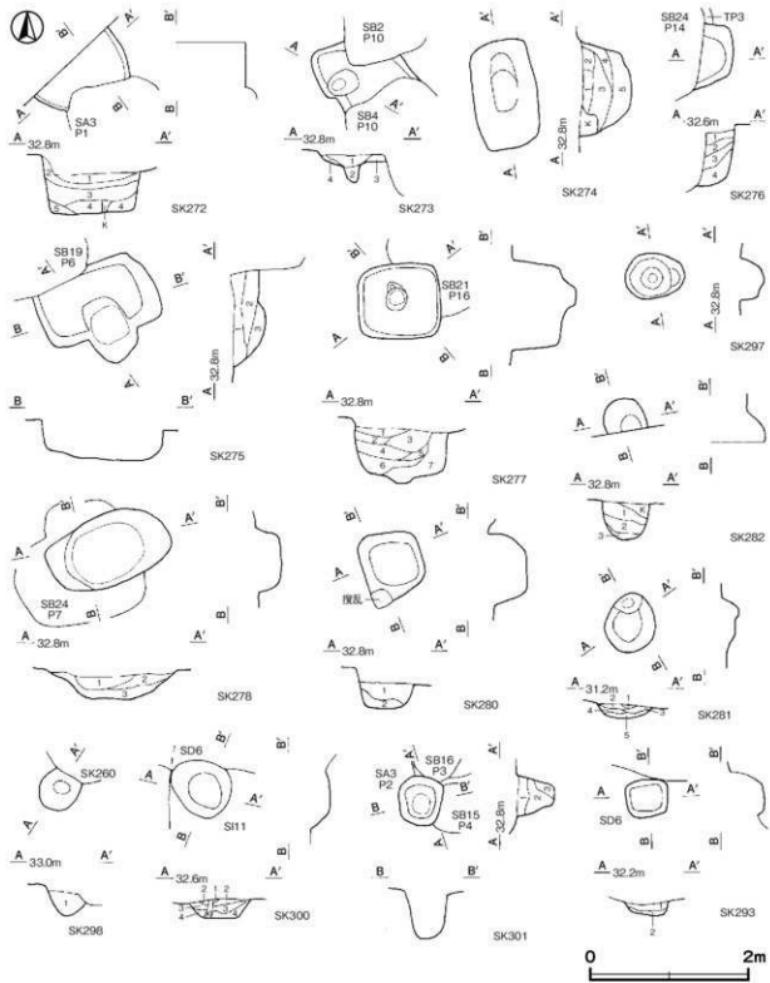
第89図 その他の土坑実測図(9)



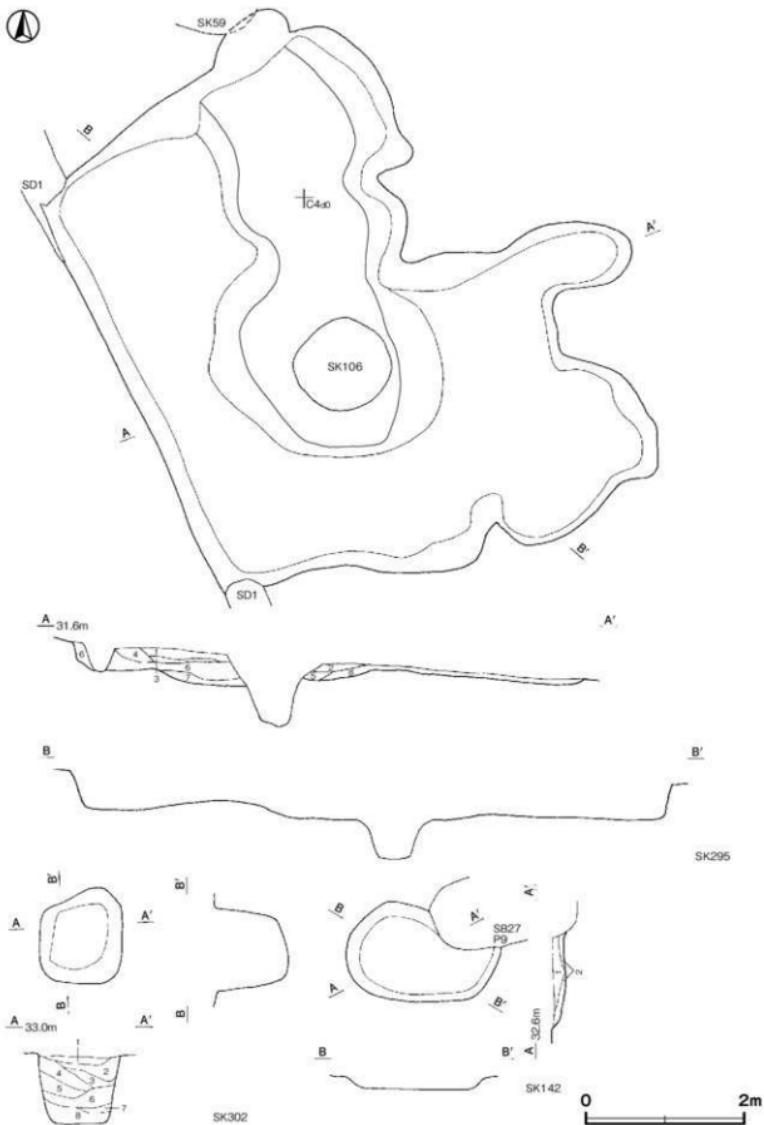
第90図 その他の土坑実測[30]



第91図 その他の土坑実測図(1)



第92図 その他の土坑実測図12



第93図 その他の土坑実測図13

表11 その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1	D 348	N - 13° - W	〔不整精円形〕	1.91 × 105	10	平坦	縦斜	人為	土師器、須恵器	本跡→SK 2
2	D 348	N - 28° - W	精円形	1.15 × 096	16	皿状	縦斜	人為	須恵器	SK 1 → 本跡
5	C 4 e0	N - 20° - W	方形	0.80 × 0.78	28	平坦	外傾	人為	須恵器	SD 1 → 本跡
7	E 3 c7	-	円形	0.54 × 0.52	26	皿状	縦斜	人為		SK33 → 本跡
10	E 3 b7	N - 83° - E	長方形	1.03 × 0.83	56	皿状	縦斜	人為		本跡→SB 1
15	D 3 e5	N - 10° - E	精円形	1.01 × 0.82	12	凹凸	縦斜	自然	土師器、須恵器	
16	D 3 d6	N - 63° - E	精円形	0.85 × 0.75	45	平坦	外傾	人為	土師器、須恵器	
17	E 3 b9	N - 74° - E	精円形	1.02 × 0.66	24	皿状	外傾	人為	土師器、須恵器	
22	D 3 b6	N - 2° - W	精円形	0.78 × 0.54	9	平坦	縦斜	人為	土師器、須恵器	
24	C 5 d2	-	〔円柱〕	1.33 × (1.22)	22	平坦	縦斜	人為	縄文土器、調片	本跡→SD 3
25	D 4 a0	N - 83° - E	精円形	1.03 × 0.98	16	平坦	外傾 縦斜	人為		
26	D 3 f5	N - 26° - E	〔円形・ 精円形〕	(0.65) × (0.32)	18	平坦	外傾	人為		本跡→SK14
28	E 3 a9	N - 82° - E	〔長方形〕	(0.53) × 0.45	31	平坦	外傾	人為	縄文土器、土師器	本跡→SB 2
30	E 3 c7	N - 41° - E	〔楕円形〕	(0.82) × 0.66	39	皿状	直立	人為	縄文土器、土師器、須恵器	SI 7 と新江不明
32	E 3 d7	N - 83° - E	精円形	0.72 × 0.50	41	皿状	直立	自然		SK33 → 本跡
33	E 3 c7	N - 2° - W	〔楕円形〕	(0.78) × 0.26	36	平坦	直立	人為	弥生土器、土師器、須恵器	本跡→SB 5, SK 7・32
35	D 3 b8	N - 72° - E	精円形	0.68 × 0.40	63	平坦	外傾	人為	土師器、須恵器	
36	D 3 b9	-	〔円形〕	0.66 × (0.50)	30	平坦	外傾 縦斜	人為	土師器、須恵器	本跡→SK37
37	D 3 b9	-	円形	0.58 × 0.58	34	凹凸	外傾	人為	土師器、須恵器	SK36 → 本跡
38	D 3 f5	N - 54° - E	精円形	1.26 × 1.13	67	縦斜	外傾	人為	土師器、須恵器	本跡→SK39
39	D 3 b6	N - 27° - E	〔楕円形〕	(0.78) × (0.58)	51	皿状	外傾	人為	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器	SK18 と新江不明
40	D 3 g0	-	円形	0.30 × 0.30	15	平坦	外傾	人為		SK38 → 本跡
41	D 4 a0	N - 15° - W	長方形	0.89 × 0.80	11	平坦	縦斜	自然		
42	C 4 g0	N - 4° - E	長方形	1.14 × 0.77	56	平坦	外傾	人為	弥生土器、土師器、須恵器、鐵造	
43	C 4 f0	N - 4° - E	満丸長方形	1.24 × 1.12	42	平坦	外傾	人為	弥生土器、土師器、須恵器	
44	C 4 f8	-	円形	0.80 × 0.76	25	平坦	縦斜	自然	土師器	
45	C 4 g8	N - 21° - W	精円形	0.59 × 0.53	61	平坦	外傾	自然	土師器	
46	C 4 g8	N - 55° - W	精円形	0.95 × 0.86	30	凹凸	縦斜	自然	土師器	
47	C 5 h2	N - 5° - W	長方形	1.10 × 0.73	50	凹凸	外傾	人為	土師器、須恵器、土製品	
48	C 5 h1	N - 1° - E	長方形	1.08 × 0.63	45	平坦	外傾	自然	土師器、須恵器	
49	C 4 h8	N - 15° - E	不定形	1.08 × 1.08	40	平坦	外傾	人為		
50	C 4 h8	N - 2° - E	満丸丸形	0.83 × 0.81	27	平坦	外傾	人為		
51	C 4 h9	N - 62° - W	精円形	0.53 × 0.44	19	皿状	縦斜	自然		
52	C 5 j1	N - 14° - W	満丸丸形	1.01 × 0.92	41	平坦	外傾	人為		
53	C 4 f7	N - 75° - E	方形	1.10 × 1.02	32	凹凸	外傾	自然		
54	C 4 h8	N - 7° - E	長方形	1.39 × 1.24	38	平坦	外傾	人為	土師器、須恵器	本跡→SK128
55	C 4 e6	N - 14° - W	精円形	1.05 × 0.80	19	平坦	縦斜	自然	弥生土器、土師器、須恵器	
56	C 4 f6	N - 68° - E	長方形	1.25 × 0.87	22	平坦	縦斜	自然	土師器	
57	C 4 f6	N - 73° - E	方形	0.52 × 0.50	32	有段	外傾	自然	弥生土器、須恵器	
58	C 4 e9	N - 60° - W	〔楕円形〕	1.48 × (1.01)	54	平坦	縦斜	自然		本跡→SK39
59	C 4 e9	N - 27° - E	精円形	1.34 × 1.22	45	平坦	縦斜	自然	土師器	SK58 → 本跡 SK39 と新江不明
60	C 4 b6	-	円形	0.78 × 0.74	25	平坦	縦斜	人為	縄文土器、土師器	
65	D 3 b7	N - 43° - E	精円形	1.03 × 0.89	28	皿状	縦斜	自然	土師器、須恵器	
66	D 3 b9	-	円形	0.43 × 0.40	19	平坦	外傾	自然		
67	D 3 j0	N - 17° - E	満丸長方形	0.62 × 0.50	52	皿状	外傾	人為	弥生土器、土師器	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
68	D 3d9	N - 4° - W	椭円形	1.71 × 1.10	54	平坦	外傾	人為	縄文土器、土師器	
71	D 3d0	N - 69° - W	不定形	0.58 × 0.54	28	平坦	外傾	人為	土師器、須恵器	
72	E 3a0	-	円形	0.49 × 0.45	53	平坦	外傾 直立	人為		
73	D 3b0	N - 75° - W	不整椭円形	0.69 × 0.58	25	平坦	外傾	人為	須恵器	SK74 → 本跡
74	D 3b0	N - 5° - E	〔椭円形〕	(0.42) × 0.37	9	平坦	紙斜 外傾	人為		本跡 → SK73 - 75
75	D 3b0	N - 11° - W	椭円形	0.56 × 0.41	14	平坦	紙斜	人為		SK74 → 本跡
76	D 3d0	N - 18° - W	〔椭円形〕	0.75 × (0.50)	13	平坦	外傾	人為		本跡 → SB 2
77	D 4i2	N - 74° - E	椭円形	0.61 × 0.50	26	平坦	外傾	人為	土師器	
78	D 4i2	N - 83° - E	不整長方形	1.11 × 0.96	30	平坦	外傾	人為	弦生土器、土師器	
79	D 4i2	N - 28° - E	〔円形、 椭円形〕	0.72 × (0.71)	29	平坦	外傾	人為	縄文土器	
83	D 3e0	-	円形	0.62 × 0.60	46	皿状	外傾	人為	縄文土器、土師器、須恵器	
84	D 3d9	N - 32° - E	椭円形	0.65 × 0.56	27	平坦	紙斜 外傾	人為	縄文土器、土師器、須恵器	SK85 → 本跡
85	D 3g9	N - 40° - W	〔椭円形〕	0.82 × (0.57)	31	平坦	紙斜 外傾	人為	弦生土器	本跡 → SK84
86	D 3d0	N - 68° - E	椭円形	0.75 × 0.59	42	皿状	紙斜	人為	弦生土器、土師器	
91	D 3d0	N - 86° - E	椭円形	0.79 × 0.66	7	平坦	紙斜	人為	須恵器	
92	D 3e9	N - 67° - W	椭円形	0.45 × 0.39	46	皿状	外傾	人為	弦生土器、土師器	
93	D 3e8	N - 24° - W	不整椭円形	1.26 × 0.76	27	有段	紙斜	人為		
94	D 3d9	N - 77° - W	椭円形	0.55 × 0.40	45	皿状	外傾	人為		SB 4 → 本跡
95	D 3d9	-	〔円形〕	0.50 × (0.35)	42	皿状	外傾	人為	弦生土器、土師器	本跡 → SB 2
96	D 3d9	N - 43° - E	椭円形	0.48 × 0.35	54	皿状	外傾	自然	土師器、須恵器	
97	D 3d6	N - 88° - W	不要椭円形	1.22 × 0.95	69	平坦	外傾	人為		SB 6 → 本跡
101	C 4i9	N - 64° - E	椭丸長方形	1.02 × 0.90	18	平坦	紙斜	自然	土師器、須恵器	
102	C 4i8	N - 77° - E	椭円形	1.10 × 0.98	15	平坦	紙斜	人為		
103	C 4g8	N - 71° - E	椭円形	0.89 × 0.73	30	皿状	紙斜	人為		
107	C 4i6	N - 43° - E	椭丸形	0.71 × 0.65	8	平坦	紙斜	自然		
108	C 4i8	N - 82° - E	椭丸長方形	0.63 × 0.43	18	平坦	外傾	自然		
109	C 4g7	-	円形	0.90 × 0.85	22	有段	紙斜	-		
113	D 3d9	-	円形	0.40 × 0.37	30	平坦	外傾	自然	須恵器	
114	D 3d0	N - 79° - W	椭円形	0.51 × 0.39	39	皿状	外傾	人為	須恵器	
118	D 3g0	N - 88° - E	〔不整長形〕	(1.20) × 1.14	76	平坦	外傾	人為		SK38 → 新田不明
119	D 3g7	N - 37° - W	〔椭円形〕	0.86 × (0.64)	70	皿状	紙斜	人為		SK120 → 本跡
120	D 3g7	N - 22° - W	〔円形、 椭円形〕	(1.55) × (1.27)	112	皿状	紙斜	人為		本跡 → SI 6、 SK119
121	C 4c4	N - 57° - E	〔不整椭円形〕	0.92 × (0.76)	28	平坦	外傾	自然	土師器	
122	C 4c5	N - 40° - W	椭円形	1.06 × 0.90	12	平坦	紙斜	人為		SI 1 と新田不明
123	C 4g0	N - 36° - E	椭円形	0.77 × 0.62	19	平坦	紙斜	人為	土師器	
124	C 4e7	N - 17° - W	椭円形	1.29 × 0.74	26	平坦	外傾	人為		
125	C 4e8	N - 16° - E	椭円形	0.68 × 0.60	22	平坦	外傾	自然		
126	C 4e7	N - 43° - W	椭円形	1.06 × 0.80	26	皿状	外傾	人為		
128	C 4i8	N - 11° - W	椭丸長方形	1.11 × 1.00	18	平坦	紙斜	人為		SK54 → 本跡
136	C 4d5	N - 45° - W	椭円形	1.34 × 1.05	30	平坦	紙斜 外傾	自然		
139	C 4e3	N - 47° - E	〔椭丸長方形〕	(0.65) × 0.58	26	平坦	外傾 紙斜	自然		本跡 → SB27
141	C 4i6	N - 44° - E	〔方輪、 長方形〕	1.76 × (0.87)	52	平坦	紙斜 外傾	人為		
142	C 4e4	N - 27° - W	椭円形	1.98 × 1.20	16	平坦	紙斜	自然	須恵器	本跡 → SB27
144	C 4d5	N - 30° - W	椭円形	0.73 × 0.65	71	平坦	外傾	人為	弦生土器、土師器	SK145 → 本跡
145	C 4d5	-	〔円形〕	0.66 × (0.66)	12	平坦	紙斜	人為		本跡 → SK144
147	C 4d5	N - 71° - W	不整長方形	1.54 × 1.16	19	皿状	外傾	人為	弦生土器、土師器、須恵器	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	側 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
148	C 4e1	N - 72° - W	楕円形	0.89 × 0.78	30	有段	外傾	自然	土師器、須恵器	
149	D 4a8	-	円形	1.67 × 1.67	20	平坦	外傾	人為	土師器	
150	C 4g9	N - 33° - W	長方形	0.38 × 0.34	15	皿状	板斜	自然		
151	D 3e9	-	円形	0.43 × 0.42	39	平坦	直立	人為	土師器	
152	D 3e9	N - 51° - W	楕円形	0.63 × 0.56	61	皿状	外傾	人為	土師器、須恵器	
153	D 4e1	N - 52° - W	楕円形	0.95 × 0.86	22	皿状	外傾	人為	土師器、須恵器	SB13→本跡
154	C 4e5	N - 87° - W	楕円形	1.53 × 0.83	38	平坦	外傾	人為		
155	D 4b1	N - 7° - W	楕円形	1.03 × 0.92	14	傾斜	板斜	人為	土師器、須恵器	TP 1 → SK156 本跡
156	D 3b9	N - 6° - E	【楕円形】	1.33 × (0.78)	30	傾斜	板斜	人為		TP 1 → 本跡 → SK155
158	D 3b9	N - 11° - W	楕円形	2.01 × 1.21	77	凹凸	外傾 板斜	人為	土師器、須恵器	SB15→本跡
159	D 3b9	N - 60° - E	【楕円形】	(0.92) × 0.50	39	平坦	外傾	人為		本跡→SB15
160	C 4i2	N - 4° - W	楕円形	0.46 × 0.26	12	皿状	板斜	自然	土師器	
162	D 3b7	N - 42° - W	方形	0.56 × 0.53	15	平坦	板斜	人為		
163	D 3e9	N - 73° - E	【円形・ 楕円形】	0.66 × (0.59)	35	平坦	外傾	人為		TP 2 → 本跡 → SB13
167	D 3b9	-	円形	0.42 × 0.40	15	平坦	外傾	人為	土師器、須恵器	
169	D 3b6	N - 16° - W	【楕円形】	1.03 × (0.73)	72	皿状	外傾 板斜	人為	土師器、須恵器	本跡→SB13
170	C 4h1	N - 9° - W	長方形	1.11 × 0.73	21	平坦	傾斜	自然	土師器、須恵器	
171	C 4h3	N - 43° - W	楕円形	0.85 × 0.73	36	有段	外傾 板斜	人為		
172	D 3b6	N - 28° - W	【不要楕円形】	0.82 × (0.65)	42	平坦	外傾 板斜	人為		本跡→SB16
173	C 4j5	-	円形	1.12 × 1.08	16	皿状	傾斜	人為	土師器、須恵器	
175	C 4i8	N - 81° - E	長方形	1.25 × 1.12	30	凹凸	傾斜	人為		
176	C 4i5	N - 87° - W	溝丸形	0.53 × 0.50	18	傾斜	外傾 板斜	人為	縄文土器、土師器	
177	C 4i5	N - 87° - W	楕円形	0.86 × 0.57	23	皿状	外傾 板斜	人為	土師器、須恵器	
178	C 4h3	N - 76° - W	楕円形	1.09 × 0.68	24	皿状	傾斜	自然	土師器、須恵器	
179	C 4i1	N - 87° - E	長方形	1.42 × 0.86	74	有段	直立	人為	土師器、須恵器	
181	C 4h6	N - 10° - W	方形	1.02 × 0.98	28	有段	外傾	人為		
182	C 4h9	N - 84° - E	長方形	1.05 × 0.75	31	皿状	傾斜	人為	須恵器	
183	C 4i0	N - 17° - W	長方形	1.15 × 0.90	22	皿状	傾斜	人為		
185	C 4j1	N - 6° - E	不整長方形	1.58 × 1.20	78	有段	直立 外傾	人為	須恵器	SK186→本跡
186	C 4j1	N - 2° - E	【不整方型】	1.35 × (1.00)	60	平坦	直立 外傾	人為	土師器	本跡→SK185
187	C 4j1	N - 1° - E	長方形	0.78 × 0.55	35	皿状	外傾 板斜	自然	土師器	
188	C 4i2	N - 2° - E	長方形	1.11 × 0.66	40	平坦	外傾	人為	陶器	
190	C 4i2	N - 5° - E	不定形	1.09 × 0.97	36	平坦	外傾	人為		
191	D 3b6	N - 0°	方形	0.36 × 0.34	42	有段	外傾	人為		
193	D 3a9	N - 44° - E	不定形	0.92 × 0.65	25	凹凸	外傾 板斜	人為		
194	D 3e7	N - 28° - E	【楕円形】	1.10 × (0.55)	22	平坦	傾斜	人為	土師器、須恵器	本跡→SI 5
195	D 3b9	-	円形	0.35 × 0.35	18	皿状	外傾	自然		
196	D 3a8	-	円形	0.38 × 0.36	18	皿状	外傾	自然	土師器	
197	D 3e8	-	円形	0.55 × 0.53	22	皿状	傾斜	人為		
198	D 3f7	N - 85° - W	【円形・ 楕円形】	(0.53) × (0.45)	24	皿状	傾斜	人為	土師器	本跡→SI 5
200	D 3e7	N - 72° - W	不整円形	3.10 × 2.90	109	皿状	外傾	人為	土師器、須恵器	SI 5 → 本跡
201	C 4e5	N - 24° - W	楕円形	0.83 × 0.72	99	平坦	直立	人為	土師器、須恵器	
202	C 4e5	-	円形	0.56 × 0.54	29	平坦	外傾	自然	弐牛土器、土師器、須恵器	
203	C 4h5	-	円形	0.80 × 0.73	7	平坦	傾斜	自然	土師器	SI 1 → 本跡
204	C 4e5	N - 82° - E	楕円形	0.80 × 0.67	12	平坦	傾斜	自然		SI 1 → 本跡
208	C 4c5	N - 5° - E	長方形	0.84 × 0.47	9	平坦	傾斜	自然		SI 1 → 本跡

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
209	C 4 c6	N - 89° - E	楕円形	1.13 × 0.82	13	平坦	紙斜	人為	須恵器	SI 1 → 本跡
211	D 4 c4	N - 86° - E	楕円形	0.64 × 0.45	41	粗状	外傾	人為	土師器、須恵器	
212	D 4 c4	N - 73° - W	不定形	0.61 × 0.59	22	粗状	紙斜	人為		
213	C 4 i2	N - 84° - W	方形	1.14 × 1.13	97	凹凸	直立	人為		
214	D 4 a9	N - 90°	不定形	1.56 × 1.03	18	有段	外傾	人為		
217	D 4 c8	N - 60° - E	椭丸長方形	0.93 × 0.76	70	粗状	外傾	人為	弦生土器、土師器、須恵器	
219	C 4 g5	-	円形	0.54 × 0.51	52	粗状	外傾	人為	須恵器	
220	C 4 g5	N - 59° - E	〔長方形〕	0.93 × (0.68)	61	平坦	外傾	人為		本跡→SB10
221	D 4 e2	N - 1° - W	楕円形	0.44 × 0.32	13	粗状	紙斜	自然		
222	D 4 e6	N - 55° - W	〔不整楕円形〕	0.93 × [0.90]	12	平坦	紙斜	人為	土師器、須恵器	
223	D 4 c4	N - 53° - E	楕円形	0.56 × 0.48	18	平坦	紙斜	人為		
225	D 4 b2	N - 1° - E	〔長方形〕	(1.26) × 0.77	42	平坦	外傾	人為	土師器、須恵器	本跡→SB24
226	C 4 g5	-	円形	0.32 × 0.30	32	粗状	外傾	人為		
227	C 4 g5	-	円形	0.38 × 0.35	38	平坦	外傾	人為		SB23 → 本跡
229	D 4 b6	N - 84° - W	楕円形	0.51 × 0.41	24	平坦	外傾	人為	土師器、須恵器	SI 3 → 本跡
230	D 3 a0	N - 5° - E	〔楕円形〕	2.40 × (1.55)	52	平坦	外傾	人為	土師器、須恵器	SK231 → 本跡 → SD 6
232	C 4 g6	N - 4° - E	方形	0.78 × 0.75	53	粗状	外傾	人為		
234	D 3 g7	N - 46° - E	楕円形	0.58 × 0.48	16	粗状	紙斜	人為	土師器	SI 6 → 本跡
236	D 3 f0	N - 66° - W	〔不整楕円形〕	0.66 × [0.39]	48	平坦	外傾	人為		本跡→SD 9
237	C 4 f6	N - 81° - E	〔長方形〕	0.82 × (0.60)	49	粗状	外傾	自然	土師器	本跡→SB23
238	C 4 g6	N - 7° - W	〔長方形〕	(0.82) × 0.70	12	平坦	外傾	-		本跡→SB10
239	C 4 j8	N - 85° - W	〔円形・ 楕円形〕	0.74 × (0.40)	12	平坦	紙斜	自然		
240	C 4 f6	N - 15° - W	椭丸長方形	1.04 × 0.76	34	平坦	外傾	人為	土師器、須恵器	
241	D 3 c0	N - 8° - W	〔不整楕円形〕	1.25 × 0.79	75	平坦	紙斜 外傾	人為	土師器、須恵器	TP 2 → SB13 → 本跡→SB15
242	C 4 j7	N - 82° - E	〔不整楕円形〕	1.16 × 0.93	20	平坦	外傾	人為		
243	D 4 e1	N - 47° - E	椭丸長方形	1.10 × 0.70	11	平坦	紙斜	人為	弦生土器、土師器	
244	C 4 f6	N - 2° - E	椭丸方形	0.94 × 0.88	48	平坦	外傾	人為	弦生土器、土師器、須恵器	
247	D 4 c1	-	円形	0.81 × 0.78	63	有段	外傾	人為	繩文土器	本跡→SB13
248	C 4 j2	-	円形	2.25 × 2.21	77	平坦	直立	自然 人為	弦生土器	本跡→SI 9
249	C 4 j8	-	円形	1.00 × 0.94	22	平坦	外傾	人為		
250	C 4 e3	N - 33° - E	〔楕円形〕	0.96 × (0.70)	30	平坦	紙斜	人為	弦生土器、土師器、須恵器	
254	D 3 g9	-	〔円形・ 楕円形〕	0.26 × (0.16)	34	粗状	紙斜	自然		SE30 → 本跡
255	D 3 g8	-	〔円形・ 楕円形〕	0.58 × (0.36)	22	粗状	紙斜	人為		
257	D 3 e0	N - 2° - W	楕円形	0.56 × 0.50	50	粗状	外傾 紙斜	人為	弦生土器	SB 8 → 本跡
258	D 3 e8	-	円形	0.60 × 0.60	38	粗状	外傾	人為	土師器、須恵器	SB 8 → 本跡
259	D 3 g0	N - 36° - W	〔不整楕円形〕	1.28 × 0.64	44	粗状	外傾	人為	須恵器	SE30 → 本跡
261	D 3 g9	N - 84° - E	楕円形	0.53 × 0.35	22	粗状	紙斜	-	土師器、須恵器	
262	C 4 i7	N - 70° - E	〔椭丸長方形〕	1.30 × [0.95]	28	粗状	外傾	自然	土師器	
263	D 3 e9	N - 20° - W	楕円形	0.60 × 0.50	75	粗状	外傾	人為	弦生土器、土師器、須恵器	
264	D 3 e0	N - 72° - E	〔椭丸方形・ 椭丸長方形〕	0.70 × (0.36)	56	平坦	外傾	自然		本跡→SB 9
265	D 4 f1	N - 6° - E	〔楕円形〕	(0.70) × 0.70	35	平坦	外傾	人為	弦生土器、土師器、須恵器、 繩器	SK299 → 本跡
267	D 3 e9	N - 4° - W	〔楕円形〕	0.32 × (0.25)	24	粗状	外傾	人為		本跡→SB 16
271	D 3 g9	N - 53° - E	〔不整楕円形〕	(1.38) × 0.60	62	有段 粗状	紙斜	自然	土師器、須恵器	本跡→SB30
272	D 3 h8	-	〔円形・ 楕円形〕	1.28 × (0.65)	75	平坦	外傾	人為		本跡→SA 3
273	D 3 i0	N - 74° - E	〔不整方形〕	1.06 × (0.92)	32	有段	紙斜	人為		本跡→SB 2 - 4
274	D 4 b3	N - 6° - W	長方形	1.37 × 0.81	66	有段	外傾	人為	土師器	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
275	D 4 a3	N - 72° - E	不定形	1.53 × 1.26	42	有段	外傾	人為		本跡 → SB19
276	D 4 a3	N - 16° - E	〔方型・長方形〕	(0.78) × (0.40)	72	平坦	外傾	人為		TP 3 → 本跡 → SB24
277	C 4 i3	-	方型	1.04 × 0.95	82	有段	外傾	人為		SB21 → 本跡
278	D 4 b1	N - 68° - E	椭円形	1.52 × 0.88	36	平坦	外傾 傾斜	人為		SB24 → 本跡
280	E 3 a8	N - 17° - W	長方形	0.85 × 0.75	41	平坦	外傾	自然	土師器、瓦壺器	
281	C 5 h2	N - 16° - E	椭円形	0.75 × 0.64	20	有段	傾斜 外傾	人為		
282	E 3 d7	N - 74° - E	〔円形・椭円形〕	0.53 × (0.42)	47	皿状	外傾	自然		
291	C 4 j3	-	〔円形〕	(2.54) × (2.40)	70	凹凸	直立	人為	縹文土器、淡生土器、土師器、瓦壺器、炭化米	本跡 → SI 2 - 10, SB21 - 24
293	D 4 d7	N - 85° - E	長方形	0.53 × 0.47	18	皿状	外傾	自然		SD 6 と断面不明
295	C 4 d0	N - 19° - W	不定形	7.40 × 6.60	24 - 55	凹凸	外傾 傾斜	自然	縹文土器、淡生土器、土師器、瓦壺器、陶片	本跡 → SK 106, SD 1 SK29 と断面不明
297	D 4 f1	N - 76° - E	椭円形	0.75 × 0.56	30	皿状	外傾 傾斜	-		
298	D 3 e9	-	〔円形・椭円形〕	(0.50) × 0.50	28	皿状	外傾	自然		本跡 → SK260
299	D 4 f1	N - 33° - W	〔椭円形〕	(0.65) × 0.50	38	皿状	傾斜	人為		本跡 → SK265
300	D 4 d4	N - 58° - W	椭円形	0.80 × 0.71	25	平坦	紙絹	人為		本跡 → SH11, SD 6
301	D 3 b8	N - 7° - E	椭丸長方形	0.62 × 0.55	63	皿状	外傾	人為		SB15 - 16, SA 3 - 4 本跡
302	C 3 g9	N - 6° - E	椭丸長方形	1.22 × 1.04	85	平坦	直立	人為		

### (3) 柱穴の可能性がある土坑 (第 94 図)

#### 第 8 号土坑土層解説

- 暗褐色 ロームブロック微量
- 暗褐色 ロームブロック少量
- 暗褐色 ロームブロック中量
- 暗褐色 ロームブロック多量

#### 第 9 号土坑土層解説

- 暗褐色 ロームブロック微量
- 暗褐色 ロームブロック中量
- 暗褐色 ロームブロック少量
- 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 褐色 ロームブロック中量

#### 第 13 号土坑土層解説

- 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 黒褐色 ロームブロック微量
- 黒褐色 ローム粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- にぬ・青褐色 ロームブロック中量
- 暗褐色 ロームブロック少量
- 暗褐色 ロームブロック中量

#### 第 20 号土坑土層解説

- 暗褐色 ロームブロック少量
- 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- にぬ・青褐色 ロームブロック中量
- にぬ・青褐色 ロームブロック微量
- 暗褐色 ロームブロック微量
- 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

#### 第 224 号土坑土層解説

- 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック少量
- 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック中量
- 暗褐色 ロームブロック多量

#### 第 251 号土坑土層解説

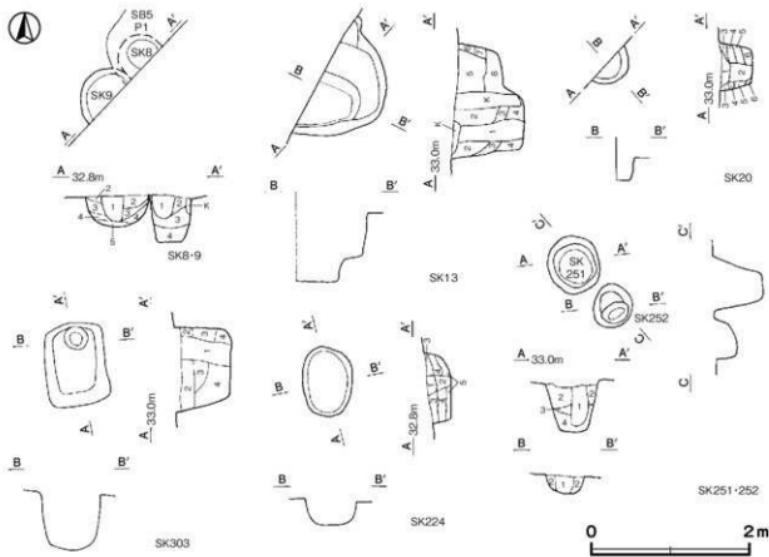
- 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック少量

#### 第 252 号土坑土層解説

- 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

#### 第 303 号土坑土層解説

- 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量、焼土粒子微量
- 黒褐色 ロームブロック微量
- 暗褐色 ロームブロック少量



第94図 柱穴の可能性がある土坑実測図

表12 柱穴の可能性がある土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	側面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
8	E 3c8	-	[円形]	0.58 × (0.38)	58	平底	外傾	人為		SK 9 → 未詳 SK 5と底面不明
9	E 3c8	N - 43° - E	[円形・ 楕円形]	0.80 × (0.43)	40	皿状	外傾	人為	土器器	本跡→SK 8 SK 5と底面不明
13	D 3e5	N - 28° - E	[円形・ 楕円形]	1.68 × (0.87)	88	有段	外傾	人為	強生土器、土器器、瓶窓器	
20	D 3d6	N - 42° - E	[円形・ 楕円形]	0.60 × (0.23)	42	平底	外傾	人為		
224	D 4h1	N - 13° - W	椭円形	0.88 × 0.64	28	皿状	縦斜	人為	瓶窓器	
251	D 4e1	N - 30° - W	椭円形	0.72 × 0.63	60	平底	外傾	人為	土器器	
252	D 4e1	N - 10° - W	椭円形	0.56 × 0.50	25	皿状	外傾	人為		
303	C 3j9	N - 15° - W	椭丸長方形	1.08 × 0.78	70	平底	直立	人為		

#### (4) 柱穴列

##### 第1号柱穴列（第95図）

位置 調査区中央部のC 4区、標高33 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と構造 東西方向4.20 mの間に配列された柱穴3か所を確認した。軸方向はN - 79° - Eである。柱間寸法は2.10 m(7尺)で、柱筋はほぼ揃っている。

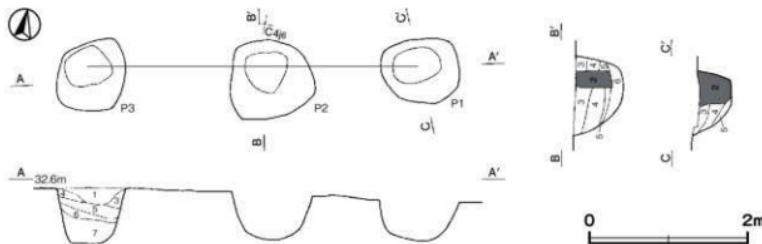
**柱穴** 3か所。平面形は楕円形で、長径 98 ~ 108cm、短径 83 ~ 103cm である。深さは 51 ~ 70cm で、掘方の壁はやや外傾している。第 1 層は柱抜き取り後の覆土、第 2 層は柱痕跡、第 3 ~ 7 層は埋土である。

**柱穴土層解説（各柱穴共通）**

1	暗	褐色	ロームブロック少量	5	黒	褐色	ロームブロック少量
2	黒	褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	6	暗	褐色	ロームブロック微量
3	褐	褐色	炭化粒子微量	7	黒	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4	褐	褐色	ロームブロック少量				

**遺物出土状況** 土師器片 2 点（坏 2）のほか、弥生土器片 1 点（壺）が、P 1・P 2 から出土している。遺物は細片のため、図示できない。

**所見** 時期は、土器が少なく細片のため、特定は困難である。P 1・P 2 で柱痕跡が確認されていることから、掘立柱建物跡の一部の可能性がある。



第 95 図 第 1 号柱穴列実測図

**第 2 号柱穴列（第 96 図）**

**位置** 調査区南部の D 4 d4 区、標高 33 m ほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第 4・11 号堅穴建物、第 6 号溝に掘り込まれている。

**規模と構造** 東西方向 3.90 m の間に配列された柱穴 3 か所を確認した。軸方向は N - 85° - E である。柱間寸法は 1.95 m (6.5 尺) で、柱筋はほぼ揃っている。

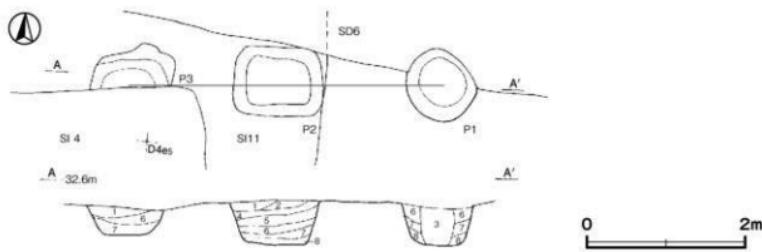
**柱穴** 3 か所。平面形は楕円形または隅丸長方形で、長径（軸）93 ~ 113cm、短径（軸）61 ~ 87cm である。深さは 34 ~ 53cm で、掘方の壁はやや外傾している。第 1 ~ 3 層は柱抜き取り後の覆土、第 4 ~ 8 層は埋土である。

**柱穴土層解説（各柱穴共通）**

1	暗	褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	5	褐	褐色	ロームブロック中量
2	暗	褐色	ロームブロック少量	6	暗	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量
3	黒	褐色	ロームブロック少量	7	褐	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
4	暗	褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	8	暗	褐色	ローム粒子少量

**遺物出土状況** 土師器片 7 点（坏 1, 壺 6）、須恵器片 10 点（坏 8, 盖 1, 壺 1）のほか、弥生土器片 2 点（壺）が、各柱穴から出土している。遺物は細片のため、図示できない。

**所見** 時期は、出土土器から奈良・平安時代の可能性が高いが、細片のため特定は困難である。P 1 で柱抜き取り痕が確認されていることから、掘立柱建物跡の一部の可能性がある。

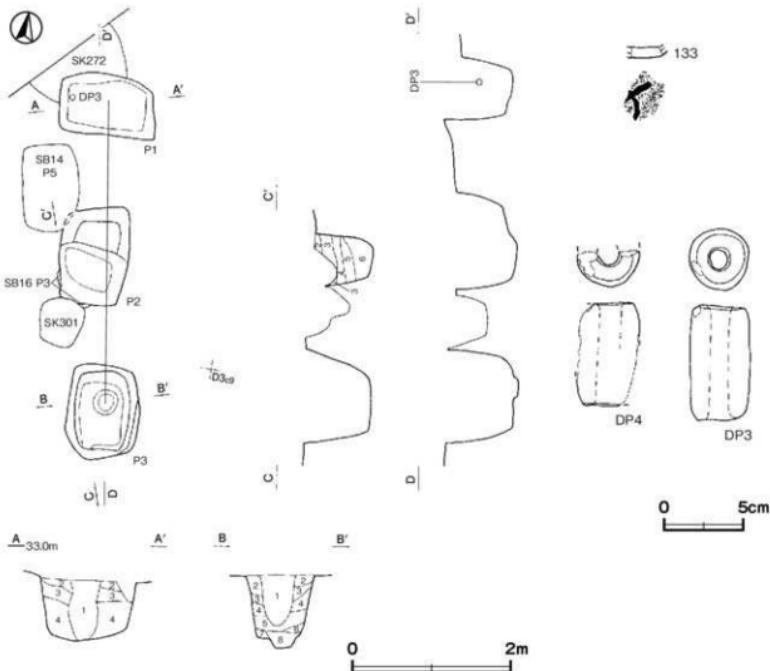


第96図 第2号柱穴列実測図

**第3号柱穴列（第97図）**

位置 調査区西部のD 3 b8 区、標高33 mはどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第272号土坑を掘り込み、第16号掘立柱建物、第301号土坑に掘り込まれている。第14号掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。



第97図 第3号柱穴列・出土遺物実測図

**規模と構造** 南北方向 3.90 m の間に配列された柱穴 3 か所を確認した。軸方向は N - 9° - W である。柱間寸法は 1.95 m (6.5 尺) で、柱筋はほぼ描っている。

**柱穴** 3 か所。平面形は長方形で、長軸 121 ~ 126cm、短軸 78 ~ 92cm である。深さは 86 ~ 90cm で、掘方の壁はほぼ直立している。第 1 層は柱抜き取り後の覆土、第 2 ~ 8 層は埋土である。

#### 柱穴土層解説 (各柱穴共通)

1	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量、炭化物微量
2	暗褐色	ロームブロック少量	6	暗褐色	ロームブロック微量
3	暗褐色	ローム粒子微量	7	褐色	鹿沼バミスブロック多量、ロームブロック少量
4	暗褐色	焼土ブロック・鹿沼バミスブロック少量、ロームブロック微量	8	褐色	ロームブロック中量

**遺物出土状況** 土師器片 5 点 (坏 3、甕 2)、須恵器片 15 点 (坏 11、蓋 4)、土製品 2 点 (管状土錘) が、P 1・P 3 から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から、奈良・平安時代の可能性が高いが、特定は困難である。P 1・P 3 で柱抜き取り痕が確認されたことから、掘立柱建物跡の一部の可能性がある。

第 3 号柱穴列出土遺物観察表 (第 97 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	はか	出土位置	備考
133	須恵器	坏	-	(0.8)	-	瓦石・石英・赤鉄	灰	良好	底部に墨書き「口」		P 3 覆土中	5% P1.21

番号	器種	長さ	幅	孔径	重葉	胎土	色調		特徴	出土位置	備考
DP 3	管状土錘	7.2	3.8	1.3	(114.4)	瓦石・石英・赤鉄	にぶい橙	ナデ		P 1 中層	P1.25
DP 4	管状土錘	6.4	4.0	1.3	(47.2)	瓦石・石英・赤鉄	にぶい橙	ナデ		P 1 覆土中	

#### 第 5 号柱穴列 (第 98 図)

**位置** 調査区西部の D 3 9 区、標高 33 m ほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第 8 号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

**規模と構造** 東西方向 4.20 m の間に配列された柱穴 3 か所を確認した。軸方向は N - 80° - E である。柱間寸法は 2.10 m (7 尺) で、柱筋はほぼ描っている。

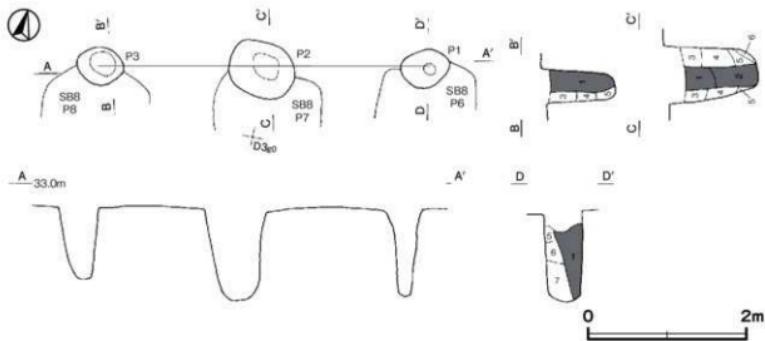
**柱穴** 3 か所。平面形は梢円形で、長径 53 ~ 86cm、短径 52 ~ 70cm である。深さは 92 ~ 110cm で、掘方の壁はほぼ直立している。第 1 ~ 2 層は柱痕跡、第 3 ~ 7 層は埋土である。

#### 柱穴土層解説 (各柱穴共通)

1	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	5	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量	6	黒褐色	ロームブロック少量
3	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	7	黒褐色	ローム粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量			

**遺物出土状況** 土師器片 14 点 (坏 7、甕 7)、須恵器片 9 点 (坏 2、高台付坏 2、蓋 5) のほか、縄文土器片 1 点 (深鉢)、弥生土器片 1 点 (蓋) が、各柱穴から出土している。遺物は細片のため、図示できない。

**所見** 時期は、出土土器から奈良・平安時代の可能性が高いが、細片のため特定は困難である。柱痕跡が確認されていることから、掘立柱建物跡の一部の可能性がある。



第98図 第5号柱穴列実測図

表13 その他の柱穴列一覧表

番号	位置	主軸方向	長さ(m)	柱間(m)	柱穴				主な出土遺物	備考	
					柱穴数	平面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)		
1	C 4b5	N - 7° - E	420	210	3	椭円形 横丸長方形	98 - 108	83 - 103	51 - 70	土師器	
2	D 4d4	N - 85° - E	390	195	3	椭円形 横丸長方形	93 - 113	61 - 87	34 - 53	土師器、須恵器	本跡 → SI 4 - 11, SD 6
3	D 3a8	N - 9° - W	390	195	3	長方形	121 - 126	78 - 92	86 - 90	土師器、須恵器, 土製品	SK272 → 本跡, SD16, SK301
5	D 3a9	N - 80° - E	420	210	3	椭円形	53 - 86	52 - 70	92 - 110	土師器、須恵器	SD 8 → 本跡

#### (5) 溝跡

#### 第6号溝跡 (第99・113図)

位置 調査区中央部のC 3j0 ~ D 4 d8 区、標高33 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第11号竪穴建物跡、第13・18・19号掘立柱建物跡、第2号柱穴列、第230・300号土坑を掘り込み、第7号溝に掘り込まれている。第293号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 北・東端部が調査区域外へ延びているため、長さは46.0 mほどしか確認できなかった。D 4 d8 区から西方向(N - 87° - W)へ直線的に延び、D 4 d2 区で北方向(N - 7° - W)へ屈曲し、D 4 b2 区で西方向(N - 77° - W)へ屈曲し、D 3 a0 区で北方向(N - 7° - W)へ屈曲し、C 3 j0 区まで直線的に延びている。規模は、上幅0.87 ~ 2.70 m、下幅0.05 ~ 0.27 mで、確認面からの深さは42 ~ 116cmである。底面の標高は、北端部が31.7 m、中央部のD 4 d2 区は32.1 m、東端部が30.9 mで、中央部から両端へ向かって傾斜している。断面形はV字状である。

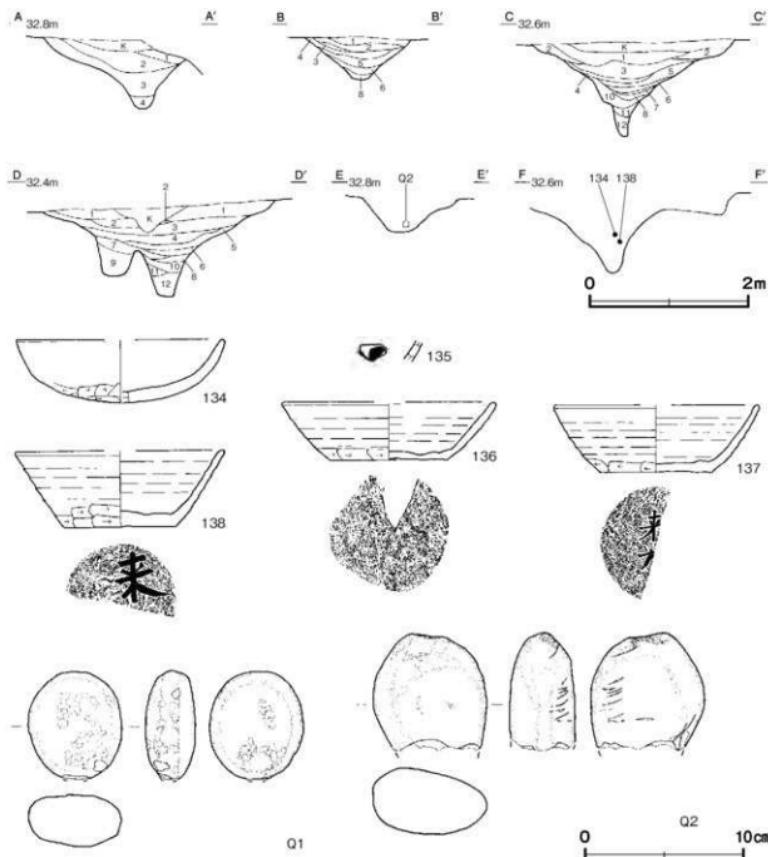
覆土 12層に分層できる。第2 ~ 4層は周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積で、それ以外は、多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	7	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック微量	8	黒褐色	ローム粒子少量
3	黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック中量
4	黒褐色	ローム粒子微量	10	暗褐色	ロームブロック微量
5	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	11	暗褐色	ローム粒子微量
6	暗褐色	ロームブロック、炭化粒子微量	12	黒褐色	ローム粒子中量

**遺物出土状況** 剥片 1 点、石器 2 点（磨石）、縄文土器 9 点（深鉢）、弥生土器 10 点（壺）、土器 318 点（壺 42、高台付壺 2、甕 272、高杯 2）、須恵器 347 点（壺 229、高台付壺 19、蓋 35、盤 3、高盤 1、甕 60）。土師質土器 6 点（小皿 2、内耳鍋 4）、陶器 3 点（碗）、磁器 1 点（碗）が、全域の覆土中から出土している。

**所見** 時期は、土器が細片のため図示できないが、陶器、磁器片が出土していることから、江戸時代には完全に埋没していたと考えられる。出土遺物の大半は、奈良・平安時代のものである。本跡が奈良・平安時代の堅穴建物跡や掘立柱建物跡を掘り込んでいることから、それらは流れ込んだか埋め戻される過程で混入したものと考えられる。性格は、区画溝などの可能性があるが、詳細は不明である。

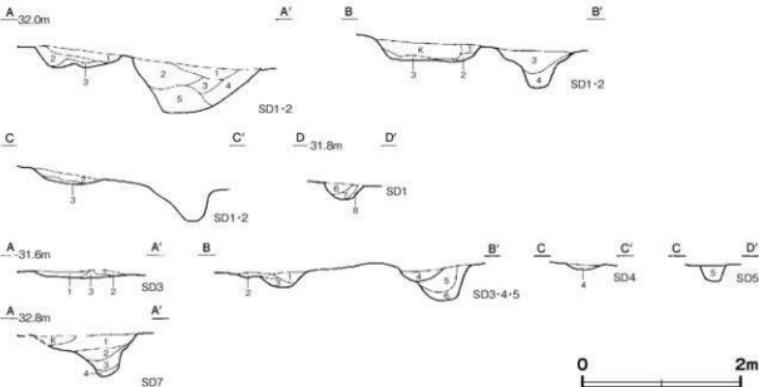


第 99 図 第 6 号溝跡・出土遺物実測図

第6号溝跡出土遺物観察表(第99図)

番号	種別	器種	口径	脚高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
134	土器部	环	[13.0]	4.0	-	長石・石英・ ガラス	褐	普通	底部外面手持ちヘラ削り 内面ナダ	覆土中層	20%
135	土器部	环	-	(13)	-	長石・石英・ ガラス	にふい黄褐	普通	墨書「口」	覆土中	5% PL21
136	須恵器	环	[13.4]	3.7	7.6	長石・石英・ ガラス	灰	普通	底部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土中	40%
137	須恵器	环	[12.8]	4.2	7.1	長石・石英・ ガラス	灰白	普通	底部下端手持ちヘラ削り 底部に墨書「米方。」	覆土中	40% PL16
138	須恵器	环	[13.0]	4.9	7.0	長石・石英・ ガラス	灰	良好	底部下端手持ちヘラ削り 底部に墨書「東」	覆土中層	30% PL21

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	磨石	(6.8)	5.9	3.2	(174.3)	安山岩	研磨痕	覆土中	PL25
Q 2	磨石	(7.4)	7.2	4.2	(312.9)	凝灰岩	研磨痕 先端に敲打痕	覆土下層	PL25



第100図 第1~5・7号溝跡実測図

## 第1号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック、炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック、炭化粒子微量
- 6 暗褐色 鹿沼バミスブロック、ローム粒子少量
- 7 底灰褐色 ロームブロック、鹿沼バミスブロック微量
- 8 底灰褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミスブロック微量

## 第2号溝跡土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック、炭化粒子微量
- 3 にふい褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

## 第3・4・5号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ローム粒子微量

## 第7号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量、燒土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量

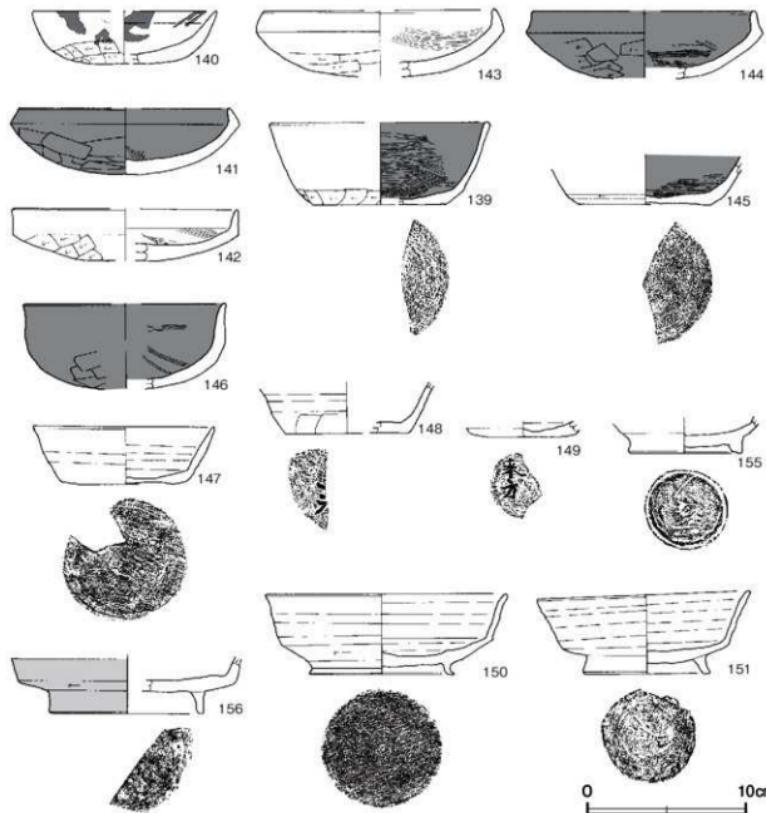
表14 その他の溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規 模			断面	壁面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長さ(m)	上幅(m)	F幅(m)					
1	B 477-C 5 g3	N=85° W	クラシック状	(41.9)	0.36 ~ 0.75	0.16 ~ 0.32	40 ~ 70	U字状 外傾斜	人骨 須恵器 陶器 石器	須恵器 陶器 石器	SK26 →本跡 SK 5
2	B 477-C 4 e6	N=26° W	直線状	(22.7)	0.60 ~ 1.34	0.07 ~ 0.21	18 ~ 24	U字状 直傾斜	人骨 須恵器 陶器 石器	須恵器 陶器 石器	

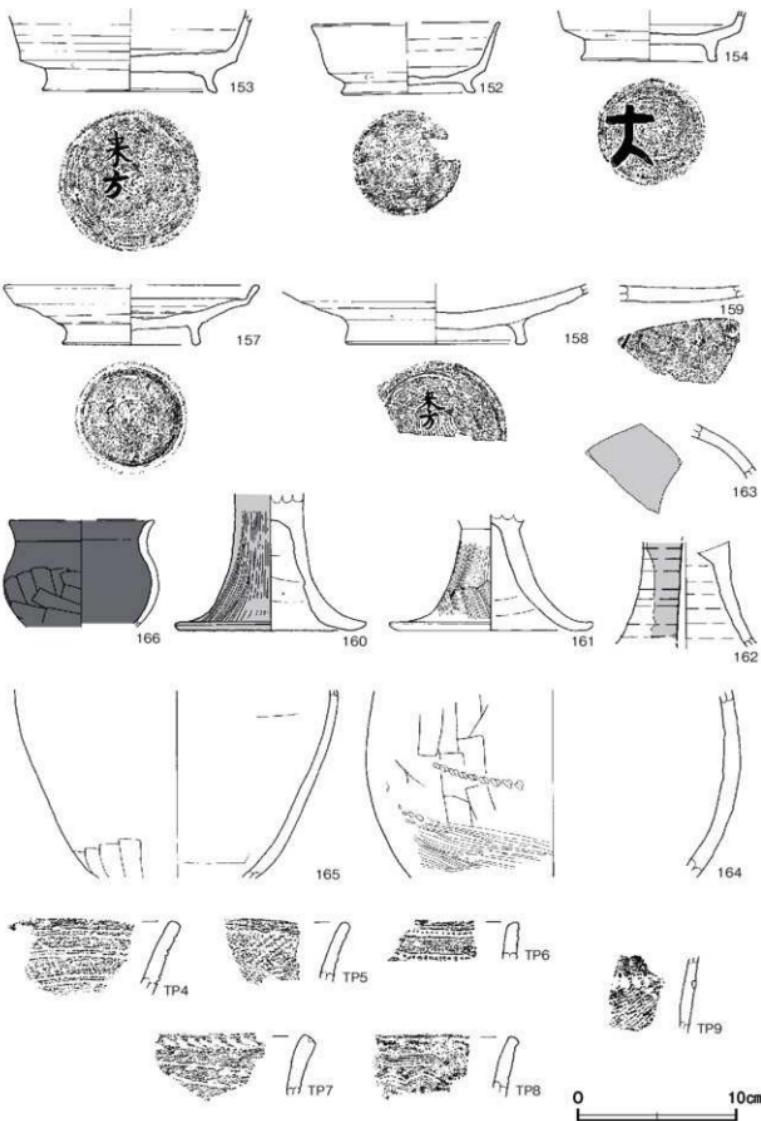
番号	位置	方向	平面形	規 模			断面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)					
3	C 512～C 513	N～13°～W	直線状	(4.35)	0.82～ 1.27	0.21～ 1.00	9～20	U字状	截鉗	自然	土師器、須恵器 SK24→本跡
4	C 512～C 512	N～22°～W	直線状	(5.85)	0.30～ 0.60	0.15～ 0.44	8～11	U字状	截鉗	自然	織文土器、土師器、 須恵器 SD 5→本跡
5	C 512～D 511	N～25°～E S～33°～W	L字状	(6.73)	0.23～ 0.36	0.09～ 0.20	5～45	U字状	内縫 外縫	自然	土師器、須恵器 本跡→SD 4
6	C 310～D 418	N～2°～W	クランク状	(46.0)	0.67～ 2.70	0.07～ 0.27	42～116	V字状	截鉗	自然 人為	青天玉器、青竹玉器、土器 器、土師器、須恵器 SB18、SD 6→本 跡
7	C 310～D 310	N～2°～W	直線状	(5.76)	0.32～ 0.41	0.07～ 0.12	52～61	U字状	外縫	自然	

(6) 遺構外出土遺物(第 101～104 図)

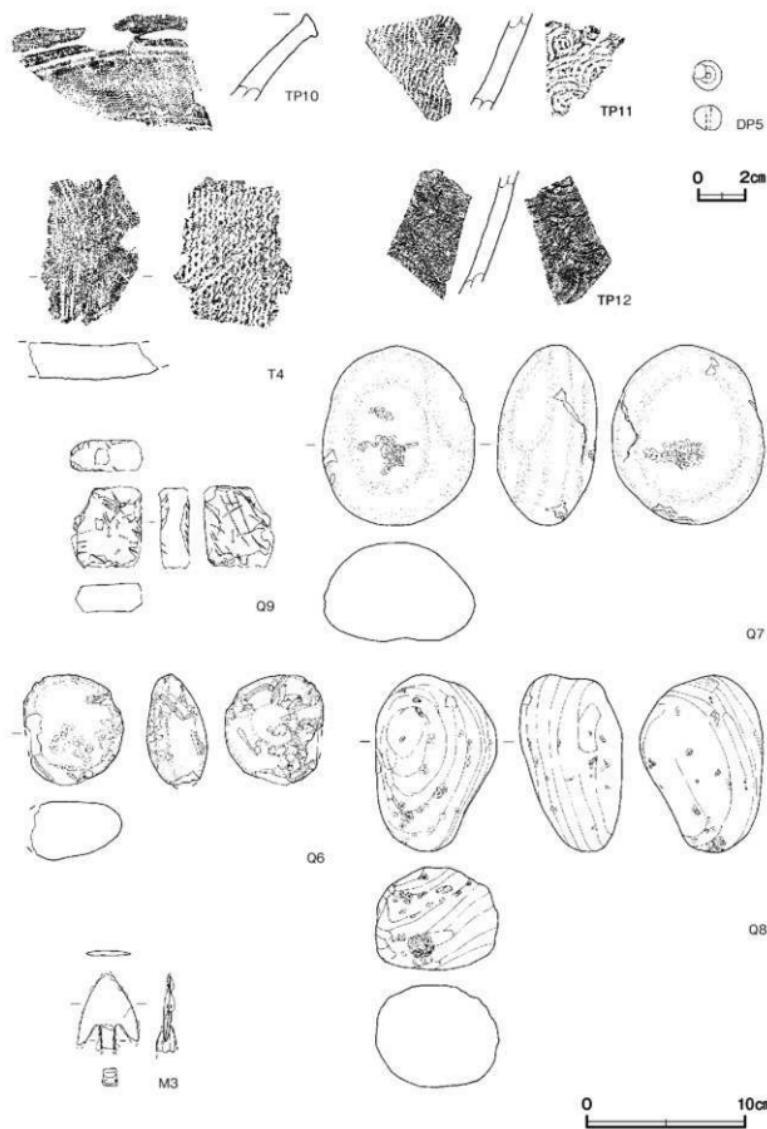
遺構に伴わない主な遺物について実測図及び観察表を掲載する。



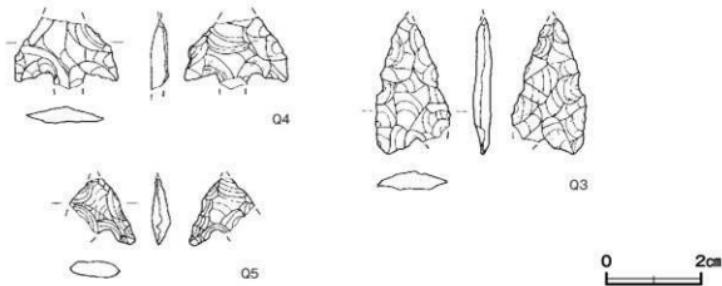
第 101 図 遺構外出土遺物実測図(1)



第 102 図 遺構外出土遺物実測図2)



第103図 遺構外出土遺物実測図(3)



第 104 図 遺構外出土遺物実測図(4)

遺構外出土遺物観察表（第 101 ~ 104 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底様	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
139	土器部	环	[137]	5.2	[84]	長石・石英	棕	普通	体部下端手縫ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部	表土	40% PL13
140	土器部	环	[116]	3.3	-	長石・石英	棕	普通	底部横位のヘラ削り 油煙付着	表土	30% PL13
141	土器部	环	[132]	4.2	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	底部横位のヘラ削り 内面ヘラ磨き	表土	30% PL13
142	土器部	环	[142]	3.3	-	長石・石英	赤色粒子	にじむ黄褐色	普通 口縁部機ナダ 底部斜面のヘラ削り 内面ヘラ削き	表土	20%
143	土器部	环	[144]	4.2	-	長石・石英	赤色粒子	にじむ黄褐色	普通 底部横位のヘラ削り 内面ヘラ磨き	表土	30%
144	土器部	环	[140]	4.2	-	長石・石英	黒褐色	普通	底部横位のヘラ削り 内面ヘラ磨き	表土	20%
145	土器部	环	-	(3.1)	[84]	長石・石英	にじむ黄褐色	普通	体部下端手縫ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部凹部	表土	30%
146	土器部	环	[127]	5.4	-	長石・石英	赤色粒子	普通	底部横位のヘラ削り 内面ヘラ磨き	表土	10%
147	須恵器	环	11.2	3.7	79	長石・石英	灰	良好	底部二方向のヘラ削り	表土	80% PL15
148	須恵器	环	-	(3.2)	[76]	長石・石英	黄褐色	良好	底部下端手縫ちヘラ削り 底部に墨書き「来方」	表土	5% PL16
149	須恵器	环	-	(1.0)	[44]	長石・石英	赤色粒子	普通	底部回転ヘラ削り 底部に墨書き「来方」	表土	5% PL21
150	須恵器	高台付环	15.2	5.1	90	長石・石英	灰	普通	体部下端手縫ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	表土	80% PL18
151	須恵器	高台付环	13.3	5.3	76	長石・石英 白色粘物質	灰黃褐色	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	表土	70%水素下重 PL19
152	須恵器	高台付环	[11.8]	4.5	81	長石・石英 赤色粒子	赤褐色	良好	体部下端手縫ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	表土	30% PL19
153	須恵器	高台付环	-	(5.2)	103	長石・石英	灰	良好	体部下端手縫ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	表土	30% PL20
154	須恵器	高台付环	-	(3.2)	84	長石・石英	灰	良好	体部下端手縫ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	表土	20% PL21
155	須恵器	高台付环	-	(2.7)	70	長石・石英 細繩	灰	良好	体部回転ヘラ削り後、高台貼り付け 底部にヘラ墨書き「口」	表土	20% PL20
156	須恵器	高台付环	-	(3.7)	[96]	長石・石英 黒褐色	灰黃褐色	普通	体部下端手縫ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	表土	20%
157	須恵器	盤	[158]	3.8	8.8	長石・石英 赤色粒子	灰褐色	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	表土	70%水素下重 PL19
158	須恵器	盤	-	(3.8)	[113]	長石・石英 細繩	灰白	良好	体部下端手縫ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り後、外周部回転ヘラ削り	表土	20% PL21
159	須恵器	盤	-	(1.0)	-	長石・石英 白色粘物質	灰黃	普通	底部に墨書き「口」	表土	10% PL21
160	土器部	高环	-	(8.6)	121	長石・石英 赤色粘物質	灰白	普通	脚部外側横位のヘラ削き 内面横位のヘラ削り	表土	40% PL22
161	土器部	高环	-	(6.9)	[128]	長石・石英 赤母	にじむ黄褐色	普通	脚部横位のハケ目 脚部内面ヘラナダ	表土	30% PL22
162	須恵器	高盤	-	(6.7)	-	長石・石英	黄褐色	普通	脚部に透かし孔	表土	10%
163	灰陶壺	瓶類	-	(3.4)	-	長石・石英	灰白	良好	縫合部	表土	5%旅投産
164	土器部	甕	-	(11.8)	-	長石・赤色粒子 細繩	にじむ黄褐色	普通	体部外側横位のヘラ削り後、脚袋のヘラ磨き	表土	20%
165	土器部	甕	-	(11.9)	-	長石・石英 赤母	にじむ黄褐色	普通	体部下端横位のヘラ削り 内面ヘラナダ	表土	20%
166	土器部	小形甕	(9.0)	(6.7)	-	長石・石英 赤母	にじむ黄褐色	普通	体部外側ヘラ削り	表土	20%

番号	種別	器種	胎 土	色 調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP 4	绳文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	口唇部ナデ→半截竹管によるコンパス文・横位の沈線文	表土	PL24
TP 5	绳文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	口唇部ナデ→單筋魂文LR	表土	PL24
TP 6	绳文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	口唇部ナデ→半截竹管による横位の押引文	表土	PL24
TP 7	绳文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	口唇部にヘラ状工具による刷み・半截竹管による横位の沈線文	表土	PL24
TP 8	绳文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄	口唇部ナデ→側面状工具による横位の波状文	表土	PL24
TP 9	出生土器	壺	長石・石英・雲母	褐灰	附加条一種→壺体の先端で刺突	表土	PL24
TP10	須恵器	壺	長石・石英・細繩	灰	側面状工具による横位の波状文	表土	PL24
TP11	須恵器	壺	長石・石英・雲母・細繩	にぶい橙	体部外周部位の平行叩き・内面同心円文の当て具痕	表土	
TP12	須恵器	壺	長石・石英	灰	内面同心円文の当て具痕	表土	PL24

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
T 4	平瓦	(102)	(8.1)	2.2	(2242)	長石・石英	灰黃	凹面布目模 凸面織目叩き	表土	PL25

番号	器種	様	厚さ	孔様	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
DP 5	土玉	1.2	1.0	0.2	(141)	長石・石英	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	表土	PL25

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
Q 3	礎	(2.9)	1.6	0.4	(1.48)	頁岩	凹基無茎脚 両面調整 一部欠損	表土	PL25
Q 4	礎	(1.5)	2.2	0.4	(0.97)	チャート	凸基有茎脚 両面調整 一部欠損	表土	PL25
Q 5	礎	(1.4)	(1.4)	0.4	(0.43)	黒曜石	円基無茎脚 両面調整 端部欠損	表土	
Q 6	磨石	(7.0)	(6.3)	3.9	(180.5)	凝灰岩	側面磨痕	表土	
Q 7	敲石	11.4	9.6	6.1	913.1	凝灰岩	側面磨痕 前・後面敲打痕	表土	PL25
Q 8	敲石	11.2	7.7	6.5	685.0	凝灰岩	側面磨痕 先端部敲打痕	表土	
Q 9	砥石	(5.2)	(4.4)	1.8	(62.7)	砂岩	砥面2面 端部欠損	表土	PL25

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
M 3	礎	(48)	3.9	0.3	(11.9)	頁岩	短茎部二段	表土	PL26

## 第4節 ま　と　め

### 1 はじめに

当遺跡は、低位段丘上から低地にかけて立地しており、今回の調査により縄文時代から近現代にかけての複合遺跡であることが確認できた。ここでは、確認した各時代の様相について遺構や遺物の特徴にふれながら、若干の考察を加えてまとめとしたい。

### 2 各時代の様相

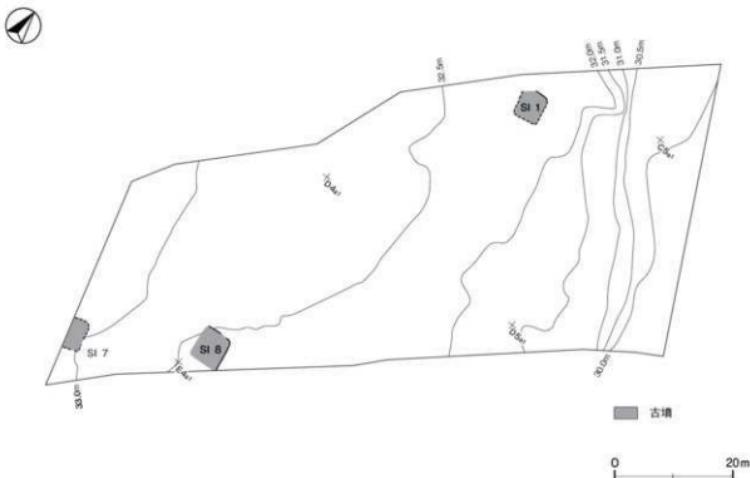
#### (1) 縄文時代

当時代の遺構は、陥し穴3基である。陥し穴から土器の出土はないが、付近の表土から前期（黒浜～諸磯式期）の特徴を備えた土器片が出土している。また、出土量は少ないが、石錨や剥片なども出土していることから、当遺跡周辺は、縄文時代前期に狩猟場として利用されていたと推測できる。

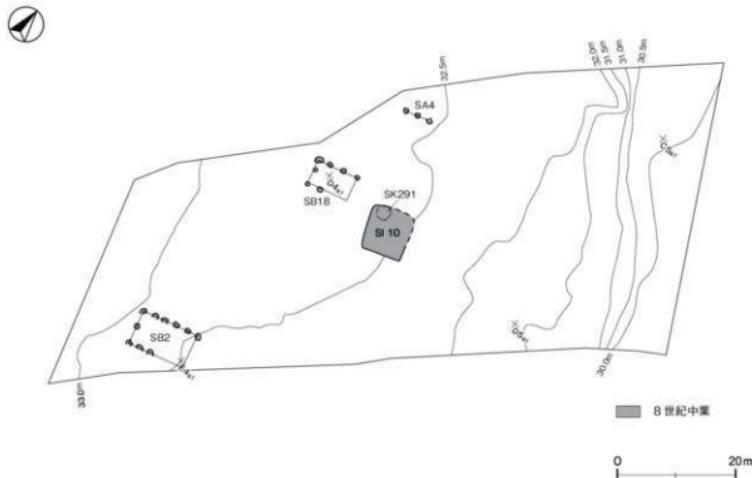
#### (2) 弥生時代

当時代の遺構は確認できなかった。表土からは、弥生時代後期（二軒屋式期）の土器片が出土しており、弥生時代の人々が当遺跡周辺で生活していた可能性がある。

#### (3) 古墳時代（第105図）



第105図 壇穴建物跡配置図（古墳時代）



第106図 堪穴建物跡、掘立柱建物跡、土坑配置図（第1期）

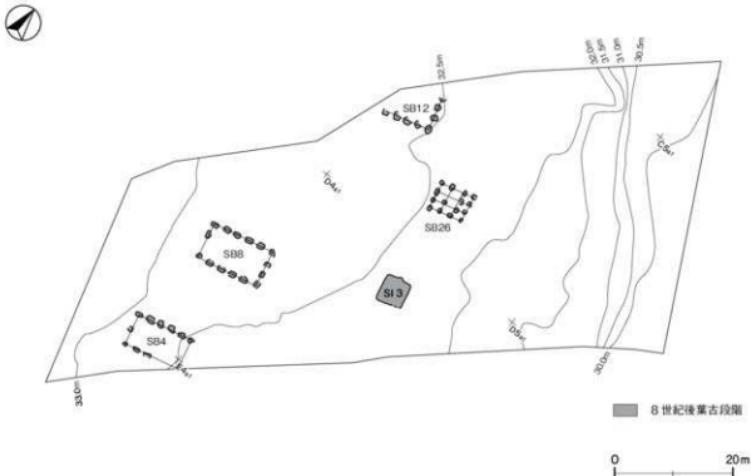
当時代の遺構は、堪穴建物跡3棟である。いずれの堪穴建物跡からも後期の土器が出土しており、第7号堪穴建物跡は6世紀後葉、第1・8号堪穴建物跡は7世紀前葉に比定できる。確認できた堪穴建物跡が少ないとみられ、集落の縁辺部に当たると考えられる。集落は6世紀後葉に形成され、7世紀前葉まで存続していたとみられる。7世紀後葉以降の土器が出土していないため、集落の中心は調査区城外へ移ったか、集落自体が衰退したものと考えられる。

#### (4) 奈良時代

当時代の遺構は、堪穴建物跡3棟、掘立柱建物跡11棟、柱穴列1条である。出土遺物や遺構の配置などから8世紀中葉、後葉古段階、後葉新段階の3時期に区分して遺跡の様相を述べる。

##### 第1期（8世紀中葉 第106図）

8世紀中葉は、堪穴建物跡1棟、掘立柱建物跡2棟、掘立柱建物跡の可能性がある柱穴列1条で、遺構数は少ない（第291号土坑については、後述する）。第10号堪穴建物跡は、一辺が6.5mの方形で、規模や墨書き器の出土から、当期の中心的な住居とみられる。掘立柱建物跡は、当期から確認されるようになる。第2号掘立柱建物跡は、面積が約58m<sup>2</sup>の大型の掘立柱建物跡で、第10号堪穴建物跡の南西約30mに位置し、中心的な建物として機能していたと考えられる。掘立柱建物跡は、いずれも東西棟で、全体の建物配置は、第10号堪穴建物跡の主軸線と第2・18号掘立柱建物跡の平行方向や第4号柱穴列の柱筋が直交する位置関係にあり、計画的な配置がみられる。



第107図 堅穴建物跡、掘立柱建物跡配置図（第II期）

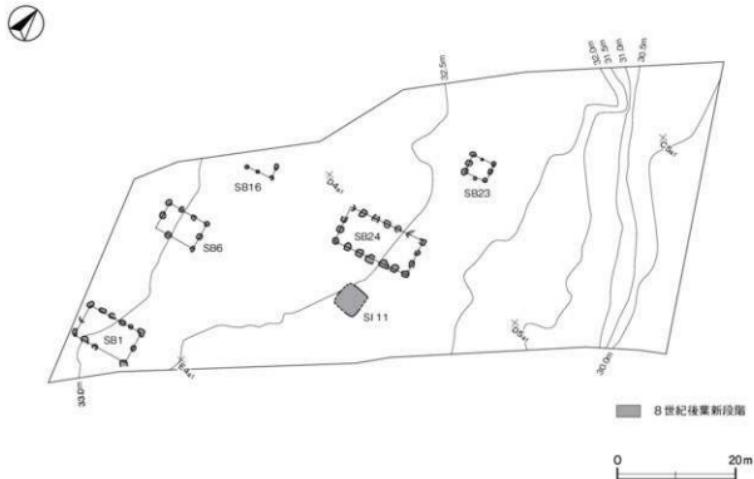
#### 第II期（8世紀後葉古段階 第107図）

8世紀後葉は、堅穴建物跡2棟、掘立柱建物跡9棟で、中葉段階に比べ掘立柱建物跡の数が増加する。遺構の配置や主軸（桁行）方向などから古段階と新段階の2時期に分けられ、短期間に建て替えが行われている。

当期の遺構は、第3号堅穴建物跡、第4・8・12・26号掘立柱建物跡が該当する。第3号堅穴建物跡は、一辺が約4.6mの方形で、主軸方向は第I期のものとは同じであるが、規模は縮小傾向にある。掘立柱建物跡は、第4・8号掘立柱建物跡の面積が53～69m<sup>2</sup>で、規模が拡大している。第4号掘立柱建物跡は、規模や柱穴の位置が第I期の第2号掘立柱建物跡とは同じであることから、建て替えられたとみられる。第8号掘立柱建物跡からは、墨書き土器が出土しており、その規模の大きさからも、中心的な建物として機能していたと考えられる。また、総柱構造である第26号掘立柱建物跡は、当期にしか確認できない。掘立柱建物跡は、いずれも東西棟で、全体の建物配置は、第3号堅穴建物跡の主軸線と各掘立柱建物跡の桁行方向が直交する位置関係にある。さらに、第3号堅穴建物跡の南壁と第8号掘立柱建物跡の北平、第3号堅穴建物跡の主軸線と第26号掘立柱建物跡の西妻が接しているなど、第I期同様、計画的な配置がみられる。

#### 第III期（8世紀後葉新段階 第108図）

当期の遺構は、第11号堅穴建物跡、第1・6・16・23・24号掘立柱建物跡が該当する。第11号堅穴建物跡は、一辺が4.3mの方形で、面積は約19m<sup>2</sup>の住居である。堅穴建物跡の規模は、第II期に比べ、やや縮小している。第24号掘立柱建物跡は、面積が約85m<sup>2</sup>の大型掘立柱建物跡で、規模から当期の中心的



第108図 竪穴建物跡、掘立柱建物跡配置図(第Ⅲ期)

な建物と考えられる。掘立柱建物跡は、いずれも東西棟で、全体の建物配置は、第24号掘立柱建物跡の桁行中軸線と各掘立柱建物跡の桁行方向が直交する位置関係にあり、第Ⅱ期からの計画的な配置を踏襲している。掘立柱建物跡の棟間距離は、第1・6号掘立柱建物跡間で約16m(53尺)、第6・16号掘立柱建物跡間、第16・24号掘立柱建物跡間、第23・24号掘立柱建物跡間で、それぞれ約14m(47尺)である。各掘立柱建物跡は、第11号竪穴建物跡や第24号掘立柱建物跡を中心として、14~16m間隔で配置され、建物跡の主軸、桁行方向だけでなく、棟間距離にも規格性を強く意識していることがうかがえる。

8世紀後葉は、堅穴建物跡が2棟に対して、掘立柱建物跡は9棟と中葉段階より増え、「屋」を主体とした倉庫群的な様相へ変容している。

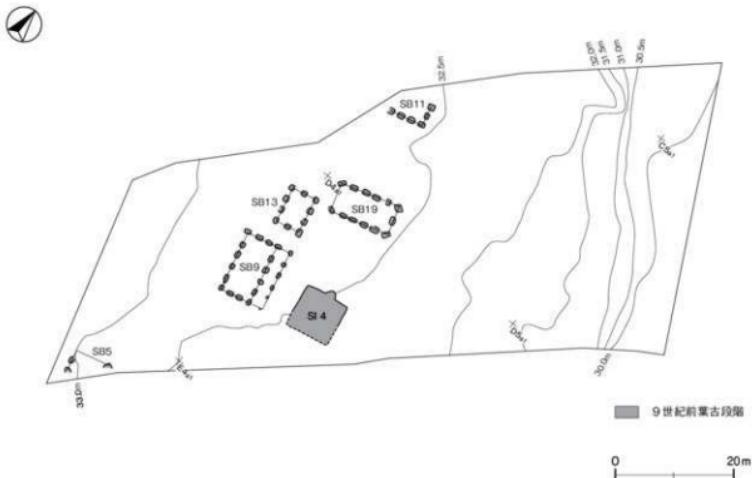
## (5) 平安時代

当時代の遺構は、堅穴建物跡5棟、掘立柱建物跡13棟である。出土遺物や遺構の配置などから9世紀前葉古段階、前葉新段階、中葉古段階、中葉新段階の4時期に区分して遺跡の様相を述べる。なお、時期名は奈良時代から継続して第Ⅳ期からとする。

#### 第IV期（9世紀前葉古段階 第109図）

9世紀前葉は、堅穴建物跡1棟、掘立柱建物跡10棟で、8世紀後葉段階に引き続き、倉庫群的な様相を呈している。遺構の配置や主軸（桁行）方向から古段階と新段階の2時期に分けられ、短期間に建て替えが行われている。

当期の遺構は、第4号竪穴建物跡、第5・9・11・13・19号掘立柱建物跡が該当する。第4号竪穴建

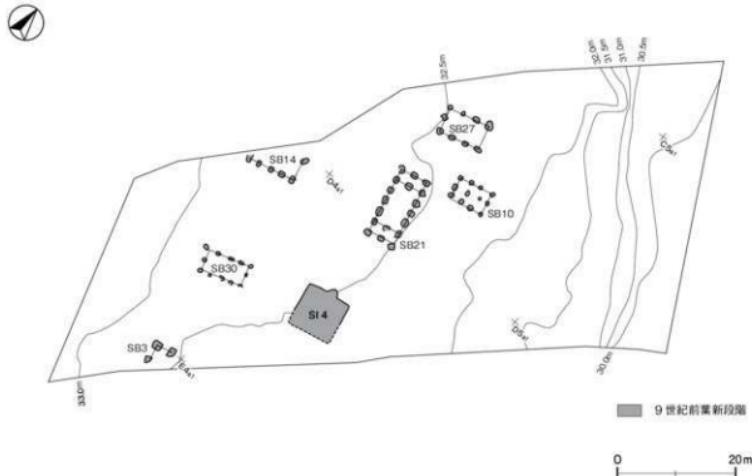


第109図 堪穴建物跡、掘立柱建物跡配置図（第IV期）

物跡は、一辺が7.5mの方形で、面積は約57m<sup>2</sup>の大型住居で、規模が第Ⅲ期より拡大している。貼床下から旧柱穴を検出したことから、建て替えによって、9世紀前葉の2時期にわたり機能していたものとみられる。東庇付きの第9号掘立柱建物跡、第19号掘立柱建物跡は、それぞれの面積が約82m<sup>2</sup>、約54m<sup>2</sup>の大型掘立柱建物跡で、第9号掘立柱建物跡からは墨書き器が出土している。これら大型の建物跡は、規模や出土遺物の種類・量から中心的な住居と建物とみることができる。また、庇を有する南北棟の掘立柱建物跡は、当期になって確認できるようになる。掘立柱建物跡の桁行方向は、東西棟がN-74°・75°-Eで、南北棟はN-12°・13°-Wと、それぞれほぼ同じ方向である。全体の建物配置は、第4号堪穴建物跡の主軸線や第9号掘立柱建物跡の桁行方向と第5・11・19号掘立柱建物跡の桁行方向が直交する位置関係で、第4号堪穴建物跡の南壁と第9号掘立柱建物跡の南妻、第9号掘立柱建物跡の庇部分の東平と第13号掘立柱建物跡の東平、第13号掘立柱建物跡の北妻と第19号掘立柱建物跡の南平が揃っている。また、第4号堪穴建物跡、第19号掘立柱建物跡、第11号掘立柱建物跡間の距離は、約14m(47尺)の等間隔に配置されている。しかし、第4号掘立柱建物跡と第13号掘立柱建物跡間、第13号掘立柱建物跡と第19号掘立柱建物跡間は、それぞれ約4m(13尺)と狭い間隔で配置されている。このように、当期は桁行方向や棟間距離に一定の規画性をもつていて、各建物が近接して配置されている点で、他の時期とは異なった様相を示している。

#### 第V期（9世紀前葉新段階 第110図）

当期の遺構は、第4号堪穴建物跡、第3・10・14・21・27・30号掘立柱建物跡が該当する。第4号堪穴建物跡は建て替えられ、第IV期から存続している。第21号掘立柱建物跡は、面積が約56m<sup>2</sup>の大型の掘



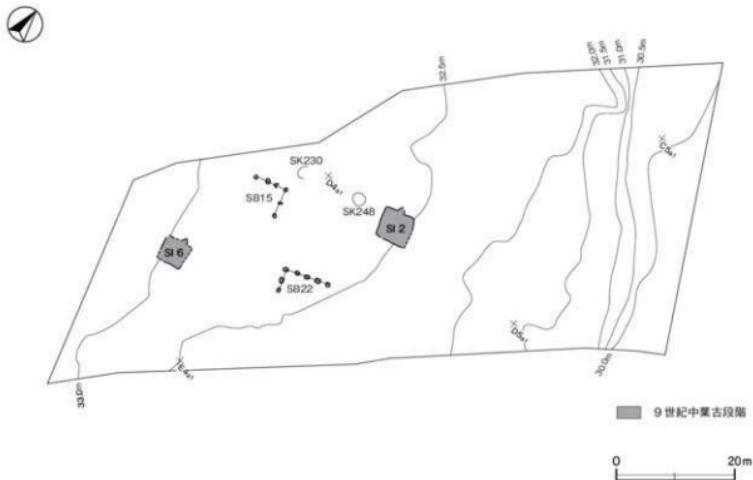
第110図 坚穴建物跡、掘立柱建物跡配置図（第V期）

立柱建物跡で、棟持柱があることや規模の大きさから、第4号堅穴建物跡とともに当期の中心的な建物と考えられる。掘立柱建物跡の桁行方向は、東西棟がN-74°～79°-Eで、南北棟はN-11°-Wと、それぞれほぼ同じ方向である。全体の建物配置は、第4号堅穴建物跡の主軸線や第21号掘立柱建物跡の棟通りと各掘立柱建物跡の桁行方向が直交する位置関係で、第14号掘立柱建物跡と第30号掘立柱建物跡の東妻、第10号掘立柱建物跡の西妻と第27号掘立柱建物跡の東妻、第10号掘立柱建物跡の南平と第21号掘立柱建物跡の北妻、第4号堅穴建物跡の東壁と第21号掘立柱建物跡の棟通りと第27号掘立柱建物跡の西妻、第21号掘立柱建物跡の桁行中軸線と第14号掘立柱建物跡の北平あるいは棟通りが揃っている。掘立柱建物跡の棟間距離は、第3号掘立柱建物跡と第30号掘立柱建物跡間、第14号掘立柱建物跡と第21号掘立柱建物跡間がそれぞれ約15m(50尺)で、第14号掘立柱建物跡と第30号掘立柱建物跡間は約16m(53尺)と近似した間隔である。当期は、14～16mの棟間距離を基準とした計画性の高い配置をしている。

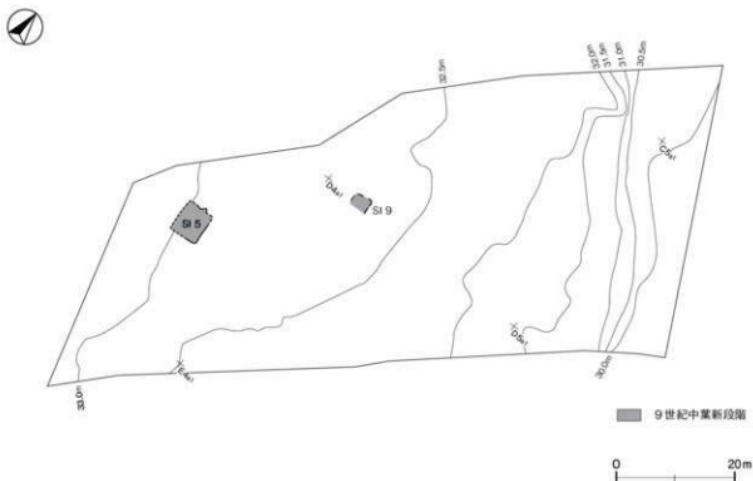
#### 第VI期（9世紀中葉古段階 第111図）

9世紀中葉は、堅穴建物跡4棟、掘立柱建物跡2棟で、前葉段階に比べると掘立柱建物跡の数が大幅に減少する（第230・248号土坑については、後述する）。遺構の配置や主軸（桁行）方向から古段階と新段階の2時期に分けられる。

当期の遺構は、第2・6号堅穴建物跡、第15・22号掘立柱建物跡が該当する。堅穴建物跡は、一辺が4.3～5.6mの方形や長方形である。主軸方向はN-7°～17°-Wと北西方向へ振れており、規模は、第V期より縮小傾向にある。掘立柱建物跡は、いずれも東西棟である。全体の建物配置は、第2・6号堅穴建物跡の主軸線に対して、掘立柱建物跡の桁行方向がほぼ直交する位置関係にあり、第2号堅穴建物跡の南壁



第 111 図 堪穴建物跡、掘立柱建物跡、土坑配置図（第VI期）



第 112 図 堪穴建物跡配置図（第VII期）

と第15号掘立柱建物跡の北側柱筋が残っている。第2号竪穴建物跡と第15号掘立柱建物跡間、第6号竪穴建物跡と第22号掘立柱建物跡間の棟間距離は、いずれも約16m(53尺)である。第三期～当期までに12～16m(40～53尺)の間隔で配置された建物間は17か所あり、例外もあるが、当遺跡における棟間距離は、12～16m(40～53尺)を一つの基準としていた可能性がある。当期は、建物の数や規模は縮小するが、計画的な配置や棟間距離などの規画性は、第V期までのものを踏襲している。掘立柱建物跡は、当期を最後に確認できなくなる。

#### 第VII期（9世紀中葉新段階 第112図）

当期の遺構は、第5・9号竪穴建物跡が該当する。第5号竪穴建物跡は、一辺が約5mの長方形である。主軸方向はN-2°-Wとやや北西方向へ振れており、規模や形状は、第VI期の第6号竪穴建物跡と類似している。掘立柱建物跡は確認できなかった。

9世紀中葉は、掘立柱建物跡の数が大幅に減少し、第VII期には竪穴建物跡のみになることから、倉庫群は場所を移動したか、必要としなくなったものと考えられる。

#### (6) 江戸時代以降

当時代の遺構は、水田跡1か所、溝跡3条で、水田耕作が行われていた。当遺跡の東側には現在も水田が広がっており、調査区内の低地部は、戦前まで水田として利用されていた。

### 3 遺構について

ここでは、当遺跡の特徴的な遺構について述べていきたい。

#### (1) 掘立柱建物跡

今回の調査で、奈良・平安時代の掘立柱建物跡が24棟確認できた。確認できた掘立柱建物跡は、側柱建物跡が23棟、総柱建物跡が1棟で、側柱建物跡を主として構成されている。側柱建物跡は、住居、倉庫、官舎など多岐にわたり用いられ、当時の普遍的な構造であった。また、総柱建物跡は、側柱建物跡に比べ荷重に強く、主に高床式の倉庫として用いられた。24棟の掘立柱建物跡の面積は、12～85m<sup>2</sup>である。そのうち、面積が50m<sup>2</sup>を超える大型の掘立柱建物跡は8棟で、全体の33%に及んでいる。さらに、柱穴の規模や柱間数から面積が50m<sup>2</sup>以上と推定できる掘立柱建物跡を含めると13棟で、全体の54%と半数以上を占める。一般集落において、面積が50m<sup>2</sup>以上の大型の掘立柱建物跡は、ほとんど見られないことから<sup>1)</sup>、当遺跡の掘立柱建物跡は、一般集落のそれとは異なる性格がうかがえる。

以上のことから、当遺跡の掘立柱建物跡は、主である側柱建物の構造上、基本的には穀穂に比べ荷重の軽い穀稻などを収納する「屋」として利用されていたと考えられる<sup>2)</sup>。底や棟持柱をもつ大型の第9・21号掘立柱建物跡などは、「屋」と考えられる掘立柱建物跡とは様相が異なることから、穀穂など収納物の管理に関わる施設として機能していたとみられる。「倉」と考えられる総柱建物跡が1棟しか存在しないことは、構造上備蓄よりも運用を目的として建てられたと考えられ<sup>3)</sup>。収納物は穀穂などで、交通の要衝であった当集落から郡衙へ送られたり、出稼穂として貸し出されたりなど、頻繁な出納を繰り返していたことが想定できる。

#### (2) 土坑

表15 奈良・平安時代掘立柱建物跡一覧表

時代	時期	遺構名	掘行方向	棟方向	柱間数 幅×奥深さ	規模 幅×奥深さ(m)	面積 (m <sup>2</sup> )	柱間寸法 幅(m)×奥深さ(m)	構造	柱穴数	
奈良	8世紀中葉	第2号掘立柱建物跡	N-26°~E	東西	5×2	9.80×6.00	58.80	1.95	3.00	圓柱	10
	8世紀中葉	第18号掘立柱建物跡	N-76°~E	東西	3×2	7.20×4.20	30.24	2.40	2.10	圓柱	7
	8世紀後葉	第1号掘立柱建物跡	N-83°~E	東西	5×2	9.75×5.70	55.58	1.95	2.85	圓柱	12
	8世紀後葉	第4号掘立柱建物跡	N-77°~E	東西	5×2	9.80×5.60	52.92	1.95	2.70	圓柱	10
	8世紀後葉	第6号掘立柱建物跡	N-81°~E	東西	3×2	7.20×4.80	34.56	2.40	2.40	圓柱	8
	8世紀後葉	第8号掘立柱建物跡	N-78°~E	東西	5×3	10.95×6.30	68.99	2.19	2.10	圓柱	16
	8世紀後葉	第12号掘立柱建物跡	N-75°~E	東西	(4)×(3)	(7.80)×(5.85)	-	1.95	1.95	圓柱	8
	8世紀後葉	第16号掘立柱建物跡	N-76°~E	東西	(2)×(1)	(3.95)×(1.95)	-	2.40~	1.95	圓柱	4
	8世紀後葉	第23号掘立柱建物跡	N-77°~E	東西	2×2	3.90×3.30	12.87	1.95	1.65	圓柱	8
	8世紀後葉	第24号掘立柱建物跡	N-76°~E	東西	6×3	13.50×6.30	85.05	2.25	2.10	圓柱	18
平安	8世紀後葉	第26号掘立柱建物跡	N-76°~E	東西	3×3	5.85×4.50	26.33	1.95	1.50	圓柱	15
	9世紀前葉	第3号掘立柱建物跡	N-27°~E	東西	(1)×(1)	(2.70)×(2.20)	-	2.70	2.70	圓柱	3
	9世紀前葉	第5号掘立柱建物跡	N-75°~E	東西	(3)×(2)	(5.85)×(3.00)	-	1.95	1.95	圓柱	3
	9世紀前葉	第9号掘立柱建物跡	N-13°~W	南北	5×3	10.50×5.40	56.70	2.10	1.80	圓柱	16
	9世紀前葉	第10号掘立柱建物跡	N-79°~E	東西	3×2	5.85×3.90	22.82	1.95	1.95	圓柱	12
	9世紀前葉	第11号掘立柱建物跡	N-75°~E	東西	(3)×(2)	(5.85)×(3.00)	-	1.95	1.80	圓柱	6
	9世紀前葉	第13号掘立柱建物跡	N-12°~W	南北	3×2	6.30×4.20	26.46	2.10	2.10	圓柱	10
	9世紀前葉	第14号掘立柱建物跡	N-75°~E	東西	(1)×(1)	(8.40)×(3.00)	-	2.10	2.60	圓柱	6
	9世紀前葉	第19号掘立柱建物跡	N-74°~E	東西	5×2	10.50×5.10	53.55	2.10	2.55	圓柱	13
	9世紀前葉	第21号掘立柱建物跡	N-11°~W	南北	4×2	7.80×4.80	37.44	1.95	2.40	圓柱	12
	9世紀前葉	第27号掘立柱建物跡	N-75°~E	東西	3×2	7.20×4.20	30.24	2.40	2.10	圓柱	9
	9世紀前葉	第30号掘立柱建物跡	N-74°~E	東西	4×2	7.20×2.60	25.92	1.80	1.80	圓柱	12
	9世紀中葉	第15号掘立柱建物跡	N-76°~E	東西	(3)×(2)	(5.40)×(4.50)	-	1.80	2.25	圓柱	6
	9世紀中葉	第22号掘立柱建物跡	N-71°~E	東西	(4)×(2)	(7.20)×(3.60)	-	1.80	1.80	圓柱	7

第230・248号土坑は、規模や形状が類似し、底面が火熱を受け、赤変硬化している。詳細な時期は不明であるが、重複関係から9世紀中葉古段階(第111図)に想定できる。周辺遺跡での類例は確認できなかつた。性格は、底面の様相から、何らかの焼成や焼却施設などが考えられる。当遺跡で確認した土坑の中では極めて特徴的である。第291号土坑(第106図)の底面からは、炭化米が出土している。時期は、重複関係から8世紀中葉以前と考えられるが、詳細は不明である。硯穀を収納したとみられるつくば市の平沢官衙遺跡や桜川市の新治郡跡などは、遺構内から炭化米が確認されている<sup>43)</sup>。

#### 4 出土遺物について

ここでは、当遺跡から出土している特徴的な遺物について述べていきたい。

##### (1) 硯

硯は5点出土している。円面硯は、第4号堅穴建物跡から2点、第11号堅穴建物跡から1点で、転用硯は、第2号堅穴建物跡から2点出土している。出土した円面硯は、いずれも圓足円面硯で、脚部に方形あるいは長方形の透かし孔が設けられていたとみられる。破片のため、透かし孔の数までは確認できなかつたが、そのうち1点の脚部には縦の平行沈線が入っている。磨面には、摩滅痕がみられ、実際に使用されていた痕跡がある。転用硯は、須恵器坏・高台付坏を用いている。どちらも内面に墨痕が残っている。高台付坏は、外面底部にも墨痕が残っていることから、内・外、両面を使用していたことがわかる。硯は官衙や寺院から出土する傾向があり<sup>45)</sup>、少量の出土だが、特筆すべき遺物である。

##### (2) 瓦

瓦は4点出土している。第9・16・23号掘立柱建物跡と表土から1点ずつの出土で、いずれも平瓦である。瓦の技法の特徴を見ると、凸面は綱叩きで、凹面には布目痕や模骨痕が確認できることから、桶巻作りで製作された瓦であることがわかる。少量で破片だが、当向遺跡<sup>61)</sup>の掘立柱建物跡から出土している瓦に類似し、本郷瓦窯産の可能性がある。当時、瓦は寺院や官衙などの建物で使われたもので<sup>71)</sup>、当集落へは何らかの目的で搬入されたものとみられる。

### (3) 墨書き土器

墨書き土器は31点出土している。内訳は、須恵器が29点、土師器は2点である。器種ごとの点数は、須恵器が壺20点、高台付环6点、蓋1点、盤2点で、土師器は壺・高台付环各1点と壺への墨書きが多いことがわかる。時期別の出土数を見ると、8世紀中葉の遺構から1点、8世紀後葉の遺構から5点、9世紀前葉の遺構から13点、9世紀中葉の遺構から2点、時期不明の遺構から10点で、掘立柱建物跡の数が増加している8世紀後葉から9世紀前葉の遺構からの出土が多く、約58%の墨書き土器が出土している。出土範囲は調査区全域に及んでおり、保有点数が最多の遺構は、9世紀前葉の第4号堅穴建物跡が5点である。次に、墨書きされた文字を見ていくと、「來」と書かれた土器が7点、「來方」と書かれた土器が13点（うち1点は朱書き）で、合わせて全体の約65%となり、判別不可能な文字を除くとその割合は、約87%を占める。出土した墨書き土器の半数以上を占める「來」や「來方」には、どのような意味があるのか現段階では不明

表16 墨書き土器一覧表

遺物番号	私文	種別	器種	部位・方向	遺構	時期	備考
10	又。	須恵器	壺	底部	S I - 10	8世紀中葉	
17	來	須恵器	壺	底部	S B - 1	8世紀後葉	
28	來	須恵器	壺	底部	S B - 8	8世紀後葉	
30	來方	須恵器	壺	底部	S B - 23	8世紀後葉	
31	來方	須恵器	高台付环	底部	S B - 23	8世紀後葉	
37	來方	須恵器	壺	底部	S K - 231	8世紀後葉	
61	來方	須恵器	壺	底部	S I - 4	9世紀前葉	
62	來	須恵器	壺	底部	S I - 4	9世紀前葉	ヘラ記号
66	□	須恵器	壺	底部	S I - 4	9世紀前葉	ヘラ記号
68	來方	須恵器	壺	底部	S I - 4	9世紀前葉	
70	來	須恵器	壺	底部	S I - 4	9世紀前葉	
97	□	須恵器	壺	体部・不明	S I - 6	9世紀前葉	
102	來	須恵器	高台付环	底部	S B - 3	9世紀前葉	
103	來方	須恵器	高台付环	底部	S B - 3	9世紀前葉	
107	一。	須恵器	蓋	丸舟部	S B - 9	9世紀前葉	
108	□	須恵器	壺	底部	S B - 11	9世紀前葉	
112	□	須恵器	壺	底部	S B - 14	9世紀前葉	
116	□	須恵器	壺	底部	S B - 21	9世紀前葉	
117	來方	土師器	高台付环	底部	S B - 21	9世紀前葉	ヘラ記号
48	來方	須恵器	壺	底部	S I - 2	9世紀中葉	ヘラ記号
56	來方	須恵器	高台付环	底部	S I - 2	9世紀中葉	
133	□	須恵器	壺	底部	S A - 3	時期不明	
134	□	土師器	壺	体部・不明	S D - 6	時期不明	
137	來方	須恵器	壺	底部	S D - 6	時期不明	
138	來	須恵器	壺	底部	S D - 6	時期不明	
149	來方	須恵器	壺	底部	遺構外	時期不明	朱書き
148	來	須恵器	壺	底部	遺構外	時期不明	
153	來方	須恵器	高台付环	底部	遺構外	時期不明	
154	大	須恵器	高台付环	底部	遺構外	時期不明	
158	來方	須恵器	盤	底部	遺構外	時期不明	
159	□	須恵器	盤	底部	遺構外	時期不明	

である。当遺跡周辺には、著名な女方遺跡や西方古墳の「女方」や「西方」を冠した地名が現在も残っている。文献等で「東方」の地名を確認することはできなかったが、当遺跡周辺の「○方」という地名に関連付けて推測すると、「東方」は、当地域を指した地名と考えることもできる。

## 5 おわりに

ここまで述べてきた掘立柱建物跡の性格や特徴的な出土遺物に歴史的な背景を加味し、主となる奈良・平安時代の当遺跡について考察したい。

当地域は、小貝川やその支流を利用した水田耕作が行われており、当遺跡から北東へ約8kmの国府田に國府直轄の水田が存在した。また、奈良時代末期は、当地域に蝦夷征討の兵站基地としての穀物倉があったとされている<sup>8)</sup>。8世紀中葉から整然と配置した掘立柱建物が造営され、水陸交通の要衝である当集落が、その一端を担った可能性は十分に考えられる。805年の德政相論により、蝦夷征討が中止となった後も、庇や棟持柱をもつ掘立柱建物跡を中心とした計画性の高い様相は、規模を拡張しながら存続してきた。当遺跡から同じ支流沿いを北へ25kmに所在する栗島遺跡からは、出土した木簡や木製品から春米活動の痕跡が見つかり、紡織、漆工、鍛冶など国衙や郡衙が管理する手工業品も出土していることから、周辺に郡衙の出先機関の存在を示唆している<sup>9)</sup>。817年には新治郡の不動倉が焼失しており、税穀を一か所に集中して収納する危険性を考慮し、税穀収入施設を分散した可能性がある<sup>10)</sup>。肥沃な穀倉地帯であった新治郡西部に郡衙を補完する機能をもたせ、交通の要衝であった当集落が、税穀や税物の収入・保管施設としての機能を有していたと考えると、栗島遺跡との関連性が強まる。しかし、栗島遺跡同様、9世紀中葉には急激に衰退していることから、当遺跡の税穀や税物の収入・保管施設としての機能を短期間で廃止し、移転した可能性がある。

以上、当遺跡の時代ごとの様相と性格について述べてきた。当遺跡は、古墳時代後期に集落が形成され、奈良・平安時代には掘立柱建物跡を中心とした税穀や税物の収入・保管を目的とした郡衙補完施設として機能し、江戸時代以降には、低地部が水田として利用されていた。しかし、今回報告した遺跡の概要是、調査区が遺跡全体の一部であることや周辺における奈良・平安時代の発掘調査例が少ないとなどから、推測の域を脱しない部分が多い。

## 註

- 1) 山中敏史『古代官衙遺跡Ⅱ 遺物・道路編』独立行政法人 奈良文化財研究所 2004年3月
- 2) 註1と同じ
- 3) 註1と同じ
- 4) 松原謙裕『律令国家の地方官衙－古代の役所Ⅱ－』橋本県教育委員会 2002年10月
- 5) 田中広明『東國の地方官衙・集落と陶器』『古代地方官衙周辺における集落の様相－常陸国河内郡を中心として－』茨城県考古学協会 2005年2月
- 6) 小澤重雄・小野克敏『当向遺跡Ⅰ 北関東自動車道（協和～友部）建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』『茨城県教育財団文化財調査報告』第224集 2004年3月
- 7) 山中敏史『古代地方官衙遺跡の研究』塙書房 1994年
- 8) 下館市史編さん委員会『下館市史 上巻』 1968年9月
- 9) 奥沢哲也『栗島遺跡 一般国道50号バイパス改築事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』『茨城県教育財团文化財調査報告』 第268集 2007年3月
- 10) 当財団で調査した茨城町の大塚遺跡（第242集）などは、郡衙正倉を補完する機能を有していた可能性が示されている。

# 付 章

## 上宿遺跡（水田部分）の植物珪酸体分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

茨城県筑西市に所在する上宿遺跡は、筑西市北西部に位置する鬼怒川左岸の台地から低地かけて立地する。台地上の発掘調査では古墳時代後期の住居跡や、古代の住居跡、掘立柱建物跡が検出されている。また、低地部の発掘調査では古代の包含層から須恵器などの遺物が出土している。

今回の分析調査では、低地部の現近代、近世、中世、古代とされる層位から採取した土壤試料を対象に植物珪酸体分析を行い、各時期の水田耕作や古植生に関する情報を得ることを目的とする。

### 1 試料

試料採取位置を図1に示す。調査区の北壁では、主にシルトで構成される土層が見られ、1層～16層に区分される。このうち、2層は近現代（戦前）、4～11層は近世、14層は中世、16層は古代（平安時代）とされる。西側では9～11・14・16層まで、ほぼ水平に堆積する。中央部から東側にかけては段切状の掘り込みがあり、最下部には溝状の掘り込みも確認できる。この段切状の掘り込みによって、9・10・14層が削平されており、掘り込み内には近世と想定される4層、近現代（戦前）と想定される2層が堆積する。最上部には現代の耕作土である1層が堆積する。

試料は東側段切状の掘り込み内と西側の2ヶ所で土壤試料が採取された。東側では2～16層にかけて層厚5cm前後の連続試料19点（試料番号1～19）。西側では9～16層にかけて層厚5cm前後の連続試料21点（試料番号20～40）である。これらの土壤試料から、東側では3点（2層の試料番号3、Ⅲ層の試料番号9、6層の試料番号12）、西側では7点（9層の試料番号21と23、11層の試料番号26と30、14層の試料番号33、16層の試料番号37と40）が選択し、植物珪酸体分析試料とした。

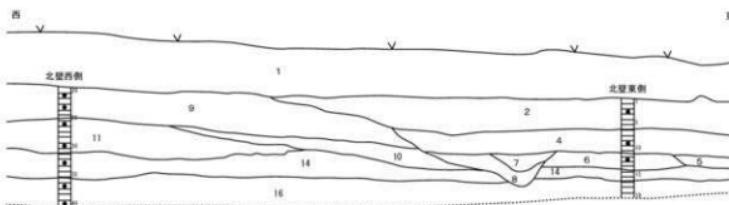


図1 調査区北壁断面および資料採取位置（●印は分析対象試料を示す。）

### 2 分析方法

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、ブリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）

および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、近藤（2010）の分類を参考に同定、計数する。

分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残流量を正確に計量し、堆積物 1 gあたりの植物珪酸体含量（同定した数を堆積物 1 gあたりの個数に換算）を求める。

結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示す。その際、100 個/g未満は「<100」で表示する。各分類群の含量は 10 の位で丸め（100 単位にする）。合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている。また、各分類群の植物珪酸体含量とその層位の変化から稲作の様態や古植生について検討するために、植物珪酸体含量の層位の変化を図示する。

### 3 結果

各試料からは植物珪酸体が検出され、保存状態は概して良好である。結果を表 1、図 2 に示し、以下に、各地点での産状を述べる。

表 1 北壁断面の植物珪酸体含量

分類群	北壁断面												東壁断面						
	2層 3	4層 4	6層 6	9層 12	8層 21	11層 23	11層 30	14層 32	16層 37	16層 40	2層 3	4層 4	6層 6	9層 12	8層 21	11層 23	14層 32	16層 37	
イネ科葉身機動細胞珪酸体																			
イネ科葉身機動細胞	6,400	2,100	300	200	800	<100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コビエキビ葉	300	100	200	<100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
タケ葉	900	300	400	800	400	600	800	800	500	500	3,100	-	-	-	-	-	-	-	-
タケ茎	4,000	2,100	4,000	4,000	3,700	4,000	2,800	3,900	4,300	4,600	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シダ葉	1,100	1,500	2,800	800	1,100	1,300	1,200	800	300	800	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ラン科葉	300	100	100	100	100	100	100	100	100	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クワ科葉	2,800	800	1,800	1,800	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イネ科ナリキサ科オムギ葉	900	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イネ科ナリキサ科	2,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オモギ葉	8,600	4,300	7,200	8,200	3,800	3,600	3,000	6,200	6,200	3,200	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イネ科葉身非機動細胞珪酸体																			
イネ科葉身非機動細胞	10,200	4,800	800	400	1,300	200	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
メハ葉	1,400	1,800	1,600	1,200	900	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
タケ葉	6,600	3,400	4,000	4,800	4,100	1,200	2,800	3,100	3,600	6,800	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シダ葉	900	300	300	300	300	500	600	300	300	300	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ラン科葉	3,800	2,100	1,800	1,800	2,400	700	2,700	1,900	1,600	1,300	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シダ葉	2,800	700	<100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	14,800	7,500	7,500	8,400	5,300	5,800	5,400	4,000	5,000	7,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	27,400	12,300	18,200	16,700	11,000	11,000	8,300	13,000	14,000	15,200	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イネ科葉身非機動細胞珪酸体																			
イネ科葉身非機動細胞	40,300	26,800	17,300	14,200	14,000	15,000	12,500	18,000	12,300	19,500	-	-	-	-	-	-	-	-	-
総植物珪酸体合計	67,700	32,800	31,500	30,900	25,900	28,000	20,800	32,700	29,300	34,700	-	-	-	-	-	-	-	-	-
珪酸化細胞壁																			
イネ葉機動細胞壁	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イネ葉機動細胞	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イネ葉機動細胞判定	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
含量は、100個/g未満で丸めている(100単位にする)																			
合計は各分類群の丸めない値を合計した後に丸めている																			
(100:100個/g未満)																			
-:未検出 *:検出 **:多い																			

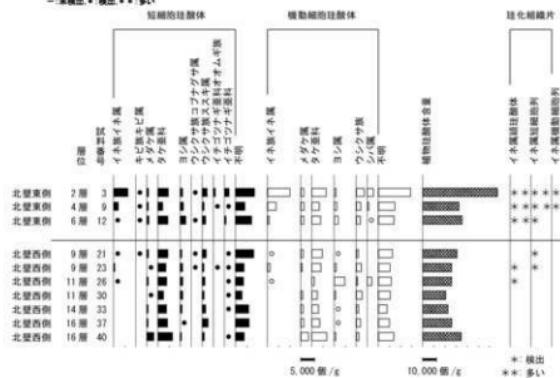


図2 北壁断面での植物珪酸体含量の層位の変化

#### ・北壁東側

試料番号 12（6層）と 9（4層）の植物珪酸体含量は近く、34,000 個/g 前後である。栽培種であるイネ属が産出し、葉部の短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体が見られる。その含量は、試料番号 12 の短細胞珪酸体が約 300 個/g、機動細胞珪酸体が約 800 個/g であり、試料番号 9 では急増して検出された分類群の中でも産出が目立ち、短細胞珪酸体が約 2,100 個/g、機動細胞珪酸体が約 4,000 個/g となる。

試料番号 3（2層）の植物珪酸体含量は下位試料よりも増加して、約 67,700 個/g である。イネ属の産出が目立ち、短細胞珪酸体が約 6,400 個/g、機動細胞珪酸体が約 10,200 個/g である。

これらの試料では、葉部に形成される短細胞列や機動細胞列、柄（穎）に形成される穎珪酸体も見られ、短細胞列と穎珪酸体が多く検出される。

イネ属の他に、栽培種を含む分類群としてキビ属やオムギ族の短細胞珪酸体も見られる。

3点で検出される分類群はほぼ同様であり、メダケ属を含むタケ亜科、ヨシ属、ススキ属、イチゴツナギ亜科などが認められる。また、この中ではメダケ属を含むタケ亜科も多い。

#### ・北壁西側

西側では、植物珪酸体含量に層位的な変化が見られる。試料番号 40（16層）から試料番号 30（11層）にかけて約 34,700 個/g から約 20,800 個/g に減少するが、試料番号 26（11層）から試料番号 21（9層）にかけて約 30,900 個/g まで増加する。

イネ属は、試料番号 26 から試料番号 21 にかけて産出する。その含量は、東側よりも概して少ない。試料番号 26 の短細胞珪酸体が 100 個/g 未満、機動細胞珪酸体が約 200 個/g、試料番号 21 では増加して、短細胞珪酸体が約 600 個/g、機動細胞珪酸体が約 1,300 個/g、試料番号 21 が減少して、短細胞珪酸体が約 200 個/g、機動細胞珪酸体が約 400 個/g となる。短細胞列や穎珪酸体も検出される。

また試料番号 23 でオムギ族の短細胞珪酸体、試料番号 21 でキビ属の短細胞珪酸体がそれぞれ認められる。その他の植物珪酸体の産状としては各試料で、メダケ属を含むタケ亜科も多くヨシ属、ススキ属、イチゴツナギ亜科などが認められる。

### 4 考察

#### (1) 稲作の検討

調査区の北壁では、近世とされる 4～11 層、近現代（戦前）とされる 2 層でイネ属が産出した。この中には葉部や柄に形成される植物珪酸体やそれを含む細胞列が認められた。

安定した稲作が行われた水田跡の土壤では、栽培されていたイネ属の植物珪酸体が土壤中に蓄積され、植物珪酸体含量（植物珪酸体密度）が高くなる。水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体（機動細胞由来）が試料 1g 当り 5,000 個以上の密度で検出された場合に、そこで稲作が行われた可能性が高いと判断されている（杉山, 2000）。なお、水田遺構が検出される土層での機動細胞珪酸体含量が 3,000 個/g 程度の場合もあるので、これを判断基準とする調査例もある。これらと比較すれば、東側の 2 层は大きく超える含量であり、4 层は同等程度の含量と言える。また、東側 2, 4, 6 層ではイネ属穎珪酸体や組織片も多く産出している。このような点を考慮すると、これらの土層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。湿润な場所に生育するヨシ属も多いことから、湿润な場所を利用しての水田稲作であった可能性がある。

西側の 9 层や 11 層は、上記の調査例と比較すれば少ない含量と言える。ただし、耕作期間や様態、堆積

速度によっては土壌中にイネ属の植物珪酸体が蓄積しにくい場合もある。これらの土層については、稲作が行われたとしても、耕作期間が短いことや堆積速度が速いことなどの要因で植物珪酸体の残留が少なかった可能性も考えられる。

東側の6層については上位の4層でイネ属の含量が多いことを考慮すれば、上位からの落ち込みである可能性が考えられる。また、中世とされる14層や古代とされる16層は今回の産状を見る限り、稲作が行われたことを積極的に支持することは難しい。

上記のような結果から、東側の段切状の掘り込み内に堆積する2～11層の時期とされる近世～近現代（戦前）については、調査区内や周辺で稲作が行われていた可能性が高いと言える。また、中世とされる14層、古代とされる16層ではイネ属の植物珪酸体が検出されず、稲作の痕跡を確認することはできなかった。なお、東側の2層や4層、西側の9層ではキビ属やオオムギ族が検出された。これらが栽培種に由来するものであれば、調査区内や周辺でキビやムギも栽培されていた可能性も考えられる。

古代から近世にかけての稲作の消長については、今後さらに当該期の堆積物を対象として花粉分析や種実遺体同定を含めてイネ属の層位的、空間的分布を調べるとともに、珪藻分析や堆積物の微細構造観察により堆積環境に関する情報を得て、検討することが望まれる。

## (2) 古植物

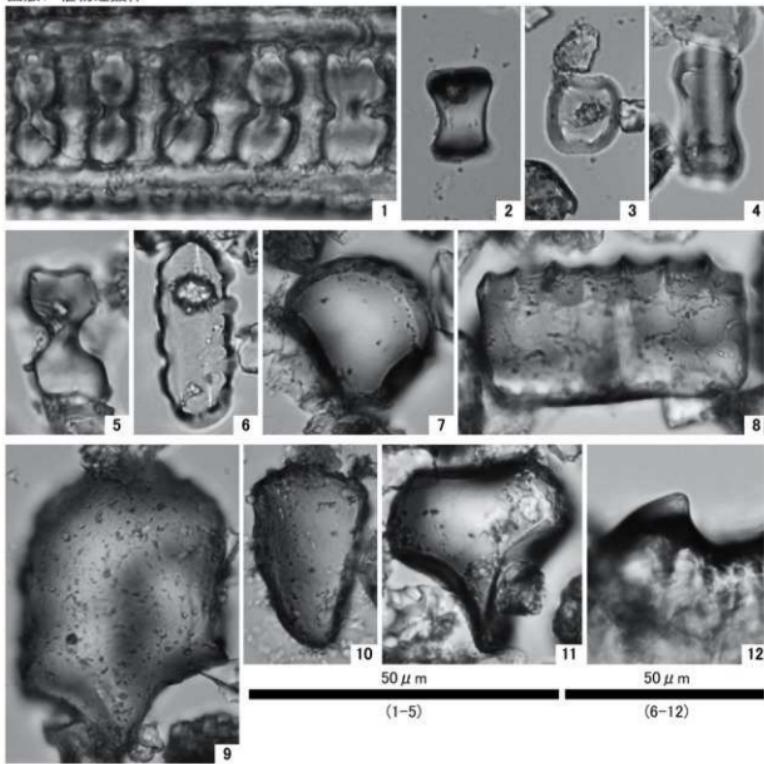
調査した土層には同様な植物珪酸体の産状が見られ、古代、中世、近世、近現代の各時期に同様なイネ科植物の生育がうかがえる。検出された分類群から、イネ科の中にはメダケ属、ヨシ属、ススキ属、イチゴツナギ亜科、シバ属などが見られたと考えられる。このうち、メダケ属やススキ属は比較的乾いて開けた場所に生育する種類が多い分類群である。調査区の立地を考慮すれば調査区周辺の台地上にはイネ科などが生育する開けた草地が広がっていたと考えられる。また前述したヨシ属も見られることから、低地部にはヨシ属などが生育するような湿润な場所も存在したと思われる。

なお、古代以降の調査区を取り巻く環境（特に森林や草本の植生）については、今後さらに広範囲の植生を反映する花粉分析を実施することで有用な資料が得られると期待される。

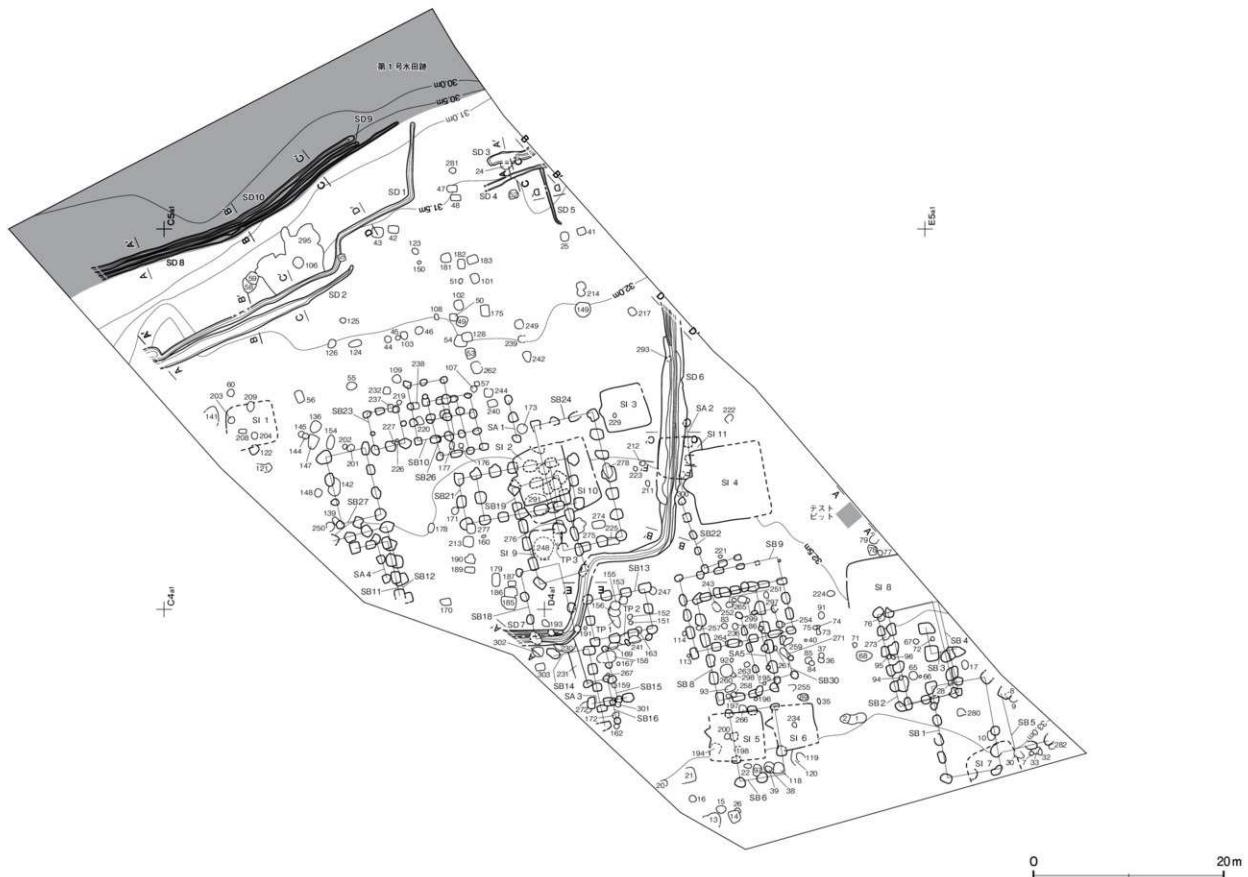
## 引用文献

- 近藤鍊三,2010,プラント・オパール図譜,北海道大学出版会,387p.  
杉山真二,2000,植物珪酸体(プラント・オパール)辻 誠一郎(編著)考古学と自然科学3 考古学と植物学,同成社,189-213.

図版1 植物珪酸体



1. イネ属短細胞列(北壁断面 16層;12)  
3. ヨシ属短細胞珪酸体(北壁断面 16層;12)  
5. ススキ属短細胞珪酸体(北壁断面 16層;12)  
7. イネ属機動細胞珪酸体(北壁断面 16層;12)  
9. ヨシ属機動細胞珪酸体(北壁断面 16層;12)  
11. シバ属機動細胞珪酸体(北壁断面 2層;3)
2. メダケ属短細胞珪酸体(北壁断面 9層;21)  
4. コブナグサ属短細胞珪酸体(北壁断面 9層;23)  
6. オオムギ族短細胞珪酸体(北壁断面 2層;3)  
8. メダケ属機動細胞珪酸体(北壁断面 4層;9)  
10. ウシクサ族機動細胞珪酸体(北壁断面 2層;3)  
12. イネ属穎珪酸体(北壁断面 2層;3)



第 113 図 上宿遺跡遺構全体図

写 真 図 版



上宿遺跡遠景（北西から）



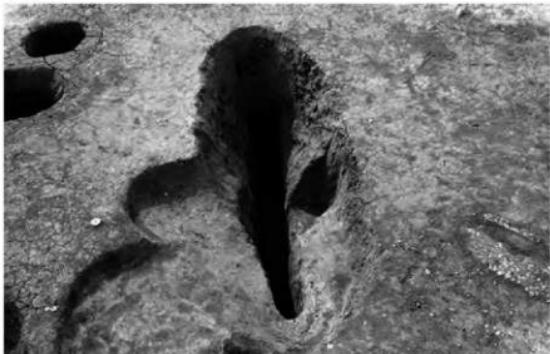


上宿遺跡全景（南東から）



上宿遺跡全景（東から）

PL2



第 1 号 陷 し 穴  
完 挖 状 況



第 8 号 竪 穴 建 物 跡  
遺 物 出 土 状 況



第 106 号 土 坑  
遺 物 出 土 状 況



第3号竪穴建物跡  
完 挖 状 況



第11号竪穴建物跡  
第 6 号溝 跡  
完 挖 状 況



第2・4号掘立柱建物跡  
掘 方 完 挖 状 況

PL4



第6号掘立柱建物跡  
完掘状況



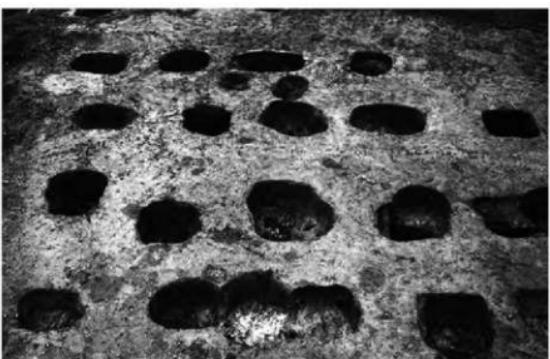
第8号掘立柱建物跡  
掘方完掘状況



第12号掘立柱建物跡  
掘方完掘状況



第21・24号掘立柱建物跡  
完 挖 状 況



第26号掘立柱建物跡  
掘 方 完 挖 状 況



第 231 号 土 坑  
遺 物 出 土 状 況

PL6



第2号竪穴建物跡  
遺物出土状況



第2号竪穴建物跡  
遺物出土状況



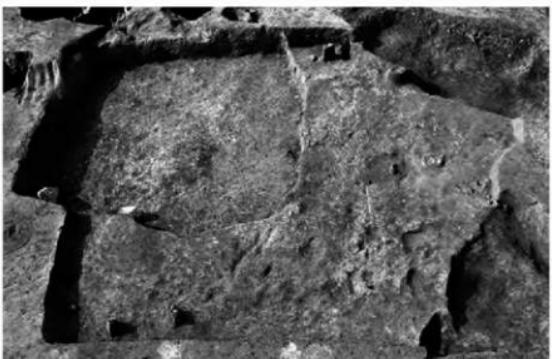
第2号竪穴建物跡  
完掘状況



第4号竪穴建物跡  
完 挖 状 況

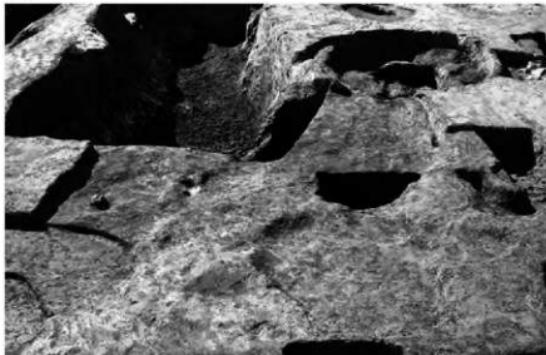


第4号竪穴建物跡  
完 挖 状 況



第5号竪穴建物跡  
遺 物 出 土 状 況

PL8



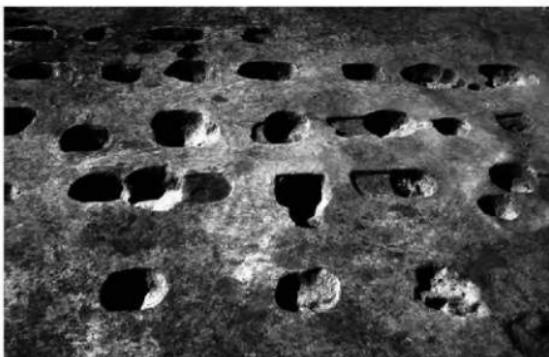
第9号竪穴建物跡  
遺物出土状況



第3号掘立柱建物跡  
掘方完掘状況



第9号掘立柱建物跡  
掘方完掘状況



第10号掘立柱建物跡  
掘方完掘状況



第11号掘立柱建物跡  
掘方完掘状況



第13号掘立柱建物跡  
完掘状況

PL10



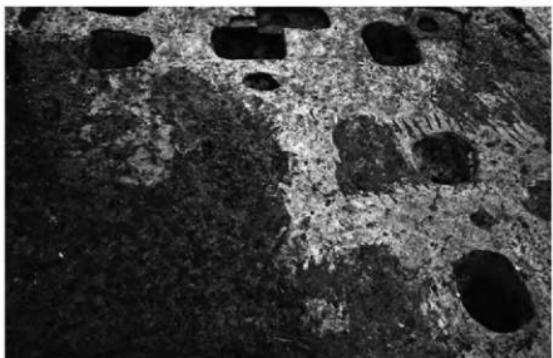
第14・16号掘立柱建物跡  
完 挖 状 況



第15号掘立柱建物跡  
完 挖 状 況



第21号掘立柱建物跡  
掘 方 完 挖 状 況



第22号掘立柱建物跡  
掘方完掘状況



第89号土坑  
遺物出土状況



第266号土坑  
遺物出土状況

PL12



水田跡  
土層断面（北側）



第8・9・10号溝跡  
完掘状況



第248号土坑  
完掘状況



第1·2·3·5·8号竖穴建物跡、第260号土坑、遺構外出土土器

PL14



SI 4-64



SB14-111



SI 4-65



SK89-120



SB 8-26



SB 8-25



SK231-40



SK231-39

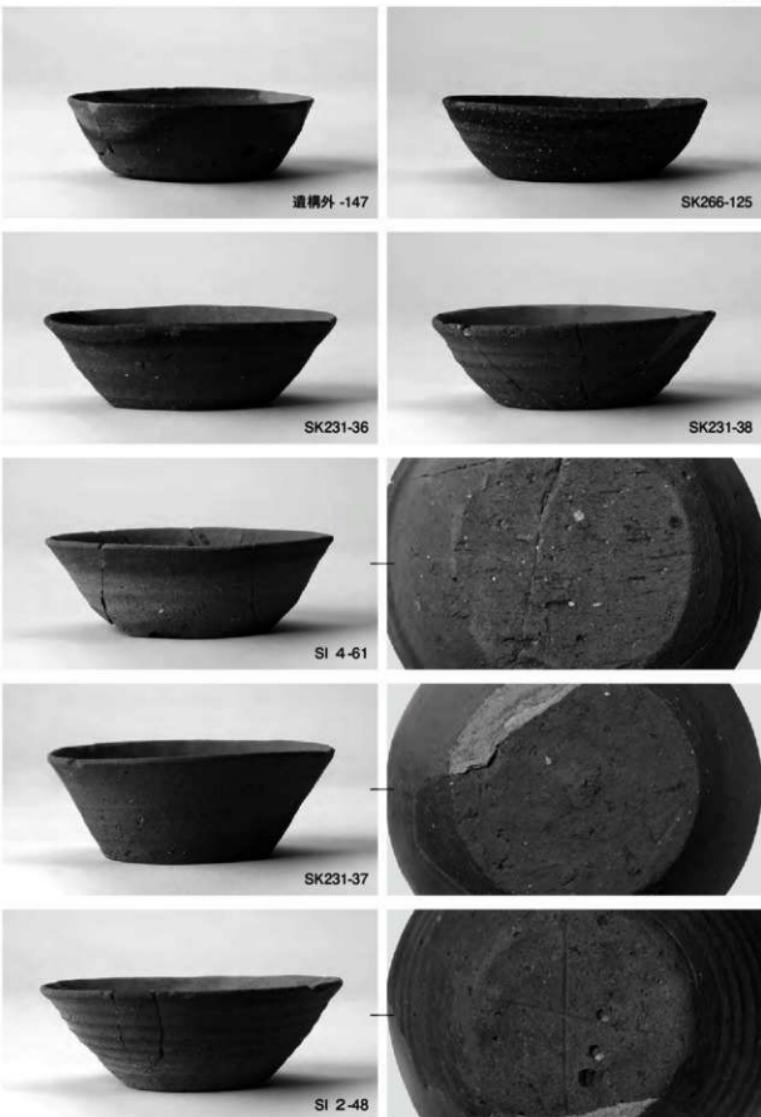


SK266-126



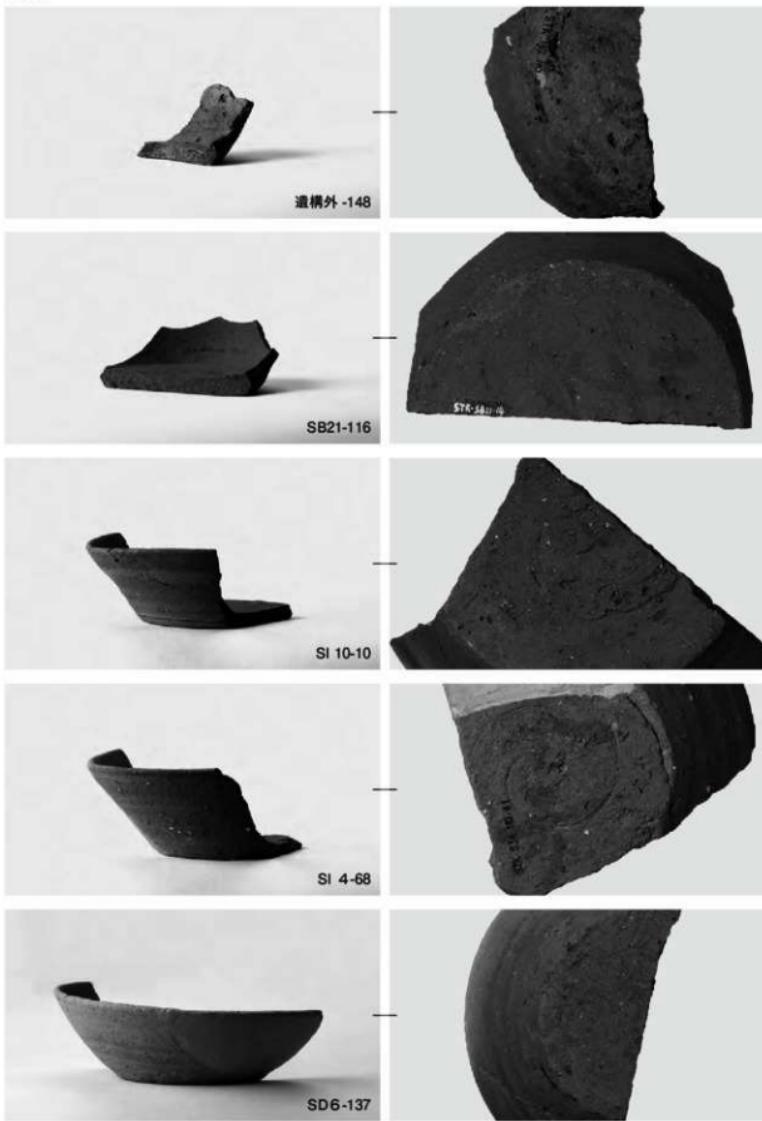
SK89-119

第4号竖穴建物跡，第8·14号据立柱建物跡，第89·231·266号土坑出土土器

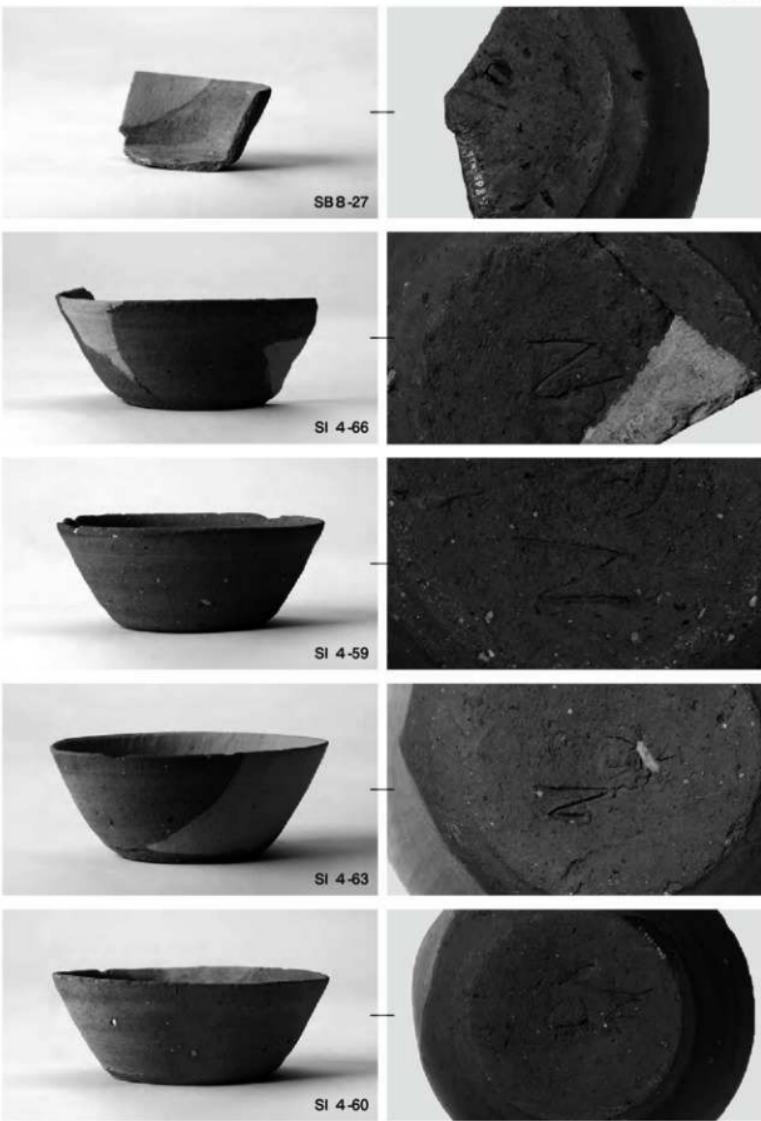


第2・4号竪穴建物跡、第231・266号土坑、遺構外出土土器

PL16

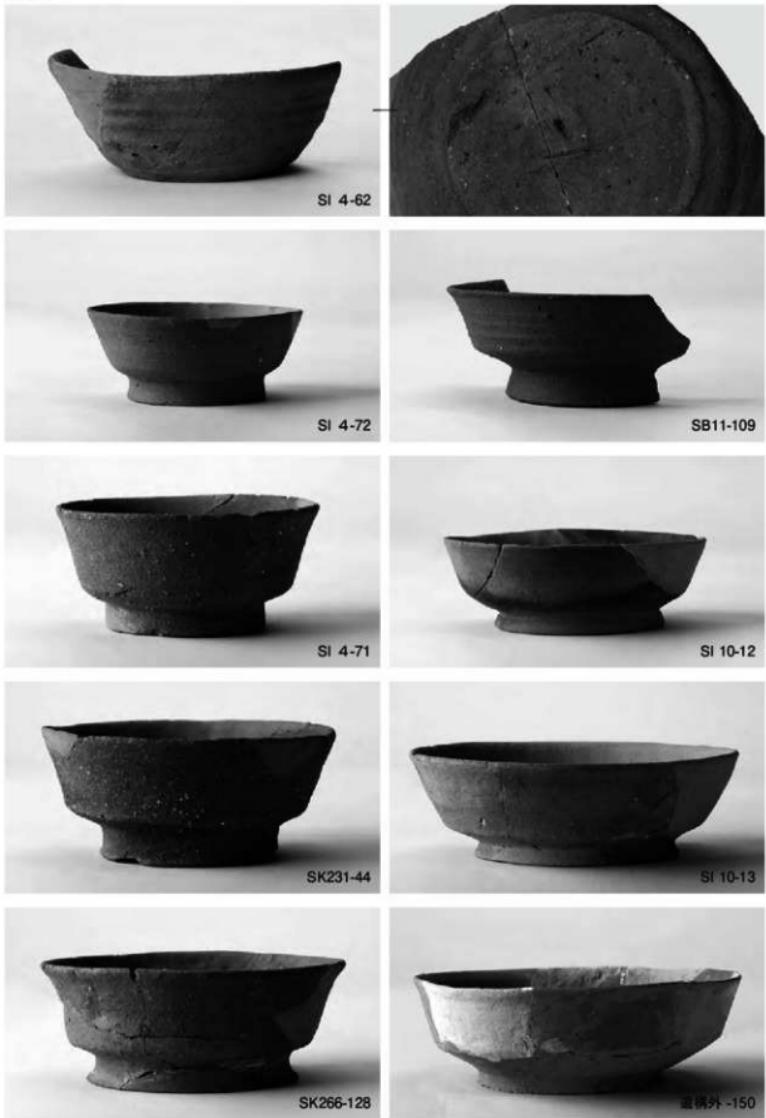


第4・10号竪穴建物跡、第21号掘立柱建物跡、第6号溝跡、遺構外出土土器



第4号竖穴建物跡、第8号掘立柱建物跡出土土器

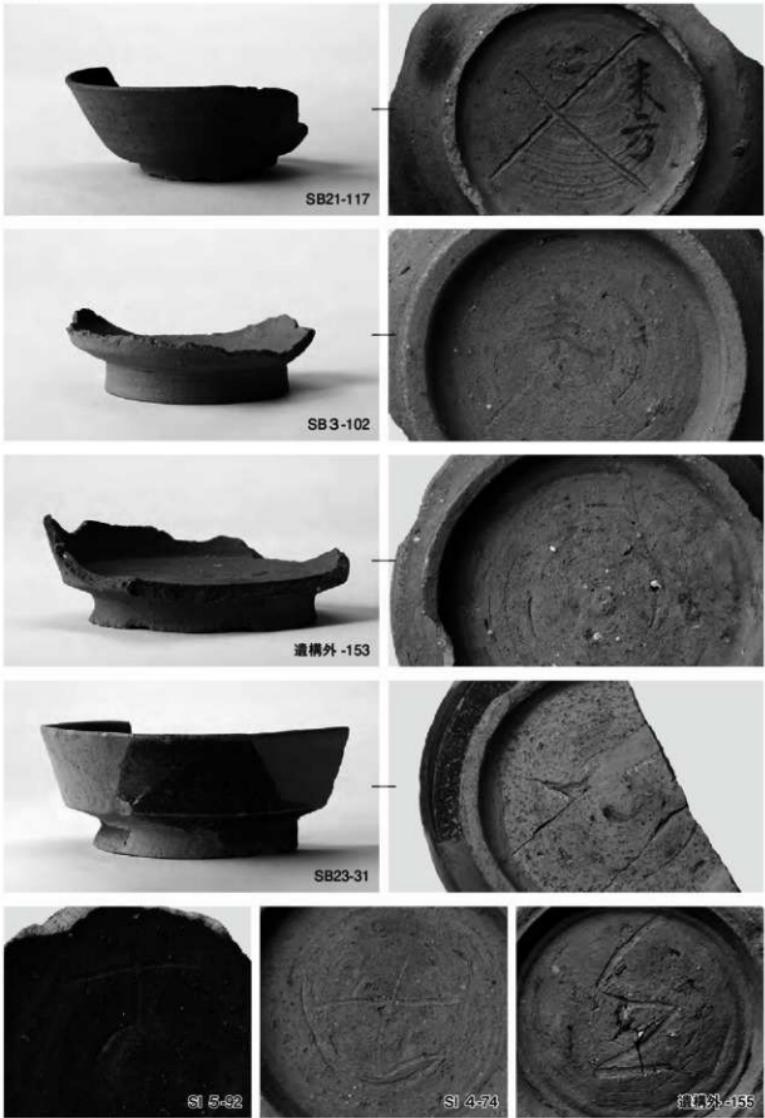
PL18



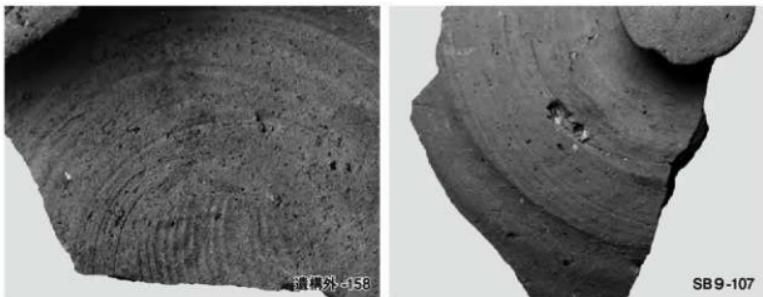
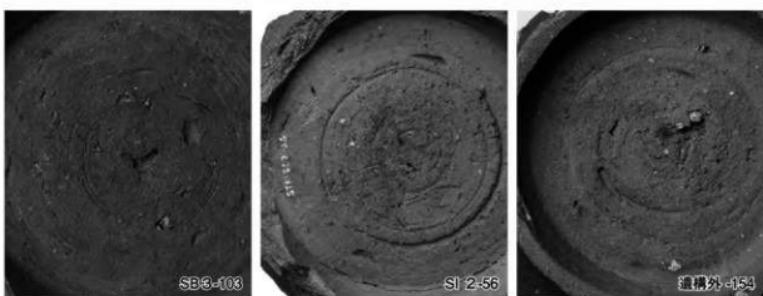
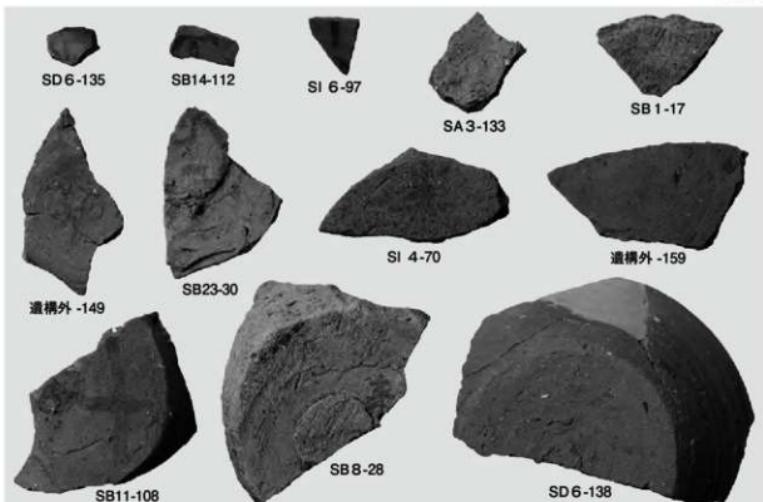
第4·10号竖穴建物跡、第11号掘立柱建物跡、第231·266号土坑、遺構外出土土器



第2号竪穴建物跡、第89・231・266号土坑、遺構外出土土器



第4·5号竖穴建物跡、第3·21·23号掘立柱建物跡、遺構外出土土器

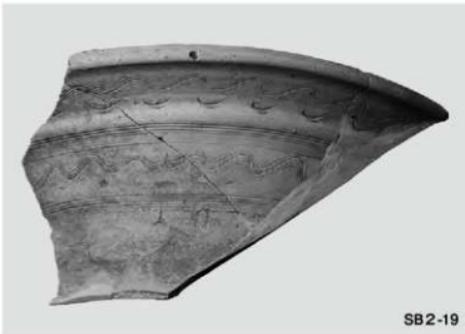


第2・4・6号竪穴建物跡, 第1・3・8・9・11・14・23号掘立柱建物跡, 第3号柱穴列, 第6号溝跡, 造構外出土土器

PL22



SI 11-15



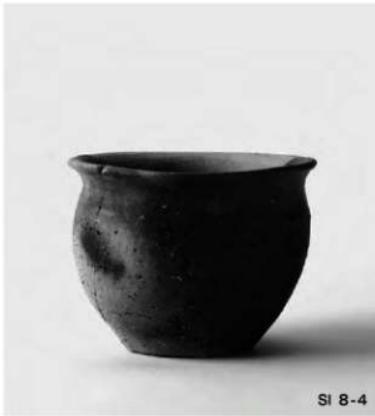
SB 2-19



遺構外 -161



遺構外 -160



SI 8-4



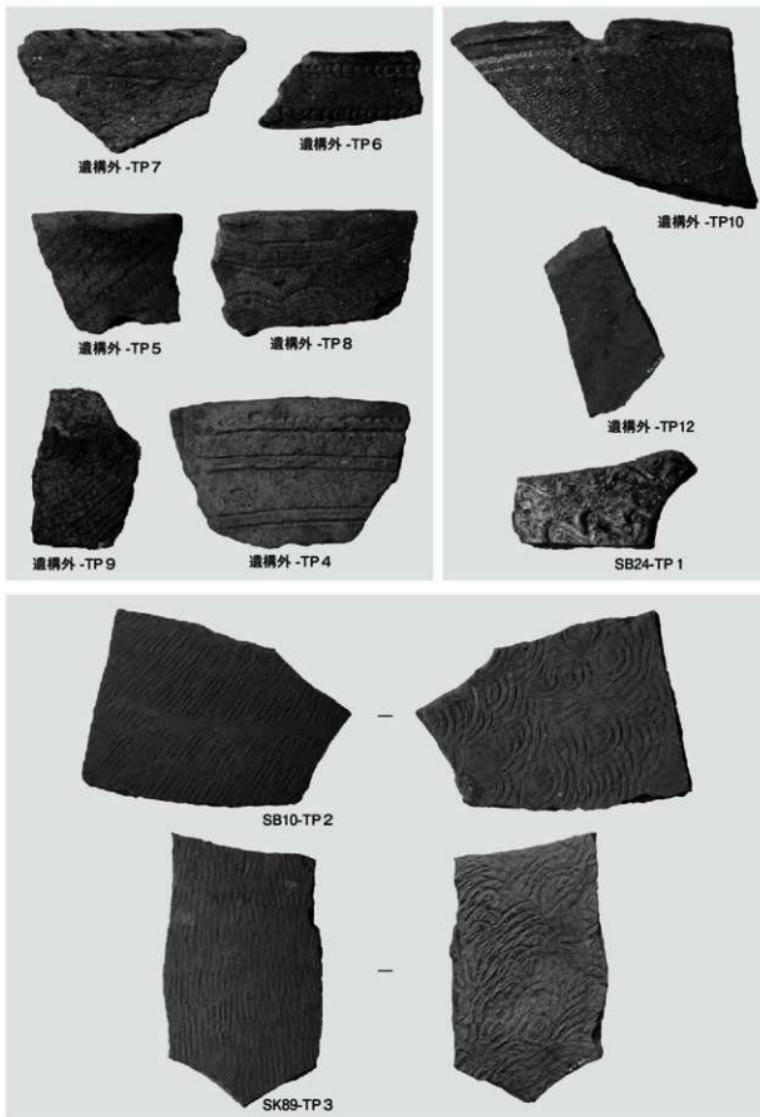
SI 8-5

第8・11号竪穴建物跡、第2号掘立柱建物跡、遺構外出土土器

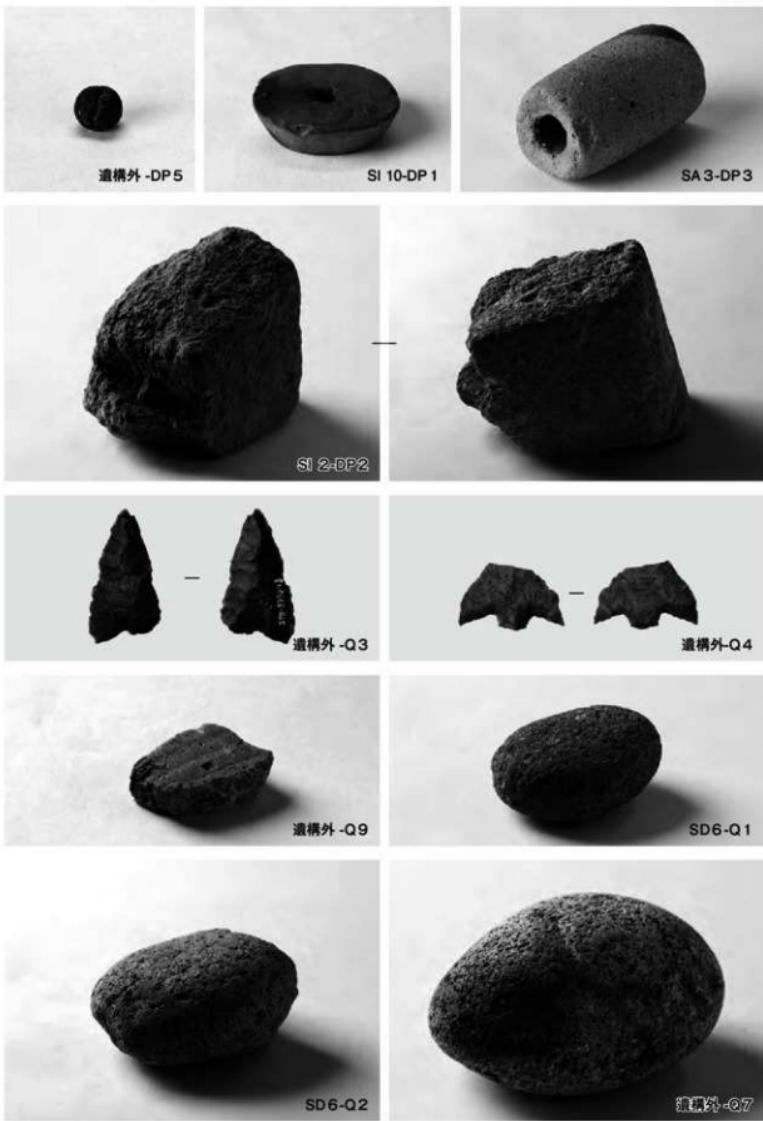


第6·8号竖穴建物跡、第106号土坑出土土器

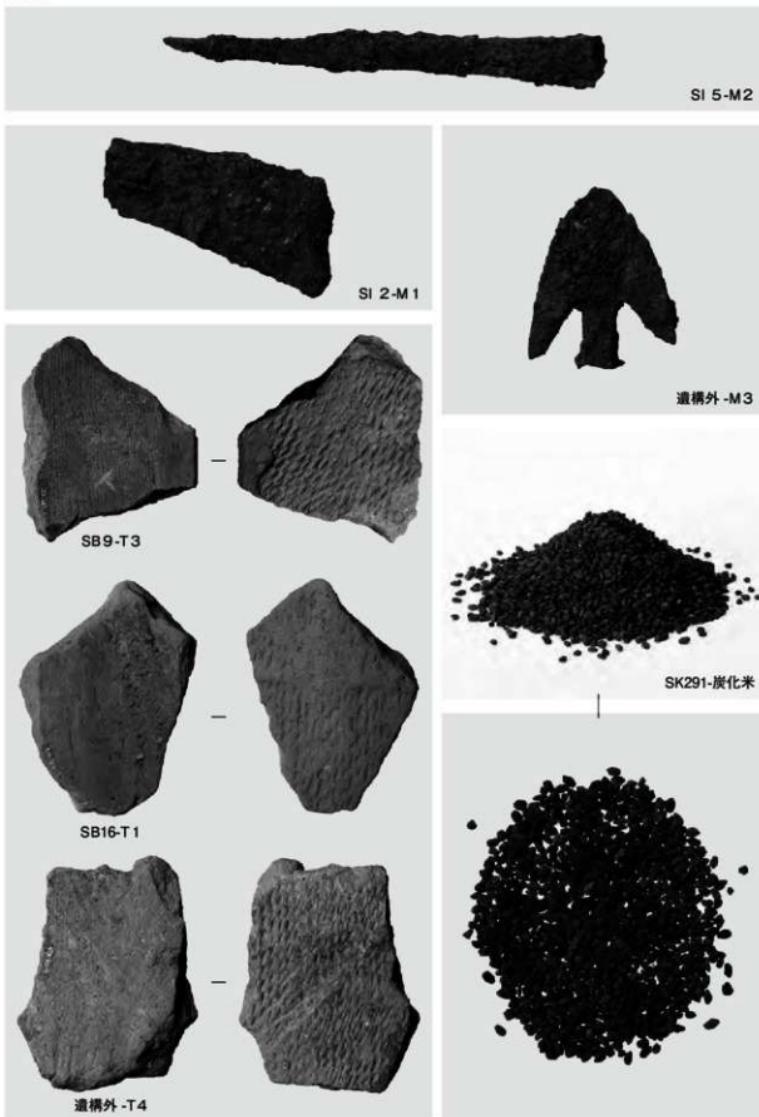
PL24



第10・24号掘立柱建物跡、第89号土坑、遺構外出土土器



第2・10号竪穴建物跡、第3号柱穴列、第6号溝跡、遺構外出土土製品、石器



第2・5号竪穴建物跡、第9・16号掘立柱建物跡、第291号土坑、遺構外出土金属製品、瓦、炭化米

## 抄 錄

## 印 刷 仕 様

編 集 OS Microsoft Windows 7  
Home Premium ServicePack 1  
編集 Adobe InDesign CS5  
国版作成 Adobe Illustrator CS5  
写真調整 Adobe Photoshop CS5  
Scanning 6 × 7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000  
図面類 EPSON ES-10000G  
使用Font OpenType リュウミンPro・L  
印 刷 オフセット印刷  
写 真 線数 モノクロ175線以上 カラー210線以上  
・印刷所へは、Adobe InDesign CS5でレイアウトして入稿

### 茨城県教育財団文化財調査報告第394集

## 上宿遺跡

一般国道50号下館バイパス改築  
事業地内埋蔵文化財調査報告書N

平成27（2015）年 3月13日 印刷  
平成27（2015）年 3月16日 発行

発行 公益財團法人茨城県教育財団  
〒310-0911 水戸市見附1丁目356番地の2  
茨城県水戸生涯学習センター分館内  
TEL 029-225-6587  
H P <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 いばらき印刷株式会社  
〒319-1112 那珂郡東海村村松字平原3115-3  
TEL 029-282-0370